

平成二十六年十月  
津山郷土博物館紀要第二十八号

文化元年（一八〇四）

津山松平藩町奉行日記 二十二

津山郷土博物館

津山松平藩町奉行日記

二十二



## 凡例

一、本書には、津山郷土博物館に所蔵する愛山文庫から、「町奉行日記」享和四年（二月文化改元）正月～十二月を収録した。  
一、本文の表現は、つとめて原文の形にそうようにしたが、読解の便宜を図って、つぎの点に留意した。

1 平出・欠字は、省略した。

2 漢字は、原則として常用漢字（人名用漢字を含む）に改めたが、他は正字体とした。

3 誤字・脱字と思われる場合は、右傍らに（ママ）と注記した。なお、誤字ではあるが、沙駄・算様については増見右門が常用としており、煩雑さを避けるため、注記しなかった。

4 近世期一般に慣用されていた左記のような文字・用語等は、そのまま記載した。

体てい 扣ひかえ 暖あつかわ 歎なげ 喧嘩けんか 音物いんもつ 稠敷ちひしく 又候またぞろ 与風ふと 嵐おろし 舩せがれ 持かぎ 糶こうじ 綺いろ 与得とと

5 変体がないは、原則としてひらがなに改めたが、助詞等に用いられている、而（て）、江（え）、者（は）、茂（も）、与（と）及び片仮名のニ、并は、小活字で示した。

々（より）、メ（しめ）、ノ（して）、㊦（とも）は、例外として残した。

6 訂正・削除がある場合、消された文字の左側に見消記号（さ）を付し、右側に訂正の文字を記した。

また、消された文字が不明の場合はその文字を■で示した。

7 虫損・破損などで解読できない文字は、字数を推定して「」で括り虫損・破損によらない場合は、右傍らに（不詳）と注記した。

8 日記の表紙・奥書等は、その部分を□□で囲み、（表紙）のように注記した。

9 日記の天の小口には小見出しの付箋が貼られており、はがれて各丁の綴じ目に挟んであるものも多いが、元の場所に残っていない文字を記してあるものは、その箇所に○◎として示した。

10 記載を配慮すべき地名・固有名詞は□□のようにした。

一、本資料中に、封建的身分差別を表現する名辞・賤称が認められるが、事実に基づく科学的な歴史研究を進める立場から、これらをそのまま揚げた。もとより我々は、この不当な差別を容認するものではなく、科学的な歴史認識を通じて差別と差別意識の根絶にいたることを望んでいる。読者においても、この立場を理解し、この資料を正しく利用されることを期待する。

一、本書の翻刻・編集は東方里子が担当した。



享和四<sub>甲</sub>子<sub>子</sub>年

文化改元二月十九日

町奉行御用日記

五十七

増見右門

江口勘太夫

(表紙)

正月元<sub>辛</sub>卯<sub>卯</sub>旦<sub>旦</sub>雪

一年頭御規式御嘉例之通惣登城御礼式諸事別帳之通無滞相濟但御前様へ七間於廊下御小性頭謁御奏者番分三奉行迄一同罷出年頭御祝儀申上之尤申上方大守様之通申上之

一備中惣社村帳外無宿金藏義元魚町二文字屋方ニ而タナガへいたし旧冬廿八日□□□□非人共へ預ヶ置候所今曉取逃候ニ付不殘打懸り嚴敷相尋居候旨目明弥吉申出候由新左衛門申聞候

正月二日 晴風烈

一大年寄早朝罷出町方御静謐之段相届候

一御用初ニ付例刻登城諸事別帳御嘉例之通無滞相濟尤御年限中ニ付御酒御吸物被下無之

享和四<sub>甲</sub>子<sub>子</sub>年 正月<sub>丙</sub>寅<sub>寅</sub>大

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 海老原極人殿

大目附 赤見類助

小頭 本島庄藏

大年寄 斎藤孫右衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

一一目孫兵衛今朝罷歸り右岡崎屋之綿盗人道筋ニ而も買人無之岡山迄廿七日夕持参候所岡山ニ而も買人無之仍之盗人在所備中黒崎へ持歸り候様ニ相聞候得共迎も盜賊宿へ持歸り候ニ而ハ綿之手懸も無之殊ニ御代官所之義ニ候得者懸ヶ合も六ヶ敷物入多ニ相成候間伺ニ罷歸候由尤昨年真歛越ニ而伯州之もの銀子五貫匁被取候も右同人と相聞へ其節粉屋千藏附添参候所甚逆ねたりニ逢却而誤証文杯致候由ニも相聞右綿手ニ不入ニ而ハ無証拠ニ而難懸合もの、由申聞候付其段出仕之上御両所へ及御沙駄候処先此度ハ其俣ニ致置追而可来候間其節召捕可然旨御沙駄ニ御座候

一安永五年御年限之節 大年寄始町年寄迄之年頭謁相止候様相見へ候得共今般者大年寄札元諸吟味計江者面謁可致勿論盃者遣問敷謁計ニいたし可申候間来五日罷出候様大年寄へ申達ス但町年寄へハ

御年限中謁相止可申候間此段も申達候様大年寄へ申達候

一 御蔵米五拾壹匁五分 町米四拾七匁五分

正月三日 晴

一 深信院様明四日四ツ時御供揃（前主康成の開宅）而 藺田町通り泰安寺妙法寺へ御仏

參被成候段種村登門分通用有之例之通小頭并大年寄へ申達候

一 銭相場書例歳之通三通大年寄差出候

正月四日 晴

一 大年寄宅ニおゐて小頭部屋目附利右衛門目明孫兵衛立会左之通申渡之

一 無宿金蔵預ケ申付番いたし居候処取逃    非人 文蔵

不届至極之義ニ付急度答可申付筈之処 同 熊吉

今般ハ格別之憐愍を以叱置候以来ケ様之義有之ニ而ハ重罪

科ニ申付候間自今別而入念可相勤候

一 兼々改役之もの共申付不宣処分右体之 同非人頭 三蔵

義致出来不届至極右同断叱置 同 直八

一 深信院様御仏詣無御滞相濟候段御先弘栄治又作届出候

正月五日 雪

一 五時揃大年寄札元諸吟味年頭謁尤御年限ニ付益不遣候詰合新左衛門庄蔵

但武田七郎兵衛山本三郎右衛門当病不參其余者久山勘八迄罷

出候

一 九時過分例年之通組中牢屋三軒屋大年寄へ年頭相越申込候但供番

中山勇蔵

一 加人荒木源四郎引込ニ付代り尾崎広助来

正月六日 晴

一 江原文蔵出勤候ニ付加人野尻太市差戻其段大目附へ相届候

一 旧例之通今日分町廻り同心組差出候

一 御年限中ハ御在城たり共市郷登城ハ無之候旨赤見類助申聞郡代所へ申通候大年寄へ申達

正月七日 晴

一 御蔵米五拾匁五分 町米四拾六匁五分

一 坪井瀧口儀右衛門分年頭祝書来及相答候

一 例歳之通左義長之町触差出

一 西川船出入懸ケ合姫路屋甚右衛門手扣先年着候ニ付玉置源五兵衛

ニ清書申付取置本書者斎藤孫右衛門へ相渡役場歟御蔵元方ニ取置

候様申達ス

一 勝山榊原九郎左衛門膝付介右衛門分例歳之通年頭祝書来及相答候

正月八日 雨

一 御用日登城申上候御用向無之

一 祇園三位例歳之通御札差上候由蔵合孫左衛門申出候ニ付大目附へ申達候

一 大坂長沢清左衛門分旧冬之返書到来大坂大和屋弥三郎分市郷十人

之ものへ懸り滞金拾両弥三郎へ相渡証文取返候并受取書も相廻し

郡代分御用所へ差出し下り次第下方へ可相渡事

一 御弘米正銀五拾匁三分九厘 落札能勢ヤ源助 町米正銀四拾六匁

三分九厘

一 御藏米五拾匁 町米四拾六匁

正月九日 少雨雪

正月十日 晴

一 西川大谷代藏分例年之通年頭祝書来及相答候

一 船頭町高瀬屋勘右衛門病死宮田喜左衛門從弟ニ付定式之通三日引込候段大年寄届出候

一 坪井町塩屋善兵衛所持之造酒株高壹斗造米石高三拾石之株去亥八月分当子ノ七月迄壹ケ年之間三町目佐和屋孫四郎へ貸渡度願今日差出如何成ものニも候得とも元来意味有之義ニ付承り届

正月十一日 晴

正月十二日 晴少時雨

一 去十二月中同心組臨時昼扶持四升式合五勺証文差出奥書取計之

一 小性町茂渡庄右衛門借屋家守若狹屋甚吉借屋住定平義四国遍路式百日計之逗留ニ而来ル十四日出立願承り届五月九日帰

正月十三日 曇風

一 御用日登城

一 伏見町玉屋源太郎借屋住煙草屋周藏家内三人去亥四月一ノ宮分出奔仕九月廿五日百日尋被仰付候処弥行衛不相知段届出除帳之義御用番御聞濟ニ付大目附へ申達置除帳申付候

一 中之町平野屋伊八方ニ而旧臘廿八日分去ル八日迄之内ニ風呂敷包ニ致置候女着綿入壹ツ致紛失候段届出市郷触流し御聞濟ニ付例之通取計同廿日無之段届出候

一 豆腐直段十七文売之段十八文売ニ仕度願御聞濟ニ付例之通取計濟

但大豆五拾六匁相場并手間料三分壹厘尤郡代所<sup>江</sup>も及通用候

一 京町原田屋嘉四郎借屋住榎屋甚太郎娘幸義備前赤坂郡鍋谷村庄之助俸重五郎妻ニ差遣度人別除願右同断取計濟

一 誕生寺ニ来ル十五日富興行有之ニ付先格之通触差出目明可差遣旨郡代分何濟之由通用有之御停止之町触差出目明可差遣旨小頭へ申付ル

一 子午七年振之人別改年ニ付大目附へ申達候所先格之通取計候様被申聞其段大年寄へ申達ス

一 牢舍人真加部村番人乙八牢賄不持来旨牢番届出郡代所へ申達候

一 御払米正銀四拾九匁七分七厘 落札三倉屋善四郎 町米正銀四拾五匁七分七厘

一 御藏米四拾九匁 町米四拾五匁

一 町方工面金并関貫番賃銀勘定帳差出受取筆筒へ入置候

正月十四日 晴

一 桶屋町樽屋吉兵衛役介林藏夫婦娘石家内三人旧臘廿五日罷出不罷帰所々相尋候得共行衛相知不申全出奔之趣ニ付届書差出百日尋申付ル四月廿八日除帳

一 坪井町塩屋直之助所持之古道具屋株札今以清右衛門と有之候ニ付直之助と改替呉候様願書差出御作事へ申遣し<sup>ニ</sup>而認かへ相渡候

一 西新町妹尾平兵衛所持之古道具屋株札改名ニ付高松屋太助と認かへ願出右同断取計

一 大坂大和屋弥三郎分市郷十一人之ものへ相懸り滞金返済受取手形



并古証文去ル八日大坂分相戻在方消印相済相廻り大年寄へ相渡下方消印為取計消印証文郡代へ差戻候

正月十五日 晴

正月十六日 雨

一御具足御祝ニ付麻上下着用御徒格已上五時惣登城御嘉例之通御祝頂戴諸事無滞御礼式之通相済勿論当役ハ於宇治橋之間御用所坊主拜給ニ而頂戴物ニ名札付役所へ相廻候様直ニ坊主へ申達候処御用所坊主尾八斎役所へ持来候畢而於七間廊下例之通頂戴ものへ御礼申上之御用所御下りを相待退出○当年者御年限中ニ付市郷之もの登城祝義申上無之

正月十七日 曇

一江戸御留主居河内志津馬分去ル三日之書状到来旧年申遣候田邑屋宇左衛門弓削懸合之田地出入証文之義委細要人殿分御内達有之趣を以右証文之内二三通写取御勘定奉行石川左近將監殿へ聞合候処右証文表ニ利足出入有之候ニ付書入証文ニ相成候間金銀貸借ニ准シ御取上ケ無之ものニ候旨被仰出候段申来候右証文明日出仕之上可入御覽候

一円宗寺村茂治出牢郡代所分申来出番嘉七差向出牢取計之

一同心組三船藤四郎川端幸治遠藤和四郎三人旧臘五日無宿松之助ニ着添致出府候処道中無疑旧臘廿二日着府即日町奉行所へ引渡相済同廿八日御暇出候付去ル二日出立罷帰候段届出候

一目孫兵衛義誕生寺富ニ罷出候所無別条引取候段昨晚届出承り置

一御蔵米四拾八匁 町米四拾四匁

一 大坂谷町二丁目御代官拓植又左衛門殿元手附増井左門大同元手代内藤伍三右衛門分例歳之通銭相場書取ニ来差遣候但去年中平均相場百四文也○且又此度も片書様付ニ致来候

一 古道具屋改帳面差出受取置候

正月十八日 曇

一 御用日登城

一 布施孫三郎殿支配所当国吉野郡影石村清吉義桶屋町桶屋清七養子ニ引受度人別入願例之通取計済同廿七日住宅証文差出

一 造酒之義左之通従公儀被仰出候段大目附分達有之写取造酒屋共へ触達候様大年寄へ申渡候仍而ハ以<sub>(一)</sub>来取扱之義ハ追而伺之上可申達事

去戌年被仰出候酒造役米之儀追而被及御沙駄候迄者先不及差<sub>(宋書)</sub>段被仰出候ニ付去戌年分役米取立被置候届書差戻候間右御触之通被相心得酒造人共へ可被割戻取立者相済未届書不被差出分も有之候ハ、是又可被差戻義勿論ニ候

一 前々之造高ニ無<sub>(宋書)</sub>銘々分限ニ応シ改而実を得候高を得と相札被書出候節天明八申年御改之高ニ相違無之候も其段も御勘定所へ可被相届候

右ハ旧臘廿一日御勘定所分被仰出候由○右ハ松平伊豆守殿柳分御懸り之由申候所御同人同廿二日御退役被成候由尤外ニ陸奥守様御屋敷替<sub>并</sub>一橋様大御所様之御望有之義ニ付而御退役とも世評有之由

一 公儀御触左之通大目附分来組中町中へ相触候

先達<sup>而</sup>姫君様御誕生被為在候処思召有之ニ付表向御弘<sup>者</sup>不  
被仰出候御名之義<sup>者</sup>浅姫君様と奉称候

右御名ニ差合候名有之面々ハ相改可申候

一 牢舎人真加部村番人乙八義牢屋賄ニ被仰付候段大目附<sup>分</sup>達有之候  
ニ付昼廻利右衛門を以牢番へ申付小頭へも申達置

一 二ノ宮へ去ル三日今十一日迄之内盜賊這入刃釜銚子盃吸物椀之類

五品盜取候触流大目附<sup>分</sup>達有之町触取計本書ハ大目附へ差戻候尤  
右之内刃釜<sup>者</sup>吹屋町吹屋八左衛門方ニ買取有之段届書ニ在之候ニ

付八左衛門相糺申聞候様大年寄へ申達候<sup>同廿八日其余ハ無之  
旨届出候</sup>

一 河内志津馬<sup>分</sup>昨日申来候田地<sup>并</sup>家質入御取計之書状御用所へ差出

右公儀御取扱之訊大年寄へも兼<sup>而</sup>得と申聞置<sup>并</sup>田邑屋宇左衛門へ  
も可申聞旨伺濟ニ付大年寄へ右大意書付相渡置候

一 坪井町浜屋亀四郎義源右衛門と改名願承り届

一 去亥年中人別出入差引相改左之通御用番中へ差出候

一 出生百七拾八人内<sup>男百三六  
女七拾五人</sup> 一他所引越百貳拾九人内<sup>男七拾六人  
女五拾三人</sup>  
〆三百七人

一 他所へ引越百貳拾壹人内<sup>男九拾八人  
女三拾三人</sup> 一死失百七拾八人内<sup>男九拾四人  
女七拾六人</sup>  
〆貳百九拾九人 差引シテ八人増

正月十九日 時雨

一 大坂谷町二丁目御代官拓植又左衛門殿元手附元手代<sup>分</sup>此間申越候  
錢相場書取ニ差越候由又々書状差越候ニ付此間直ニ飛脚之者へ相

渡候由及返書候

一 播州広峯山魚住藏人<sup>分</sup>例年之通年頭祝書来及相答候

一 美濃職人町内田屋治助借屋住新屋甚藏義去ル十日夕罷出不罷帰全  
出奔之体ニ相見え所々相尋候得共行衛<sup>マ</sup>不相知旨届出差出百日尋申  
付候<sup>■</sup>五月三日除帳

一 二ノ宮ノ紛失之刃釜吹屋町吹屋八左衛門相糺候所去ル十一二日比  
神代之者之由持来候付買取候ニ相違無之旨口書差出候ニ付目明共  
へ申付候様小頭へ申付置右口書大目附へ差出候処即刻相戻候

正月廿日 少霞

一 御払米正銀四拾八匁七分七厘 落札瓜生原ヤ惣兵衛 町米正銀四  
拾四匁七分七厘

一 御蔵米四拾八匁 町米四拾四匁

正月廿一日 曇

一 江戸帰り之同心組三人今日<sup>分</sup>出勤ニ付加人真北又作福井小左衛門  
尾崎広助三人今日<sup>分</sup>差戻其段大目附へ相届候

一 大目附廻状到来左之通即刻写取町中組中へ相触候

左兵衛佐様御実父若狭守様御病氣之処御養生不被為叶旧臘廿  
九日戌上刻被成御卒去候旨申来候依之今日<sup>分</sup>明後廿三日迄三  
日之内鳴物停止之事ニ候尤普請ハ不苦候

正月廿二日 曉雨朝飯後晴

一 勝間田町倉屋善助義去ル十八日植月村鳥羽観音へ參詣仕候由<sup>ニ</sup>  
罷出候所同夕植月村茶屋佐七方ニ一宿仕翌夕同村源七方ニ止宿仕  
候処病氣付追々指重ク同人義送り呉候様相頼途中も無覺束氣付抔  
為持人足式人<sup>ニ</sup>而送り来候所川辺<sup>ニ</sup>而落命いたし候由送り来組  
合親類打寄相改候処未温りも有之病氣ニ無相違候得共死人送り来

候事故相届候由大年寄届出承り置宜取計候様及差図候

正月廿三日 暁今少雨朝飯後雨止曇又夜雨

一御用日登城

一材木町山城屋重右衛門借屋住恵宝屋彦兵衛義去亥九月廿一日出奔  
仕十月十二日百日尋申付候処弥行<sup>(マヤ)</sup>衛不相知最早百日余ニ相成候ニ

付除帳願差出例之通取計済

一造酒屋共拾分一役米御免被成候ニ付以来之取扱方何書御用番中へ

差出置候

一布施孫三郎殿手代中沢良助桑名善藏今去亥歳中之錢相場書取ニ来  
例年之通差遣候

一御払米正銀四拾九匁壹厘 落札伏見屋茂七 町米正銀四拾五匁

厘

一御蔵米四拾八匁 町米四拾四匁

一玉置源五兵衛義上野介様三浦志摩守殿江御本陣御歎申上度願書下  
案差出御用番中へ差出候

正月廿四日 晴風夜雪

一深信院様明廿五日四時御供揃ニ而 藺田町通り泰安寺妙法寺へ御仏  
參被成候旨種村登門今通用有之大年寄并小頭へ例之通申達ス

一播州網干丸尾屋六三郎一人例年之通荒物類塩物卸売ニ来候段林田

町福吉屋安右衛門宿切手差出五月廿九日帰

一播州網干余陸屋武兵衛一人例年之通八百屋物鱈節卸売来候段右同  
人宿切手指出四月廿九日帰

正月廿五日 曇晴

一京町名古屋清七妻妊娠六月ニ相成候所時疫相煩今朝死去仕候段一

札并容体書差添差出候

一元魚町福永屋宇三郎借屋住折助倅伝治義去亥十月十五日平井半平  
へ奉公仕候付人別除願差出候所暇出候ニ付帰住願差出承り届但半

平今ハ去十二月廿八日案内有之

一深信院様御仏詣無滞相濟候段御先払藤四郎利右衛門届出候

正月廿六日 晴

正月廿七日 雨

一牢舎扶持老儀内貸証文差出奥書取計之是ニ而 来月へ三斗壹升八合  
七勺五才持越

正月廿八日 曇

一御用日先格之通初之廿八日ニ付麻上下着用登城

一板倉周防守殿城下備中松山下町新屋八太郎弟久米治郎と申もの

齋藤孫右衛門役介ニ引受度人別入願御用番御聞済ニ付大目附へ差  
出置御聞届申達候

一下紺屋町河内屋佐吉倅宇兵衛義御代官重田又兵衛殿支配所当国大

庭郡上河内下村七右衛門養子ニ差遣度人別除願右同断取計済

一船頭町中村屋政兵衛弟太吉義土岐美濃守殿領分当国勝北郡河内村  
和七養子ニ差遣度人別除願右同断取計済

一玉置源五兵衛義追々及困窮御本陣難相勤ニ付旧年出羽守様江歎書

差上置候所今以何之御沙駄も無之ニ付罷越相同度右序ニ上野介様  
并三浦志摩守殿江も歎書差上度下案差添尤明廿九日立ニ而 往来廿

五日計之逗留願右同断取計済

一二階町山本屋周右衛門義雲州杵築大社<sup>江</sup>參詣仕度卅日計之逗留<sup>ニ</sup>

而明廿九日<sup>而</sup>出立願大年寄承り届差出候

一大目附<sup>上</sup>紺屋町因幡屋十藏備前屋庄兵衛方<sup>ニ</sup>而博奕参会之風聞有之候間心付之様察度有之候

一大納戸石垣清太夫能理庄左衛門<sup>今</sup>蒸櫓十二束川下之裏印取<sup>ニ</sup>来取計之

一高石垣関貫番賃銀大年寄<sup>今</sup>差出是迄ハ右受取書<sup>ニ</sup>自分致印形来候得共上<sup>今</sup>受取候南新座番賃銀も新左衛門へ取計申付候義<sup>ニ</sup>付町方<sup>今</sup>差出候受取帳<sup>ニ</sup>茂新左衛門致印形候様申達候

正月廿九日 曇

一土井大炊頭殿弓削役人谷口市右衛門添簡を以同領当国久米南条郡種村吉村督四郎致出訴当町林田町福吉屋乙右衛門へ相懸り七ヶ年已前午十一月銀三貫五百目貸渡其砌利分少々致返済候処其後一向不相済當時元利合テ六貫百目五分差滞候段訴状差出候<sup>ニ</sup>付並々之通済方可申付段御用番中へ相伺候処宜取計候様被仰出仍之明晦日双方呼出糺之上済方可申付<sup>ニ</sup>付夫々手配申付置候尤大年寄へ福吉屋乙右衛門内々相糺相違も無之候ハ、請人桶屋町市右衛門共他参留申付置候様申達候

一御領分西北条郡上田邑<sup>見内</sup>箕内村庄屋庄兵衛娘さと義二階町年寄塗師虎吉妻<sup>ニ</sup>引受度人別人願下方懸ケ合相济候段申出承り届

一二階町山本屋周右衛門所持之自国受酒株当子正月<sup>今</sup>来ル七月迄京

町大村屋源右衛門借り受商売仕度願承り届

一西今町小島屋孫市悴平吉召連四国遍路罷出度八十日計之逗留<sup>ニ</sup>而

来月五日出立願承届<sup>十四日</sup>

一西今町直屋善吉娘房義同人孫善太郎召連四国遍路右同断願承届四月十四日帰

一西今町井口屋六右衛門裏<sup>今</sup>廿八日夕隣家同人借屋荒木屋武助方へ盜賊入込候処早速見付声を懸ケ候処逃去り勿論紛失之ものハ無之候旨届書差出承り置小頭へ目明<sup>ニ</sup>申付候様申達候

正月晦日 晴

一昨夜更廻り同心組庄藏藤四郎榮治<sup>利右衛門</sup>○嘉七差出候段鍛冶町鍛冶太兵衛方<sup>ニ</sup>左之もの共相集居博奕之体ハ見受不申候得共甚疑敷趣<sup>ニ</sup>付夫々組合預ケ申付置候段届出候<sup>ニ</sup>付寺社取次三浦十郎左衛門へも懸ケ合置御用番<sup>并</sup>大目附へ相届候

宿 鍛冶町 鍛冶 太兵衛

参会 細工町 灘屋 武兵衛

同 上紺屋町灰屋与右衛門下人 文治郎

同 美濃職人町作人 宇兵衛

同 西寺町光嚴寺長屋住 清八

右清八義ハ寺社取次<sup>江</sup>可引渡もの<sup>ニ</sup>付懸合候得共最早暇遣候由<sup>ニ</sup>而不受取仍<sup>而</sup>宿太兵衛方<sup>ニ</sup>預ケ置候

一土井大炊頭殿領分<sup>今</sup>出訴<sup>ニ</sup>付新左衛門庄藏藤四郎出番利右衛門大年寄孫右衛門諸吟味喜左衛門立合四時揃双方共呼出相糺候処無相違<sup>ニ</sup>付左之通申渡候

一右借銀三貫五百匁元利合六貫百匁五分

五分借り受候<sup>ニ</sup>相違無之旨<sup>ニ</sup>付六十日限急度済方可仕候尤利

林田町福吉屋乙右衛門事安右衛門

銀一ヶ月壹歩半と有之候得共一割半之利足ニ直し可相払候

一加判人相糺候所養父市右衛門加判人 桶屋町市右衛門

致加判候由当市右衛門ハ五ヶ年以前養子ニ来養父死後之事故  
不存旨申披候ニ付差講無之段申達候

一出訴之趣無相違ニ付六十日限急度土井大炊頭殿領分久米南条郡種村

濟方申付候尤加判人市右衛門ハ死 百性吉村督四郎

失之義当市右衛門ハ養子之義不存旨ニ付濟方不被申付且又利

分壹割半ニ相直し筋立候様申付候間其旨可存候右限日迄ニ不

相濟候ハ、又々可申出候

右之段兩方へ相届并伺濟之上添簡返書相渡候

一 関貫番賃銀例月之通相渡候

二月丁卯 小

月 番

御家老 山田主膳殿

御年寄 海老原極人殿

大目附 太田舍人

小頭 三船藤四郎

大年寄 蔵合孫左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

二月朔辛西 旦 雨

二月二日 雨夜雪

一大坂南本町三丁目紙屋藤兵衛手代新兵衛一人例年之通菜種卸売  
候段新職人町松の屋十右衛門宿切手差出同八日帰

一 牢舍扶持仕切証文差出奥印書取計之尤壹斗壹升八合七勺五才返納  
仕候

一 牢舍扶持三俵之内貸証文差出奥印書取計之是ニ而三月へ壹斗貳升  
持越積也

一 同心組三人江戸へ罷越候間日数四十二日之昼扶持被下置合六斗三  
升之証文差出奥書取計之

一 林田町岩佐屋善七忤鉄治義下高倉村ニ而喧嘩入用昨年来下方取合  
ニ相成度々答書等申付候処難相濟哉郡代所御用番中へ被差出候

由右善七答書之内鉄治離縁致両度も再養子いたし居段有之候処右  
再養子ハ仲人等も有之証拠有之義哉相糺候様御用番中申来大年

寄へ申達候

二月三日 雨

一 御用日登城申上候御用向無之

一 先月廿九日夕鍛冶町鍛冶太兵衛方ニ預ケ置候光嚴寺長屋住清八義  
寺社取次へ懸ケ合候処被相糺候所光嚴寺召仕ニ而去ル廿八日暇差

遣候由申来候ニ付暇差遣候ニ而三日之内ハ古主へ相懸り候段申遣  
候所其段大目附へ被相達候由ニ而太田舍人今尋有之大橋十太夫殿

并山下友弥例杯申達候所夫ハ悪事出来之上暇差遣候ニ付古主へ戻  
候得共其余証跡も可有之哉候ニ而被申聞律令ニも有之様ニ相覚候

所欠落者三日之内ハ古主へ戻ルト有之暇遣三日之内ハ古主へ相懸ルトハ無之ニ付駢と致候証跡無之段申達候所拙者申候通以後悪事出来之上暇遣候而も其以前暇遣候杯と申者可有之程も難計以前例ニ相成候事故何分御用番中へ相伺御評儀之上可申達旨被申聞候所今日左之通達有之候

家来暇差遣三日之内悪事有之候ものハ古主へ差戻と申義駢と証跡無之義ニ付何れ共御決斷難被成候間近便江戸表へ御問合之上以後之御形ハ可申達候間左様相心得可申今般光嚴寺下人之義ハ以後之形ニ者不相成当役手近き事故先役筋ニ而吟味可致候旨被申聞候

一右ニ付新左衛門藤四郎利右衛門出番栄治幸治大年寄孫左衛門諸吟味喜左衛門立会左之者共昼後夕呼出し遂吟味候処不及白状元之通夫々組合預ケ申付置候

鍛冶町鍛冶 太兵衛

同人親當時隠居 新兵衛

細工町 灘屋武兵衛

上紺屋町 灰屋与右衛門下人文治郎

此者義ハ阿波国〔出掛〕郡中島村  
出生一昨年来宿玉林喜七也

美濃職人町作人 宇兵衛

出生勝山去春来鍛冶太兵衛親 光嚴寺下人 清八

類之由

一牢舎人穢多藤五郎病氣申出大年寄へ申付候処藤木良全へ申付候段

届出候

一暮田村宇助方へ先月廿六日夕盜這入布子一代拾式匁計其外白米餅少々被盜取候触流取計候様大目附分達有之町触取計本書ハ即刻差戻し同十二日無之段申出候

一林田町高鳥屋茂吉悴繁太郎義御城代組大倉与市郎養子ニ差遣度人別除願承り届

二月四日 時雨

一戸川町大工庄兵衛と惣大工共と職分之義ニ付出入有之下方難及扱双方答書等大年寄差出及見所未糺方不行届処も有之候ニ付其所相糺候様翌五日申付候

二月五日 曇 雪少散

一造酒屋今般役米被差免以後取扱之趣御触面ニ而解兼候付御留主居へ問合之下案相認御用番中へ伺置候

一玉置源五兵衛義去月廿九日雲州へ罷立候処去ル二日雲州御金宰領立寄先達而源五兵衛差出候歎書御役人中被致披見無余義申立氣之毒ニ者候得共此節甚御差支殊更右体之歎き所々分有之御取上ケ難被成候間御差戻被成候仍而乍些少白銀式枚被相送候由御役人中書面差添罷返り候由月番大年寄申出候付今日御用番中へ申上候大目附中江者序ニ可及噂候

一御用番中と御対談申候内召捕もの、義及談候処御家中屋敷へハ無案内踏込召捕候義ハ不相成形哉と御尋有之候ニ付勿論同心組たり共先ハ及案内候而可召捕義目明非人ハ踏込之義も難致旨ニ相心得居候旨申上候処夫ニ而ハ差支可有之様ニ被存候間御伺ニ而も有之候ハ、評議可致旨御沙駄ニ付直ニ左之通伺置候

召捕者之節同心組ハ勿論之義目明非人たり共御家中屋敷何方迄も無案内踏込召捕且又駈込もの追込之節<sup>并</sup>病犬たり共裏から裏へ抜通り候節ハ右ニ随ひ裏から裏へ無案内駈通り候様ニ被仰出候得<sup>者</sup>甚弁理宜御座候此段御許容も被下候ハ、御家中へ御触達御座候様ニ仕度奉存候此段奉伺候尤内山下へ非人不被這入義ハ是迄之通<sup>ニ</sup>而宜御座候

二月六日 曇夜大雪

一 東在梶並ニ明七日富興行いたし候段目明共申出候段小頭申出先格之通取計可申段昨日伺置候所今日思召無之候間先格之通宜取計候様被仰出郡代所<sup>江</sup>も及通用近例之通御停止之町触差出<sup>并</sup>目明共差遣候様小頭へ申付候

一 八時揃立合去ル三日之通出番嘉七和四郎<sup>ニ</sup>而鍛冶町博奕疑之もの共不残呼出右之内左之通申付ル

兩人とも申口不埒ニ付手錠申付候

但清八義ハ矢張太兵衛方ニ預ケ置候<sup>光厳寺下人暇出し清八</sup>

一出羽守様来ル廿四日御発駕廿六日久世御泊廿七日当所御通行土居御泊之由御宿改之もの罷<sup>且替</sup>「人馬問屋へ申聞候由申出候付翌七日御両所へ相届候

一 林田町香々登屋六之助借屋住人茂市夫婦娘右家内三人林田上之町御中間部屋頭植村幸平妻借屋へ引越度我等方引合相濟候段申出承り届

一 伏見町南側<sup>ニ</sup>而玉屋源太郎家屋敷去十二月廿七日吹屋町角屋清右衛門へ売渡相濟候処右家屋敷ハ玉屋源太郎名前<sup>ニ</sup>者候得共実ハ元

魚町徳山朴也後家持家<sup>ニ</sup>而親類材木町伏見屋林兵衛世話仕居候所旧年売渡候節半役と相認候所甚不調法<sup>ニ</sup>而本役<sup>ニ</sup>而御座候由断書差出承り届左候ハ、願書<sup>并</sup>売券共認かへ差出候ハ、引替可相渡旨申達町役共以來入念候様可申達旨大年寄へ申達候

一 元美濃<sup>職<sup>マ</sup></sup>職町住当時隅田勇助長屋住助七俸松五郎義去亥二月林田町宮内屋源八養子<sup>ニ</sup>引受候所今般離縁仕助七方へ差戻度人別除願承り届

一 伏見町煙草屋周藏義出奔<sup>ニ</sup>付先月十三日除帳申付候所残置候道具少々有之候<sup>ニ</sup>付伺出先格之通闕所入札<sup>ニ</sup>取計候様及差凶但桶鉢之類十品計有之<sup>同九日銀差遣<sup>相改させ候</sup></sup>

二月七日 晴

一 牢浚申付候処無別条旨昼廻り栄治庄藏届出候

一 河内志津馬分正月廿三日出之書状到来二階町組屋忠右衛門造酒林田町島屋文七<sup>江</sup>讓渡之義最早忠右衛門休株之御届相濟居候得共又々願直しいたし候弥讓渡候段公辺御届相濟候段申来其段大年寄へ申達御両所へハ翌八日及御沙駄候

一 橋本町年寄山形屋喜八義大坂大川町和泉屋六郎兵衛方へ廿五日計之逗留<sup>ニ</sup>而明後九日出立願承り届尤留主中御用向材木町年寄猪太郎へ頼置候由也同廿九日帰ル

二月八日 晴

一 御用日登城

一 中之町久屋安右衛門義林田清水場分同所菜洗場迄之内<sup>ニ</sup>而四柄白小船車願郡代所へ懸合候処故障無之申来御用番中へ差出候所御聞

届相济候ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

一因州気多郡養郷村彦左衛門娘元義勝間田町山形屋喜兵衛借屋住角屋又兵衛妻ニ引受度人別入願右同断取計濟三月朔日住宅証文差出

一大目附左之通演達有之候来ル十三日御用日十五日へ被差延

(藩主殿の弟、後の齊孝、維賢)

(藩主殿の弟、後の信立、時敏)

慎三郎様良四郎様御前髪被為執候恐悅并

一京丸様昌丸様御袖留恐悅申上有之候間麻上下着用登城可致候  
一京丸町住当時無宿備前屋勘兵衛致箱訴役筋存寄御尋被成候ニ付去  
亥十一月廿存寄認申上候所江戸御伺ニ相成役筋存寄候通ニ宜候由

ニ而 右書類不残御用番中御渡被成取置候

一備前邑久郡牛窓大工五郎左衛門市兵衛喜太左衛門半兵衛善助小作

以上六人例歳之通来候段新職人町松の屋十右衛門宿切手差出十二  
月廿六日帰ル

一大坂豊島町油屋新兵衛分当所西今町直屋市郎左衛門へ相懸り滞銀

再出所大坂御番所より御渡被成候旨大目附中達有之新左衛門利  
右衛門栄治孫左衛門喜左衛門立合ニ而 左之通申渡之

大坂豊島町油屋新兵衛分再 西今町直屋市郎左衛門煩代

出訴御渡ニ候早々罷登り可 武田屋録郎兵衛

相济候

右之通申渡相济候段御両所へ相届候

一利右衛門栄治へ左之通申渡候様申達尤藤四郎故障ニ付利右衛門へ  
申付候

其方義兼々申付置候義を等閑ニ致し 本島庄藏<sup>江</sup>

勤方不出精不埒至極ニ候依之追込申付候同十三日差免候

右ニ付加人彦人申達候所真北又作来

一宮脇町広瀬屋安治義悻梅吉召連四国遍路罷出度八十日計之逗留ニ  
而来ル十一日出立願承り届四月十一日帰

二月九日 快晴

一大目附廻状到来左之通則組中へ相触候

鉄砲獵兼ニ御停止之処御領分端々ニ而ハ盜鉄砲打候ものも有

之哉ニ相聞候ニ付郷中へも嚴敷申渡猶又目附之差出精々遂

吟味早々申出候様申付候尤御家中ニ而者 心得違之面々も有之

間敷候得共右之通郷中へ申渡候間此段及演説候様海老原極人

殿御申聞候間申達候

一伏見町煙草屋周藏闕所道具昼廻り文藏嘉七へ見改申付候処無相違  
旨申出候

一西今町直屋市郎左衛門義大坂御呼出し申渡候処未病氣不相勝其上

加病等も有之此節登坂難仕ニ付今暫日延御猶予被成下候様歎書差  
出先格之通奥書仕大坂長沢清左衛門へ可差遣候旨御用番中へ相伺  
置候

一目明孫兵衛東在梶並分罷帰り天氣相募り七日之富相延昨八日有之

候処当所分罷越者無之無別条相济候段届出承り置

一新魚町西側ニ而 金屋庄吉家屋敷表口五間裏行十七間但忝軒役也北

隣ハ紙屋元吉南隣ハ作人初太郎也石家屋敷之内南之方ニ而 表口忝  
間半裏行十七間但半役添へ代銀百目ニ相極町内大和屋利兵衛<sup>江</sup> 売  
渡度願承り届三月八日売券状差出

一元魚町備前屋勘兵衛箱訴御用番中御渡被成考付差出候様被仰出候



尤婦住歎十月廿九日之箱訴也但翌日考付差出候所同十二日伺之通  
被仰出同十三日近親存寄承札申出候大年寄へ申達候

二月十日 曇

一西今町直屋市郎左衛門大坂御呼出候日延願思召無之候間宜取計候  
様御用番中分被仰出先格之通與書仕大坂長沢清左衛門へ相廻候  
一御留主居河内志津馬へ造酒共以後之取扱之義可尋遣旨下案を以御  
用番中へ相伺候処思召無之段被仰出今夕之御便ニ申遣候

二月十一日 曇 少時雨

二月十二日 晴 曇

一御太鼓打組大倉伝兵衛娘りき義材木町高田屋喜兵衛妻ニ引受度人  
別人願大年寄差出承り届

一京町南側ニ戸島屋与吉家屋敷表口式間半裏行拾七間但三步役也  
東隣八戸島屋伝吉西隣八二文字屋常八郎也右家屋敷代銀札四百五  
拾匁ニ相極町内若松屋善左衛門借屋住伊野屋善介へ売渡願承り  
届同十五日売券状差出

一林田町豊国屋大助借屋住野志屋茂七娘りき同人悴松之助義御領分  
西北条郡中村宇八妻子ニ差遣度人別除願下方引合相濟候段申出承  
り届

一新魚町福本屋庄助持来候古道具屋株（証書正）同町角屋政右衛門讓受度願承  
り届株札名前認かへ相渡候

一宮脇町松岡屋善藏役介茂兵衛義当国久米北条郡西川大黒屋孫太郎  
方へ今子年分来ル寅ノ十二月迄三ヶ年之間奉公ニ差遣度願承届

一小頭共御給米割合致頂戴候段御札罷出候

一船頭町今津屋孫十郎所持之船株安岡町岡崎屋伊兵衛質ニ取候一件  
出入寛政十二庚申年十二月八日致内濟候様御差図ニ付其段申付以後  
船株定法申渡置候処未筋立候ニ付今般藏元共工面を以後々年筋立  
候様取計度右之段双方御呼出被仰付被下候様藏元共願書差出候処  
右則後々年船株取計定法申渡候通年限過候而も得不受返候ハ、其  
段岡崎屋今津屋へ懸ケ合弥得不受返候ハ、流込ニ取計藏元場合ニ  
而兼申付候通致世話讓受度もの有之候ハ、相讓又ハ借り受度も  
の有之候ハ、貸付右損料并讓代岡崎屋へ相渡候様及差図候

二月十三日 快晴

一林田町香々登屋六之助借屋住甚藏娘品義横山村伝兵衛後家養女ニ  
差遣度人別除願下方引合相濟候段申出承り届

一本島庄藏追込今朝差免候付加人真北又作差戻候段大目附へ相届候  
一加茂中原成光寺敷又ハ才ノ谷宝藏寺ニ明後十五日富興行いたし候  
段申出郡代所分相伺先格之通取計可申段申上候処伺濟之由申来町  
触差出并目明差遣候様小頭へ申付候

一吉野郡上村（村名に誤字か）も明後十五日富有之由ニ付遠方之義故目明ハ不差遣  
町触計可差出旨郡代所分伺濟之由通用有之仍町触差出候目明ハ  
不差遣候

一芽町大工幸右衛門悴喜兵衛義養父幸右衛門存寄ニ不相叶離縁仕候  
処養子喜兵衛離縁を不受由申募父子取合ニ相成大年寄場合へ申出  
候由養子喜兵衛義甚不埒之趣ニ付呼出候利害可申聞哉之間伺出宜  
取計可申旨及差図若又喜兵衛義納得不致弥不埒ニも候ハ、組差向  
手錠可申付旨申達置候処漸得心仕引取候段大年寄申出候

一 御払米正銀四拾七匁八分七厘 落札神田屋宇兵衛 町米正銀四拾三匁八分七厘

一 御蔵米四拾八匁 町米四拾四匁

二月十四日 雨

一 安岡町三原屋重助義無願内分<sub>ニ</sub> 而 新田村分へ引越居其間<sub>ニ</sub> 出生等も有之候得共右之仕合故不届出不埒之旨届出候付大年寄場合<sub>ニ</sub> 而 為相糺口書取去ル八日御裁許相伺置候処何之通取計候様昨日被仰出候<sub>ニ</sub> 付郡代所引合之上今日大年寄於宅藤四郎利右衛門差向左之通申付即刻取計濟御両所へ相届候

一 無願内々<sub>ニ</sub> 而 先此迄在分へ引越 安岡町三原屋重助

罷在其上出生等も不届出重々不 但日数七日

届<sub>ニ</sub> 付追込申付候

一 同居之兄重助義内分<sub>ニ</sub> 而 在分へ 右同人弟八藏

為引越置其上出生等<sub>ニ</sub> も不届出

重々不届<sub>ニ</sub> 付追込申付候 但日数五日

一 右<sub>ニ</sub> 付急度叱 右組合不残

一 右同断 右町役不残

一 出羽守様御通行前<sub>ニ</sub> 付宿馬見分申付藤四郎利右衛門斎藤孫右衛門

宅へ差向為取計候処毛附差出昨年<sub>ハ</sub> 八宜旨何<sub>茂</sub> 届出候

一、御代官下代相勤居候池田忠兵衛義今般御暇出大熊鞆負殿へ出入奉公仕候<sub>ニ</sub> 付是迄之通新職人町作人市助同居仕度願大熊鞆負殿<sub>ハ</sub> 入

も案内有之候<sub>ニ</sub> 付承り届

一 能理庄左衛門娘鉄義安岡町大坂屋浜吉妻<sub>ニ</sub> 引受度人別人願承り届

一 戸川町大工庄兵衛義久世領大工藤兵衛と申もの弟子<sub>ニ</sub> 引受人別人

いたし居大工職相働候由<sub>ニ</sub> 而 惣大工共昨年以來出入申懸ケ双方届書返答書申付候得共下方取扱<sub>ニ</sub> 而 筋立不申先此差出及見候所右藤

兵衛と申ものハ元來備前大工之処当国久世領古見村へ養子<sub>ニ</sub> 参り

夫<sub>ハ</sub> 大工庄兵衛方へ人別人いたし候もの候処惣大工申立ハ古見村<sub>ハ</sub> 似せ送り手形を以人別人いたし候間御吟味被下候様願之趣<sub>ニ</sub> 付

右古見村<sub>ハ</sub> 送り不差出と申手形取証扱<sub>ニ</sub> 差出候様申付置候所当所

ハ大工兩人古見村へ参り夫<sub>ハ</sub> 久世迄罷越久世手代松岡小作<sub>并</sub> 郷宿へ懸ケ合似せ送り<sub>ニ</sub> 取計呉候様相頼込候所古見村庄屋致立腹右之

始末大工庄兵衛方へ態飛脚を以申越候趣昨日申出先其俣<sub>ニ</sub> いたし

置候処猶又今日申出候<sub>者</sub> 備前之藤兵衛近親之もの共来り右藤兵衛

義致喧嘩九死一生之処未備前人帳之もの<sub>ニ</sub> 候哉若又除帳之もの<sub>ニ</sub>

候ハ、其俣打殺捨置候旨当所大工六人<sub>ハ</sub> 書状差越打寄遂評義候処勿論除帳之もの<sub>ニ</sub> 候得共除帳と申遣候ハ、被打殺可申候間時之

計策を以入帳之者と申遣可然<sub>ニ</sub> 而 及返答候由先急<sub>ニ</sub> 見廻<sub>ニ</sub> 来候由

近親之もの庄兵衛方へ來申聞候由申出重々不埒之義<sub>ニ</sub> 付当所大工共備前へ差遣候書状持來候始<sub>ニ</sub> 申付置其段御用番中へ申上右久世

へ参り候大工兩人備前へ書状遣候大工六人追々名前相知次第召捕

手錠預ケ申付猶追々糺之上可奉伺旨申上候処宜取計候様被仰出其段大目附へも相届置右手配申付候仍<sub>而</sub> 古見村<sub>ハ</sub> 久世迄懸ケ合<sub>ニ</sub> 参候左之大工式人廻り之嘉七和四郎差向左之通取計之

尋之筋有之<sub>ニ</sub> 付手錠懸ケ

組合預ケ申付候 西今町大工 伝兵衛 橋本町大工 宇兵衛

右之通申付置候段翌朝出仕之上御両所へ相届候

一同心組正月申臨時出役昼扶持三升七合五勺受取証文差出奥書取計  
候尤正月五日之内ハ昼夜廻り無之処右五日之間之昼扶持も受取候  
由ニ付此度受取候昼扶持之内ニ返納仕差引仕候由申出候

一坪井町畑屋弁藏義大坂淡路町大和屋藤兵衛方へ四十七日計之逗留  
ニ明後十六日出立願大年寄承り届差出三月廿八日帰

二月十五日 晴

一御用日<sup>并</sup>慎三郎様良四郎様御前髮被為執順丸様昌丸様御袖留恐悦  
申上ニ付三奉行以上麻上下着用登城例之通於七間廊下御小性頭代  
謁有之一同罷出右恐悦申上之畢御用所へ罷出恐悦申上候引懸ケ  
大目附へ右恐悦及挨拶候

一伏見町角屋清右衛門借屋住人久五郎<sup>并</sup>悴熊吉右父子二人土井大  
炊頭殿領分当国久米南条郡弓削村忠三郎方へ引越度人別除願御用  
番中御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

一因州知頭郡知頭村天玉屋平兵衛娘とも同人孫せい右二人勝間田町  
西屋要助妻子ニ引受度人別入願右同断取計濟三月朔日住宅証文差  
出

一細工町大工多七娘りき義脇坂淡路守殿御預り所当国久米北条郡中  
村百性多吉妻ニ差遣度人別除願右同断取計濟

一細工町指物屋平治借屋住人藤治一人久世御代官所当国大庭郡三  
崎村百性藤助方へ為引越度人別除願右同断取計濟

一脇坂淡路守殿預り所当国久米南条郡<sup>マダマ</sup>全間村百性宇兵衛悴林藏夫婦  
悴紋藏右家内三人福渡町浜野屋嘉一郎家守作人久米吉借屋住永坂

屋太助養子ニ引受度人別入願右同断取計濟同十九日住宅証文差出

一二階町塗師虎吉義久世村金沢屋善右衛門へ脇差老腰渡置候所不差  
戻候付<sup>出</sup>訴仕度添簡願出則久世へ之文通下案を以御用番中へ相伺  
候所何濟ニ付大目附へ届置御聞届申達出立申出候ハ、添簡可相渡  
旨申達置候然ル所明十六日出立届出即刻添簡相渡候

一造酒屋共十分一役先達<sup>而</sup>差出候所御免ニ付差戻候様大目附<sup>分</sup>達有  
之候由十郎左衛門<sup>分</sup>通用有之右銀子六貫九百七拾壹匁五厘七毛勘  
定奉行<sup>分</sup>為持被指越候ニ付勘定奉行預り手形差戻し大年寄へ相渡  
し差戻候様申達

一深信院様明十六日西今町中横町通り長安寺御參詣夫<sup>分</sup>妙法寺前通  
寺町切り通し安岡村之方へ御出候由種村登門<sup>分</sup>通用有之小頭<sup>并</sup>大  
年寄へ申達候

一本行寺義本堂庫裏為再建立当月<sup>分</sup>来ル寅年迄三ヶ年之間且家一兩  
人召連町中夜題目修行御聞届被成候段寺社取次野条金平<sup>分</sup>通用有  
之大年寄<sup>并</sup>小頭へ達置候

一御用番中へ昨日申上置候大工一件之義古見村庄屋<sup>分</sup>態飛脚を以申  
越候旨申出候ニ付其旨申上置候処右書状差出候様ニ申付差出候所  
庄屋<sup>分</sup>之文通ニ無之藤兵衛親<sup>分</sup>之弥五郎と申者之書面ニ付右間  
違之段相糺申出候様申付候処認差出候ニ付右書面共御用番中へ差  
出候

一京町美濃屋平五郎所持之旅人宿屋株当子<sup>分</sup>来ル辰年迄元魚町延屋  
三治郎へ貸渡願承り届

一出羽守様御通行ニ付町方取計先格之通伺出大目附へ噂之上先格之

通取計候様申達候

一 上田邑村北菊助牢番預ケ郡代所分申来出番和四郎差向取計也

一 牢舎人義右衛門病氣申出医師申付候処藤木良全へ申付候段翌十六

日申出候同廿九日休薬届出候

二月十六日 曇夜雨

一 惣大工共庄兵衛と出入ニ付備前へ書状遣候返書来候ハ、差出候様

申付置候所難差出之旨難洩申出候得共強ニ指出候様大年寄今再応

申付候所漸今朝差出及披見候所備前分申参候趣ニ相違無之ニ付御

用番中へ指出候何ニ呼出候夫々預ケ等可申付旨伺済ニ付大目附へ

も相届右ニ付加人四人尚<sup>(虫)</sup>被仰付候様申達候所加人真北又作福

井小左衛門吉田藤太荒木源四郎来

一 八時分新左衛門小頭代利右衛門部屋目附庄藏出番文藏幸治嘉七和

四郎又作小左衛門藤太大年寄孫左衛門諸吟味喜左衛門立合大工共

呼出候遂吟味左之通申付候

吟味中牢番預ケ

材木町大工 儀平  
西今町同 伝兵衛  
橋本町同 宇兵衛

細工町同 藤吉

吟味中手錠懸ケ組合預ケ

同 同 新六  
下紺屋町同 藤助  
中之町 同 新兵衛

吟味中組合預ケ三月廿日手錠申付

材木町 同 彦左衛門  
同 同 重右衛門

右之通申付候段御両所へ相届候

一 立合右同断ニ鍛冶町鍛冶太兵衛方ニ博奕参会ニ紛敷もの共呼

出候又々遂吟味左之通申渡其段御両所へ相届候

鍛冶町鍛冶太兵衛

吟味筋訳立候付差免候

以来別ニ相慎候

細工町灘屋武兵衛

上紺屋町灰屋下人文治郎

美濃職人町作人宇兵衛

一 出羽守様御通行ニ付御道見分小頭藤四郎大年寄孫右衛門諸吟味喜

左衛門差出候所指見苦敷場所も不相見少シツ、の繕ハ早速申付

候由且又筋違橋脇之北壁少し損居候旨申出候付明後十八日出仕之

上大目附へ可相届候

一 深信院様長安寺御参詣無御滞相濟候段御先私幸治和四郎分届出候

一 町煙葉屋周藏闕所道具入札差出候付致開封候所式弑式分高札

ニ付相渡候様申付候所右代物今日致上納候

一 目明弥吉加茂富分昨夜及深更無別条罷帰候段今朝届出候

二月十七日 曇 少時雨

一 牢舎人穢多藤五郎療治ニ廻り相濟候段牢番分届出大年寄も今兩三

日之内ニ休薬も可相成旨藤木良全届出候付矢張療治申付候段

届出候同廿四日休薬

一 坪井町一文字屋文助義京都車屋町姉小路上ル町一文字屋茂右衛門

方へ三十日計之逗留ニ明後十九日出立願大年寄承り届差出候三

月十四日帰

一 備前岡山小畑町鼠屋甚八悴清兵衛手代文十郎右二人例年之通元結

卸売来候段新職人町松のヤ十右衛門宿切手差出七月十六日帰ル

一 中買頭二階町河内屋金右衛門病死届出候

二月十八日 曇

一 御用日登城

一 御代官重田又兵衛殿支配所当国大庭郡久世村杉山順庵甥伊三郎義

伏見町田原屋佐助養子ニ仕度人別人願御用番御聞濟ニ付大目附へ

相届置御聞届申達候同廿五日住宅証文出ル

一 兼 永尋申付置候左之もの共際限も無之義ニ付最早除帳被仰付候

様仕度御用番中相伺候処即刻伺濟ニ付其段大目附へ書付を以相届

置除帳申渡候様大年寄へ申付候

寛政七卯年山北村博奕ニ付手 元魚町小原屋新吉

錠外シ出奔

右同断博奕吟味ニ付出奔

右同断博奕吟味ニ付出奔

右同断博奕吟味ニ付出奔

右同断博奕吟味ニ付出奔

右同断博奕吟味ニ付出奔

右同断博奕吟味ニ付出奔

右同断博奕吟味ニ付出奔

右同断博奕吟味ニ付出奔

右同断博奕吟味ニ付出奔

右同断手錠外し出奔

寛政十一未年百間藪筭盗取出

奔

享和元酉年盗賊筋疑ニ付出奔

西今町山崎屋長藏

右同年金屋村博奕ニ付出奔

東新町紺屋万治弟八藏

京町辰巳屋万藏

河原町利右衛門

新魚町油バ京平

もの

享和三亥年觀河原博奕ニ付出奔

右同年鐘太鼓ニ尋行衛不知

新魚町三ツ巴初五郎

小性町徳島屋善七

右同年博奕各夫役中出奔

芽町栄治

一中之町川口屋与市良借屋住吉野屋弥吉後家并同人悴宇吉并娘石家

一内三人林田上之町文吉妻子ニ差遣度人別除願下方引合相濟候段申

出承り届

一林田上之町又八夫婦并娘石家内三人中之町川口屋与市引受度人別

入願右同断承届

一京都伏見海道五条上ル森下町近江屋勘兵衛義小間物きせる売ニ去

福渡町藤右衛門

東新町飯綱屋石右衛門善吉

西今町山崎屋長藏

東新町紺屋万治弟八藏

京町辰巳屋万藏

河原町利右衛門

新魚町油バ京平

小性町徳島屋善七

新魚町三ツ巴初五郎

小性町徳島屋善七

芽町栄治

一中之町川口屋与市良借屋住吉野屋弥吉後家并同人悴宇吉并娘石家

一内三人林田上之町文吉妻子ニ差遣度人別除願下方引合相濟候段申

出承り届

一林田上之町又八夫婦并娘石家内三人中之町川口屋与市引受度人別

入願右同断承届

一京都伏見海道五条上ル森下町近江屋勘兵衛義小間物きせる売ニ去

年今当正月迄来候年罷已来難參候ニ付為右替同所錦小路烏丸

西へ入所近江屋勘吉と申呉服物太物売差越度願承り届

一坪井町河原屋治助家質出入旧臘願出候ニ付三十日限濟方申付置候

所當時元分壹貫匁相払利分二百匁年賦ニ払度候得共銀主小塩屋不

致承知候段歎書差出候付相濟シ候様ニ小塩屋呼出可申付候旨大年

寄へ取扱申付候

一 林田町福吉屋安右衛門家賃出入旧臘十二月三十日限濟方申付置候  
所不相濟候段先月廿五日申出候ニ付左候ハ、売券ニ取計引渡候様  
申達置候所未相濟候由申出候付売渡候様ニ尚又日限申付候急度申  
渡候様大年寄へ申付候

一 九時今新左衛門藤四郎栄治出番利右衛門庄藏幸治嘉七大年寄孫左  
衛門諸吟味喜左衛門立合左之もの共呼出遂吟味尤今日牢番預ケ  
并組合預ケ申付候もの共御所へ相届候

吟味中牢番預ケ申付候

材木町大工 喜兵衛  
同 惣兵衛

惣大工相手取候ニ付手錠懸ケ

戸川町同 庄兵衛

組合預ケ申付候

再吟味取計候

下紺屋町大工藤助

右之外大工藤吉新六新兵衛呼出置候得共及暮候付不及再吟味差

戻候

一 玉置源五兵衛義昨夜雲州今罷歸り候由相歎候得共御取上ケ不被下  
金三百疋被下置候由余り日数相懸り候ニ付広瀬へハ罷出勝山へ  
罷出相歎候得共是又御取上ケ無之金貳百疋被下候旨届出候付其段  
御所へ相届候

一 出羽守様差懸り御止宿之程も歎計義ニ付兼ニ用意取計置候様大目  
附今達有之孫左衛門并源五兵衛へ達置候翌日破損所書付差出候ニ  
付大目附へ差出候

一 上紺屋町十藏方ニ而今晚宵博奕会合之風聞有之候ニ付庄藏利右衛

門和四郎差向候所最早誰も居不申由届出候

二月十九日 快晴

一 安岡町三原屋八藏追込昨日迄ニ而五日ニ相成候付今般差免御所  
へ相届候

一 玉置源五兵衛居宅破損所書付指出大目附へ差出候

一 藏合孫左衛門申出候者 晚方棟梁共申出候者 大工共二十四五人計棟  
梁宅へ罷出今般大工共申立候義ハ惣大工一統之所拔々ニ入牢手錠  
等被仰付候ニ而ハ何れも心底不相濟義ニ付一様ニ被仰付被下候様願  
出候段申出候ニ付申立候趣御席を以可申上置候間大工共ハ及引取  
置随分事静ニ取計騒敷無之様ニ可致旨申達置候段申出候尤今朝今  
大工共寄合いたし一様ニ御取計被下候様相願候ハ、嘸上ニも御取  
り可被成と申談ル由ニ相聞候ニ付右之始末御所へ及御噂置候

一 昨夜出火之由沙駄有之ニ付致支度組三四人差出候所安岡村ニ而藁  
くる焼候由ニ付不罷出候

二月廿日 快晴

一 戸川町大工庄兵衛引受候今般之一件懸り合之大工藤兵衛義此間親  
類見廻ニ来候節向方親類甚氣遣いたし居候由ニ付此方之大工共今  
遣候書状之写取ニ参候旁備前へ参候由風聞有之候ニ付急ニ態飛脚  
を以呼返し候様申付候同廿五日夕帰ル

一 新魚町金屋利兵衛伴繁之丞義昨十九日夕林田町ニ而致狼籍候由ニ  
而林田町檜原屋喜治郎兄弟并角屋久左衛門伴杯致打擲候由ニ而檜  
原屋方ニ倒臥居双方今届出候得共元来繁之丞狼籍仕候故之義殊更  
疵所一向無之事故大年寄場合ニ而取鎮魚町へ為引取置候所右繁之

丞容体指重候段申出候付万一外病<sup>ニ</sup>而死候節如何<sup>ニ</sup>付見分被指出候様夜半過大年寄申出部屋目附栄治指向候所勿論格別之疵所無之候得共熱氣強不食いたし候由<sup>ニ</sup>而一札<sup>并</sup>醫師高道齊容体書取翌朝罷帰候且又未内分取扱之義<sup>ニ</sup>者候得共見分差出候事故相手の他參留申付置候

二月廿一日 快晴

一出羽守様御先触到来左之通則御用番へ差出大目附へも相届候

以廻状致啓達候少将殿爲參府来ル廿四日国許被發駕候依之繼馬三拾疋継人足式百三拾人駅々無間違御手合頼入存候尤久世今西宮迄ハ繼馬廿五疋継人足百八拾人入用<sup>ニ</sup>候<sup>津山明石御旅之分ハ、繼馬三拾疋御手合頼入存候</sup>則人馬望之人別板札ニ相記是迄之通銘々相渡置候且又馬之分ハ壹番分三十番迄致番附置候仍<sup>而</sup>人足手配帳<sup>并</sup>印鑑遣之候将又右帳面之外入用之分ハ例年之通紙切手仕出候間左様御承知可有之候右手配帳壹冊印鑑壹枚ツ、御留置御順達可有之候恐惶謹言

雲州人馬方 伊藤権内 渡部次太平 平井幸三郎

高橋為吉 岩崎善藏 片山甚左衛門

伯州溝口駅分撰州西宮迄宿之間屋中

追啓至時人馬とも少々余分之義も可有之候間其節御手合頼入存候尤守口宿分別先触仕出候間此先触<sup>者</sup>西宮駅<sup>ニ</sup>御留置追<sup>而</sup>銘々とも罷越候御返し可有之候已上

一右ニ付在方寄せ馬八疋被仰付候様人馬間屋分願出其段郡代所へ申遣置大目附へも相届候

一出羽守様弥廿七日之御通行ニ候由院庄<sup>江</sup>御関札来候旨郡代所分申来候

一安岡町三原屋重助追込昨日迄<sup>ニ</sup>而七日ニ相成候付今朝差免其段御両所へ相届候

一大目附廻状到来左之通則組中町中へ相触候

慎三郎様御実名<sup>カツタカ</sup>克孝様良四郎様御実名<sup>コレカク</sup>維賢様と奉称候右御同

名ニさへ無之候得<sup>者</sup>一字宛名乗上下ニ相用候義<sup>者</sup>御講無之候

一大工一件今般之取合ニ付大工庄兵衛義久世領古見村分引受候大工藤兵衛人別送り手形指出候ニ相違無之事哉町役分村役懸ケ合申付候所古見村庄屋分印形之書面差越候送り差出候ニ相違無之旨返書差越右送りニ印形引合候所弥相違無之ニ付其段御用番中<sup>江</sup>紙面を以及御沙駄置候

二月廿二日 快晴

一福渡町植月友輔借屋住佐助娘いと義<sup>并</sup>孫駒四郎右二人御領分香々

美藤屋村三吉妻子ニ差遣度人別除願下方引合相濟候段申出承り届

一播州高砂本町伊勢屋喜十郎一人例年之通小間物売来候段新職人町

松の屋十右衛門宿切手出<sup>婦カ、十一月廿六日</sup>

一備中郡早島金田屋伝藏<sup>并</sup>手代栄八右二人例年之通雲斎紋羽足袋

卸売来候段右同人宿切手差出七月十二日届

一今九時分新左衛門藤四郎栄治出番幸治利右衛門庄藏嘉七大年寄孫左衛門諸吟味喜左衛門立合左之もの共遂吟味候

伏見町大工喜治郎

此七人之もの共遂吟味候得共

京町 同 鶴藏

為差手懸り無之ニ付  
其俣差戻候

細工町同 三代藏  
安岡町同 喜兵衛  
西今町同 新兵衛  
同 同 万兵衛  
戸川町同市之助

手錠預人 細工町 藤吉

同 同 新六

牢舎人 材木町 喜兵衛

同 同 義平

同 西今町 伝兵衛

右之外牢舎人橋本町宇兵衛材木町宗兵衛呼出候得共及暮不  
及吟味候

備前へ差遣候謀書ハ大熊鞆負殿家来渡部八十助を相頼認候由  
義平及白状候ニ付其段御用番中へ相届大目附へハ吟味之節御  
差出被下候様申達候

二月廿三日 雨

一御用日登城

一元魚町住備前屋勘兵衛義婦住仕度旨致箱訴候ニ付御用番中御渡ニ  
付親類組合存寄承り糺候様申付置候処親類組合共ニ得不引受旨弁  
書指出候ニ付御用番中へ差出候

一脇坂淡路守殿預り所当国勝南郡連尺村平藏弟金藏一人林田升屋藤  
右衛門引受度人別人願例之通取計濟三月朔日住宅証文差出

一脇坂淡路守殿預り所当国英田郡倉敷村百姓茂兵衛娘里と義伏見町

錦屋藤吉借屋住飯岡屋周兵衛妻ニ引受度人別人願右同断取計濟三  
月二日住宅証文差出

一備前赤坂郡周匝村助右衛門弟豊三郎義東新町玉屋伊右衛門養子ニ  
引受度人別人願右同断取計濟三月四日住宅証文差出

一伏見町角屋清右衛門借屋住武本屋嘉右衛門孫六藏義大久保安芸守  
殿領分久米南条郡桑村幸助養子ニ差遣度人別除願右同断取計濟

一備前和氣郡下原村金右衛門伴五兵衛義鍛冶町富岡屋宇兵衛後家養  
子ニ引受度人別人願右同断取計濟同廿九日住宅証文差出

一船持三拾三人例年之通老人五拾匁之拝借仕度願勘定奉行へ懸合之  
上御用番中へ指出伺濟ニ付大目附へ差出勘定奉行へ御達被下候様  
申達候

一戸島村弥市方へ去ル十六日盜賊這入衣類九品代ニ積五拾四匁九分  
程之もの盜取候触流候大目附分達有之町触取計本書ハ差戻候三月  
八日無之段届出候

一出羽守様御通行ニ付先格之通町触昨日差出候

一下紺屋町南側ニ面 作人熊吉家屋敷表口五間裏行十七間但本役也東  
隣ハ市六借屋西隣者 一条院也右家屋敷代銀四百五拾匁相極町内紙  
屋五百吉へ売渡願承り届同廿五日売券出ル

一勝間田町<sup>社</sup>本屋源五郎妹つい義御領分小桁村字七妻ニ差遣度人別  
除願下方引合相濟候段申出承り届

一大坂山本町大坂屋忠兵衛手代伊兵衛庄八孫兵衛助三郎都合四人例  
年之通小間物卸売ニ来候段坪井町川原屋治助宿切手差出三月八日  
帰



一宿屋頭小山屋与三右衛門退役後代り無之ニ付甲屋幸助へ申付度旨  
大年寄伺出承り届

一式歩中買頭古川屋忠兵衛義私曲有之趣ニ勤方不宜候間役義差免  
右跡役吹屋次左衛門へ申付度旨大年寄伺出承り届

一桶屋町年寄下地兩人之所近年大坂屋彦市一人ニ相勤悴京右衛門  
名代も差免罷在候処彦市義病身ニ相成候付同役被仰付被下候様願  
出ニ付桶屋市之丞へ年寄役申付度旨大年寄伺出承り届

一船頭町和泉屋銀兵衛義綿買宿申付有之候処銀兵衛死去仕当時後家  
主人之義故客一向無之ニ付綿買宿取上ケ右跡役京町大村屋源右衛  
門へ申付度大年寄伺出承り届

一 大工一件吟味付大熊鞆負殿家来渡部八十助義備前へ差遣候謀書相  
認候由大工義平指口ニ付被差出候様御達被下候旨昨日大目附へ申  
達置候所今日太田舍人分被申聞候者鞆負殿へ御差出候共又ハ当役  
へ御引渡被成候共御勝手次第被成候様御達有之候間鞆負殿懸ケ  
合宜取計候様ニ被申聞依之昼後分新左衛門藤四郎栄治出番文蔵幸  
治立合ニ呼出候処西川善平召連来自分義善平へ一卜通り及挨拶  
小座敷ニ話合置八十助義ハ玄関敷台ニ出番帯刀受取也縁側薄縁  
敷之上へ出番召連遂吟味候但差添之中小性ハ玄関ニ扣居候

大熊鞆負殿家来

大工義平分被相頼謀書相認候段及白状 渡部八十助

右之通及白状候ニ付為相待置大目附へ相越右之通及白状候ニ付受  
取揚り屋可申付哉と及相談候処一存ニ難及返答候間拙者分御  
用番中へ相伺候様被申聞候付左候ハ、何れ隙取可申候間先今日ハ

差戻置御用番へ可相伺旨及挨拶罷歸り先ツ鞆負殿へ差戻置御用番  
中へ罷越相伺候処明朝御差図可被成旨被仰聞候

二月廿四日 雨

一深信院様明廿五日四時御供揃ニ蘭田町通り泰安寺夫分妙法寺へ  
御仏參被成候旨種村登門分通用有之大年寄小頭へ例之通申達ス  
一牢舍人穢多藤五郎休葉双方分届出候

一 大工共去ル十九日同様ニ被仰付被下候様棟梁へ申出候もの共之名  
面書差出候様申付候所認差出候

一 御用番中分昨夜被仰聞候鞆負殿家来渡部八十助義鞆負殿分被相渡  
候ハ、御勝手次第御受取候ニ可然何之存寄も無之由御紙面ニ申  
来其段鞆負殿家来西川善平呼寄及対談候処可被相渡旨申来新左衛  
門藤四郎利右衛門出番嘉七和四郎立合於玄関前受取也大小懷中物  
出番分受取也袴為脱手錠懸ケ受取候段小頭分申聞候間善平呼出し  
受取候段及直答善平指添中小性引候上於白砂又々遂吟味候上ニ  
而左之通申渡

大熊鞆負殿家来

吟味中揚り屋申付候

渡部八十助

右受取揚屋申付候段御所へ相届并大目附へ右ニ付先格之通揚屋  
番中間式人被仰付候様申達ス

且又賄料当分取かへ相渡候

二月廿五日 時雨

一 久世致出訴候塗師虎吉罷歸り相手金沢屋善左衛門度々被呼出被  
相糺候処右脇差善左衛門手無之至困窮ものニ急筋立兼候由

稠敷申付近日為指戻可申候間先引取候様ニ被申聞添簡返書被相渡候由ニ而右返簡差出尤相手善左衛門至而困窮ものニ而急ニ片着兼候間何分自是可得御意旨申来右返書御用番中へ差出候

一 深信院様御仏參無御滞相濟候段御先弘ニ利右衛門幸治届出候

一 御領分西北条郡山北村権七娘房義二階町宮田喜左衛門家守長八借屋住中谷屋文七嫁ニ引受度人別人願下方引合相濟候段申出承り届一 大工共今般之出入世評之趣下目附分差出候書面御用番中分御渡被成候

二月廿六日 時雨

一 今般大工共取合一件事起り候戸川町大工庄兵衛義古見村分引受候大工藤兵衛義備前へ参候由ニ付急呼戻候様去ル廿日申付候段昨夜及深更罷帰候段届出候付左之通申付候

他参留申付候 戸川町大工庄兵衛引受候 大工藤兵衛

一 備前へ大坂油方細井戸屋惣左衛門 并外二三人も旧年罷越油取扱之義彼是六ヶ敷申懸候所備前役人取扱之趣岡山之者美濃出屋清右衛門方へ来相咄候趣認差出候付御用番中へ差出候

一 郡代所分明廿七日九ツ半時分材木町河内屋武兵衛差出候様申来候ニ付羽守様御通行相濟可差出候旨及返答置其段大年寄へ申付候尤田地出入場ニ付吟味也

一 大坂長沢清左衛門分返書到来直屋市郎左衛門日延願去ル十六日御番所へ御届相濟候段申来御用番中へ差出候

一 出羽守様明廿七日御通行ニ付例之通出役可仕旨御用番中へ申上 并御徒目附下目附立宿付大目附へ差出候

二月廿七日 朝曇昼後晴

一出羽守様御通行ニ付久世へ差遣置候遠見人足昨夜丑ノ中刻罷帰り溝口御泊之処高水ニ付昨廿六日新庄御泊今廿七日津山御止宿ニ相成候趣承り帰其段御両所へ相届左之通夫々手配申付候

一 御本陣玉置源五兵衛義兼 而御歎申上置候事故急ニ代人ニ而も御途中迄差出難渋之段申述候様ニ申含候所代人樞野屋茂一郎差出於坪井御宿割ニ致対面種々御断申述候上ニ而御受仕候

一 御本陣拜借御道具差懸り候事故直ニ受取ニ罷出候様申付置候間大納戸御作事御厩へ其段御達置被下候様大目附へ申達候

一 仮厩 并箱番所先格之通被仰付候様大目附へ申達尤仮厩町会所ニ七疋建出来候

一 御先乗物頭当年ハ御省略中ニ付不被差出候段御断申参候由ニ付不及立宿候段大目附分申来候

一 当年ハ御省略ニ付御馬御貸不被下候ニ付出火之節御先乗難仕依之大目附へ対談之上出火御立除之節も御出懸り之通御徒目附下目附同心組御先弘ニ而御案内仕候様夫々江達置候勿論御本陣ハ御案内可仕事依之拙者義も諸事及差図手違ニ相成候節 者出火場へ罷出候 而可然旨大目附被申聞候

一 人馬問屋出役御役人之義大目附分尋有之候ニ付昨年 者御考違ニ而本内順左衛門被仰付候得共御止宿之節ハ人馬兼 而割渡置候間問屋場ニ而取計無之ニ付向方分も問屋目附不相詰

依之御役人被差出候<sup>ニ</sup>者不及義<sup>ニ</sup>候得共大脇新左衛門義私立宿へ相詰候事故折々差出候為心付可申旨申達置候○其後承り候得<sup>者</sup>御通行之節八問屋場<sup>ニ</sup>而繼立候故向方問屋目附相詰候故此方様も御役人ハ被差出可然事

一 銀札場出張役所先格之通被仰付候様大目附へ相達候但川口藤左衛門壹軒へ被仰付候

一 大脇新左衛門御貸人草履取一人被仰付候様大目附へ相達候  
一同心組加人明廿八日兩人被仰付候様申達候所赤田平次真北又作来

一 諸事昨年之通可取計旨大目附も申来勿論其旨下方へハ兼而申付置候

一 問屋目附宮田喜左衛門引込<sup>ニ</sup>付久山勘八仮役申付問屋へ差出候様及差図候

一 火用手当在人足五拾人先格之通被差出候様郡代所へ及通用候

一 出羽守様御家来垂水伊織脇坂十郎兵衛今御家老中へ今夕御止宿之義御頼申来候旨大目附今達有之候

一 同心組番割○御先払<sup>幸次</sup> ○供番<sup>勇藏</sup> ○当番<sup>源和四郎</sup>  
○夜廻り<sup>文藏</sup> 同廿八日 ○御先払<sup>源七</sup> ○馬駅<sup>利右衛門</sup>

○供番<sup>昨日之通</sup> ○当番<sup>源平治</sup> ○昼廻り<sup>和四郎</sup>  
一 自分供立<sup>箱焼灯</sup> □草履取<sup>箱</sup> 合羽籠 馬無之尤若堂

一 一人ハ使番<sup>ニ</sup>召連候事其余草履取迄も御年限中<sup>ニ</sup>付不殘御貸人也

一 御先払同心組立宿安岡町井手屋太郎兵衛同出張宿京町角屋利兵衛

一 御徒目附下目附立宿安岡町大黒屋利兵衛同出張宿京町松岡屋茂右衛門

一 町奉行立宿西今町坪屋藤十郎立寄宿齋藤孫右衛門出張宿京町二文字屋嘉左衛門

但立宿出張宿共<sup>ニ</sup>先格之通幕打高張<sup>たて</sup>焼灯<sup>び</sup>二ツ出之一箱番所組立宿京町阿知川屋万兵衛境町中野屋伊助

一 御本陣詰用達極野屋茂一郎野々口屋七郎右衛門  
一 浜野屋源五郎美濃手屋清右衛門大村屋源右衛門

一 在宿医師 北山修齋 高道哉  
一 大馬問屋人足貸錢左之通相定候由届出候

一 乗物壹挺<sup>ニ</sup>付拾匁宛  
一 駕籠壹挺<sup>ニ</sup>付五匁八分宛

一 持夫人足<sup>并</sup>惣人足共壹人<sup>ニ</sup>付壹匁七分宛  
△自分義八半時出宅立宿坪屋藤十郎方へ罷越相扣居候所四時過

御到着被成先格之通妙法寺前へ罷出御目見仕御駕籠脇今例之通披露有之畢<sup>而</sup>御徒体之者式百疋之御目録計持參相渡御品<sup>者</sup>

御本陣可相廻旨申述候夫今引統罷立孫右衛門方へ立寄御本陣詰を以御礼可罷出申込案内有之罷出候所御茶道青山祐茶出

迎御玄関<sup>江</sup>罷通り居候所御側役之由有馬郡内罷出候<sup>ニ</sup>付先格之通及挨拶頂戴もの、御礼申上引取夜中二文字屋嘉左衛門方

<sup>御御着被成候段</sup>孫右衛門宅今御両所へ相届候

〔帳簿訂正〕  
一 半舎扶持三俵之内貸証文差出奥書印形取計之

一 揚り屋賄料四拾匁之内貸証文奥書印形取計之

一 材木町河内屋武兵衛田地出入相糺候付明後廿九日差出候様郡代所

分申来大年寄へ申達ス

二月廿八日 晴

一 出羽守様正六時御立被成林田町横丁ニ御見送り申上候所御駕籠

脇ニ来相尋候付名札相渡候所昨夜披露相濟候間申上計と申義ニ

相濟候夫分引懸ケ御用番中へ相届大目附江者若堂差遣引取相届候

一 御用日登城申上候御用向無之

一 吉原村勘兵衛方へ去ル十六日盜這入衣類六品式拾匁匁八分位之も

の被盜取候触流候大目附分達有之町触取計本書ハ差戻候三月八日

町方ニ無之段届出候

一 川崎村和兵衛方ニ去ル廿日拾羽織代拾匁位之品被盜取候触流右

同断三月十一日町方無之段届出候

一 河原町分小性町境上之大溝土橋損届書出大目附へ差出三月十七日

出来届出候

一 出羽守様御止宿ニ付御本陣前通行仕間敷大目附触昨日到来組中へ

相触候昨日認落候ニ付爰ニ記ス

一 熱田市正悴大内藏金毘羅參詣願大年寄聞届差出但河原町住也三月

十三日帰

一 吹屋町持福院右同断願三月十四日帰

一 下紺屋町一乘院右同断願三月十三日帰

一 上紺屋町円乘院右同断願三月十二日帰

一 吹屋町熱田数馬右同断願三月十三日帰

一 出羽守様御止宿ニ付本馬三拾疋人足三百六拾五人入候由人馬問屋  
届出候

一 出羽守様分御先并馬駄出役同心組へ先格之員数一日分被下置今

日之御先并相勤候ものへ被下無之人馬問屋へ罷出候ものハ代り合

候付両方ニ頂戴仕候付今日之御先并へ相議可然旨藤四郎伺出候

通取計候様申達ス

一 境町小林主水金毘羅參詣願右同様差出候三月十三日帰

二月廿九日 雨

一 林田上之町ニ此間独身之女鶴と申もの近隣家之独身男小刀ニ

数ケ所手疵為負其身直ニ自害いたし相果候右鶴兄弟東新町清七

と申もの、妻と相成居候由右鶴悴佐吉と申もの榎野屋茂一郎方

ニ致奉公居候由右二人鶴疵所見分書ニ連印為致候付弥右之通ニ相

違無之哉之旨郡代所尋来大年寄へ申付候所兩人共相違無之旨書

付差出尤東新町清七妻ハ先達ニ致出奔當時下方ニ尋居候由申出

郡代所へ相廻候然ル所右兩人右場所へ今七時差出候様申来大年寄

へ申付

一 出羽守様分被下左之通ニ付書付大目附へ差出候

一 町奉行へ 式百疋

一 御本陣へ 銀三枚献上物ニ付百疋今般敷ニ付銀式枚

一 御先并小頭へ三百文平組式人 式百文ツ、

一 一人馬問屋出役同心組式人 銀式両ツ、

一 出羽守様御小人部屋頭筆頭清助と申もの病氣ニ元魚町大庭屋善

兵衛方ニ相残り七里飛脚伊藤八右衛門相頼候ニ付善兵衛方ニ逗留

為仕度願書差出候ニ付如何体之病氣ニ候哉看病人等も無之ものニ

候ハ、御本陣申付并醫師等も申付大切ニ取扱候様申達候所当分

之疝積ニ而今日ハ余程快明朝者出立之積ニ而候由右等申付候趣当

人も承り殊之外難有かり候由申出候為老義ニも無之候得共御同勢

之義ニ付御用番中へ申上置候三月朔日致出立候段申上候

一出羽守様御止宿之節御本陣〇働之趣昨日於御席及御沙駄候処御賞

被成候間可然哉之御沙駄有之候処猶又大年寄共之昨年之通問屋入

用之内を以御酒代差遣度旨相伺出候付御本陣詰五人之もの御賞被

下候様伺書御用番中へ差出候三月八日被仰出候

一番賃銀例月之通新左衛門分仕出候当番相渡候

一新魚町米屋市右衛門娘冬義林田村忠吉妻ニ差遣度人別除願下方引

合相濟候段申出承届ル

一二階町出雲屋与治右衛門役介長十郎夫婦悴庄藏右家内三人二ノ宮

村清吉後家借屋へ引越度人別除願右同断ニ付承り届

一林田村藤治郎娘瀧義中之町森岡屋力藏妻ニ引受度人別入願右同断

承届

一桶屋町大工伝吉義久世村興善寺本堂再建立普請ニ被相頼候ニ付当

三月分当年中毎月十五日ツ、罷越細工仕度願承り届丑十二月廿八

日帰届

三月 戌 辰 大

月 番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 海老原極人殿

大目附 佐々木主馬

小頭 堀内利右衛門

大年寄 玉置源五兵衛

諸吟味 宮田喜左衛門

三月朔 庚 寅 旦 快晴

一札元玉置卯左衛門義伯州日野郡生山段塚六郎左衛門方へ廿五日計

之逗留ニ而明二日出立願御用番中へ持参差出候所無程御聞濟申来

其段大年寄へ相達候同十九日帰

一材木町河内屋武兵衛義昨日郡代所へ差出候所田地出入糺有之双方

へ内濟申付候由今朝通用有之

一林田上之町独身鶴女変義ニ付昨日樫野屋茂一郎下人佐吉并東新町

初屋清七場所へ差出候所疵見分一札連印相濟候由郡代所分相廻り

及披見差戻候

三月二日 快晴

一東在粟井村ニ明三日富興行いたし候由ニ而先格之通可取計旨郡代

所分御用番中へ伺濟之旨通用有之候ニ付参間敷旨町触差出為日付

目明差遣候様小頭へ申達大目附へも相届候

一 三船藤四郎義養方之伯父致死去候ニ付忌服三日計引込候段届出候

ニ付仲ケ間内分助合相勤候様申達ス

一 安岡町大工喜兵衛と芋町大工治助と治助宅ニ致喧嘩治助義打擲

ニ逢候由届書指出候ニ付部屋目附藤四郎差向疵所遂見分見分一札

并 医師容体書差出喜兵衛方江著 出番庄藏差向手錠組合預ケ申付其

段御用番中へ相届大目附へも相届候

手錠懸ケ組合預ケ申付ル 安岡町大工喜兵衛

一 勝間田町辻本屋源五郎妹きり義御領分山西村伊右衛門嫁ニ差遣度

人別除願下方引合相濟候段申出承り届

一 西新町養楽院義金毘羅參詣願大年寄承り届指出三月十三日帰

一 境町三津屋平右衛門所持之他国受酒株去亥二月晦日元魚町吉野屋

清藏借り受候処猶又来丑二月迄借り受度追願承り届

一 二階町益原屋民之助母かん義西国順礼罷出度百日計之逗留ニ而

ル五日出立願承届四月十七日帰ル

一 桶屋町竹田屋権吉義四国遍路罷出度百五十日計之逗留ニ而

来ル七日出立願承届

一 上紺屋町海田屋左治兵衛義右同断願百日之逗留承り届五月廿二日

婦

一 上紺屋町巴乘院借屋住人善兵衛夫婦右同断願承り届右同断

一 坪井町静虎屋利兵衛父七郎兵衛義右同断願承り届右同断

三月三日 快晴

一 上巳ニ付御用日無之且又御年限中ニ付御祝義申上無之大年寄共も

伺出候ニ付上江御祝義申上無之義ニ付当日罷出候義ハ銘々勝手次

第之義と申達置候所何<sup>成</sup>当日罷出候尤組中も右同断罷出候勿論屋

敷番終日麻上下着用之事<sup>并</sup>自分義も一巳之礼ニも罷出候

一 安岡町大工庄助義父病氣申来候付為見廻雲州松江茶屋町へ罷越度

十日計之逗留ニ而明四日出立願大年寄承り届差出同十七日帰

一 江原文藏義疥癬再発ニ付引込届出候ニ付明四日今加人被仰付候様

大目附へ相達候所福田政助来

一 大橋十太夫殿家来長谷川利右衛門義下紺屋町作人熊吉方ニ同居候

処今般御主人長屋へ被引取候段双方分届有之

三月四日 快晴

一 今九時今新左衛門利右衛門栄治嘉七和四郎源五兵衛立合先月十九

日大工共棟梁方へ致馳訴候者共左之通呼出相糺候

安岡町幾右衛門 茅町政兵衛 西今町嘉左衛門 新兵衛

細工町伊之助 三代藏事治助

三町目茂吉 新魚町太助 伝之助 境町半兵衛

京町十藏 安之丞 伏見町喜治郎 周藏 材木町八郎右衛

門 忠五郎 治兵衛 岩吉 清治 源兵衛 又四郎 橋本

町 与十郎 市右衛門 林田町藤右衛門 中之町佐太郎

戸川町弁藏<sup>(無形)</sup> 右之者共棟梁へ御歎申出候由申之

左之もの共ハ棟梁へ願ニハ罷出由申之

細工町伊之助弟乙吉 戸川町伊右衛門 新魚町太助悻德治郎

下紺屋町左助 喜三郎 元魚町吉兵衛

今日罷出候得共不相糺もの左之通

藤十郎 源藏 久六 善七 久吉 利八 和吉 鶴藏  
広右衛門 弥助

一坪井町小塩屋茂右衛門分同町川原屋治助へ相懸り家賃滞出入旧臘十二日致出訴候ニ付卅日限り濟方申付置候所内濟相整候ニ付願下ケ願書差出承り届願書差戻候

一新魚町金屋利兵衛梓繁之丞義先月廿日林田町栖原屋方へ参り致狼藉候一件内濟仕候間願下ケ願書新魚町分差出承り届候

一三丁目福永屋林右衛門所持之自国受酒株去亥二月廿六日東新町出雲屋幸吉借受候所猶又当子三月分来丑二月迄借受度追願承り届丑三月取戻候

一吹屋町南側ニ而吹屋利兵衛家屋敷表口三間式尺裏行拾壹間半但裏也横式間五尺尤尅軒役也西隣ハ釜屋市郎右衛門所持之家也東隣ハ鍋屋吉左衛門也右家屋敷代銀札式百五拾匁ニ相極釜屋市郎右衛門へ売渡願承り届同廿日売券状出

一吹屋町北側ニ而釜屋藤助所持之家屋敷表口六間三尺裏行拾七間但半役也西隣ハ吹屋善太夫持家東隣ハ作人忠助也右家屋敷代銀四百目ニ相極町内吹屋利兵衛へ売渡願承り届同廿日売券状差出

三月五日 曇

一公儀御触大目附廻状到来左之通町中組中へ相触候

年号改元去月十九日左之通被仰出候

文化

一林田町福吉屋音右衛門家賃滞濟方日限旧臘十二日申付候得共不相濟依之売買引渡候先月廿七日限申付候得共是又不相濟候段大年寄

申出候付呼出候手錠申付急ニ売渡ニ取計様可申付旨伺書御用番中へ差出候同八日伺之通被仰出候

一出羽守様御止宿ニ付左之通入用書付差出及一見差戻候

一御本陣自分入用 五拾三匁五分壹厘

一御本陣入用問屋払分 貳百七拾壹匁七分三厘

一東在粟井村富興行ニ付差遣候目明弥吉昨四日罷歸り無別条引取候段届出候

一牢舍人弥吉機多音右衛門藤五郎吉五郎音之助長藏番人音八右七人郡代所分呼出候申来出番幸治出入取計之尤右之もの共明朝立ニ而生野御代官所へ被差出之由ニ候

一京町北山修齊梓榮吾義医道為修行京都山脇道作殿方へ差遣度当子三月分来辰年迄五ヶ年之間差遣置度尤明六日出立願差出承り届寅五月十八日帰届

一安藤丹後殿家從江田幸左衛門梓李斎義伏見町江田奥庵後家養子ニ仕度人別人願差出候承り届

一中之町平岡屋忠右衛門義大坂梶木町玉子屋九兵衛方へ三十日計之逗留ニ而明後七日出立願大年寄承り届差出四月七日帰

一新魚町金川屋助一郎義京都麩屋町四条上ル近江屋七三郎方へ廿日計之逗留ニ而明六日出立願大年寄承り届差出四月七日帰

一二丁目唐津屋文助義大坂過書町北浜玉子屋九郎兵衛方へ三十日計之逗留ニ而明後七日出立願大年寄承り届差出同廿九日帰

三月六日 晴

今九時揃ニ而新左衛門利右衛門榮治庄藏幸治和四郎源五兵衛喜左

衛門立合左之もの共呼出遂吟味候

一 林田町藤左衛門悻藤十郎 勝間田町源藏 伏見町久吉

京町利八 同町和吉 小性町弥助 右六人ハ先月十九日

棟梁へ不願出候段申候ニ付即却差戻候

一下紺屋町久六 京町鶴藏 同町広右衛門 林田町善七

西新町武兵衛

右五人ハ棟梁方へ御歎ニ罷出候旨強ニ申立之候

此四人大体及白状

牢舎人 大工義平

惣兵衛

喜兵衛

渡部八十助

一 信州木曾筑摩郡敷原宿古屋善吉一人例年之通木櫛卸売来候段林田町福吉屋安右衛門宿切手差出九月廿四日帰ル

一 西今町永野屋安兵衛義大坂大川町玉子屋九郎兵衛方へ三十五日計之逗留ニ 明七日出立願大年寄承り届差出同晦日帰

一 御領分東南条郡勝部村勘治娘鶴藏安岡町打穴屋友八妻ニ引受度人別人願下方引合相済候段申出承り届

一 林田町作人伝右衛門借屋住塚屋藤助悻宇兵衛義御領分新田村伊兵衛養子ニ差遣度人別除願右同断ニ付承り届

一 伏見町江田立斎義為医術修行京都下立売小川通荒川周左衛門方へ今子歳分来丑歳迄二ヶ年之間逗留仕度尤来ル十一日出立願承り届

一 境町稲実屋義七郎義大坂堂島北町潮屋源兵衛方へ廿五日計之逗留ニ 明後八日出立仕度願承り届四月四日帰

一 中之町広戸屋勘助悻安次郎義今般金田四郎出府ニ付供仕往来百日計之逗留ニ 罷越申度願承り届七月四日帰

一 式丁目小倉屋茂兵衛義妻娘召連和州吉野子守宮へ參詣仕度往来五十日計之逗留ニ 来ル十一日出立仕度尤留主中御用向之義ハ中買

目附古川屋太兵衛へ頼置候段願書大年寄差出承り届四月廿八日帰一元魚町年寄灰屋佐右衛門義撰州能勢妙見宮へ參詣十五日計之逗留ニ 明七日出立願大年寄差出承り届同十九日帰ル

一 安岡町久米屋鶴藏義金毘羅參詣廿日計之逗留ニ 明七日出立願大年寄差出承り届同十四日帰

一 伏見町年寄田邑屋宇左衛門義右同断願七日計逗留ニ 明七日出立願承り届同十三日帰

一 中買頭河内屋金右衛門相果候付中買役同人悻恒吉へ為相勤度願大年寄差出承り届

一 出羽守様御止宿ニ付問屋入用左之通認出候 九百六匁八分六厘 但惣入用合ニ 壹貫貳百三拾貳匁七厘也

一 牢舎人弥吉音右衛門藤五郎吉五郎音之助長藏音八右七人今九時出立ニ 郡代所分但馬生野役所江 差出候ニ 付出牢申来出番庄藏取計

郡代所へ相渡候 三月七日 快晴

一 今九時揃新左衛門利右衛門藤四郎庄藏幸治和四郎栄治源五兵衛喜左衛門立合左之もの共遂吟味候

一 此二人強ニ陳候ニ付吟味中 下紺屋町 大工 藤助

牢番預ケ申付候 中之町 大工 新兵衛



一 及白状候

細工町 大工 藤吉

同町 〃 新六

安岡町 〃 喜兵衛

右兩人吟味中牢番預ケ申付候段御所へ相届候

一同心組二月中臨時昼扶持卷斗八升五合受取証文奥印書取計之

一同心組藤四郎和四郎幸治旧臘出府江戸逗留御扶持米式斗七升代

金壹歩四分式厘八毛受取証文差出奥書印形取計之

三月八日 曇晴

一 御用日登城

一 福渡町浜屋源右衛門家守忠吉借屋住作人文治義雲州出雲郡中原村

忠助方へ為引越度人別除願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞

届申達候

一 三浦志摩守殿領分当国真島郡勝山多蔵妹歌義二丁目夷屋はつ借屋

住榎屋万吾妻ニ引受度人別入願右同断取計濟同十一日住宅証文差

出

一 御代官重田又兵衛殿支配所当国大庭郡久世村大和屋長右衛門娘う

み義二階町紙屋兵助妻ニ引受度人別入願右同断取計濟五月九日住

宅証文差出

一 元京町住備前屋勘兵衛婦住歎御箱訴御用番中分御渡被成候付親類

組合存寄承り糺候処得不引受旨弁書差出候ニ付御取上ケ無之被捨

置可然旨致添書御用番中へ差出候

一 出羽守様御止宿之砌御座間床ニ唐金東波香芦飾置候所致紛失候旨

内々相咄候付又候内々ニ御所へ及御沙駄置候

一 伏見町能勢屋源助義裏ニ建物いたし度御堀江足代下シ願大目附へ相達之

一 林田町福吉屋音右衛門家賃滞ニ付手錠之上急義筋立候様可申付旨

去ル五日伺置候処伺之通被仰出候

、<sup>(朱点)</sup>一 松岡治郎分家来河村久四郎義桶屋町ニ居住為致候段届有之候昨日

之所ニ認落候ニ付爰ニ記置候

一出羽守様御止宿之節御本陣詰之もの共骨折候ニ付御賞被下候様先

月廿九日伺書差出置候処今日御用番中分御下ケ被成申立候趣至極

尤ニ思召候得共御年限中之義外ニ当り障ニも相成候間上分御賞被

下候様ニも難被成ニ付矢張昨年之通ニ御酒代等大年寄場合分差遣

尤員数ハ存寄次第之義多少之所思召無之仍ニ御賞ハ当役限ニ申渡

候様被仰出候ニ付蔵合孫左衛門呼出右之通申達候処左候ハ、工面

もの、内分銀札三拾匁差遣度伺出承り置候

一大目附分御家中所々鎌鋸鋸金鎚等之類去ル四日之夕以来紛失之取

沙駄相聞候旨心付候様達有之小頭呼出し目明へ申付候様相達之

一 紀州高野山万生院使僧本清と申僧上下式人例年之通且那廻り来候

段坪井町川原屋治助宿切手差出五月六日帰

一新魚町櫻野屋茂一郎義先年已来船方吟味役相勤殊之外壯敷勤向ニ

付茂一郎故障之節ハ忝助右衛門へ名代為相勤度旨先達<sup>(虫)</sup>承り届

出候付今日御用番中へ相伺候処思召無之宜取計候様被仰出候付其

一段孫左衛門呼出候御聞濟之段申達候

一二階町藤野屋嘉四郎家守嘉兵衛借屋住塗師屋安兵衛夫婦二人先月

十四日夕致出奔相尋候<sup>而</sup>も行衛不相知段届出候<sup>ニ</sup>付百日尋申付候  
一三丁目浜野屋源五郎義備前岡山久山町松原屋源兵衛方へ罷越度廿  
日計之逗留<sup>ニ</sup>而来ル十一日出立願大年寄差出承り届同廿五日帰  
一林田町常盤屋丈右衛門義雲州湯宇郡熊野村長沢清左衛門方へ十五  
日計之逗留<sup>ニ</sup>而明九日出立願大年寄差出承り届同廿四日帰

三月九日 雨

一人別改当年御届有之候<sup>ニ</sup>付取調差出候様江戸表分申来候段大目附  
分紙面<sup>ニ</sup>而申来

一宮村長吉去十月四日西今町永延屋方<sup>ニ</sup>而致喧嘩両役対談之上  
及差図置候処右一件<sup>ニ</sup>付致箱訴郡代存寄書差添昨日大目附分被相  
渡候<sup>ニ</sup>付可取上筋之もの<sup>ニ</sup>者無之裁許破之御答<sup>ニ</sup>可取計筋之もの  
と紙面<sup>ニ</sup>而及返書候

一材木町河内屋武兵衛義今日郡代所へ差出候様申来候<sup>ニ</sup>付其段申付  
候所田地出入一件内済申付置候所致内済候段申出候付承り届候段  
申達候旨郡代所分通用有之候

一戸川町作人伝三郎夫婦娘召連家内三人西国順礼罷出度百五十日計  
之逗留<sup>ニ</sup>而明十日出立願大年寄差出承り届八月廿四日帰り届ル

一坪井町南側<sup>ニ</sup>而川原屋治助家屋敷寛政九巳年<sup>三月廿八日</sup>同町小塩屋茂右衛  
門へ壹貫目之質物<sup>ニ</sup>書入候処此度受返し相济候段届書差出

三月十日 晴

一昨夜栄治幸治夜廻り差出候処戸川町播磨屋清七方<sup>ニ</sup>而左之もの共  
宝引銭勝負仕居候<sup>ニ</sup>付見咎組合預ケ申付置候段今曉罷帰り相届候  
付其段御両所へ相届候

宿 戸川町播磨屋清七母  
同町 赤穂屋庄八妻  
此もの共宝引銭勝負いたし候

付組合預ケ申付置候

三町目大坂屋幸兵衛粹新藏

同町 板屋源藏母

一 大目附佐々木主馬分二ノ宮長吉一件<sup>ニ</sup>付致面談度旨申来罷越委細  
及対談候右席<sup>ニ</sup>左之通達有之候

一 近來御家中所々へ小盗人這入候趣相聞候右ハ嘸油断も有之  
間敷義<sup>ニ</sup>候得共御家中長屋もの等別<sup>ニ</sup>而心<sup>ニ</sup>付候様可相達旨  
御用番中被仰出候旨被申聞候<sup>ニ</sup>付右席<sup>ニ</sup>左之通申達置候

一 御家中長屋もの義兼<sup>ニ</sup>油断ハ不仕候得共証跡無之候<sup>ニ</sup>而ハ難  
召捕如何成もの<sup>ニ</sup>候尤近來之小盗人全御察之通之義<sup>ニ</sup>候得

ハ御家中へ長屋もの、締之義御達有之急度吟味之上なして  
ハ不差置候様<sup>ニ</sup>御定<sup>ニ</sup>者相成間敷哉此段兼々心附居候得共

御家中之指支<sup>ニ</sup>も相成候事故是迄不申上候得共右等之御達  
も有之候間当席申上候間御考之上被仰上可被下候

一 齋藤孫右衛門役介久米治義勝山金田庄右衛門方へ十五日計之逗留  
<sup>ニ</sup>而明十一日差遣候段同役源五兵衛分届出承り置同廿九日帰

一 戸川町作人物七家守新兵衛借屋住伊助彼家去八月六日四国遍路罷  
出候所今以不罷帰候<sup>ニ</sup>付今五十日延願承り届五月廿四日百日尋申  
付

一 昼廻り藤四郎嘉七差出候所於林田左之もの共花麗之出立<sup>ニ</sup>付見咎  
候処御法度之もの<sup>ニ</sup>者無之旨申訳立候付其俣<sup>ニ</sup>捨置候段届出候

一花麗之粧ニ付同心組見咎候処御

法度之品ハ無之旨申訳ハ相立候 元魚町木屋庄七妻并娘

得共御時節柄不相応之義不埒至 同町 玉屋後家娘

極ニ候以来急度可相慎候 新魚町角屋左衛門唐屋住軒けんひめ

德守宮門番地子居也 宮脇町煙草屋源吉娘

右ニ付右之もの共大年寄宅へ呼出候叱置可申哉と伺書御用番中へ持参差出候処無程伺之通取計候様被仰出候ニ付右之通申渡候様大年寄へ申達候処右之内宮脇町宮脇町煙草や源吉義ハ德守宮門番地子居之由申出候ニ付右之趣寺社取次三浦十郎左衛門へ及通用置其段御両所へ相届候

三月十一日 晴

一 九時揃新左衛門利右衛門藤四郎栄治庄藏幸治源五兵衛喜左衛門立合左之もの共遂吟味候

一口書印形取之手錠懸ケ預ケ申付ル 戸川町宝引錢勝負之者

但之内三町目板屋源藏母極老殊ニ 五人名面昨日之処ニ記

病氣ニ付手錠不申付候 有之

一家賃差滞濟方申付候得共不相濟候 林田町福吉屋安右衛門

ニ付売買引渡日限を以申付候得共不相濟重々不埒ニ付手錠懸ケ組合預ケ申付候急度可筋立候

一 強而陳候ニ付牢番預ケ申付候

細工町大工藤吉

同町 同 新六

一 及白状候ニ付牢番預ケ差免 牢舍人中之町同新兵衛

手錠懸ケ組合預ケ申付候

一 余程及白状候 牢舍人西今町同伝兵衛

一 悴德二郎大工職いたし当時致他参居 八百屋町妻平

候ニ付相尋候

右之外牢舍人唐衛徳兵衛○宇兵衛義平も呼出候得共及暮候ニ付不及吟味候

勿論右取計之趣御両所へ相届候

一 大目附御家中江盗物之品左之通書付来候

一 茶鍋一 柴山治郎右衛門 一 古鍬一 今泉三右衛門 一 鋸一 手斧

一 釘拔一 鑿一 中川登一郎 一 木綿鼠色羽織表地一 同黒肌着一

大久保与治兵衛

一 播州姫路本庄大右衛門妻義二町目福永屋藤助娘ニ付悴槌之助并下女老人召連来候旨三十日計逗留為仕度願承り届四月十日追願

三月十二日 晴

一 今九時分新左衛門利右衛門藤四郎庄藏幸治政助源五兵衛喜左衛門立合左之もの共遂吟味候

手錠懸ケ組合預ケ申付候

但三月十六日手錠預ケ 細工町大工三代藏事治助

材木町同 源兵衛

差免候 牢舍人 大工新六

同 同 宇兵衛

同 同 喜兵衛

同 同 惣兵衛

右二人手錠預ケ申付候段御両所へ相届候且又牢舍藤吉も呼出候得

共及暮不相糺差戻候

一 成安村六右衛門五郎八千藏同村流民源之助青山村清藏右五人郡代

所分牢番預ケ申来今日之出番三人江取計申付候

一御領分柴保井村九郎右衛門娘六義鍛冶町鍛冶佐助妻ニ引受度人別入願下方引合相濟候段申出承り届

三月十三日 晴

一御用日登城

一戸川町播磨屋清七方ニ博奕一件之もの共御裁許何書差出候処思召有之即刻再考被仰付候

一福渡町福渡屋茂兵衛借屋住人弁藏并悴兵吉右家内式人御代官篠山十兵衛支配所播州佐用郡鶴谷村又右衛門方へ為引越度人別除願例之通取計濟

一新職人町瀧本屋庄藏借屋住吉田屋伝藏悴善兵衛義脇坂淡路守殿預り所当国勝南郡湯郷村甚右衛門養子ニ差遣度人別除願右同断取計濟

一同心組川端幸治義一昨十一日手錠人中之町大工新兵衛を宿へ連参候節京町ニ本多左門殿ニ行逢候所家来分帰りニ立寄候様被仰聞候付立寄候所家従川崎平左衛門を以被申聞候者近來町家之もの甚不礼之ものも多趣ニ候所今日其方義京町ニ下座不致候者如何候訳哉と御尋被成候段申聞候付左之通幸治分相答候由

聡と頭分申付候義ハ不奉存候得共小頭并古役之もの分兼而申聞候役伝者囚人召連罷通り候節御大名様方ニ行逢候而も下座不仕溝端へ寄り先様を不見体ニ頭を下ケ敬而罷通り候様ニ兼々承り伝居候ニ付今日も右之通ニ仕候段相答候所  
左門殿へ申上候趣ニ又々平左衛門罷出申聞候者左様之義ニ候ハ

、夫通ニ宜此段御尋被成候ニ付御呼寄被問可被引取御大儀候由申聞候付又々幸治分申候者ケ様ニ蒙御尋候上者小頭を以御断申上可然哉と平左衛門へ相尋候所左様之筋ニ無之是切ニ相濟候事ニ候由申聞候由幸治義罷婦り相届候ニ付至極宜答振其通ニ宜旨及差図置候得共拙者義も右等之義是迄心付不申取調不置義ニ付右之通ニ宜義とハ存候得共為念右之次第委細ニ大目附佐々木主馬へ申達以来共同心組相覚仕来之趣ニ可宜哉とハ存候得共左門殿者先年御当役も御勤之事ニ候得者御席ニハ御存寄も可有之義哉相伺置度旨申達候処何分相伺可及御返答旨挨拶之処無程同人分左之通被申聞之

先刻被仰聞候同心組囚人召連通り候節之致来心得之義御用番中へ相伺候処是迄同心組致来之心得之通ニ宜候間以来共其通ニて相心得勿論申迄ハ無之候得共道半分を塀へ溝端へ片寄通り随分相慎候体ニ可申付旨被申聞候ニ付

右之段小頭部屋目附へ急度申渡以来之形ニ仕候様申付候△然ル所猶又同心組申聞候者右役伝ニ下駄をはき居候節ハ一寸下駄をぬき不及下座通り并穢多ハ溝へ入候由申聞候間其段も致来之通ニ宜候旨及差図置候

一下紺屋町菓子屋伊之助義西国順礼罷出度百五十日之逗留ニ而明後十五日出立願承り届利右衛門  
一今八時揃新左衛門○藤四郎嘉七和四郎源五兵衛立合左之もの共呼出相札候但喜左衛門不参

牢舍人 細工町 藤吉

同 同 新六

同 西今町 伝兵衛

宿預ケ 中之町 新兵衛

申訳相立候付組合預ケ申付候 牢舎人 橋本町 宇兵衛

宝引宿ニ付在宿之程相尋候処 戸川町播磨屋清七

其節他出いたし候段口書取之

右之外ニも大工藤助呼出候得共及暮不相糺候○右宇兵衛組合預ケ

ニ申付候義御所へ相届候

一 二ノ宮村長吉御箱訴一件去ル九日存寄書差添大目附へ差出置候所

今日大目附被申聞候者拙者心得違ニ御存寄被仰聞候様御達候

所左様ニハ無之御用番中今ハ十郎左衛門弁書之通当役ニ為打

合吟味取計候様被仰出候間其旨御取計可被成旨達有之候ニ付

十郎左衛門考書之趣甚不得其意全体当役を相手取訴出候義ニ付又

々当役ニ遂再吟味下方致納得候様者不相成候間是非吟味被仰

付候義ニ候ハ、郡代立合ニ致吟味候様被仰付被下候様仕度義此

段強ニ被仰達可被下旨申達置候

三月十四日 雨

一 大目附分江口勘太夫方ニ古帯一種村登門方ニも歛一此間内ニ

致紛失候間為心得申達候由申来其小頭へ申付候

一 戸川町播磨屋清七方ニ博奕仕候もの共御裁許再考伺御用番へ差

出

三月十五日 雨

一 半浚申付候所無別条旨藤四郎嘉七届出候

一 一昨十三日之夜三船藤四郎町方へ私用ニ罷出候処花麗之粧之婦人

見受候得共私用ニ罷出候義ニ付不相答旨申聞候付名面穿鑿為仕候

処上紺屋町浅屋幸右衛門母妻之由ニ付其節之衣類并髪之飾迄認差

出候様大年寄へ申達候得者心得違大年寄宅へ呼出候相糺口書取差

出候所御法度を背居候ニ付則天明六年十月鍛冶町中田屋甚兵衛

娘御咎之節之先例を以過料尅貫文追込十日組合叱町役三日追込相

伺候

一 御家中小盗人多由ニ付左之通町触差出候

古手古道具類買取候ハ、出所相糺買取候様兼々申付候義ニ者

候得共此節別ニ紛敷ものも有之哉ニ相聞候間古手古道具之類

ハ勿論之義鎖細成歛鉄槌鋸小刀之類ニ致迄買取候ハ、名面并

住所迄得与承り糺帳面ニ付留置相調候様惣町中裏借屋之者并

古金買之もの共へ不残様急度可被相触候以上

三月十六日 雨

一 材木町大工車屋源兵衛義尋之趣書付差出候ニ付手錠組合預ケ昼廻

り庄藏政助差向差免其段御両所へ相届候尤他参留申付置

一 無宿新藏と申もの町方ニ小盗相働候由ニ目明孫兵衛召捕差出

候ニ付牢番預ケ申付其段御両所へ相届候但昼廻り庄藏政助取計之

三月十七日 曇

一 上紺屋町浅屋幸右衛門母妻御法度之衣服着用仕候ニ付御咎伺一昨

夕御用番中へ伺置候処伺之通取計候様今日被仰出候ニ付小頭利右

衛門部屋目附藤四郎大年寄宅へ差向左之通申渡之

一 其方母并妻義御法度之衣類 上紺屋町浅屋幸右衛門

為致着用候段上を不恐憚不屈至極之事ニ候  
依之過料壹貫文為差出追込申付候 但日数十日

一右ニ付追込但日数三日 中津屋伊右衛門

右町役

角屋八郎右衛門

一右ニ付叱置

右組合不残

右取計濟御兩所へ相届候

一坪井町南側ニ川原屋治助家屋敷表口四間裏行拾七間但壹軒役也

東隣ハ小島屋和兵衛西隣ハ浜屋源右衛門也右家屋敷之内ニ東之

方ニ表口式間裏行拾七間外ニ西之方裏ニ東西式間南北面之端

今四間六步役相添代銀札壹貫目ニ相極隣家小島屋和兵衛へ売渡

願承り届翌十八日売券状差出

一牢舎人義右衛門病氣申出大年寄へ申達候所岩佐孝順へ申付候段届

出候四月朔日今休業

三月十八日 曇

一御用日登城

一戸川町佐和屋孫四郎家守茂七借屋住作人多藏娘もん義土井大炊頭

殿領分当国久米南条郡北庄里方村清藏妻ニ差遣度人別除願例之通

取計済

一札元山本三右衛門義伯州日野郡根宿飛田義兵衛方へ三十日計之

逗留ニ來ル廿日出立願例之通取計済

一戸川町播磨屋清七方ニ去ル九日之夜宝引錢勝負仕候もの共御裁

許再考去ル十四日伺置候処再伺之通取計候様被仰出則今八時呼出

候立合新左衛門利右衛門藤四郎嘉七和四郎源五兵衛立合ニ左之  
通申渡之

一博奕宿ニ付過料壹貫五百文 戸川町播磨屋清七母

手錠之俣追込但日数十五日

一參会之ものニ付過料壹貫文 同町赤穂屋庄八妻

手錠之俣追込但日数十日

一右同斷 三町目八幡屋民藏

一右同斷 二町目大坂屋幸兵衛悴新藏

一右同斷 三町目板屋源藏母

但極老殊ニ病氣ニ付下地今手錠不申付候

一過料三百文追込三日ツ、 右宿兩隣組合

一追込三日 右町年寄

右組合年寄ハ於白砂大年寄申渡之右取計濟御兩所へ相届候

一出羽守様御止宿之節御本陣兩脇へ箱番所被仰付候右箱番所ニ差添

候置落縁燈灯手長桶御本陣分拝借仕差出候先格ニ候所右箱番所ハ

此方様足輕番所ニ付御本陣分拝借可願筋之ものニ無之ニ付右箱番

所附之諸道具ハ不残上分被差出候様仕度御本陣申出候ニ付其段大

目附へ相達候所承知ニ其段去ル十三日勘定奉行栗田辰右衛門へ

大目附分達有之候ニ付猶又以來間違無之様ニ自拙者も栗田士へ今

日懸合置候尤大年寄へ去ル十三日聞届候段申達置候

一芋町分土手へ出拔之裏道より無之夜分別ニ不用心ニ付竹垣いたし

路次を付夜分計切ニ仕度旨願出候間大目附へ申達候所御用所へ

御沙駄之上承り届候間勝手次第ニ可申付候旨被申候間其段大年

寄へ申達候

一 御家中長屋もの烏散成ものハ召捕追払候而も可然哉之旨於御席御家老衆御沙駄も有之候ニ付猶得と考可申上旨申上置大目附へハ談置候所同意ニ候

一 二ノ宮村長吉取計之節昨年郡代へ懸合候書面不残大目附へ差出候一吹屋町河本屋清七義母并妹召連甲州身延山へ參詣百日計之逗留ニ

而来ル廿一日出立願差出承り届七月朔日帰ル

一 安岡町久米屋鶴藏湯原へ入湯十七日計之逗留ニ而廿三日出立願承り届四月六日帰

一 伏見町能勢屋源助義備前西大寺藤屋八兵衛方へ十五日計之逗留ニ

而明十九日出立願承届補四百婦

一 伏見町能勢屋源助妹さき義御使組井汲五郎藏妻ニ差遣度人別除願承届

一 坪井町浜屋源右衛門妹縫義御領分和田村伊伝治悻伊八郎妻ニ差遣度人別除願下方引合濟候段申出承り届

一 今八時分立合右之通ニ而左之もの共遂吟味候

強而不致白状候

牢舍人下紺屋町大工藤助  
同 西今町 同伝兵衛

一 町方奢侈之風義急度相糺候様被仰出候ニ付御法度之衣類着用之ものハ先日已来相咎候処夏分ニ相移候得者麻羽織ニ類したる縮緬羽織着用之もの間々有之右等之もの共男女共ニ絹服上ニ着用仕候ものハ為剥取候而も苦かる間敷哉此段御内意相伺置度旨御用番中へ御席ニおゐて相伺候処少も不苦候間為剥取候様可取計旨被仰出其

段組之者共へ申付置候

三月十九日 曇 少時雨

三月廿日 雨

一 御近領山城村蕎麦山ニ今日今三日之間操芝居有之由目明共申出郡代所へ申談候処御用番中へ市郷共參候義御停止之触差出目明共差遣可申被相伺候処伺之通被仰出候段通用有之則町触差出其段大目附へ相届候

一 上紺屋町年寄中津屋伊右衛門角屋八郎右衛門追込昨日迄而三日ニ相成候ニ付今朝差免其段御両所へ相届候

一 今九時分立合新左衛門利右衛門栄治庄藏嘉七源五兵衛喜左衛門ニ而左之もの共遂吟味候

下地分組合預ケ申付置候所  
申口不宜ニ付手錠申付候

右両人手錠申付候段御両所へ相届候

一 札元玉置卯左衛門父仁平義四国遍路百日計之逗留ニ而明廿一日出立願承り届五月廿八日帰

一 境町西側宋總ニ而西川屋善助家屋敷表口四間七歩五厘裏行拾壹間但右之内ニ三間ニ三間之裏座敷一ヶ所有之壹軒式歩五厘役也北隣ハ美濃出屋清右衛門南隣ハ山田屋惣十郎也右家屋敷美濃出屋清右衛門取次ニ而質物ニ書入銀札四百匁一ヶ年通也壹割式歩之利足ニ而来

牢舍人右同断大工義平  
戸川町大工庄兵衛  
同右同人 引受大工藤兵衛

ル辰ノ年迄五ヶ年之間致借用度願承り届同廿三日証文差出文化四  
卯年六月廿七日元利濟請戻候

三月廿一日 雨

一戸川町播磨屋清七組合<sup>并</sup>年寄追込昨日迄<sup>ニ</sup>而三日<sup>ニ</sup>相成候間今朝  
差免其段御両所へ相届候

一人馬問屋人用是迄一ヶ年三貫目之仕切<sup>ニ</sup>候処上下共猶又此節稠敷  
御儉約<sup>ニ</sup>付少<sup>ニ</sup>而も減候得<sup>者</sup>惣惚之為<sup>ニ</sup>相成候事故減方ハ有之間  
敷哉と先日源五兵衛喜左衛門へ申付置候処以来<sup>者</sup>式貫七百目之仕  
切<sup>ニ</sup>為受負候段昨日源五兵衛喜左衛門届出承り置候尤来四月より  
右之割合<sup>ニ</sup>相渡候由申出候且又四月二日受負証文差出候

一雲州もの九市事六左衛門と申もの一昨戌五月鉄炮町<sup>ニ</sup>住居いたし  
桶屋町へ致入帳候へ共未引越鉄炮町<sup>ニ</sup>罷在候処雲州<sup>ノ</sup>召捕<sup>ニ</sup>来召  
連帰候処右妻子<sup>ニ</sup>番附置候番賃桶屋町<sup>ノ</sup>払候様申来候得共未引越  
内之義故町方<sup>ノ</sup>可払筋ハ無之旨及出入居候所郡代ヨリ被相伺候由  
今日御用番中<sup>ノ</sup>御尋有之候<sup>ニ</sup>付委細之訊申上勿論桶屋町<sup>ノ</sup>可払筋  
之もの<sup>ニ</sup>者無之段申上置候

三月廿二日 晴

一無宿盜賊字兵衛<sup>并</sup>野臥狂人宇八異名大鉄致小盜候由<sup>ニ</sup>而一昨日召  
捕目明共差出候<sup>ニ</sup>付於非人小屋下糺申付今日昼廻り庄蔵幸治差向  
牢番預ケ申付其段御両所へ相届候

三月廿三日 晴

一御用日登城

一生野御代官布施孫三郎殿預り所当国勝北郡新野山形村武右衛門悖

源吉義西新町新屋源助養子<sup>ニ</sup>引受度人別人願例之通取計濟同廿九  
日住宅証文差出

一脇坂淡路守殿預り所当国久米北条郡宮尾村金兵衛娘さと義鍛冶町  
鍛冶半兵衛養子<sup>ニ</sup>引受度人別人願右同断取計濟翌廿四日住宅証文  
差出

一脇坂淡路守殿預り所当国勝南郡池ヶ原村和助悖安兵衛義西新町備  
中屋伝助後家養子<sup>ニ</sup>引受度人別人願右同断取計濟同廿九日住宅証  
文差出

一林田上之町治助悖熊吉義中之町平岡屋忠左衛門家守北田屋甚助役  
介<sup>ニ</sup>引受度人別人願下方引合相濟候段申出承り届

一牢舎人下紺屋町大工藤助義病氣<sup>ニ</sup>付組合共<sup>ノ</sup>出牢歎書差出無余義  
趣<sup>ニ</sup>付御用番中へ紙面<sup>ニ</sup>而相伺候処無程伺之通被仰出候

一今九時過<sup>ノ</sup>例之通新左衛門利右衛門藤四郎和四郎幸治政助源五兵  
衛喜左衛門立合左之もの共遂吟味候

一病氣<sup>ニ</sup>付組合共歎<sup>ニ</sup>寄<sup>而</sup>出牢 下紺屋町大工藤助  
組合預ケ申付尤組合之もの共<sup>ノ</sup>預り一札取之候但病氣<sup>ニ</sup>付  
手錠無之

尤今日ハ及白状候

一此三人申口相分り候<sup>ニ</sup>付出牢手錠  
懸ケ組合預ケ申付候  
細工町大工新六  
材木町大工喜兵衛  
同町 惣兵衛

一及白状候

一及再吟味

牢舎人

西今町大工伝兵衛  
細工町同 藤吉



同 同町 同 治助

同 戸川町同 庄兵衛

同 同人役介 藤兵衛

右出牢申付候義及深更候ニ付翌朝御所へ相届候

三月廿四日 曇雨

一 大目附廻状到来左之通

来月三日 明好院様三回御忌ニ被為当候付此段為御知被仰出

候

一 深信院様明廿五日四時御供揃ニ而 藺田町通り泰安寺妙法寺へ御参

詣被成候旨種村登門分申来大年寄小頭へ例之通申達候

一 御藏米四拾七匁 町米四拾三匁

一 大年寄共昨日申出候者 去ル廿一日夕町方を狼籍もの致徘徊玉置卯

左衛門山本三右衛門方へハ糞を打込投文いたし酒計を暗夜打ニい

たし候由有之右之趣昨日御所へ及噂置候

一 出羽守様当所御出立之朝御先払之面々へ被下無之ニ付前日之通被

下候由ニ而 佐用宿分本陣へ送り来候ニ付夫々へ相届候旨源五兵衛

届出候右之段大目附へ相届候

三月廿五日 晴

、<sup>(朱)</sup>

一 中之町米屋善右衛門伴八平治義今般津田八平治と相改石田新治へ

出入奉公いたし同町粟井屋茂市方ニ同居仕度人別除願石田新治分

も届有之候ニ付承り届

三月廿六日 雨

一 深信院様御仏参無御滞相濟候段御先払藤四郎和四郎届出候

一 東新町初屋清七妻義去亥十二月不凶罷出行衛不相知段届出候ニ付

百日尋申付候

三月廿七日 晴曇時雨

一 上紺屋町浅屋幸右衛門追込昨日迄ニ十日ニ相成候ニ付今朝指免其

段御所へ相届候

一 奈良今井町黒土屋伊兵衛手代源助一人例年之通墨筆白粉売ニ来候

段元魚町延屋三次郎宿切手指出六月十八日帰ル

一 牢舍人源之助五郎八六右衛門千藏清藏右郡代所分呼出候申来出入

共和四郎取計之

一 上紺屋町浅屋幸右衛門過料錢壹貫文代九匁式分三厘相納受取置候

一 播州赤穂郡塩屋村柴原七郎左衛門妻義三町目浜野屋源五郎妹ニ付

逗留ニ来旨廿日計逗留為仕度願承り届四月十九日帰

一 牢舍扶持四俵内貸証文差出奥書印形取計候但五月へ壹斗七升式合

五勺持越候積也

一 茅町大工幸右衛門伴治助義疵平癒仕候段届出候ニ付夜廻り栄治幸

治差向手錠申付候

一 揚り屋賄入用内貸四拾匁之証文差出右同断取計候但当月中賄殘四

月へ持越候分七百五拾式文有之由

三月廿八日 快晴

一 御用日之处拙者義先日差出候戸川町播磨屋清七母宝引宿仕候ニ付

追込日数十五日と可伺心底ニ而 参会同様十日之伺書ニ致書損其段

昨晚申上相濟候得共書損仕候段恐入三浦十郎左衛門を以差扣相伺

候処不及伺旨被仰出候段三浦分通用有之候上ニ而 登城仕候

一 戸川町播磨屋清七方<sup>ニ</sup> 而 参会之宝引連中四人昨日迄<sup>ニ</sup> 而 十日<sup>ニ</sup> 相成候付今朝大年寄宅<sup>江</sup> 小頭<sup>并</sup> 部屋目附栄治出番幸治差向追込指免其段御所へ紙面<sup>ニ</sup> 而 相届候

一 脇坂淡路守預り所当国勝南郡中原村喜助悴民治夫婦悴嘉市伊勢蔵右家内四人上紺屋町作人太兵衛借屋住人弥三八引受度人別人願例之通取計濟四月朔日住宅証文差出

一 札元山本三郎左衛門伯母喜代義布施孫三郎殿支配所当国西々条郡貞永寺村桜井卯左衛門妻<sup>ニ</sup> 差遣度人別除願右同断取計濟

一 郡代所分昨日之五人のもの共呼出申来昼廻藤四郎庄蔵分相渡帰ハ栄治取計之

一 大坂天満三丁目播磨屋仁兵衛と申もの唐弓弦売<sup>ニ</sup> 六ヶ年已前迄新職人町松の屋十右衛門方へ參候所不勝手<sup>ニ</sup> 相成り候參り不申候間右跡入として同所心齋橋塩町南へ入播磨屋清七と申瀬戸物算盤煙管古金売仕候もの願出承り届

一 出羽守様御止宿之節箱番所ハ勿論箱番所附之もの一切受前之もの共指出本陣差構<sup>ニ</sup> 不及旨<sup>ニ</sup> 相極候所立番不出内ハ万端諸道具等<sup>ニ</sup> 至迄本陣分心付候様大目附分達有之候其段源五兵衛へ申達候

一 筑前遠賀郡柏原浦小平治手代与六一人例年之通茶碗類売<sup>ニ</sup> 来候旨京町田戸屋宗十郎後家宿切手差出

一 瓜生原<sup>并</sup> 西吉田<sup>并</sup> 足山河原<sup>ニ</sup> 而 今日分三日之間昼夜芝居致興行候由郡代所分先格之通市郷触書指出目明も可差出旨何濟之由通用有之候<sup>ニ</sup> 付町触差出小頭へも目明へ申付候様申達

一 三浦十郎左衛門義川下へ一夜泊<sup>ニ</sup> 罷越度何書被指出江戸伺<sup>ニ</sup> 相成

候所去ル十三日御聞届被成候段大目附中分拙者へ御達有之十郎左衛門へ可及通用候処忘却仕今日迄不及通用其段恐入候事<sup>ニ</sup> 付栗田辰右衛門を以指扣相伺候処不及其義旨被仰出候段栗田士分申来候

三月廿九日 雨

一 元魚町紙屋茂右衛門後家悴栄吉義御使組井汲庄平養子<sup>ニ</sup> 差遣度人別除願承り届

一 播州加藤郡三木町形屋与兵衛手代藤兵衛一人例年之通紺屋形売来候段西新町山家屋利右衛門宿切手差出五月廿三日帰

一 播州網干新在家村加賀屋善七手代善兵衛一人例年之通小間物卸売来候段右同人宿切手差出六月廿八日帰ル

一 堀坂<sup>ニ</sup> 来月朔日二日分芝居興行いたし候付郡代所分市郷触流候義何濟之由申来候付町触差出候仍<sup>而</sup> 大目附へも相届候尤昨日之三ヶ所之町触之義も申達候

一 土井大炊頭殿領分久米南条郡種村百性吉村重左衛門事督四郎分林田町福吉屋乙右衛門へ相懸り借銀滞添簡を以致出所候<sup>ニ</sup> 付六十日限正月晦日濟方申付置候処内濟相整以後無申分相濟候間先訴御下ヶ被下候様督四郎分願書差出仍之何濟之上内濟承り届願書差戻右濟口一札之写弓削役人谷口市右衛門へ之書狀願人<sup>江</sup> 相渡候<sup>尤大目</sup> 附へも相届候<sup>尤翌日相渡候</sup>

一 所々芝居有之目明共不足候付仮役申付候様申達候所中之町倉敷屋惣兵衛へ仮役申付候段届出候

一 瓜生原村芝居へ目明弥吉罷出候所今日ハ雨天<sup>ニ</sup> 付不仕役者ものも六人計居候由<sup>ニ</sup> 而 一向不景氣之由勿論町方分參候もの一人も無之

旨届出候

一 芋町孤独幸吉母病氣大切届出候付例之通大保頭差遣相改候様申達ス

三月晦日 快晴

一 目明弥吉申出候者 足山芝居昨晚引私今日公文ニ 仕候由尤右場所ハ足山辺ニ 而 谷一ツ隔候事之義故猶又伺触等ハ不取計目明差出可然郡代相談之上矢張足山芝居之通院庄へ致出張候様申付候

一 関貫番賃銀例月之通相渡候

一 福渡町孤独喜斎病氣大切届出候ニ 付先格之通大保頭見分取計候様申達候

一 本島庄藏娘友義西新町太田屋七兵衛悴小三良妻ニ 引受度人別人願庄藏分も届出候ニ 付承り届

一 孤独福渡町喜斎義落命仕候段大年寄届出御所へ相届勘定奉行へも及通用尤病中植月友輔療治相頼候由也

一 孤独芋町幸吉母病中新屋敷本田周達相頼候処療養不相叶落命候段届出右同断相届候

一 因州鳥取出生安兵衛と申もの悴音一郎召連千ヶ寺順拜ニ 罷出昨夜東新町延屋宇右衛門方ニ 止宿仕候処悴音一郎義儀ニ 病氣差起り致死去候処父安兵衛分病氣ニ 相違無之親差添致看病候事故以後聊申分無之何卒何方へ成り共葬具候様一札差出候ニ 付御用番中へ差出右之通親類差添居候事ニ 候得者 死骸不及見分勝手次第川向惣墓へ葬候様可申付旨相伺候処思召無之先格之通宜取計候様被仰出候ニ 付右之段承り届右一札御下ケニ 成候上大年寄へ差戻候右之段大目

附へも相届候同夕惣墓へ葬候段翌朝相届

一 足山芝居今日ハ公文ニ 而 不相始明日ハ公文ニ 而 致興行候由并 今夕ハ宮尾村ニ 而 夜芝居いたし候由ニ 付目明共罷出候様申達郡代所へも及通用候

一 斎藤孫右衛門義来月月番相勤候処無扨用事出来ニ 付勝山金田庄右衛門方へ七日計之逗留ニ 而 明朝罷越度旨源五兵衛を以願出承り届尤留主中孫左衛門頼置候由届出候四月六日帰

一 土井大炊頭殿領分種村吉村督四郎義昨日来今日罷帰候段元魚町紙屋助右衛門届出候

四月 巳 小

月 番

御家老 山田主膳殿

御年寄 海老原極人殿

大目附 上原彦藏

大年寄 斎藤孫右衛門

諸吟味 能行留主兼合孫左衛門 宮田喜左衛門

小頭 神田栄治

四月朔 庚 申 旦 曇 夜雨

一 河内志津馬分造酒屋共以来取扱之義聞合ニ 遣候返書到来節初ハ嚴

敷被仰出候得共此節ハ大方御止ニ相成候御様子と被察此上強<sup>而</sup>御尋も有之間敷方一御尋も有之候得<sup>者</sup>天明八年之御形を以可及御答義と被存候間最早此方分問合等ハ不致方可然風聞ニ候間心遣致間敷之旨申来候

一 牢舎人義右衛門休葉双方分届出候

一二階町塗師虎吉義久世金沢屋善右衛門へ相懸り致出所引取居候所頼置候親類松島屋理左衛門分呼ニ来候間明日罷越度願書差出承り届

四月二日 雨

一人馬問屋一ヶ年式貫七百匁仕切受負証文差出

一中之町秋田屋宗兵衛所持之自国受酒株去亥三月廿九日西新町久米屋清助借受候処猶又来丑三月迄借受度追願承り届

一林田町福吉屋安右衛門所持之旅人宿屋株元魚町豊島屋伝治へ讓渡度願承り届

一他領富興行ニ付目明共差出候入用拾五匁式分六厘四毛受取証文小頭差出與書取計之

一同心組先月中臨時出役昼扶持耆斗四升七合五勺受取証文差出與書取計之

一深信院様明三日四時御供揃蘭田町通り泰安寺へ御仏參被成候旨種村登門分通用有之小頭大年寄へ例之通申付候

四月三日 曇時雨

一御用日登城中上候御用向無之

一戸川町播磨屋清七母追込昨日迄ニ<sup>而</sup>十五日ニ相成候ニ付今朝大年

寄宅へ<sup>願書出仕</sup>深治庄藏源藏差向手錠追込差免其段出仕之上御両所へ相届候

一深信院様御仏參無滞相濟候段御先弘嘉七和四郎届出候

一御家中来暇遣候後変義出来取計之義御間合有之候処左之通御留主居河内志津馬分申来候由大目附分被相渡認置本書ハ差戻候

家来を主人分暇遣差出候上外ニ<sup>而</sup>何も悪事致し召捕可遂吟味筋之もの有之候節暇遣三日之内ニ候とも元主人江差戻し遂吟

味候ものニ無之又暇遣候節<sup>者</sup>何之別条無之其後之悪事ニ候得<sup>者</sup>元主人の方掛り合無之市郷之ものニ候得<sup>者</sup>其筋役人分遂吟

味年寄之方も無之ものニ候ハ、無宿者之取扱ニ致候旨取計候筋之ものニ御座候右<sup>者</sup>公儀御定之由町御奉行根岸肥前守殿御

組同心<sup>ニ</sup>相場半左衛門申届候以上  
三月八日 河内志津馬

一公儀御尋もの人相書を以左之通被仰出候旨大目附廻状到来尤来ル八日迄ニ証文差出候様申来町中組中へ相触候

去亥十二月十一日夜浅草諏訪町家主吉兵衛<sup>并</sup>同人妻あさを及殺害同人娘すきへ<sup>茂</sup>手疵為負逃去り候右吉兵衛親喜七元召仕

三之助人相書但略也

一一目明孫兵衛義伯州<sup>三朝</sup>温泉へ入湯願小頭分申出承り届同廿三日帰一役所書役當時ハ新左衛門兼相勤同人義他役所へ差出候留主ハ是迄

度々大ニ差支<sup>并</sup>平日たり共書キ物多キ義ニ付手支有之不快之節等ハ猶又差支致迷惑候所當時御使組之内可也ニ書役替りニも相成候

仁物老人有之候間右御使組老人乍当分定渡切ニ被仰付被下候ハ、

平日ハ書役之助申付加人入用之節ハ同心組ニ召仕候得者毎度加人申達候事故格別御失随ニも不相成役所ニ而ハ甚益ニも相成候間何卒御渡被下候様乍内々先日上原彦藏へ申達置候所今日同人分右被申達候書役之義此節之義ニ付不被及御評議候間其旨可相心得旨申聞候

四月四日 晴

一公文村芝居へ差遣候仮目明倉敷屋惣兵衛罷婦公文芝居昨夜切ニ而無別条相濟右芝居明五月一日高雄ニ而いたし明後六日分又々西吉田ニ而致興行候旨申出郡代所へも及通用西吉田へ目明差遣候様小頭へ申付尤先分西吉田之触も差出候故最早触ニも伺ニも及間敷旨郡代と申談候

一牢舎人六右衛門源之助呼出候郡代所分申来出入共和四郎取計之一四拾間関貫之冊と垣と之間人通り候程之間明不用心之旨喜左衛門届出御作事奉行金井長平へ申達候所明日可申付間今夕之所ハ宜申付呉候様申越其段喜左衛門へ申付候

一河内志津馬分之来状御用番中御戻被成候付大目附へ差出候

四月五日 晴

一藏合孫左衛門義家職も無之処当時ハ銀札場も替り候故家賃も不被下并御年限ニ付而ハ御擬作も上り別ニ此節難渋仕家作等も行届兼右銀札場諸借屋ニ仕度候得共場所柄悪敷借り人も無御座処酒店ニ勝手宜借り受度と申もの有之候得共此節受酒株流行仕明キ株無之迷惑仕候付何卒自国受酒株姫路屋甚右衛門通ニ御免被成下候ハ、右銀札場諸ニ而受酒店ニ貸付表向ハ孫左衛門手代差置酒店差

出候風情ニ仕度旨大脇新左衛門を以内々歎出候ニ付先例相調候処左之通

一自国請酒屋森家伝来元録十五年拾三軒有之○延享元子ノ年改拾貳軒有之○當時も拾貳軒有之

一他国請酒屋森家伝来元録十五年五軒○延享元子ノ年改九軒○當時拾壹軒有之但姫路屋共

一宝曆十三年七月廿三日京町花屋忠八渡世難仕候由ニ而上方酒卸売仕度段願出御聞届

一明和三戌十一月三日西今町戸田市郎左衛門へ他国請酒株壹ツ差免候是ハ所持之造酒追々取立申度旨相聞へ市郎左衛門ハ格段之ものニ付諸事含ニ而申付候勤功を立候弁合ニ而ハ不申渡候

一安永五申年二月廿八日新魚町姫路屋彦兵衛勝手向難渋之処外商売手馴不申岡山大坂深切之もの分酒升切売いたし候ハ

、相続可遣旨申候ニ付右商売仕度旨願出御聞届被成又候大目附所ニ而姫路屋義株ニ相成候義ニ而ハ無之商売貸借りハ

決ニ不相成候旨被申聞候

右ニ付宮田喜左衛門へ下方之趣内々監察申付候処受酒株多数ニも相成候ニ而ハ同職之故障ニも可相成候得共五六軒相増候程之義ハ故

障ニ者不相成造酒屋共ハ却ニ可悦筋ニも相聞へ故障無之旨申出候付大目附上原彦藏へも遂内談候処存寄無之ニ付今日御用番中へ右

先例書を差出相伺置候

一郡代三浦十郎左衛門義今日飯岡村後藤徳左衛門方へ一夜泊ニ被相

越候ニ付留主中受持候

一今九時分新左衛門榮治藤四郎嘉七政助孫左衛門喜左衛門立合左之  
もの共遂吟味候

安岡町 大工 喜兵衛

京町 同 十藏 鶴藏

安之丞

元魚町 同 平三郎

伏見町 同 喜治郎

一下紺屋町長江朝庵義因州若椋近江屋周助方へ四十五日計之逗留ニ

而明六日出立願大年寄承り届差出五月十七日帰

四月六日 少時雨昼後晴

一西吉田芝居昨日一日切ニ而相止植月辺へ参候哉之沙駄有之由目明

弥吉届出候

一加茂小中原村浄光寺ニ明後八日富致興行候段目明共届出候ニ付先

格之通市郷触書出候目明共可差遣旨御用番中へ伺済ニ付町触差出

目明差遣候様小頭へ申付郡代所之義ハ下代左吉へ申付ル

一二階町塗師虎吉久世分罷帰りと談被申聞候得共御裁許相願候段申

立置罷帰候由弁書差出

一桶屋町中田屋十兵衛備前屋甚平方へ昨夜盜賊這入候得共紛失もの

無之段届書差出承り届

四月七日 晴

一石田新治組金沢藤太後家徳并悻長吉右式人福渡町作人伊八役介ニ

引受度人別人願承り届

一戸川町播磨屋清七母方ニ而宝引銭勝負仕候御咎過料銭都合六拾四  
匁六分式厘相納

四月八日 曇

一御用日登城

一公儀今人相書を以御尋之もの心懸り之義無之ニ付先格之通下方分  
夫々証文差出候ニ付町方之分一通組中書役之分一通自分証文耆通  
都合三通大目附へ差出候

一二町目福寿屋吉右衛門家守松田屋五郎左衛門借屋住神目屋久米藏

并同人父源助母含右家内三人脇坂淡路守殿預り所当国久米南条郡

下神目村万治方へ為引越度人別除願例之通取計済

一二階町塗師虎吉久世分罷帰候弁書御用番へ差出候所早即御下ケ被

成新左衛門へ渡置候

一二ノ宮村長吉義西今町永延屋と取合一件箱訴ニ付先月九日十三日

十八日記置候通之義ニ候所今日大目附分郡代へ吟味被仰付候由演

達有之候

一雲州九市事六左衛門入用市郷出入今日十郎左衛門分大目附分達候

由ニ而大目附存寄ニ著町分人別と相知候分ハ町入用ニ可取計筋此

段御用所御内意并林田町岩佐屋鉄治入用是又当人と親と町分と三

ヶ所分可弁筋と大目附考之所御用所御内意ニ候間指図ハ不致候得

共右之趣を以対談いたし候様大目附分被申聞候間相考候様十郎左

衛門分通用有之候ニ付鉄治義身代限り差出候上ニ而市郷分右不足

指出候義ニ而も可有之哉と申候所鉄治義母名前ニ而居候事故身代

切申付候義ハ不相成と被申聞候付何れニも御指図ニ而無之共御両

所御内意と被申聞候上ハ考ニも不及義町分ニ而ハ不引越内之入用ハ不差出定ニ而扱々迷惑之事共ニ候て及挨拶置候

一 箏触例歳之通差出候

一 一ノ宮市町触書例年之通差出候

一 雲州杵築多久十太夫御師上下三人例年之通来候段新職人町松野屋十右衛門宿切手差出同廿一日帰

一 林田町南側ニ而鍋屋治助家屋敷五ヶ年已前寛政十二申年八月廿七日質入ニ願候処元利返済受戻候届書指出候

一 弓削役人谷口市右衛門分種村督四郎出訴致内済候段申遣候返書来受取書差遣飛脚差返し右来書翌九日御両所へ差出

四月九日 雨

四月十日 雨

一 播州姫路本庄久右衛門妻二町目福永屋藤助方へ三月十一日来候所今十日計逗留追願承り届同十五日帰

一 御領分小田中村儀兵衛娘義小性町鈴鹿屋太兵衛役介ニ引受度人別人願下方引合相済候段申出承り届

一 林田上之町吉兵衛借屋住文助一人中之町田中屋文蔵引受度人別人願右同断申出承り届

一 西今町公文屋清右衛門方へ一昨日八日之夕盜賊這入店反物式百九拾八匁計之ものを被盜取候届書差出候付目明へ急度申付候様小頭へ申達御用所へハ追而可及御沙駄触書も其節可差出候同十二日御用番中へ差出同廿三日町方ニ無之段申出候

四月十一日 晴少時雨

一 牢舎人大工義兵衛病氣申出大年寄へ申達候所当分之風邪之由藤木良全へ申付候段届出候同十四日休業

一 大坂島之内大宝町万屋善治郎一人例年之通革足袋水漉金通直シ売来候段西新町山家屋利右衛門宿切手指出六月廿八日帰ル

一 備中津宇郡妹尾村小判屋太良兵衛一人例年之通畳表卸売来候段右同人宿切手指出同廿八日帰ル

一 播州加藤郡三木町徳屋平兵衛一人例年之通紺屋形売来候段右同人宿切手差出五月廿三日帰

一 御用番中分蔵合孫左衛門義自国受酒株内願之義何之思召も無之差構無之候義ニ候得者被差免可然候併此節ニ而者人氣ニ障り候義も可有之哉ニ御考被成候間追而又々可被相伺候由ニ而御戻被成候委細ハ去ル五日之処ニ有之尤右者下方分願書差出候上ニ而御免被成候先例も有之候得者其趣ニ取計候方も可宜哉之御沙駄ニ候

四月十二日 晴

一 西今町公文屋へ盜賊這入候ニ付嚴敷吟味申付候所元福渡町ニ罷在候藤右衛門悖藤助と申もの当時盜人ニ相成居候所右藤右衛門桑村辺ニ居候由右藤助義彼方へ參候趣承り必定同人ニ而も可有之ニ付非人二人差遣召捕度旨目明弥吉分申出候ニ付承り届小遣錢六匁相渡右之段御用番中へ申上右公文屋被盜もの届書指出候大目附へハ翌朝出仕之上相届候○触流十三日何済ニ而取計

一 今九時分新左衛門栄治藤四郎庄蔵嘉七幸治和四郎孫右衛門喜左衛門立合左之大工共不残口書印形取之候

義兵衛 伝兵衛 藤吉 藤助 庄兵衛 新六 新兵衛

彦左衛門 喜兵衛 惣兵衛 重右衛門 宇兵衛(安國町) 喜兵衛

治助 十藏 鶴藏 安之丞 平三郎 藤兵衛

大熊殿家来八十助 元魚町山田屋和助

右之内重右衛門義先日手錠申付置候所申披相立候ニ付元之通手錠

差免組合預ケニ申付其段御両所へ相届候

一院庄村仁助娘ミツ義鍛冶町川口屋伊右衛門役介ニ引受度人別人願

下方引合相濟候段申出承り届

一御領分西北条郡新田村庄吉一人鍛冶町中田屋甚兵衛役介ニ引受度

人別人願右同断承届

一西今町公文屋清左衛門借屋住丸屋治兵衛娘もよ義新田村七左衛門

養女ニ差遣度人別除願右同断承り届

一大坂南本町三丁目小法師利兵衛と申もの墨筆卸売ニ廿一ヶ年已前

迄西新町山家屋利右衛門方へ来候処右代越中富山二丁目松井屋庄

右衛門と申もの菜商売仕参度段相願承り届

一京都大仏前長刀町近江屋藤七と申もの縮ミ紺屋形金通し張替来候

処中絶ニ付右代ニ備前岡山上之町黒金屋嘉兵衛と申紙類荒物紺屋

形金通し張替商売之もの御出入為仕度旨中之町甲屋幸助願出承り

届

四月十三日 快晴

一御用日登城申上候御用向無之

一御用番極人殿血忌御引込ニ付大熊鞆負殿御勤被成候旨大目附之達

有之

一元京町住勘兵衛帰住歎不及御取上旨申上候処伺之通被仰出鞆負殿

今御渡被成書役へ相渡置候

一御蔵米四拾八匁 町米四拾四匁

一林田町岩佐屋鉄治喧嘩入用并雲州九市入用市郷申談候様去ル八日

御達有之候ニ付町方之ハ可差出筋無之旨弁書認大目附へ差出候

一西今町公文屋清左衛門方之被盜もの触流候御聞届候旨極人殿之申

来郡代所へ相廻候其段大目附へ紙面ニ申達候同廿三日町方無之

段届出候

一橋本町後藤屋佐市裏掃溜庭之下ニ風呂敷包有之右之内衣類品々有

之段届出候ニ付吟味申付置候所無程女来右ハ吉野郡之ものニ橋

本町藤助と申ものを宿仕所々致奉公昨日迄玉琳綿屋勘兵衛方ニ致

奉公居候所暇取昨夜右風呂敷包持来候所宿藤助義留主ニ付無拋掃

溜之内へ入置候段無相違旨申出候付宿藤助を受人ニ立一札取置相

渡候様及差図

一桶屋町平六娘を慕ひ来居候鳥散男有之由目明共申出候付召捕相糺

候様申付候処何茂疑敷義も無之ニ付追払可申哉と伺書承り届

四月十四日 雨

一林田町南側ニ鍋屋治之助家屋敷表口四間半裏行拾七間但本役也

東隣ハ豊国屋大助西隣ハ西新町高松屋太助持家也右家屋敷之内西

之方ニ表口三間裏行拾七間御役六分七厘付代銀札八百目ニ相極

同町丸尾屋弥市江売渡度願承り届同廿日売券状差出

一戸川町馬持庄藏持馬今曉落候段届出勝手次第取捨申達候

四月十五日 晴

一江戸御普請役松村忠治郎名取安治郎右兩人明十六日吉野郡馬形村



出立当町通行石州へ相越候趣勝間田夕川辺へ申来候段郡代所今通  
用有之仍之先格左之通

一 通り筋不及掃除不見苦様大年寄今演達

一 町々保頭代問屋人足老人先ニ立道案内

一 同心組式人自分羽織廻り之体ニ而半町計先へ立見江隠れ警

衛目通ニ而披候

右之通御用番中へ相伺候処宜取計候様被仰出其段大目附へ相届置

小頭大年寄へ先格通宜取計候様申達ス

一 江原文藏出勤ニ付加人福田政助今日今指戻其段大目附へ相届候

一 安岡町大工喜兵衛芋町大工治助喧嘩一件内濟不相整致破談候段大

年寄届出候

四月十六日 快晴

一 御普請役通行ニ付今朝文藏利右衛門差出置候所左之通先触到来

馬式疋徒江戸丹後但馬美作石見備後国迄上下并於彼地御用中

幾度も可出之是ハ御用ニ付松村忠一郎名取安次郎罷越候ニ付

相渡之者也

文化元年子二月采女印

右宿中

御証文 馬式疋 但人足四人ニ代ル 外賃人足式人

右者中国筋御用ニ付明九日朝六ツ時但馬国浜坂村今出立罷越候条

書面之人足差出継立可申候尤川越渡場者従前後村申達差支無之様

可致則御証文写相添触候間得其意此先触早々ニ順達従留可被相返

候已上

子四月八日 御普請役名取安次郎  
松村忠一郎

四月十五日泊十七日出立 吉野郡馬形村 十七日津山泊

十八日勝山泊

右先触御用番中へ差出大目附へ相届小頭へも申付候勿論止宿ニハ

左之通此段も御用番中へ申上候

一 同心組旅宿脇ニ夜中出張 但高焼灯出之

一 町役袴着用ニ伺

一九時今新左衛門榮治藤四郎庄藏幸治孫右衛門喜左衛門立合左之も  
の共遂吟味候

一家内人別問違再糺取計 牢舎人西今町大工伝兵衛

牢舎人無宿盗人宇兵衛

同 同 新藏

同 同 大鉄大

一 円宗寺村下分源右衛門郡代所今牢番預ケ申来出番幸治取計之

一 公郷下村兵藏義郡代所今入牢手形相廻り出番庄藏幸治取計之

一 惣大工共と庄兵衛と取合一件口書御裁許伺書指添御用番中へ指出

候

四月十七日 曇夜雨

一 御普請役松村忠一郎名取安次郎兩人八半時旅宿元魚町大庭屋善兵

衛方へ被致止宿候段警衛差出候庄藏文藏今届出并大年寄今も届出

候付其段御両所へ相届候

一 林田町上田屋久平義同町福吉屋安右衛門へ相懸り家賃滞出入訴出

先月十一日安右衛門へ手鎖申付置候処内濟仕受返候已来申分無之

ニ付御咎御免被下願書御下ケ被下候様昨日上田屋久平ノ願下ケ願書差出御用番中へ早刻差出候所御聞届被仰出候ニ付其段大年寄へ申達候夜廻り藤四郎利右衛門孫右衛門宅へ差向手鎖差免候其段大目附へ相届候

一 福渡町阿賀屋助五郎家守忠助借屋住徳兵衛義大坂老松町升屋半兵衛方へ当子四月分来ル寅十月迄三ヶ年之間奉公稼ニ罷越度願承り届

一 桶屋町清水友三後家守菊屋利兵衛役介茂吉一人野条金平長屋為引越度人別除願承り届

一 林田上之町ニ御中間金藏後家鶴ニ手を為負致自殺候和助義ニ付右鶴妹婿東新町羽屋清七右鶴悻野屋茂一郎下人佐吉義先日変死之場所へも差出札有之候処猶又口書取相廻し具候様郡代所分申来大年寄へ申付候所相手和助義落命候上ハ申分無之旨口書差出并右佐吉義ハ船頭出生之もの候由ニ相聞候付為相札候処右佐吉父治兵衛と申ものハ御中間相勤船頭町ニ罷在候得共右妻鶴悻左吉義ハ町内ニも不存ものニ付入帳之ものニ者無之旨申出右書付郡代所へ相廻候

四月十八日 雷雨

一 御用日登城

一 御普請役松村忠一郎名取安次郎今五半時頃出立町分通行相济候段警衛同心組藤四郎利右衛門義大年寄宿大庭屋善兵衛分届出仕候上御両所へ相届候

一 吹屋町釜屋藤治借屋住人喜助夫婦大久保安芸守殿領分当国久米

南条郡福田村磯八役介ニ差遣度人別除願例之通取計济

一 和元山本三右衛門義先月廿日伯州へ卅日之逗留ニ罷越候処今十五日計逗留日延願御用番御聞济ニ付大目附へ差出御聞届申達候同廿八日帰

一 布施孫三郎殿支配所当国西北条郡大町村兵藏弟金兵衛并同人娘狛右二人西今町岩見屋善四郎役介川手屋左吉後家方へ引受度人別人願右同断取計济慶長三百年集

一 西今町惠美須屋銀藏娘豊義脇坂淡路守殿預り所当国久米南条郡福渡村長右衛門養女ニ差遣度人別除願右同断取計济

一 於御用所御用番御年寄海老原極人左之通申渡候大目附出席

町奉行へ

成安村又右衛門悻五郎八 同村茂兵衛下人新次郎悻千藏采總

同村六右衛門 同村茂兵衛下人青山村清藏采總

右之もの共去月九日夜成安村之内観音堂ニ博奕致参会不埒至

極ニ付五拾敲之上帰村申付候 右之通取計可被申候

右ニ付郡代申談廿二日も御日柄ニ御座候得共天明八申四月廿二

日敲取計も有之ニ付来ル廿二日可取計間御徒目附被差出候様大目

附へ相届候

一 二階町山手屋理兵衛家守仁兵衛借屋住煙草屋園藏并悻午吉右二人

本覚寺長屋へ引越度人別除願寺社取次野条金平へ引合之上承り届一宮脇町徳守宮地子居松野屋伝助悻長四郎義先年罷越居候大坂伏見町渡部筋亀屋伊兵衛方へ当子四月分来ル寅ノ暮迄三ヶ年之間奉公

ニ罷越度願承り届

一ノ宮市町例年之通参間敷大目附廻状到来写取組中牢屋三軒屋へ相触候

一先達而以来盜賊沙駄物騒ニ付張外もの立帰もの烏散成もの不殘召

捕候様目明共へ申付置候処元種村長屋ニ而致出生候茂兵衛并京町

出奔もの錦屋万藏同人弟勘当もの伊三郎市村長屋住ニ而追払もの

幸三郎右四人召捕候付柳土手ニ而下吟味申付候処何及旧悪而已ニ

而新悪事無之旨申出候ニ付御領分境迄連行追払候様及差図候

一大工一件之口書去ル十六日御用番中へ差出置候所去ル権家之御方

今大工惣兵衛義口書之趣不得心ニ者候得共得不申上印形いたし候

由并外御方今大工義兵衛へ口書之末之文段不読聞せ押而印形取候

杯と申様也風聞有之趣被仰聞候付御用番中へ罷越右口書御下ケ被

下候様ニ申上取戻し罷帰候猶又相糺候上ニ而可差出候

一御家中屋敷へ召捕ものニ踏込之義御用番中乍御雑談御噂有之候ニ

付去ル二月五日申上候処大目附太田舍人今御用番中へ御噂有之候

由評議いたし申上候様被仰出候間以来取計之御意認出候様達御座

候ニ付左之通認太田舍人江差出候

一盜賊筋之義ハ寺社構郷中之義ハ勿論御家中家来長屋ものニ

至迄先達而不及案内召捕候上ニ而其主人江届可申旨安永十

丑年被仰出右之通ニ相心得罷在候得共御家中屋敷門内長屋

位之義ハ左様も相成候得共裏迄も追込召捕候義ハ如何成も

の哉ニも奉存殊ニ隣家へ通り抜仕候義ハ不相成義ニ付右体

之時ハ何方迄も無案内裏道今追馳参候様為仕度奉存候

一同心組ハ右之通之心得ニ御座候得共目明非人ハ右之通ニ者

不相成事ニ而病犬等之節別而差支申候間非人たり共火急之節者無案内裏づたいニ通り抜指免候ハ、別而弁理宜御座候

此段申上候以上

子四月十八日 町奉行

四月十九日 曇

一子午七ケ年目之惣町人別改帳大年寄差出旧格之通ニ高書拔致印形

郡代所へ相廻ス尤旧格ハ御用所へ差出候処天明六年今郡代所へ直

ニ相廻来候事委細ハ寛政十年年之処ニ記置

一惣人別合 六千六百人 但寛政十年今式百八拾式人減

外ニ□□□非人百拾六人男四拾八人 女四拾八人 寛政十年今八人減

但非人ハ人別ニ不入

四月廿日 晴

一吹屋町持福院義勝北郡加茂東村与左衛門悴与市と申もの養子ニ引

受度願寺社取次野条金平今引合有之取調候処役筋へハ去亥六月十

八日指出同日拙者当病仕御用向三浦十郎左衛門へ頼遣右持福院願

も引合旁頼遣候所三浦士今御用所へ被差出御聞濟ニ付大目附へ願

書指出置候得共寺社役所へハ未願書不差出候間下方へ御聞届申達

候義者差延置候様申来其分ニ相成居候付今日御聞届申達其段野条

金平へも及通用候六月七日住宅証文差出候

△右持福院養子引受願去亥六月玉置源五兵衛月番ニ而差出御聞届

ハ不申達候処翌七月斎藤孫右衛門月番ニ而御聞届之事と相心得同

月之人別出入調ニ相加置候由然ル所今般之七ケ年目之改ニハ如何

可仕哉と伺出候所源五兵衛義ハ孫右衛門人別改帳ニ書加へ置候を

兼<sup>ニ</sup>及見居御聞届被仰渡相濟候事と心得今般之改<sup>ニ</sup>差加へ候様申  
達候由右<sup>者</sup>全孫右衛門心得違<sup>ニ</sup>間違<sup>ニ</sup>相成恐入源五兵衛を以差  
扣伺出候<sup>ニ</sup>付左之通申達

吹屋町持福院養子引受願心得違之段 齋藤孫右衛門へ

差扣伺出候処未下方へハ御聞届不申達候事故

自分限承り置差扣不及其義已来入念候様可致候

四月廿一日 朝曇昼後快晴 晚少雨

一九時分新左衛門栄治藤四郎庄藏文藏孫右衛門喜左衛門立合左之通  
遂吟味候

喧嘩一件遂吟味候

安岡町大工喜兵衛

芋町 大工治助

一 大坂長沢清左衛門今自分状<sup>ニ</sup>西今町直屋市郎左衛門滞銀濟方ハ  
如何<sup>ニ</sup>御座候哉当人病氣<sup>ニ</sup>て代人懸ケ合も可相成筋余り等閑<sup>ニ</sup>相  
成候様<sup>ニ</sup>付内々申越候由申来候右一件ハ兼<sup>ニ</sup>油断も不致<sup>一</sup>〔<sup>虫種</sup>〕致  
催促候処八郎兵衛と申もの差遣内濟懸ケ合相濟候段罷歸り申聞候  
付右銀子差遣候所未受取書不相廻候付相廻り次第願下ケ可仕旨申  
出候<sup>ニ</sup>付其後も度々相尋候処如何間違候哉未受取書不相廻段申出  
候付任其意置候処右之通申来幸吟味席<sup>ニ</sup>付市郎左衛門呼出立合右  
之通<sup>ニ</sup>遂吟味候

先達<sup>ニ</sup>今申上候通八郎兵衛と申も

西今町直屋市郎左衛門類代同人婿

のを以内濟懸ケ合相濟候段罷歸り

吹屋町瓜生原屋勘助

申聞候付同人申聞候通式百目差遣候

所夫<sup>ニ</sup>ハ不相濟候間今百五拾匁差

越候様申越候<sup>ニ</sup>付去ル十七日又々百

五拾匁差遣候段申之

并<sup>ニ</sup>式百匁ハ受取置候返書有之由申候<sup>ニ</sup>付右之旨委細相認右返

書差添早々可差出方一間違之義も有之候ハ、一兩日之内登坂

可致病氣<sup>ニ</sup>付未押<sup>ニ</sup>も難出候ハ、代人差出可申旨稠敷申付候

一人別帳年々之改と七ヶ年目之改も不致符合不調<sup>ニ</sup>付寛政十年年人

別帳<sup>ニ</sup>増減附紙いたし差出候様孫右衛門喜左衛門へ申付候

一一ノ宮市町<sup>ニ</sup>付参懸り拾壹人連大坂輕業芝居引受世話神主分被相

頼候<sup>ニ</sup>付罷越世話仕度願船頭町倉敷屋音松差出承り届候所同日受

負一札差出候

一一ノ宮市町同心組出役之ものへハ当役分昼弁当代差遣来<sup>ニ</sup>候処徳  
守宮祭礼之節も自分弁当<sup>ニ</sup>被仰付候事故一ノ宮市町弁当代ハ如何  
可被仰付哉と先月末出役之義も一諸<sup>ニ</sup>上原彦藏へ申立置候所其節  
組之者召連候雨具持杯も御年限中ハ不相応之義故彼は御評議有之  
候間右雨具持ハ無<sup>ニ</sup>不叶もの、様<sup>ニ</sup>被存候間猶御評決之上可申達  
旨被申聞候所今日左之通手紙来候

此間御懸ケ合申候一ノ宮出役同心組雨具持之義是迄之通召連

候<sup>ニ</sup>宜候且又先日御申置之弁当代之義御趣意通り外並之通被

下置候間其段宜御取計可有之候已上

右之通申来外並と申義難解候<sup>ニ</sup>付直<sup>ニ</sup>罷越相尋候処左之通被申聞  
候

是迄当役分遣来候弁当代程以後ハ上分御渡被成候間其旨御心  
得御受取御渡可被成候尤御年限中之義計<sup>ニ</sup>無之以来後々年迄

右之通<sup>ニ</sup>御座候

同心組ハ夜食弁当代ハ芝居<sup>ノ</sup>受取候様先年被仰付候故右之通<sup>ニ</sup>  
ハ並方トハ甚之相違之旨申達候得<sup>者</sup>委細之訳不存候故外並ト申遂  
候<sup>者</sup>右之通是迄当役<sup>ノ</sup>相渡来候程上<sup>ノ</sup>御渡被下候心得<sup>ニ</sup>申達則  
勘定奉行へも右之通申達置候由申聞候付其段同心組へ申達置候

四月廿二日 雨 夜中大雨

一於牢屋六半時揃御徒目附仮役坂井万兵衛下目附植月慶藏小頭神田  
栄治部屋目附三船藤四郎出番江原文藏遠藤和四郎立合左之通取計  
也勿論郡代下代申渡帰村

博突致参会不届<sup>ニ</sup>付

五十敲帰村

成安村又右衛門忰五郎八  
同村茂兵衛下人新次郎忰千藏  
同村 六右衛門  
青山村 清藏

右取計濟御用番<sup>并</sup>大目付へ紙面<sup>ニ</sup>相届候

一昨廿日之夕和四郎義自分用<sup>ニ</sup>罷出候所橋本町山形屋喜八妻新婚  
<sup>ニ</sup>連廻り候趣人立も有之由<sup>ニ</sup>付若哉花麗<sup>ニ</sup>て無之哉夜分<sup>ニ</sup>難  
相分<sup>ニ</sup>付見答候所木綿無相違趣申候段届出候付喜左衛門へ申付内  
々監察為仕候処上着木綿木櫛木笄帯ハ絹類<sup>ニ</sup>も可有之哉聡と難  
相分候得とも織物之類<sup>ニ</sup>ハ無之大体質素之出立<sup>ニ</sup>及見候ものも  
有之由申出候付其分<sup>ニ</sup>致置候

一牢舎人源之助郡代所<sup>ノ</sup>呼出申来文藏和四郎相渡候処去り<sup>ニ</sup>相成  
候由

一新魚町南側<sup>ニ</sup>研屋万兵衛家屋敷表口三間裏行拾三間但七步五厘

役也東隣ハ黒田屋十吉西隣ハ樫野屋助右衛門也右家屋敷之内裏南  
詰<sup>ニ</sup>東西三間南北五間右之内<sup>ニ</sup>老間半<sup>ニ</sup>四間也建物共<sup>ニ</sup>御役  
式步附代銀百九拾匁<sup>ニ</sup>相極隣家樫野屋助右衛門へ壳渡度願承届

一新魚町北側<sup>ニ</sup>桶屋町通筋<sup>ニ</sup>西今町菱屋治助持分之家屋敷表口  
式間裏行六間但三步役也外<sup>ニ</sup>右裏行地並同組合桑名屋喜兵衛裏行  
通り東西式間半南北五間半但壹步役也南隣ハ鉄炮屋柳弥八桶  
屋町種屋坂之丞也右家屋敷代銀四百目<sup>ニ</sup>相極同組合布屋伊三郎へ  
壳渡度願承り届

一福渡町家持<sup>ニ</sup>原田屋治兵衛夫婦<sup>ニ</sup>後家娘孫式人<sup>ニ</sup>家内五人暮  
<sup>ニ</sup>候処病難<sup>ニ</sup>付甚難渋候段願出候得共家持之義時之御救可願筋之  
もの<sup>ニ</sup>も御座候得共此節之義<sup>ニ</sup>付大年寄共為取計工面もの之内<sup>ノ</sup>  
三拾匁差遣度伺出承り届

一町分溝浚いたし候処追廻し伊藤主水下水屋敷地面大溝へ年々土流込  
水難通候段大年寄申出候付右之旨主水へ懸ケ合候所少も構無御座  
候間無遠慮如何候様共宜申付呉候様申聞候付其段大年寄へ申達候  
尤右土上ケ場無之候ハ、屋敷地面之内へ取上ケ置候様主水申聞候

四月廿三日 雨

一御用日登城

一院庄川留五時申来大年寄へ申達又同廿四日申刻明キ申来申達又  
一西今町直屋市郎左衛門大坂<sup>ノ</sup>滞銀出訴<sup>ニ</sup>付一昨日相糾候趣弁書<sup>并</sup>  
大坂へ銀子相廻候返書指出候<sup>ニ</sup>付御用番中へ差出今晚之御使<sup>ニ</sup>長  
沢清左衛門可差遣旨相伺候所御聞済<sup>ニ</sup>付大目附へ相届置其段大坂

江及返書

一因州知頭郡用ケ瀬平八娘かね義西新町田野村屋久米吉妻ニ引受  
度人別人願御用番御聞濟ニ付大目附ヘ差出置御聞届申達候五月廿  
四日住宅証文差出

一備前邑久郡長船村作右衛門悻平吉夫婦式人二階町山手屋利兵衛家  
守石右衛門引受度人別人願右同断取計濟五月九日住宅証文差出

一戸川町年寄助左衛門先日病死ニ付諸役悻幸右衛門ヘ申付度伺出承  
り届

一元魚町豊島屋伝治所持之旅人宿屋株当子之年一ヶ年林田町福吉屋  
安右衛門安右衛門借り受商売仕度願承り届

一御払米正銀四拾七匁 落札高瀬屋勘右衛門木和屋源兵衛 町米正  
銀四拾三匁

一御藏米四拾七匁 町米四拾三匁  
一ノ宮田植祭ニ付例年之通組差出候段昨日大目附ヘ可相届候処致  
失念ニ付今日紙面ニ而相届候

一一ノ宮田植祭ニ付小頭栄治出番利右衛門嘉七見習勇藏差出候所無  
別条引取今日ハ大雨洪水ニ而一向參詣無之旨届出候

四月廿四日 快晴

一深信院様明廿五日四時御供揃ニ而 藺田町通り泰安寺妙法寺ヘ御仏  
參候旨種村登門ノ通用有之大年寄小頭ヘ例之通申達候

一稻荷山草薺去ル廿日相始候段届出候処昨日迄ニ相濟候段今日届出  
候

一教心町講尺明廿五日夜ノ相始候段喜左衛門伺出承り届惣町<sub>江</sub>も行  
届候様相触可申旨申達候

一明日吟味取計候所一ノ宮<sub>并</sub>深信院様御仏參ニ而 組致不足加人式人  
当日切申達候所福井小左衛門植月清藏来

一牢舎人源右衛門郡代所ノ呼出申来出入共利右衛門取計之

一円宗寺村九十郎順藏弁藏新吉土居村久助小座村要吉右六人牢番預  
ケ郡代所ノ申来利右衛門差向取計之夜入罷婦

四月廿五日 曇

一深信院様御仏詣無滞相濟候段御先払和四郎小左衛門届出候

一八時ノ新左衛門榮治藤四郎利右衛門嘉七立合左之もの口書爪印取  
之

口書爪印取之

牢舎人無宿盜人新兵藏  
同 同 大鉄

一昨廿四日一ノ宮市町出役藤四郎和四郎無別条引取候段昨晚届出候  
認落候ニ付爰ニ記ス

一加茂小中原村ニ而 明廿六日ノ廿七日夜迄芝居致興行候建札いたし  
候由郡代所ヘ申出依之市郷触達被相伺候何濟之由郡代所ノ通用  
有之依之停止之町触先格之通差出候尤目明ハ不差出候

一一ノ宮市町出役庄藏幸治五時罷歸り東在福井之ものを表組下番致  
打擲彼是申候得共内分ニ而 相濟候段届出候

一大工惣兵衛口書印形之義去ル十八日認置候通之義ニ付喜左衛門ヘ  
監察申付候処大村屋源右衛門手先之ものを以惣兵衛所存承り候所  
決<sub>而</sub> 左様之義ハ無之如何ニも得心之事之由申之尚又彦左衛門をも

承り候所是以同様之義ニ而 少も不得心之義ニ者 無之由申之依<sub>而</sub> 源  
右衛門義材木町年寄河内屋武兵衛ヘ承候所少も間違之義ハ不承候

由申候趣喜左衛門申聞<sup>并</sup>義兵衛義も小頭部や目附藤四郎を以爲相  
糺候所是又同様之趣申出全席一統ニ付右之趣被仰聞候方々へ申上  
置<sup>并</sup>伺書も自筆ニ<sup>而</sup>可差遣御沙駄之由承之伺書自筆ニ<sup>而</sup>相認石大  
工一件伺書御用番中へ差出候

四月廿六日 曇 昼後晴

一 種油直段四匁五分売之処四匁売ニ仕候段届出承り置

一 伊藤主水追廻し下屋敷溝浚之義勝手次第と申達置候処猶又申出ニ

<sup>者</sup>屋敷地面溝之内へ押出し有之東西之並ニ<sup>いたし候得<sup>者</sup>作物迄も</sup>  
切落候様ニ相成石垣も式尺計ニ<sup>者</sup>不致候<sup>而</sup>ハ不相叶趣ニ<sup>而</sup>さつと

積リニ<sup>而</sup>も三四拾匁計も入用懸り候趣ニ<sup>而</sup>難渋之義ニ<sup>者</sup>候得共水

はけ不宜候<sup>而</sup>町中ニ難義ニ<sup>も</sup>相成候事故九町分いたし候事故構

も無之義ニ候ハ、可申付哉と申出候ニ付右之旨主水へ及面談候処

如何様ニ相成候<sup>而</sup>も少も構無之候間宜申付呉候様被相頼候ニ付其

段大年寄へ申達候

一 式町目馬持善七持馬落候段届出候付勝手次第取捨候様申達候

一 一ノ宮出役文藏嘉七見習源藏夜ニ入罷歸り別条無之段引取候段届

出候

四月廿七日 快晴

一 円宗寺村下分弥吉義咎牢舎郡代分申来文藏差向取計之

一 橋本町中屋忠七借屋住真島屋庄吉<sup>并</sup>同人母右家内式人去ル十四日

夜出奔仕候段届出候付例之通百日尋申付候

一 一ノ宮市町ニ付当所柳土手拾人連万歳芝居を話仕候様神主分被相

頼候ニ付参り込世話仕度旨桶屋町池淵屋齋治願出承り届追<sup>而</sup>請負

一 札差出

一 一ノ宮出役藤四郎利右衛門無別条引取候段五ツ前時罷歸り届出候

四月廿八日 快晴

一 御用日登城三奉行一日御用所へ例之通罷出当日御祝義申上畢<sup>而</sup>御

用向申上之

一 昨夜更廻り文藏嘉七幸治和四郎差出候所無別条旨小頭栄治義御家

中関貫相改候処是又無別条旨今朝届出候

一 桶屋町綿瀬屋甚助家守樽屋吉兵衛役介林藏夫婦娘右家内三人致出

奔候旨正月十四日相届候所<sup>（ハヤ）</sup>行衛不相知最早百日余ニ<sup>も</sup>相成候ニ

付除帳願御用番御開濟ニ付大目附へ指出置御聞届申達候

一 大久保安芸守殿領分当国久米南条郡藤原村庄吉妹ちよ同人悴政吉

右式人芋町打穴屋長兵衛役介ニ引受度人別人願右同断取計済五月

十六日住宅証文差出

一 因州知頭郡用ヶ瀬村百性利兵衛娘くに義芋町作人久太郎妻ニ引受

度人別人願右同断取計済右同断

一 布施孫三郎殿支配所当国西々条郡貞永寺村勝次郎一人京町阿波屋

弥兵衛役介ニ引受度人別人願右同断取計済五月十六日住宅証文差

出

一 芋町大工治助安岡町大工喜兵衛喧嘩一件致内済候段願下ヶ願書御

用番中御開濟ニ付大目附へ指出置右兩人共大年寄宅へ呼出番利

右衛門差向手鎖差免候尤願書差戻候

一 於御用所御用番御年寄左之通申渡候大目附出席 町奉行へ

一 博奕宿いたし不届ニ付百 円宗寺村下分 源右衛門

敲婦村申付候

同村弥吉倅

九十郎

同村文右衛門倅

順藏

右ハ源右衛門方ニ而博奕

同 甚助倅

弁藏

参会いたし候不届ニ付五

同 惣助倅

新吉

十敲婦村申付候

土居村下分伝吉倅

久助

小座村上分

要吉

右之通取計可被申候 右ニ付郡代申談来月三日取計可申段大

目附へ相届置小頭へも申達置候

一 香々美中村市左衛門方ニ羽出西村和助と申もの日雇ニ差置候所去

ル廿一日之夜衣類五品式拾四匁三分計之もの致取逃候触流大目附

今達有之町触取計本書ハ大目附中へ差戻候五月五日町方ニ無之段

届出候

一 大目附分痢疾除御薬被下候間久原甫雲井上広哲分受取例歳之通可

被相渡候旨被申聞久原甫雲分受取大年寄へ相渡都合七千四百五拾

貼内五拾八貼組中へ相渡牢舍人江も相渡

一 雲州もの九市并 林田町鉄治入用市郷引合之義ニ付存寄書差出置候

所上原彦藏分左之通両役江一緒達有之候

雲州九市并 下高倉村鉄治出用市郷出入之義熟談不出来趣被申

聞候得とも御差図可有之筋之義ニ無之ニ付先日差出候存寄書

御返し被成候

一 牢俊文蔵幸治差向候所無別条旨届出候

一 一ノ宮出役小頭栄治并 嘉七和四郎無別条引取候段届出候

一 大目附廻状到来左之通町中組中へ相触候

加茂川筋御留場押入築場今本郷村之内植田迄建札之間網殺生

致間敷候

四月廿九日 快晴

一 播州網干唐納屋左七七人例年之通小間物反物売ニ来候段林田町福

吉屋安右衛門宿切手指出五月廿九日帰

一 播州網干天満屋義兵衛七人例年之通反物卸売来候段右同人宿切手

差出九月廿四日帰ル

一 大坂立売堀二丁目播磨屋惣吉七人例年之通小間物売来候段右同人

宿切手指出五月廿九日帰

一 一ノ宮市町出役幸治藤四郎無別条引取候段届出候

一 関貫番賃銀例月之通当番分相渡候

五月 庚午 小

月 番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 海老原極人殿

大目附 赤見類助

大年寄 蔵合孫左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

小頭 本島庄蔵



五月朔<sup>辛</sup> 且 快晴

一御用日登城

一御用番中御達有之由<sup>ニ</sup> 而 赤見類助誘来極人殿御宅へ同道<sup>ニ</sup> 而 罷越候処左之通被仰渡候尤大目附出席

主人方<sup>ニ</sup> 而 盜相働<sup>(マ)</sup>至届至極<sup>ニ</sup> 付五十敲之上 無宿盜賊新藏

御領分追払申付候

右之段御受いたし来ル三日取計候様夫々<sup>江</sup>相達候

一教信講釈昨廿九日之夜切<sup>ニ</sup> 而 相濟候段喜左衛門届出候此度ハ甚人数少<sup>ニ</sup> 有之候由

一ノ宮町出役栄治文藏<sup>見書兵衛</sup>〇無別条引取候段届出候

一中之町西屋治右衛門借屋住きよ娘きの義<sup>寛政上申十七月廿八日</sup> (先達<sup>ニ</sup> 林田村九助妻<sup>ニ</sup> 指遣候所此度離縁仕罷帰候付帰住人別人願下方引合相濟候段申出承り届

五月二日 快晴

一真島郡月田村園吉と申者元魚町大庭屋善兵衛方へ来候付四五日逗留為仕度願差出候承り届同六日帰届

一子午人別改帳郡代所<sup>ニ</sup> 而 市郷致合帳相廻り致印形指戻候但人数左之通

市郷惣人数 式万六千三拾式人<sup>但合帳ニ召仕等も認家ニ町方改ニ召仕ハ無之ニ付其段大目附へ相届候得共</sup>

内町分六千六百人 在分巷万九千四百三拾式人

寛政十年年改と引競候得<sup>者</sup> 町分式百八拾式人減在分式百七拾

壹人減市郷合五百五拾三人減ス

一ノ宮市町出役藤四郎和四郎見習勇藏無別条引取候段届出候

五月三日 快晴

一於牢屋六半時揃御徒目附山本弥七郎下目附小林園右衛門郡代下代

足輕同心小頭庄藏部屋目附藤四郎出番文藏幸治立合左之通取計之

先月廿八日御達有之候田宗寺村博奕之もの

宿 源右衛門

一百敲婦村

一主人方<sup>ニ</sup> 而 盜相働<sup>ニ</sup> 不届至極<sup>ニ</sup> 付

五拾敲之上御領分追払

無宿盜賊 新藏

右取計濟出仕之上御両所へ相届候尤新藏盜取候品々取上ケ釜

屋六郎右衛門へ相渡候様大年寄へ申達候

一美濃職人町作人治助借屋住新屋甚藏義正月十九日出奔届出百日尋

申付置候処弥行衛<sup>(マ)</sup>不相知最早百日余ニ相成候付除帳願御用番中御

開濟ニ付大目附へ差出置御開届申達候

一京都烏丸通六角下ル所二文字屋九兵衛悻清治郎一人元魚町海老屋

長右衛門役介ニ引受度願右同断取計濟同十七日住宅証文差出

一大工一件諸事伺之通取計候様御用番中今被仰出候ニ付大目附へ相

届置候

一追廻し伊藤主水下水敷之溝堀浚候処溝縁流込候ニ付追廻し之芝貰

度旨申出候段大年寄申聞候付大目附へ申達候所随分不苦候間道ニ

而も馬場ニ而も勝手次第取候様被申聞候ニ付其段大年寄へ申達候

一播州今市綿屋嘉市郎一人例年之通呉服売来候段新職人町松の屋十

右衛門宿切手差出十一月廿六日帰ル

一 大坂心齋橋境町南へ入播磨屋清八手代久兵衛右式人瀬戸物算盤煙管古金買ニ來候段右同人宿切手指出石ハ去ル三月廿八日聞届之も  
のニ而此度初ニ來ル七月二日帰

一 同心組先月中臨時出役昼扶持壹斗八升七合五勺受取証文差出奥書取計之

一 一ノ宮市町出役利右衛門嘉七無別条引取候段届出候

一 新魚町中之横町元魚町へ通り東側ニ而姫路屋元藏所持之家屋敷表

一 口三間半裏行拾七間但半役也北隣ハ作人万四郎南ハ大溝也右家屋敷代銀札百目ニ相極隣家百四郎へ売渡度願承り届

一 牢舎人大工伝兵衛病氣申出大年寄へ申付候所植月友輔へ申付候段届出候

一 牢舎人共宿分痢疾除之御薬相廻候付可為給哉と牢番伺出承り届猶又甘貼久原甫雲分受取牢舎人不残江差遣候様申達清右衛門へ相渡候

五月四日 快晴

一 大坂長沢清左衛門分直屋市郎左衛門滞銀之義申遣候返書來

一 一ノ宮市町出役庄藏文藏和四郎罷出無別条今日切ニ而引払例歳之通立合相改引取候段届出其段大目附へ相届候

一 一ノ宮市町相濟候ニ付例歳之通之町触昨三日差出候  
五月五日 雨

一 御年限中ニ付端午御祝儀登城無之依之一巳之礼ニも罷出諸事上巳之通

一 明六日大工一件御裁許可取計ニ付夫々手配申達同心組不足ニ付加

人式人明六日当日切被相渡候様大目附へ相達候所高木武兵衛植月宇四郎來

一 札元共一ノ宮市町中出役無滞引取候段茂渡庄右衛門届出候

五月六日 快晴

一 於御用屋敷六半時揃新左衛門庄藏栄治出番文藏和四郎幸治嘉七武兵衛宇四郎并孫左衛門喜左衛門立合左之通申渡之

一 常々兼而之申付を不相用 材木町 大工 義兵衛

一 以前之悪風を不改仲ケ間 細工町 大工 藤吉

一 連印を以不法之義共申合 西今町 大工 伝兵衛

一 我俣ニ同職之もの杯差留候処今般大工庄兵衛を相手取り養子様替杯と申立謀計を以非分ニ可落と相巧他邦迄も及懸

一 合候始末不届至極ニ付御領分追払申付候

一 右一件携無之候得共夫追 右義兵衛妻

一 払ニ相成候ニ付御領分立 右藤吉 妻

一 去り申付候

一 右同断ニ付御城下巷里四 下紺屋町 大工 藤助

一 方追払申付候

一 右四人家屋敷家財ハ役介并親類江差遣候

一 右同断ニ付職分差留手鎖 細工町 大工 新六

一 之俣追込申付候 中之町 同 新兵衛

一 但日数三十日 材木町 同 彦左衛門

同 同 喜兵衛

同 同 宗兵衛

一右一件ニ付追込申付候

安岡町 大工 喜兵衛

但日数廿日

細工町 同 治助

橋本町 同 宇兵衛

一右一件ニ付追込申付候

材木町 大工 重右衛門

但日数十日

京町 同 重藏

同 同 鶴藏

同 同 安之丞

元魚町 同 平三郎

一惣大工共同職之者我俣ニ

大工棟梁 材木町 伊兵衛

差留之義乍及相談不承分

同 細工町 弥五郎

ニ可致置杯と申候趣全同意之事ニ相見<sup>江</sup>常々舟方不宜処<sup>マ</sup>分

惣大工共風義不相改今般之及仕義不届至極ニ付役義取上ケ

追込申付候 但日数廿日

一大工共分備前へ差遣候書状大熊鞞負殿家来渡部八十助謀書

と乍存義兵衛任頼認遣候不埒至極之事ニ候依之帶刀取上ケ

御城下忝里四方追込申付候

一無願養子浅治義内々ニ而引受 戸川町 大工 庄兵衛

仲ヶ間へハ願濟と致披露候処分般之及仕義不届至極ニ付

手鎖之俣追込申付候 但日数三十日

一大工一件吟味相濟差構無

之ニ付他參留差免候

一差構無之

右八十助妻ハ御主人方ニ而御城下忝里四方立去り被申付候

様ニ談置取計濟及案内候

右ニ付左之通町触差出候

一去々戌十二月分他所大工町方ニ而雇候義差留置候所今般猶

又自他共入込ニ申付候間銘々勝手次第相雇可申候

右之趣大工共并惣町中へ可被相触候以上

右之通取計相濟候段御用番并大目附へ相届候

一二階町分材木町迄之内御堀石垣草取申付候間御作事へ御達候様大

目附へ相達候

一仮目明倉敷屋惣兵衛昨日切ニ而今日分差免候様小頭へ申付候

一大坂長沢清左衛門分去ル三日出之書状来着直屋市郎左衛門滞銀五

百九拾四匁八分式厘之処三百五拾匁相払残銀式百四拾四匁八分式

厘致用捨以後無申分内濟仕候段濟口一札油屋新兵衛分差出候付去

ル二日御番所へ訴状返上相濟候段申来御用番中へ差出候<sup>候町分今六月朔日差出</sup>

一惣町溝見分并御帰城御道見分兼小頭<sup>取紙訂正</sup>蔵部屋目附栄治大年寄源五

兵衛諸吟味喜左衛門差出候所無別条少々之損ハ早速申付候旨届出

候

一京町原田屋伊兵衛義備後福山大黒町庵屋宇兵衛方へ四十五日計之

逗留ニ而明後八日罷越度願承り届大年寄差出

五月七日 雨

一牢舎人公郷村兵藏郡代所分出牢帰村手形相廻り出番藤四郎差向取

計之

一牢舎扶持三俵之内貸証文奥書取計之尤六月へ七合五勺持越積也

一渡部八十助二月廿四日分五月六日迄揚屋賄入用六拾四匁六分壹厘

五毛之仕切証文差出候奥書取計之

一 仮目明酒代<sup>并</sup>目明共他領富芝居差遣候入用<sup>并</sup>非人共捕もの<sup>ニ</sup>差遣候入用合<sup>而</sup>四拾貳匁九分一厘六毛之受取証文奥書取計之

一 一ノ宮市町同心組警固出役<sup>并</sup>当代拾七匁四分受取証文奥書取計之  
尤見習<sup>江</sup>も相渡候先格也右ハ是迄当役分差遣來候所当年分初<sup>而</sup>上  
払<sup>ニ</sup>相成候事

一 明八日之御用日明後九日<sup>ニ</sup>相成候段大目附分申來候

五月八日 曇

一 御奏者番廻狀到來左之通則組中へ為相知大年寄へ廻勤之義先格之通申達候

從江戸表飛脚到來大守様益御機嫌能被成御座去月十八日為上

使神尾市左衛門殿御越御国許<sup>江</sup>之御暇被仰出如例御拝領物被

成從大納言様為上使水野虎之助殿御越御拝領物被成候段申來

候且又同廿二日晚御老中御在名之御奉書御到來翌廿二日御暇

之御礼首尾好被仰上御懇也以上意御馬御拝領被成候段申來候

依之為御歎明後九日御徒格以上<sup>并</sup>登城相濟候部屋住<sup>ニ</sup>至迄四

時登城可有之候此旨同役同列組合<sup>并</sup>支配方へも可被相達候以

上

五月七日御奏者番四人

五月九日 曇

一 御暇被仰出候恐悦申上<sup>并</sup>御用日<sup>ニ</sup>付麻上下着用御徒格已上部屋住

迄四時登城於七間廊下例之通御奏者番分三奉行迄一同罷出御小性

頭代謁御暇被為蒙仰御拝領物被成御礼も御首尾好被仰上候恐悦申

上之統<sup>而</sup>御前様<sup>江</sup>も御同様恐悦申上之畢<sup>而</sup>三奉行計御用所<sup>江</sup>罷出  
恐悦申上之引懸ケ大目附へ恐悦及挨拶

一 八時分牢屋へ相越新左衛門庄藏藤四郎出番幸治和四郎立合左之も  
の遂吟味候

穢多頭呼出し責道具取飾穢多へ<sup>元尾上八十七長屋住当時無宿宇兵衛</sup>

引渡責ル計<sup>ニ</sup>取計嚴敷遂吟味候得共不及白狀如何様強<sup>而</sup>悪事

無之趣<sup>ニ</sup>付夫切<sup>ニ</sup>いたし口書爪印取之

一 無宿盗人直治と申もの目明弥吉召捕差出候付今日於牢屋遂吟味候  
処当所<sup>ニ</sup>盗相働候義<sup>者</sup>無之候得共当所案内之もの<sup>ニ</sup>付追々可引  
入差含之趣<sup>ニ</sup>相聞候付左之通申付

入牢申付候 無宿盗人直治

右之段御両所へ相届候

一 石州銀山領御代官大岡源右衛門殿支配所近摩郡<sup>彌摩郡</sup>大森町兵左衛門娘

関義中之町西屋治右衛門借屋住中津屋清助妻<sup>ニ</sup>引受度人別人願例

之通取計濟同十五日住宅証文差出

一 野隊異名大鉄事宇八義証気<sup>ニ</sup>も相成候付式百文差遣御領分追払可

申旨伺書差出候処早刻伺済<sup>ニ</sup>而宜取計候様被仰候<sup>ニ</sup>付大目附へ相

達勘定奉行へ式百文被相廻候様懸合置

一 牢舎人下高倉村代治郎牢賄牢屋<sup>ニ</sup>而取計呉候様郡代所分頼來牢番

へ申付候

一 備前邑久那藤井村徳兵衛一人縁類之もの<sup>ニ</sup>付來候間來月中逗留為

仕度願新魚町大工屋太助願書差出承り届六月廿四日帰ル

五月十日 雨

一 石松院義二階町於兼住所庚申堂ニ三日之間カラクン鳥を御家中へ

入御覽度願所差出寺社取次三浦十郎左衛門へ相談之上此御時節之

義故御聞届無之方可然哉と御用番中江相伺候処何之通可為無用之

旨被仰出願書差戻候右ハ上紺屋町富沢屋又兵衛引受世話仕度願書

差出是又差戻候○右之通庚申堂ニ見世物いたし先例明和二酉五

日孔雀為見候節兩役所へ願書差出候所寛政十一未五月孔雀為見候

節ハ取計違ニ役筋江者願書不差出甚間違之事ニ地所ニ付候方

可願答ニ先格ニ候以後之心得之為記置候

一 深信院様明十一日四時御供揃ニ藪田町通り泰安寺へ御仏參被成

候段種村登門今申来先格之通小頭并大年寄へ申達候○藤四郎和四

郎十一日罷出候

一 二階町分材木町迄御堀石垣草取御掃城前ニ付取計候様大年寄へ先

日申達其旨大目附へも御作事へ御達被置候様相達置候所今日御作

事へ懸ケ合宰領出候付草取仕廻候旨大年寄届出候

五月十一日 雨

五月十二日 雨

一 大目附廻状到来左之通

從江戸表飛脚到来大守様昼御機嫌能当月二日御発賀被遊道

中無御滞候得者来ル十七日土居駅御泊ニ十八日御城着之

御積之旨申来候

一 火之用心之義兼被仰出候得共御城着前後別而入念可被申

付候尤万端相慎可被申候

一 御城着之節御城内可為人込候間銘々供之者御城内ニ指置申

間敷候猶又喧嘩口論等別而相慎候様可被申付候

五月十二日大目附

右廻状写取組中へ差出町方江一昨年之通触書差出候

一 橋々ニ納涼停止之町触例歳之通差出

一 桶屋町年寄大坂屋彦市病身ニ相成退役無余義趣ニ付承り届諸役俵

京右衛門へ申付度伺出是又承り届

一 三町目次田屋善右衛門家賃滞百五十日限済方去十二月十二日申付

置候所双方連印ニ当月中日延願差出承り届六月朔日内済願下ケ

承り届

一 御掃城ニ付町方取計書を以大年寄伺出先格之通ニ宜旨及差図尤

当年者風廻り無之御徒目附下目附ハ川辺今替り合例歳無之事故

右兩役不及立宿旨申達又右之通申申達置候所翌十三日大目附赤見

類助分御先を相勤候御徒目附代り合を申義ハ例歳無之候得共御掃

除為見分御徒目附老人朝五時分東新町へ差出置御城着前致見分罷

帰りニ付立宿入用ニ候得共当年御年限中ニ付御城着前京町御門

分罷出東新町迄致見分直ニ罷掃候様申付候間不及立宿旨申聞候

五月十三日 雨

一 御用日登城

一 院庄川留り卯中刻申来大年寄へ申達ス十四午ノ中刻明申来大年寄

へ申達ス

一 備前津高郡中山村幸八弟喜助義去亥三月五日茅町今出屋庄助養子

ニ引受候処離縁仕親元へ差戻度除帳願御用番中御聞済ニ付大目附

へ差出置御聞届申達候

一 於御用所御用番御年寄左之通申渡大目附出席

五月十五日 雨

盜賊相働候ニ付五十敲之上御領分追払 無宿 宇兵衛

一 大井川去ル六日御機嫌克御渡川被成候御飛脚到着之御沙駄ニ候

申付候此段可被取付候

一 御帰城ニ付在方寄七馬三疋明後十七日今被仰付候様申出候間大目附へ相達郡代所<sup>江</sup>も申遣候

右被仰渡相濟候所大目附今少故障之義有之候間御城着前取計ハ致

一 土居勝間田今先格之通宿馬借りニ来先格之通承知之旨及返書候段

延引候様被申聞候尤右ハ尾上八十七名前も口書中ニ有之取計濟候

一 三町目南側ニ而太刀屋久治持家表口四間裏行拾七間但彦軒役也西隣ハ次田屋善右衛門東隣ハ久治居宅也右家屋敷代銀壹貫五百目ニ

得者 同人義差扣相伺候間御城着之砌御拜領御馬取計も有之候事故

一 相極上紺屋町今川屋庄七へ売渡願承り届翌十六日沽券状差出

差出候様ニ被聞届候

一 一元魚町延屋三治借屋住北原屋長七悻治助義寛政十年九月十四日大坂へ奉公ニ参り享和二戌二月廿七日追願差出候所罷帰候段届出候

一 大目附今左之通演達有之候

一 二階町畑勘平義病身ニ相成御用向難相勤悻虎吉へ被仰付被下候様去ル三月廿三日勘定奉行今伺濟ニ而勘者今御聞届候旨申

達候由ニ付已来御扶持方御相印苗字旅帶刀門松御差留候間其

段可相心得旨被申聞其段大年寄へ申聞郡代所<sup>江</sup>も門松之義申

遣候右ハ何方今も沙駄無之ニ付相尋候所右之通ニ候

一 御帰城前敲等之取計ハ不致義ニ者無之哉と御用番中今御尋有之取

調候所天明四年六月十六日<sup>并</sup>一昨戌年御初入前<sup>并</sup>去ル三日ニも敲

取計其外数多例有之旨申上候

一 鍛冶町鍛冶屋太郎吉同伊之助同又兵衛同豊吉同民之丞同清吉同新

一 境町三津屋平右衛門改印願承り届印鑑書役へ相渡置候

藏同茂三郎同亀吉山外屋新四郎小鉄屋善吉右拾壹人伊勢參宮四十

一 院庄川留り郡代所今成ノ中刻申来大年寄へ申遣十七日辰ノ中刻明

日計之逗留ニ而明十四日出立願大年寄承り届差出六月廿四日帰ル

申来右同断取計

一 御帰城前ニ付来ル十六日今日勤相成候段大目附今三浦へ演説有之

候

候

一 御先手組原武兵衛役介とみ義西新町余塩屋文左衛門悻辰右衛門妻

五月十四日 雨

ニ引受度人別人願承届

一 御用日登城今日今日勤ニ相成り候

一 晴曇少時雨

一 御先番市村九助到着之田

一 於牢屋六半時揃小頭庄藏部屋目附藤四郎出番利右衛門幸治左之通

候

五月十六日

五月十四日 雨

晴曇少時雨

一 御先番市村九助到着之田

一 於牢屋六半時揃小頭庄藏部屋目附藤四郎出番利右衛門幸治左之通

取計之

狂氣之義とハ乍申小盗いたし不届ニ 野臥異名大鉄事字八

付御領分追払申付候畢ニ鳥目式百文差遣候

右取計済出仕之上御両所へ相届候

一 材木町大工重右衛門京町大工十藏鶴藏安之丞元魚町平三郎右五人  
追込昨日迄ニ而十日ニ相成候ニ付今朝大年寄宅ニ而差免其段出仕  
之上御両所へ相届候

一人馬問屋申出候由ニ而大年寄申出候者土居勝間田分ハ御通行之度  
毎ニ年々宿馬昨日之通申越候得共佐用駅ハ以来不申越候共御通行  
之度毎ニ拾五疋ツ、相廻呉候様兼ニ而之約束ニ付不申越候共可差遣

筈ニ付差遣度勿論未伏見分ノ御便も無御座御城着之御日取も難計  
哉ニも候得共御定日明日ハ佐用駅御通行被成候事故今朝不差遣候  
ニ而ハ御間ニ合不申候間可差遣旨伺出候段大年寄申出左様之義ニも  
候ハ、兼ニ而約諾之通無間違相廻候様可申付候旨大年寄へ申達候

一 備前盤梨郡鍛冶屋村紋治と申もの家内五人寛政七卯年二月廿三日  
茅町坂元屋佐助後家借屋住八十七引受人別人願濟ニ而上紺屋町灰  
屋借屋ニ住居仕候処右借屋不明渡不埒候ニ付先達ニ而八十七へ引取  
申付置候所同人組合も不承知ニ而不差置何方ニ而も借屋貸不申右  
ニ付在所へ罷帰候様申候得共不罷帰甚難渋仕候段八十七并組合分  
願候ニ付出生請人上紺屋町作人岩治相札候所當時ニ而ハ受人ニ不  
相立候旨届書差出候ニ付右体之不埒ものニ付立去り申付国元へ罷  
帰候様可申付旨御用番中へ相伺候所早刻伺濟ニ付大目附へ相届置  
大年寄へ申達ス

其方義上紺屋町灰屋借 茅町八十七へ引渡置候紋治へ申渡  
屋明渡之義及不埒候ニ付先達ニ而受人ハ引渡申付候処其後住所  
不相定不埒ニ付立去り申付候早々国元へ可罷帰候○但悴夫婦  
已上家内三人減也

一 宗旨奉行古谷嘉左衛門分例年之通宗門改案朝相廻り大年寄へ相渡  
候

一 德守宮地子居宮脇町松の屋伝助俸利吉義当月六日出奔仕候段届出  
百日尋申付ル

五月十七日 晴曇  
一 御用日登城

一 戸田采女正殿領分濃州大垣中町油屋庄八俸万助義三町目一文字屋  
伊三郎引受度入別人願御用番中御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届  
申達候同十九日住宅証文差出

一 伏見分ノ御飛脚昨日可到着之所齋崎川差支龍野へ廻り今未ノ中刻  
到着之御沙駄ニ候

一 土居駅へ宿馬式拾疋之積今朝相廻候由大年寄申出候  
一 明十八日御帰城ニ付左之通書付差出候

一 町奉行立宿 東新町山本三郎左衛門  
同下宿 榎屋利助

一 御先払同心組立宿 同町日笠屋市郎兵衛  
一 京町人留同心組立宿 京町戸島屋伝吉

同心組役割割左之通  
一 御先払 利右衛門幸藏四郎 掃除見分 文藏(但夜廻り兼) 東町人留 栄治

町分御懸り注進 和四郎 東町御懸り注進 庄藏 供 善七

当番 男儀但詰切

一 明日出役之義御用番中へ及御沙駄御貸人之義小勘者へ懸合置

一 御奏者番廻状到来左之通 従伏見之駅飛脚到来

一 大守様益御機嫌能被成御旅行明十八日御城着被遊候間御徒格

已上 并 登城相濟候部屋住ニ至迄五半時登城可有之候尤去歳之

通夫々詰所へ可被罷出候家督番代御礼無之面々 并 未御目見無

之面々被罷出間敷候

五月十七日御奏者番兼帯大目附四人

右之趣町中組中へ為相知候

五月十八日 晴雲

一 大守様御道中加古川満水ニ付大久保駅ニ一日御逗留被遊仍之今十

八日土居駅御泊ニ相成明十九日御城着被遊候旨大目附分演達有之

其段組中町中へ為相知候

一 御用日登城申上候御用向無之御帰城前ニ付町方之様子如何有之候

哉と御用番中分御尋有之候ニ付兼 而 此節ニも至り候ハ、難渋も可

仕哉と心配仕罷在候所存之外可也ニ取統候哉ニ相見へ此節別 而 盜

賊沙駄も不相聞至 而 御静謐御座候旨申上之

一 御帰城ニ付町方取計去ル十二日書附を以伺出候ケ条之内此方分不

申付大年寄場合 ニ 而 取計候ケ条左之通ニ付認置候其余ハ兼 而 申付

候通也

一 町中自身番ハ前四日後二日相勤候事

一 御当日御道筋こやし持運ひ無用可致廻状差出候事

一 非人頭呼出し火之用心入念相慎候様可申付事

一 土居御泊御立触承り注進罷帰候もの 壹人

一 勝間田御着御立 式人

一 川辺右同断 式人

一 兼田 御乗船り 御船上り 橋御溜り 式人

一 在寄七馬申出候事

一 小指式人佐用駅迄差遣候事

一 大橋掃除建札取候様橋本町へ申付候事

一 大年寄三人共例之場所へ罷出候事

一 御城着恐悦廻勤可申達事

一新左衛門庄藏藤四郎詰合左之通申渡之但奉書を以呼出候

其方義小頭役申付候兼々申付候通仲ケ間 堀内利右衛門

規矩を相糺万端入念可相勤候

五月十九日 晴

一 土居へ遣候遠見之もの昨夜八ツ時罷帰り昨十八日八半時土居駅 江

御止宿被遊今晩正七時御立被遊候御触承り罷帰候由大年寄分申出

承り置尤大目附へハ及噂置候

一 御城着ニ付御出迎五時出宅東新町山本三郎左衛門方へ相越扣居候

所九ツ半時過御機嫌克御城着被為遊玉琳枳形外北側例之場所へ罷

出御目見仕名披露御供頭児玉喜藤治○大年寄三人北側枳形之内例

之場所へ罷出ル○御通行相濟御跡ニ引統登城仕御滞無御座御城着

被遊引取候段郡代同道 ニ 而 御用所へ罷出相届大目附へも同断相届

候所大目附分演達 ニ 而 追付御目見被仰付御手熨斗被下候段被申聞



無程御目見相始候付七間廊下へ相廻候様御小納戸分申来御用所大目附三奉行檜之間衆於宮島之間先格之通席々へ罷出御家老中御取合<sub>ニ</sub>而御目見仕御手尉斗頂戴也

○右畢<sub>而</sub>三奉行御用所へ罷出恐悦申上之引懸ケ大目附へ及挨拶

○右畢<sub>而</sub>於七間廊下御小性頭代謁御奏者番分三奉行迄一同罷出御

前様へ恐悦申上之

○御小納戸分被為召候旨申来御次<sub>江</sub>相廻り候所三奉行一同御前へ

被為召銘々役筋之義御尋御座候間委細申上之

○平井半平<sub>并</sub>自分義ハ御幼年様御馴染之義<sub>ニ</sub>付一昨年御初入之節

ハ自分御機嫌伺<sub>ニ</sub>御次へ罷出候得共当年ハ不罷出方可然と申談

今年ハ自分伺<sub>ニ</sub>者不罷出候

○諸御式畢<sub>而</sub>七ツ半時過下城仕候

○大年寄札元町役御目見医師恐悦<sub>ニ</sub>罷出候

五月廿日 晴

一御用日<sub>并</sub>御目見御機嫌伺<sub>ニ</sub>付平服袴計<sub>ニ</sub>而四時登城於七間廊下御

小性頭謁御奏者番分三奉行迄一同罷出御目見御機嫌奉伺候

一備前津高郡大谷村吉兵衛忤彦兵衛義下紺屋町作人茂兵衛養子<sub>ニ</sub>引

受度人別人願御用番中御聞濟<sub>ニ</sub>付大目附へ差出置御聞届申達候同

廿二日住宅証文差出

五月廿一日 雨

一御用日登城申上候御用向無之

一御用日以来一五八<sub>ニ</sub>相成御飛脚八日廿一日<sub>ニ</sub>相成候旨大目附分演

説有之候

一播州有馬辻堂茂兵衛忤人例年之通墨筆白粉卸売来候段中之町甲屋  
幸助宿切手指出候八月四日帰ル

一備前岡山之上之町黒金屋嘉兵衛一人紙類荒物類紺屋形金通し張替商  
売<sub>ニ</sub>来り候右ハ当四月十二日御聞濟之もの<sub>ニ</sub>而此度初<sub>而</sub>来候段中

之町甲屋幸助宿切手差出六月廿三日帰ル

一中買頭金石衛門死去後跡役無之外<sub>ニ</sub>差当り<sub>仁物</sub>も無之<sub>ニ</sub>付金石

衛門忤常吉義未弱年<sub>ニ</sub>候得共伯父五左衛門後見仕<sub>并</sub>同役茂兵衛義

も別<sub>而</sub>心付万事一人役之心得<sub>ニ</sub>而可相勤候間同人<sub>江</sub>被仰付被下候

様申出候旨大年寄伺出承り届

五月廿二日 雨

一龍野御預り所役人平野七郎兵衛三沢清太夫分昨日飛脚指越先役造

酒屋共拾分一役米御免先規之通冥加米取立候様被仰出候<sub>ニ</sub>付小瀬

村吉右衛門分讓渡候当所島屋文七冥加米龍野役所へ相廻候様可申

付<sub>并</sub>酒造高天明八年之造高<sub>ニ</sub>不抱為致酒造右造高相届候様被仰出

候付右島屋文七造高龍野分相届候間是又龍野へ届候様申渡候様申

来候<sub>ニ</sub>付右冥加米之義ハ先々之通其御役所へ相納候様可申付候得

共造高之義讓受候以来年々此方之酒造高<sub>ニ</sub>相結公辺へ相届置候事

故二重<sub>ニ</sub>も相成候間早答<sub>ニ</sub>も難及候間江戸留主居共へ申遣候上<sub>ニ</sub>

而可及御報候旨返書相認昨日御用番中へ伺置候所思召無之伺之通

宜取計候様今九時被仰出候付其旨返書飛脚之者へ相渡候

一御小納戸小島定人分切紙<sub>ニ</sub>而明廿三日五半時被為召候間出仕候様

申来候

一西今町中横丁<sub>ニ</sub>而菱屋藤助所持之家屋敷表口式間裏行九間但三厘

五毛役也南隣ハ高松屋嘉右衛門北隣ハ本屋佐吉也右家屋敷代銀札  
百目ニ相極町内藤野屋彦助へ売渡度願承り届ル同廿九日売券状差  
出

一新魚町中之横丁東側ニ而作人万四郎家屋敷表口三間半裏行拾七間  
但半役也北隣ハ同居人居宅南隣ハ姫路屋甚右衛門也家屋敷實物ニ書  
入一ヶ月老步式朱之利足ニ而京町野田屋佐右衛門取次ニ而銀札五  
百匁来丑正月切ニ借用仕度願承り届文化八未四月十二日御戻候改  
書出ス

一三町目一文字屋伊三郎義兼ニ而呉服商売仕候ニ付右商内手馴居候者  
共上方夕呼寄召抱申候義ニ御座候仍之左之もの共

京都油小路一条上ル町播磨屋文藏倅佐助 同所室町錦小路  
上ル町松屋源七倅清助 同所小川下立売上ル町近江屋半兵  
衛倅新助 同所猪熊上長者町上ル町奈良屋治兵衛倅善助  
同所猪熊中立売上ル町奈良屋太七倅太吉 同所堀川下立売  
上ル丁永原屋久兵衛倅音吉 美濃国大垣中町油屋庄八倅弥  
助

右七人当子五月分来ル西五月迄十ヶ年之間伊三郎手前へ召抱置申  
度願書差出承り届  
一江戸神田加賀屋勘四郎上下三人御用ニ付来候間新魚町三沢屋与八  
方ニ逗留為仕度願承り届

一越中富山二丁目松井屋庄右衛門一人売棄売ニ来候段届出候右ハ当  
四月十二日西新町山家屋利右衛門願出候ものニ而今日初ニ宿切手  
指出正月五日帰ル

五月廿三日 曇時雨

一今五半時登城御小納戸中夕昨日申来御前へ罷出御用向申上之  
一札元武田七郎兵衛娘兼ニ而狂氣仕居候所此節父七郎兵衛義老病ニ而  
起居難叶右狂人起り候ニ而も制候もの無之ニ付甚難渋仕候間何卒通  
り之組もの分急度叱手鎖ニ而も被仰付被下候様孫左衛門を以新  
左衛門迄内々願出候ニ付輕きものニ候得者御沙駄ニも不及右体之  
教訓ハ取計候事ニも候得共御目見も仕候もの、役介之義ニ付其段  
御用番中へ内々申上置昼廻り文藏差向不孝之段嚴敷叱手鎖申付候  
様申付ル

一今般御用日一五八ニ相成候ニ付新左衛門出仕已来ハ朔望当日前日  
相除其余ハ是迄之通御用日当日前日兩日ツ、罷出候様申達ス  
一御奏者番廻状到来左之通

明後廿五日御目見被仰付候間御徒格以上ニ而小従人以上之嫡子  
之面々御目見相濟候十五歳以下之面々ニ至迄麻上下着用五半  
時揃登城可有之候此旨同役同列組合ニ而支配方江も可被相達候  
已上

五月廿三日御奏者番五人

追ニ而御帰城御供之面々ニ而出仕可有之候且又御城着御当  
日御目見相濟候面々ニ而御次勤之面々ハ役懸り之外不及  
出仕候以上

一大目附黒田忠三郎昨夜東武分帰着ニ候

五月廿四日 雨

一上紺屋町渡部玄端倅三隅義医術為修行京都清水祥助へ方へ当子年

今来ル寅年迄三ヶ年之間差遣度尤来ル廿七日出立為仕度願承り届  
卯三月廿五日帰届

一戸川町作人惣七家守新兵衛借屋住伊助後家義去亥八月四国遍路罷  
出不罷帰候ニ付当三月十日日延追願差出候所不罷帰行衛不相知趣  
届出百日尋申付候

一深信院様明廿五日四時御供揃ニ而藪田町通り泰安寺妙法寺へ御參  
詣被成候旨種村登門分通用有之大年寄并小頭へ例之通申達候

一隅田勇助来り雲州もの無宿風来ニ而町方ニ居右之ものと長屋もの  
と有遺恨趣内々申聞右遺恨之訳ハ内々之義ニ候得者可糺筋も無之  
不及貪着事ニ候得共無宿もの徘徊いたし候義ハ停止之義ニ付小頭

今日明へ申付内々監察為致処右之ものハ雲州神門郡杵築大土寺村  
和平次倅勝助と申ものニ而先年享和元酉十月十八日下紺屋町杵築  
屋吉助引受人別人相濟候処去亥六月十八日在所へ罷帰候由ニ而除  
帳之ものニ候処又々此節来り当時ハ唯四郎と申川島周広方へ日雇  
ニ参り元魚町松江屋勝左衛門方ニ居候由申出候付孫左衛門呼出し  
遂吟味立去り申付候様大年寄へ申付候

五月廿五日 晴曇時雨

一今日御家中御目見被仰付御徒格以上部屋住迄惣登城ニ候処三奉行  
已上ハ御帰城御当日御目見相濟候ニ付今日ハ御目見ハ不被仰付候  
得共惣登城御礼日ニ付麻上下着用登城仕候

一龍野分此間申越候島屋文七造酒株石高届之義江戸御留主居へ申遣  
候文通下案相認御用番中へ指出伺置候廿八日何之通被仰出同廿九  
日便ニ申遣候

一大工棟梁役并已来掟書相認御用番中へ相伺候処先日差出候大工一  
件御裁許伺書差出候様被仰御宅へ差出候

一大目附分左之通達有之候

一浅草火之御番先月廿三日無御滞南部大膳太夫殿へ御引渡相濟  
候此段申達候様御用番中御差図ニ候尤飛脚延着ニ而延引ニ相  
成候由ニ候

一川辺村喜内方へ去ル十四日盜賊這入衣類九品代ニ積三拾八匁五分  
位之もの盜取候触流取計候様大目附分達有之町触取計本書ハ差戻  
候六月十日町方無之段届出ル

一小座村下分栄治方へ去ル十三日盜賊這入衣類八品代銀四拾八匁五  
分位之もの被盜取候触流右同断取計濟六月十日町方無之段届出ル  
一深信院様御仏參無御滞相濟候段御先弘藤四郎庄藏届出候

一明廿六日五半時御供揃ニ而三ヶ寺へ御參詣被仰出御道筋例之通之  
旨中奥目附藤堂融四郎分通用有之小頭并大年寄へ先格之通取計候  
様申達ス

但町方ニ而ハ御装束御參御平日御參詣ニ不抱いつニ而も御仏  
參之節ハ二階町元魚町下紺屋町細工町上紺屋町鍛冶町宮脇町  
西今町茅町安岡町へ為相知所々之出口ノ辻堅メ申付候由孫  
左衛門申聞候○但御先弘大文字羽織也

一雲州風来もの松江屋勝左衛門方ニ居候由ニ而立去り申付候様昨日  
申付候所大年寄へ勝左衛門呼出し相糺候得共決ニ而居不申候由申候  
趣申出何れ直吟味可致程之義ニも無之ニ付目明共場合ニ而宜取計  
候様可申付旨小頭へ申付ル

一河原町大村屋源太郎借屋住人彦太郎義六拾六部回国ニ罷出度明廿六日出立仕来ル酉年迄十ヶ年之間回国願承り届尤右ハ孝子彦太郎事也

一元魚町東側ニ海老屋長右衛門家屋敷表口七間六寸裏行拾七間但式軒役也南隣ハ久里屋善兵衛南隣ハ大庭屋善兵衛也右家屋実ハ京都烏丸通り六角下ル所ニ文字屋九兵衛義数代御当地へ御出入仕候付同人俸清治郎出銀仕長右衛門名前ニ去ル西七月買受罷在候所右清治郎此度入帳仕候付同人名前ニ付替願差出承り届

五月廿六日 晴

一三ヶ寺御參詣無御滞相濟候段御先弘嘉七和四郎届出候

一材木町伊兵衛細工町弥五郎同町治助安岡町喜兵衛橋本町宇兵衛追込昨日迄ニ廿日ニ相成候ニ付今朝大年寄宅へ呼出差免其段御兩所へ相届候

五月廿七日 快晴

一大脇新左衛門義母方之叔父病死ニ付定式之忌服十日引込候段安田広治を以届出候

一牢舎扶持老俵之内貸証文差出與書取計之尤来月九日迄賄三合七勺五才残ル積り也

一大坂西天満渠鐘町時計師京屋勇藏と申もの一人十ヶ年已前ニも来候处此度元魚町紙屋助右衛門方へ来候付十五日計逗留為仕度願承り届

一元魚町福永屋源吾義大坂天満富田町山本柰太方当子ノ年今来ル酉ノ年迄三ヶ年之間身上柰ニ罷越度尤来ル廿九日出立願承り届卯四

月十九日又三ヶ年追願

一京町松岡屋茂右衛門方へ例年召抱来候越中富山壳薬師板屋利兵衛役介惣助平三郎式人以後八年々新魚町三沢屋与八方ニ是迄之通四月今十月迄壳薬為仕度願双方連印ニ差出承り届

一築前遠賀郡柏原浦小平次手代恵吉老例年之通茶碗類壳来候段京町田戸屋惣十郎後家宿切手差出

五月廿八日 快晴

一御用日登城

一備前邑久郡北地村伴十郎俸伴助義河原町沼野屋房夫ニ四年以前酉八月十三日引受候所今般離縁仕罷帰度申候ニ付差返旨人別除願例之通取計濟

一京町原田屋嘉四郎弟紋四郎義御代官重田又兵衛殿支配所当国大庭郡原方村里恵方へ為引越度人別除願右同断濟

一大工共当春庄兵衛と致取合候節下目附分風聞書差出大目附分御用所へ被差出右書付当役へ御渡被成候所返上候様被仰出極人殿へ返上仕候

一牢舎人円宗寺村弥吉義郡代所分出牢切手相廻り出番文藏差向出牢相渡候但帰村也

一二階町石松院兼住所不動堂鎮守疱瘡守護神灯明之施主御座候ニ付例年之通来月七日分十四日迄除疫祈禱之護摩執行仕度願承り届

一下紺屋町智教坊例年之通来月七日分十四日迄祇園会ニ付御戸開除疫祈禱執行仕度願承り届

一播州網干余陸屋利兵衛一人例年之通荒物塩物卸壳来候段中之町津

田屋伝助宿切手指出八月四日帰ル

諸吟味 宮田喜左衛門

一 播州網干余陸屋惣七一人例年之通八百屋もの卸売来候段右同人宿切手指出八月四日帰ル

一 明廿九日五半時御早メ之御供揃ニ而泰安寺へ御仏詣被仰出候段中

六月朔戊午旦 快晴

奥目附飯役太田縫兵衛ノ申来例之通小頭大年寄へ申達候

一 御用日登城申上候御用向無之△於七間廊下御小性頭謁有之例之通

一 院庄村伊左衛門方へ当月二日ノ十一日迄之内盜賊這入衣類七品代

御用所相濟畢而御奏者番ノ三奉行迄一同罷出上席ノ当日御祝儀申上候段申上之続而御前様へも同様申上候旨申上引取畢而御用所へ

式拾八匁計之ものを被盜取候触流取計候様大目附ノ達有之町触取計

罷出当日御祝義申述之続而御用向申上之

本書ハ指戻候六月十日町方無之段届出ル

五月廿九日 曇昼後快晴晚時雨雷声

一 御殺生二ノ宮辺へ六時過被為入御帰者陶田之方ノ北口御門へ被為

一 御仏參無御滞相濟候段御先扨藤四郎和四郎届出候

入無御滞五ツ半時頃御帰被遊候段御先扨蔵嘉七届出候

一 明朔日六時過御供揃ニ而二ノ宮辺御殺生被為入御道筋京町御門ノ

一 江戸御留主居河内志津馬ノ先月十三日之三浦連名之書状到来造酒

本通り御順路御出被成候旨中奥目附藤堂融四郎ノ通用有之小頭大年寄へ例之通申達候

高御改有之候ニ付実を得候所有体ニ相改申越候様申来直ニ御用番中へ差出候

一 御飛脚仕廻ニ付島屋文七酒造高籠野ノ懸合候趣御留主居へ申遣且

一 林田土手大目附構之地面ニ野伏行倒もの有之由ニ付廻り之同心組

又直屋市郎左衛門御届済申越候返書長沢清左衛門へ申遣候

今見改急ニ不立去趣ニも候ハ、柳土手へ為引取候様ニ可致候間何

分見計ひ候様可申付旨大目附太田舎人ノ被申聞候付昼廻り文蔵和

四郎へ申付候所右者芸州（つご）あさかひ村百性久四郎ノ悴善心年六拾才ニ

相成一昨年七月下旬国許無願罷出候付最早除帳相成可申旨申之候

由見受候所折々服痛いたし候旨申候得共見請候所ハ眼中并惣体健

六月戊未大

ニ相見へ病人とハ見へ不申勿論明日者立去り可申旨申之候由尤八

月番

出構之地西ニ而庄屋共も改ニ来候由申出候ニ付其段大目附へ相届

御家老 山田主膳殿

候

御年寄 大橋十太夫殿

一 武田七郎兵衛娘狂女去月廿三日手鎖申付置候所悴利左衛門ノ歎書

大目附 太田舎人

候

大年寄 斎藤孫右衛門

候

指出候ニ付昼廻り文藏和四郎差向手鎖差免候

一西今町直屋市郎左衛門義大坂油屋新兵衛滞銀致内濟候届出差出候

一三町目次田屋善右衛門家賃差滞旧臘十二日百五十日限濟方申付置

候所先月十二日日延願差出承り置候所致内濟受辰相濟候段届書差

出右ニ付相手西今町坪屋藤十郎今も願下ケ願書差出承り届願書指

戻候

一京町塗師屋熊吉借屋住作人勇助義三月下旬出奔仕相尋候得共行衛

不相知候段残り道具目録添届出百日尋申付候七月廿四日罷帰候旨

届出

一大脇新左衛門義忌中引込役筋書物差支候付忌御免被下候様大目附

へ相達候

六月二日 快晴

一大脇新左衛門義忌御免被成今日夕出勤いたし候段届出候

一元魚町刀屋善助義大坂大川町綿屋義兵衛方へ廿五日計之逗留ニ

明後四日出立届大年寄承届差出

一油四匁壳候処四匁式分壳ニ仕度願承り届

六月三日 快晴

六月四日 快晴

一町方昨年来一ト口ト申笠附様之もの致流行候由近来ニ而ハ右ニ

賄致勝負博奕同様之趣ニ相聞西在他領并備中辺之もの右題を持参

候由風聞ニ付大庭屋善兵衛後藤屋佐市肥後屋定吉方ニ致逗留候杯

と申趣ニ付為相札候所折々右之もの倉敷大戸馬測辺へ往来候砌一

宿為仕候事ハ有之候得共当所ニ而右之一ト口ト申ものニ而錢勝負

仕候義一向不承候由右三人口書取指出候ニ付右体風聞不宜ものハ

以来一夜たり共宿致間敷旨急度申渡候様大年寄申付之右之段明日

出仕之上可申上候

一萩野嘉七病氣引込届出候同七日出勤届出候

一同心組四人明五日六ツ時野条金平宅へ差遣候様大目附今申来其段

小頭不快ニ付藤四郎へ申付ル勿論廻之体ニ而可差出旨懸合置候

一牢舎扶持仕切証文拾四俵之内貸ニ而二月朔日夕五月廿九日迄賄残

ニ三斗四升壹合式勺五才返納之証文差出奥印書取計之

一牢舎扶持五俵之内貸証文差出奥印書取計候尤七月へ五斗式升五合  
持越積也

六月五日 快晴

一御用日登城

一伏見町角屋清左衛門借屋住作人坂之丞義脇坂淡路守殿御預り所当

国英田郡土井村伝兵衛方へ引越度人別除願御用番御聞濟ニ付大目

附へ差出置御聞濟申達ス同人義ハ先年老母を養兼候趣ニ而咎等申

付候ものニ候処右老母ハ一昨日病死之由也

一林田町島屋文七義先年龍野預り所小瀬村吉右衛門今譲受候三拾石

之造酒株今般猶又龍野預り所福渡村若松屋庄助へ譲渡度願書差出

仍之龍野役人平野七郎兵衛三沢清太夫江懸ケ合下案相認御用番中

へ相伺候処伺之通被仰出候ニ付明朝立ニ而差遣度大目附へ申達候

処御飛脚村上吉右衛門来相渡候

一橋本町徳島屋忠助借屋住塚屋藤助義享和元年酉七月十九日宮川大

橋之上ニ而染帷子壹ツ拾其節届出張札取計候所落人今以不申出其

段大年寄伺出候付御兩所<sup>江</sup>及御囃右拾候帷子藤助へ差遣候段大年寄へ申達候

一昨日記置候一ト口ト云笠附体之もの取はやし候他領もの宿致間敷旨及差図候段御兩所へ及御囃候

一境町肥後屋定吉義右一ト口吟味之節大年寄宅へ呼出候所我俣申不罷出自身<sup>ニ</sup>代人相頼出候<sup>而</sup>も不罷出甚不埒之旨大年寄届出候<sup>ニ</sup>付先例も有之義<sup>ニ</sup>付拙者場合切<sup>ニ</sup>三日計り追込申付候段及御沙駄御聞濟<sup>ニ</sup>付最早前後不及沙駄旨申達置候

一祇園会中例年之通二階町元魚町関貫開立番付置候段御兩所へ相届候

一病犬藥蝮蛇藥用切之段大年寄申出大目附へ申達候所玉島榮庄<sup>ニ</sup>受取候様被申聞同人<sup>ノ</sup>受取大年寄へ相渡

一今六時藤四郎庄藏榮治文藏寺社取次沢野条金平宅へ差向候所美土路豊前被呼出候由<sup>ニ</sup>藤四郎庄藏二人ハ一ノ宮へ罷越見へ隠れ<sup>ニ</sup>付添召連來榮治文藏式人ハ御用屋敷<sup>ニ</sup>待受居御用屋敷<sup>ニ</sup>おゐて物頭三人<sup>江</sup>御預ケ<sup>ニ</sup>相成割場<sup>ニ</sup>囲出来候間右囲へ入候迄差添相詰候様<sup>ニ</sup>金平差図<sup>ニ</sup>物頭組も番いたし居候得共同心組も四人共相詰候様被申聞候旨藤四郎罷帰申聞候付昼廻り<sup>和</sup>四郎幸治も差遣小代りいたし相詰候様申付遣候

一三町目南側<sup>ニ</sup>次田屋善右衛門所持之家屋敷表口拾壹間裏行拾七間但式軒役也東隣ハ上紺屋町金川屋庄七持家西ハ南北通り筋也右家屋敷之内西之方<sup>ニ</sup>表口六間裏行十七間但式軒役也<sup>并</sup>右裏続戸川町地面土藏三ヶ所三町目分<sup>ニ</sup>土藏式ヶ所合<sup>而</sup>五ヶ所其外建物不

残質物<sup>ニ</sup>書入銀札九貫目來ル丑十二月切壹ヶ月三朱三厘三毛之利足<sup>ニ</sup>相極西今町坪屋藤十郎<sup>ノ</sup>借用仕度願承り届

一西今町松田屋佐助義妻を致殺害候風聞有之由大年寄内々申出候<sup>ニ</sup>付得と相糺届出候様申達置候所夜<sup>ニ</sup>入届出候<sup>者</sup>同人妻義今曉風後

致絶倒候<sup>ニ</sup>付早打肩敷と存肩先<sup>ノ</sup>血を可取哉と存取込少背中へ寄り候処小刀<sup>ニ</sup>打候処其俣絶候由申出候<sup>ニ</sup>付驗使部屋目附可差遣所今日ハ美土路豊前義<sup>ニ</sup>付組不残出切候故無抛小頭利右衛門<sup>ニ</sup>手鎖早繩為持差遣親類組合医師相揃置候様<sup>ニ</sup>申付置利右衛門へ何れも得と相糺万一疑敷趣も有之候ハ、佐助<sup>ニ</sup>手鎖腰懸り組合へ稔と預ケ置帰り候様申付遣候

一寺社役所へ指遣置候同心組藤四郎庄藏幸治和四郎寅刻前罷帰り山下割場<sup>ニ</sup>囲<sup>ニ</sup>出来美土路豊前駕籠<sup>ニ</sup>乗細引<sup>ニ</sup>十文字<sup>ニ</sup>懸ケ右細引ハ同心組懸ケ候様野条金平<sup>ノ</sup>差図<sup>ニ</sup>付其通<sup>ニ</sup>取計割場へ送り届囲へ入罷帰候旨届出候勿論物頭三人も御用屋敷<sup>ニ</sup>罷在跡<sup>ノ</sup>割場へ付添被參候由也

一江戸御留主居<sup>ノ</sup>去ル朔日申來候造酒石高改候様之書面今朝御用番中御下ケ被成候付右取計方ハ猶又下方相糺可申上旨申置孫左衛門孫右衛門へ委細申含下方考之申出候様申付置候

六月六日 快晴

一西今町松田屋佐助妻死骸見分<sup>ニ</sup>差遣候小頭利右衛門義今朝六半時過罷歸り得と遂見分候処脊中<sup>ニ</sup>幅五步染四步計之突疵壹ヶ所有之迄<sup>ニ</sup>其外<sup>ニ</sup>者疵一ヶ所も無之病死<sup>ニ</sup>相違無之右妻之兄弟共も毛頭申付無之旨一札<sup>并</sup>医師容体書指出候<sup>ニ</sup>付御用番中へ持參指出勝

手次第葬申付度旨相伺候処即刻御聞濟ニ付勝手次第葬候申達候

一 境町年寄美濃出屋清右衛門義病身ニ相成候付芸州広島江見三徳方  
へ三十日計之逗留ニ而療治ニ罷越度明七日出立願承り届七月朔日  
帰ル

六月七日 快晴

一 左之もの共手鎖追込昨日迄ニ而三十日ニ相成候付今朝利右衛門藤

四郎幸治大年寄宅へ差向手鎖追込差免候尤右之段御両所へ相届候

細工町大工新六 中之町大工新兵衛 材木町彦左衛門

同町喜兵衛 同町惣兵衛 戸川町庄兵衛 〆六人

右同人立合左之通申渡尤前後不及御沙駄候事

御用ニ付大年寄宅へ呼出候節不埒也 境町肥後屋定吉

及返答不罷出不届至極ニ付追込申付候 但三日

一 明八日五半時御早メ御供揃ニ而地藏院泰安寺へ御仏詣被仰出御道  
筋例之通之旨中奥目附寛良助分通用有之小頭大年寄へ例之通申達  
候

一 下紺屋町長江朝庵義大坂梶木町玉子屋九兵衛方へ百三十日計之逗留

留ニ而来ル九日出立願承り届十月十六日帰ル

一 西新町丸屋吉兵衛借屋住勘四郎并 同人母右家内二人去亥十月廿三

日林田上之町令人別入いたし候処此度林田村其碩方へ引越候ニ付  
人別除願下方引合相濟候段申出承り届右ハ豆腐安売いたし可賞旨  
伺濟之処不引越候ニ付賞し不申達候

一 越中富山板屋理兵衛役介惣助平三郎二人新魚町三沢屋与八方ニ

十月迄逗留為仕壳葉為仕度願承り届六月廿四帰ル

一 播州姫路米田町灰屋助治と申もの元魚町原屋佐市方へ来候付廿日

計逗留為仕度願承り届

一 西今町松田屋佐助妻義去ル五日致病死候所先月十八日出産女子出  
生無疑く肥立居候所右出産届致失念候段断書差出先格之通叱置候  
様申達ス

一 同心組先月中臨時昼扶持卷斗式升五合受取証文奥書取計之

一 大橋十太夫殿一名之御奉書到来右門義御用之義御座候付明八日

四時登城仕候様被仰出御請書指遣候

六月八日 快晴

一 今日之御仏詣御延引被仰出候段中奥目附後藤郷助分通用有之小頭

并 大年寄へ申達候

一 御用日并 右門義被為召候ニ付五半時登城仕候処御年寄御列座大目

附出席ニ而左之通大橋十太夫殿分被仰渡候

御役御免被成候是迄無滞相勤太儀ニ思召候

右ニ付当用之諸道具并 大年寄諸吟味組中牢番三軒屋番目明迄召連

江口士江 罷越引渡候残り諸道具ハ追々可引渡旨申談候

一 今日勘大夫義連名奉書を以被為召五半時登城仕候処四半時頃於御

前左之通被仰付

町奉行役申付候入念可相勤候役料並之通差遣之候旨御直ニ被  
仰渡即席ニ而御請御意之趣奉畏候旨御請申上元之席江 退座御  
家老之方江 向不存寄結構被仰付難有候旨御礼申上ル御家老衆

御取合有之畢ニ而退座七間廊下曲屏風隙ニ而大目付中御書付被

相渡



都<sup>ニ</sup>御前被仰渡之振合等前以大目付差<sup>ニ</sup>而習礼有之

一御小納戸<sup>ノ</sup>御目見被仰付候<sup>ニ</sup>而御次<sup>江</sup>相廻候様申聴則相廻候所即刻御座之間<sup>ニ</sup>而御目見被仰付御小性頭御取合御意有之

一御用所衆中面謁有之大目付出席

一例之通三奉行御用所<sup>江</sup>罷出当役申上候御用向無之旨申述退座

一八ツ時頃退出退出懸御用所衆檜之間其外御用掛等為御礼廻勤帰宅

一下役大脇新左衛門罷越蒙挨拶相応

一殿中<sup>ニ</sup>而申談候通組之者牢屋三軒屋番大年寄三人諸吟味役召連名面書を以増兎右門罷越引渡之挨拶等有之直<sup>ニ</sup>被帰以後勝手座敷<sup>ニ</sup>

而組之もの不殘逢挨拶相応熨斗三方出之其節新左衛門詰合

一大年寄諸吟味表座敷<sup>ニ</sup>而逢挨拶畢<sup>而</sup>熨斗三方出之尤詰合新左衛門

一御用物当用之物之分今日相廻請取尤目錄右門持參<sup>ニ</sup>而今日残之分

取調明日可相廻及対談

一武田七郎兵衛病氣指重候<sup>ニ</sup>付札元役御免被成下候様願書指出御用

番中<sup>江</sup>持參指出候所無程御聽届相濟候段十太夫殿<sup>ノ</sup>申来尤役中無

滞相勤候<sup>ニ</sup>付葬式之節帶刀勝手次第之旨御聽濟有之其段申達候

六月九日 快晴

一堺町西川屋善助義備前岡山中島屋久六代として備中早島村福本屋

三治と申もの当地<sup>江</sup>貸物売<sup>ニ</sup>参り申度願書指出承届

一戸川町宿見屋孫兵衛義備中田中勇元<sup>申</sup>申医師親類<sup>ニ</sup>而無抛用事有

之罷越候<sup>ニ</sup>付廿日計逗留為仕度願書指出承届

一小性水田屋佐助義百日計之逗留<sup>ニ</sup>而四国遍路罷越申度願書指出

承届八月十二日帰ル

一当役諸道具日記類目錄持參<sup>ニ</sup>而右門罷越今日不殘相廻請取其外申

送り等有之及対談万記諸目錄<sup>者</sup>前先後<sup>ノ</sup>付渡候由持參被相渡請取  
闕所銀万記先格之通被相渡請取相廻ス

六月十日 快晴

一龍野御役人<sup>江</sup>酒造株讓之義<sup>ニ</sup>付去ル六日飛脚指立候所今四ツ時前

飛脚村上吉右衛門罷帰返書持參請取置昨日御用所<sup>江</sup>指出

一新魚町肥後屋定吉追込今朝指免候段申渡候旨大年寄<sup>ノ</sup>相届則聞届

置

一材木町近江屋藤吉往来百日之逗留<sup>ニ</sup>而四国遍路罷越申度旨願書指

出承届

一中之町玉野屋藤十郎町内年寄相勤罷在候所病身<sup>ニ</sup>罷成難相勤候<sup>ニ</sup>

付御免被成下候様願書指出無余義<sup>ニ</sup>付承届

一右跡役平岡屋忠右衛門<sup>江</sup>被仰付可然旨大年寄申出其通申付候様申

達ス左候ハ、明十一日可申達申聴承置

六月十一日 晴

一御用日登城

一船頭町舟元屋喜左衛門義娘さき倉敷尾原屋伊兵衛<sup>江</sup>嫁<sup>ニ</sup>遣置候所

不縁<sup>ニ</sup>付離縁罷帰候<sup>ニ</sup>付人別人願書指出伺之上聞届申達ス

一小桁御番所<sup>江</sup>指遣候印鑑今日郡代<sup>江</sup>相廻ス

一明十二日五半時早<sup>メ</sup>御供揃<sup>ニ</sup>而泰安寺<sup>江</sup>御仏詣被仰出候旨寛良助

ノ通用有之其段小頭大年寄も申達ス

一以後月並御參詣左之通<sup>ニ</sup>相極候<sup>ニ</sup>付毎々通用無之御延引之節計通

用有之候旨中奥目付右同人申聴是亦大年寄<sup>并</sup>小頭<sup>江</sup>申達置

毎月

八日地藏院 十七日地藏院 廿六日泰安寺

三十日泰安寺

但小ノ月者 廿九日

一来十四日暑中御機嫌伺有之候ニ付十五日御用日十四日ニ相成候旨  
大目附中被申聴候由類役分通用有之

一新魚町灘屋弥太郎義心願有之京都本願寺江 參詣仕度願書大年寄聞  
届候旨願書指出ス

六月十二日 快晴

一吉ヶ原御番所江 印鑑相廻候ニ付龍野御役人江 書面を以今朝立飛脚  
指遣飛脚之義昨日大目付中江 申達小勘者江 被相達候

一今四ツ時分被為召候旨御小納戸分申来出仕候所御前ニ 而御用談  
被遊

一御仏詣御先弘栄治幸治相勤候処無御滞相濟候旨届出ル  
一米相場左之通之旨中買共分書付指出ス

御蔵米 四拾五匁五分

町米 四拾壹匁五分

一堺町西川屋善助方江 戸高若狹与 申神学者無抛用事有之罷越候ニ付  
廿日計逗留為仕度願書指出承届七月二日帰ル

六月十三日

一三町目次田屋善右衛門家屋敷表口拾壹間裏行拾七間御役式軒役也  
尤土蔵五ヶ所右質物ニ書入坪屋藤十郎分銀札九貫目借請候ニ付質  
入証文指出承届

一番番団助罷出牢舍人周助義病氣ニ付薬師用仕度相願候旨申出其段  
大年寄江 申達候所中村益庵江 申付薬指遣候旨申出尤病体憚り候旨  
申出ル六月廿六日休業

一昨日神文取計候ニ付四ツ時登城仕候様太田舍人分手紙到来及即答  
一桶屋町桶屋はや家守米屋左七娘ちり当子十二才罷成候大坂寺町帯  
屋嘉兵衛縁類之者ニ付勤奉公ニ指遣申度願書指出承届文化七庚午  
二月十六日帰住居願出候承届候罷帰ル

(朱徳)

一桶屋町竹田屋種吉兄文吉義五十壹才ニ罷成候当国小中原村三四郎  
方江 勤奉公ニ差遣申度願書指出承届寅二月十五日帰届

一桶屋町桶屋はや家守米屋左七姉ちせ義当子四十五才此度撰州大坂  
安堂寺町帯屋嘉兵衛妻ニ差遣度人別除之願書指出伺之上聞届申達  
ス

一桶屋町広瀬屋長八昨夜四ツ時分私屋根ニ白きもの有之候ニ付屋根  
へ上り見申候所杉原之紙を細巾ニ切丸の内に金之字之朱印一ツ押  
御札之様成物并 白紙之幣壹本扇式本米壹式合紙ニ封シ右四品杉原  
紙ニ包水引ニて結有之候ニ 届出承置

一西新町養楽院養子玉性坊妻去ル酉年四年以前男子出生之所以今御  
届不申上当人ハ不申及組合同様恐入候旨届書指出請取置

六月十四日

一御用日登城

一役義神文被仰付大目付役所ニ 而取計御使者藤本伴右衛門中奥目付  
後藤郷助出席ニ 而先例之通相濟  
一来十七日夕観音參詣ニ付往来警ニ付宮脇町関貫四町迄開之立番付

置候旨大年寄分届出承置御用番大目付江及御沙汰

一兼而伺相済居申候無宿宇兵衛明後十六日敲追払候旨御用番大目付

江相届大目付江者御徒目付出役之義申達置

一德守宮納涼ニ付例年之通警固指出候旨小頭より申聽承置尤始終左

之日数指出候旨申聽

初日夜 十七日夜 三十日夜

一牢浚例之通為取計嘉七和四郎出役之所別条無之段届出ル

一明十五日分十七日迄塔中村ニ芝居興行仕候由郡代所江届出候ニ

付相伺候所例之通市郷共取計候様被仰出候旨郡代分通用有之仍而

町触之義大年寄江申達目明指遣候義小頭江申達ス

一七月ニ付暑中為御機嫌伺五半時登城御奏者番以下三奉行迄一流七

間廊下ニ御機嫌相伺御小性頭謁畢而御前様江同様謁申上候

六月十五日

一三町目佐和屋孫四郎義坪井町徳屋養兵衛所持酒造株亥年分借請罷

在候所限月ニ付差戻右株ニ商売不仕之旨連印届書指出承届ル

一小頭呼出左之通申達置

明朝敲追払老人有之候間右之手合取計候様申達置

一目明今朝塔中村江罷越候旨届出候段小頭分申出

六月十六日

一無宿宇兵衛義先達而伺相済候ニ付今朝五十敲之上追払申付出役之

面々左之通

小頭 利右衛門

部屋目付藤四郎

出番 幸治

和四郎

一御徒目付宿喜七 下目付

一小頭罷出今朝敲無別条取計相済候旨届出

一出番兩人幸治和四郎追払無宿宇兵衛院庄御境目ニ追払候而村役

人一札取無滞相済候旨届出

一右ニ付御用番大目付江無滞敲追払取計候旨御届且亦兼而

大目付より指図ニ右取計相済候ハ、尾上八十七元長屋も

のニ付彼方江及通用候様被申聽候ニ付其段及通用

一上紺屋町米屋後家先達而盜賊宇兵衛分古次越買取候代物銀札式分

四厘損失申付候所大年寄分右代物相納郡代所江相廻郡代請取書六

月廿一日相廻

一安岡町久米屋弥太郎義土井大炊頭殿領分高尾村新三郎妹さと当子

廿二才右之者此度引請妻ニ仕度人別人願書指出伺之上聞届相達ス

一上紺屋町円乘院義今度三宝院御門主和州大峯江御入学被遊候ニ付

右御供被仰付仍而往来四十日計之逗留ニ来廿四日出立上京此度

願書指出

一乘院智教場和生坊右同様之願書指出寺社取次江及引合四人之者

各聞届申達ス十八日寺社取次江引合取計七月廿八日帰円乘院一条

院

一栄治文蔵昼廻り候所鍛冶町ニ大勢群集之様子相見候ニ付罷越候

処鍛冶治郎右衛門前ニむしろ敷辻芸いたし候趣ニ相見候得共不

残逃去候ニ付町年寄共宅江罷越相糺候所相違無之仍而目明呼出右

辻芸いたし候もの見合次第追払同様申付候旨申出ル

六月十七日

一橋本町山形屋喜八義大久保安芸守殿領分山手南村恵四郎娘いと当  
子十八才此もの引請妻ニ仕度人別人願書指出伺之上聞届十八日達  
候同廿三日住宅証文出

一小性町田中屋茂兵衛心願有之四国遍路此度往来八十日計来十八日  
出立仕度願書指出早刻承届

一元魚町海老屋長右衛門所持之本宿屋株同町ニ文字屋清治郎江相讓  
申度願書指出承届

一坪井町金屋喜兵衛義京町綿屋源七持来之古道具株当子六月より来  
ル已六月迄五ヶ年之間借受買売仕度願書指出承届

一種油壺升ニ付 油方湯田屋 年行司大黒屋  
四匁四分

右之通商売仕度届書指出承届  
一今夕徳守宮納涼ニ付役出番栄治文藏

六月十八日 昼後少白雨  
一御用日登城

一西新町養楽院養子妻五ヶ年以前男子出生之所不届出候ニ付寺社取  
次江引合之上左之通伺候処伺之通被仰付

追込十日 養楽院  
同 三日 右同人組合隣家

急度叱 同町年寄  
一郷中被盜候もの両通神戸村喜七被盜物十四品横(マ)の村儀右衛門被盜

物四品  
右者大目付分町中触流取計候様被申聴候則町触流之義例之通

品数書記大年寄江申達ス廿八日町方無之段届出  
一目明孫兵衛塔中村より唯今引取別条無之段届出

六月十九日

一今六半時小頭利右衛門部屋目付藤四郎呼出大年宅ニ而養楽院并組  
合隣家咎之義有之立合候様申達ス尤大年寄江前以申達置申渡書  
相渡ス

一養楽院并組合隣家同町年寄追込叱等申渡候旨大年寄分届出尤立合  
之小頭部屋目付分左届其段御両所江相届ル

一來廿七日廿八日町会所ニ而宗文改印形取計候旨大年寄申出承置  
一西今町中野屋太郎兵衛義叔父太兵衛五ヶ年以前借物之義ニ付出奔  
ニ付人別除願相濟候処今度悔是非帰住之義願出尤借物之義ハ太郎

兵衛引請筋立候旨願書指出伺之上承届廿三日帰住届廿七日急度叱  
申付ル

一右出奔之節幼少女子指置候処縁類ニ而養育成長ニ候得とも  
甚不人情之義住宅相届候上ニ而叱申付候様御両所江及御沙

汰

一東新町種屋伊助義川筋梓投尻馬ヶ瀬ニ而船車稼之義仕居申候所干  
水之節指支候ニ付石車之次江古車取立申度願書指出郡代江懸合置  
無故障候ハ、承届候事七月廿九日聞届申達ス

一東新町茶屋武左衛門義六ヶ年以前家屋敷質物ニ入置候所今度請返  
候旨断書指出承届

一明廿日五半時早メ御供揃ニ而地藏院江御仏參被仰出候旨中奥目付  
寛良助分申來大年寄江申達ス

六月廿日

一中ノ町福茂屋茂兵衛妻因州知頭郡知頭村ノ四年以前参居申候所不  
縁ニ付離縁仕向方<sup>江</sup>指戻候ニ付人別除之願書指出伺之上聞届申達  
ス

六月廿一日 曇折々小雨

御用日登城

一養樂院隣家之者<sup>并</sup>組合今日迄ニ而<sup>而</sup>追込三日ニ相成候ニ付明朝指免  
候間其段相達候様大年寄<sup>江</sup>申達ス

一今夜廻り文蔵正蔵罷出候所斎藤孫右衛門前ニ而<sup>而</sup>大工道具辻壳致居  
候ニ付見咎目明宅召連罷越候段致吟味候所紛敷義も無之出所<sup>者</sup>誕  
生寺辺小原<sup>与</sup>申所之ものにて見知候ものも有之由ニ付翌朝指免指  
返候旨目届出候間届出

六月廿二日

一養樂院隣家組合追込御免之義申達候旨大年寄ノ届書ニ付其段御両  
所<sup>江</sup>相届ル

六月廿三日

一新魚町野田屋孫三郎借屋住久太郎方<sup>江</sup>備中庭瀬中田町大工源蔵昨  
廿二日罷越候所八月迄逗留為仕度願書指出聴届ル

一坪井町浜野屋栄四郎今般造砂川下<sup>江</sup>積下申度願書指出伺之上聞届  
申達連上義も勘定奉行談候<sup>而</sup>いなり屋醬油運上之通申達ス

一西今町えひすや吟蔵借屋住松田屋佐助義六歳之娘今般脇坂殿御預  
所宮尾村伝右衛門養女ニ指遣度人別除之願書指出伺之上聴届申達

六月廿四日

一明廿五日五半時御供揃<sup>ニ</sup>而<sup>而</sup>深信院様蘭田町通り泰安寺御参詣夫よ

り妙法寺御仏参被成候旨種村登門ノ申来夫々<sup>江</sup>申達ス  
一市中酒造人共兼<sup>而</sup>被仰出候者有之候ニ付当暮ノ後変候酒造穀数相  
増申致願書酒頭初大年寄奥書ニ而<sup>而</sup>願書指出追<sup>而</sup>及御沙汰江戸表御  
留守居<sup>江</sup>懸合候事

一銀札五拾四匁五分四厘七毛之請取証文小頭ノ指出奥印取計

六月廿五日

御用日登城

一深信院様御仏参無滞相濟候旨出番藤四郎幸治届出ル  
一今朝為召候面々左之通被仰渡候旨案内有之

願之通御役御免式拾石御加増 近藤伊左衛門  
勘定奉行兼帯 三浦十郎左衛門  
御前様御守役無滞御免 植木左士

六月廿六日

一例月之御仏詣無滞相濟候旨出番栄治文蔵届出  
一今四時麻上下着用登城仕候様申来則登城之上例席<sup>ニ</sup>而<sup>而</sup>伺御機嫌左  
之通

藤堂和泉守様御国許<sup>ニ</sup>而<sup>而</sup>おさつ様御死去ニ付御前様<sup>江</sup>茂 同様

御機嫌相伺都<sup>而</sup>御小頭謁  
一材木町ニ谷屋鉄五郎叔父源六義心願有之候ニ付四国遍路仕度尤往  
来百五十日逗留仕度願書指出承届

一坪井町勝尾屋茂七義坪屋藤十郎ノ他国請酒株是迄借請候処限月来  
候得共尚亦当子年ノ已之年迄借請売買仕度願書指出承届文化六己

一坪井町勝尾屋茂七義坪屋藤十郎ノ他国請酒株是迄借請候処限月来  
候得共尚亦当子年ノ已之年迄借請売買仕度願書指出承届文化六己

巳年八月三日追願書出ス

一二階町藤野屋嘉四郎借屋住塗師安兵衛当二月十四日夕罷出行方不相知候ニ付御届申上候所三月八日百日尋被仰付尚亦相尋候得共行方不相知候ニ付人別除之願書同人家守嘉兵衛ノ指出伺之上聞届相達

一二階町塗屋虎吉義久世村金沢屋善右衛門江相懸り脇指不指戻一件ニ付当月添簡相願訴訟之所今以筋立不申尚亦添簡願出候得共先今般者右願之趣を以久世御役人江当役ノ願書之写を以文通可仕相伺候所伺之通取計候様御沙汰ニ付近々書状指遣候間大目付江飛脚之義申達置

一元魚町延屋三治方江越中富山水橋町松井屋源兵衛手代文三郎源兵衛嘉介都合三人例年之通反魂丹壳ニ昨日参り候ニ付宿切手指出十日二月廿日帰ル

一牢舎人周助義是迄中村益庵薬服用候所快気ニ付休薬仕候間牢番并大年寄ノ知届出ル

一安岡町ニ而今夕百万遍仕候旨届出承置ク

一東新町玉屋伊右衛門借屋久本屋新兵衛後家当子三十九才娘とも十五才内式人此度勝手ニ付成安村肝煎源吉方江引越申度町内人別離れ願書指出尤村役町役引合相濟候旨申出承届ル

六月廿七日 雨

一勝間田町美濃屋伝七義勝手向不手際ニ付大坂島之内鍛冶丁式丁目北村屋宇兵衛江三ヶ年之間奉公罷越申度願書指出承届廿九日出立

六月廿八日 朝雨昼後白雪

一御用日登城

一組之もの共心得違居候もの共有之候ニ付左之書付今日小頭江申達昼夜廻り出役先ニ而怪敷者見付候ハ、召捕候義者勿論之事ニ候然ル処右等之者召捕候節町方ニ引合之者有之候得者年寄五人組差添目明宅江呼寄遂吟味候義先例も有之趣ニ候得共左之

通取計不申候而者差支之筋者無之哉ニ被存候間已来ハ町家之もの共目明宅江呼出候義者致間敷候尤盜賊者不及申無宿風来もの等召捕候ハ、目明共江相渡是迄仕来り之通取計可申候町方引合之もの有之兼々不召捕候而者手拔ニ茂相成候程之儀ニも候ハ、直ニ召捕組合江預置吟味方之儀者伺出可請指図候早速不召捕候而茂指而手拔ニ茂不相成義者猶以伺出可請差図候

右之通以来心得違無之様急度可相守候

月日

一右之段組之もの共江申達候間為心得申達置候旨大年寄江申達ス  
一惣馬持共廿五人例年之通忝人ニ付大豆忝俵ツ、拝借仕度願書指出尤納所之義者来八月今十二月迄馬扶持を以引取候様願出伺之上朔日聴届申達ス

一上紺屋町妹尾屋庄兵衛義三町目次田屋善右衛門持来之古道具屋株当六月今五ヶ年之間借請売買仕度願書指出聞届文化五辰五月取迄  
後善右衛門ノ斷書出ス

六月廿九日 快晴

一西新町養樂院追込昨日迄ニ而十日ニ相成候ニ付今朝指免候間其段大年寄江申達候処御免申達候旨届出候ニ付御両所江相届ル

六月晦日 快晴

一月並之御參詣ニ付為御先払出番榮治幸治罷出候処無御滯相濟候段  
届出

一 下紺屋町大工長右衛門後家西今町下横丁忰伝兵衛所持之家屋敷表  
口五間半裏行七間半之所六ヶ年以前質物ニ書入鍛冶五郎右衛門取  
次ニて銀札五百匁借居候所此度元利返弁家屋敷請返候旨届書指出  
承届

一 右同人義同所持之家屋敷表口三間裏行七間半但御役三歩式厘五  
毛右家屋敷此度五人組相談之上町内湯田屋太郎左衛門江壳渡申度  
願書指出承届同日壳券状指出

一 右同人義同所持之家屋敷表口式間半裏行七間半御役壹歩四毛此  
節相談之上来丑六月切壹ヶ月壹歩半ツ、ニ相極銀札貳百五拾匁鍛  
冶五郎右衛門取次ニ而借請申度家質願書指出承届同日質入証文差  
出

一 新魚町なた屋治右衛門義今泉兵弥宛六月六日出之米切手式俵今晦  
七ツ半時頃旅屋伊助前分町内角屋利左衛門前迄之内ニ而落申候故  
届出指出早刻御用番十太夫殿江指出候所無程御聽置候旨申来尤市  
郷触流之義大目付太田舍人分申来例之通大年寄并小頭江申達ス

一 西新町二文字屋彦兵衛義去ル西四月分当子年迄三ヶ年之間京烏丸  
通り六角下ル町二文字屋九兵衛方へ出職仕居申候然ル所勝手ニ付  
尚又当子年分来丑五月迄逗留仕度願書指出承届

一 吹屋町釜屋市郎右衛門義大久保安芸守殿領分久米北条郡山手公文  
北村湛増典藏娘みよ式十四才此度私孫藤治妻ニ引受申度人別人願  
書指出伺之上聞届申達ス七月十九日住宅証文指出ス

一 材木町車屋庄助義松平正治郎殿領分播州佐用郡豊島村百性市郎右  
衛門と申もの当子三十九才妻りよ三十三才忰忠藏十四才弟嘉藏十  
式才右四人のもの役介ニ引請渡世為仕度人別人願書指出伺之上聞  
届達七月廿四日住宅  
証文指出ス

一 上紺屋町伊兵衛義妹かめ三拾六才此度松田助治長屋江引越申度仍  
而町内人別離れ願書指出七月八日松田助治分通用有之聞届  
一番賃銀例之通相渡ス

一 德守宮名越祓ニ付警固榮治幸治出役之処別条無之候付引取候旨届  
出

七月壬申小

御家老 安藤丹後殿

御年寄 海老原極人殿

大目附 黒田忠三郎

大年寄 玉置源五兵衛

諸吟味 宮田喜左衛門

七月戊子旦 晴

一 御用日登城

一 一般右門分伺置候町棟梁左之者共伺之通取計候様被仰出候

下紺屋町大工 佐助

一惣大工共掟書是亦伺之通被仰付

材木町 大工 定吉

一町惣大工共御作事御用之儀者不及申御家中并町方ニ至迄昼

夜之無差別差凶次第急度相働可申事

一細工道具等自身持運ヒ可申事

一何方ニ而茂被雇候節者朝六半時分罷出晚方打墨見ヘ分テ候

迄可致事

一銘々参り来之且那場ヘ余人雇入候而も聊故障申間敷候万一

仕事差支候ハ、或者病氣故障ニ而得不参候ヘハ代人ニ而も

差越間を合少しも雇方之故障ニ不相成候様可致事

一都而被雇先ニ而賄取持等之善惡惣而驕ケ間敷義決而申間敷

諸事他所大工同様相働雇候もの之心ニ応し候様一統出情可マ

致事

一惣而仲ケ間申合私之法度を立候義堅令停止事

一大工職之儀者前々分人数定り無之ニ付訴人ニ而も棟梁江届

置職分相働候義勝手次第之事

一同職之もの共我俣ニ職分差留之義決而致間敷候若不埒之も

のも有之候ハ、其段届出可受差凶事

右之条々堅可相守候若違犯之輩於有之者急度可為越度者

也

一今般酒造之義得実候穀数書出候様被仰出候ニ付市郷酒造人江右之

御触之趣申達置候処今度相改候間穀数増願出候ニ付右之趣江戸御

留主居江及文通候案文御用番極人殿江指出候所伺之思召も無之候

間宜取計候様御沙汰ニ付近便御留守居志津馬江郡代連名ニ而可申  
遣四日御飛脚被廻ニ付文通

七月二日

一昨日伺相濟候町棟梁兩人申達候旨大年寄源五兵衛届出右之段御

兩所江相届

一□□番非人音八悴榮藏義牢番預ニ申付候間組之者指出候様郡代

より申来出番庄藏指向立合人牢取計候旨同人届出

一右榮藏入牢取計候旨為請牢番清左衛門罷出

七月三日 大雨強雷

一牢番団助罷出牢舍人大吉義不食仕熱氣強有之候ニ付葉之義願出候

旨申出則大年寄江右之段申達医師指向候様達置

一町医藤木良仙診察之所中黒熱氣強候ニ付葉服用仕可然ニ付則同人

葉指遣ス

一安岡町竹屋佐助義細工町大工藤吉先達而御追放被仰付候所同人妻

りよ私妹ニ而御座候然ル処此度藤吉離縁仕候旨ニ付相糺候所相違

無之候仍而何卒帰住御免被成下候様歎書指出四日伺之上聞届申達

一元魚町藤野屋嘉四郎借屋住原屋兵助悴平之助義去亥八月備前岡山

妙雲寺町妙福寺江三ヶ年之間奉公指遣候置候所此節病氣ニ御座候

ニ付罷帰申候間届出承届

一出羽守様御道中ニ付役人昨日人馬問屋江罷越先頃御通行之節ハ何

角丁寧ニ取計御振合宜候仍之銀杓枚被下之候旨申渡罷送候旨届出

候旨大年寄申出承置四日御兩所江及御沙汰

七月四日 昼後白雨



一 今日御用日ニ相成登城

一 龍野御役人ノ夜前書状到来先頃懸合置候鳥屋文七酒造株福渡村庄  
助<sub>江</sub>讓渡度願書庄助<sub>茂</sub>指出仍之差障も無之候ニ付近々江戸表<sub>江</sub>

も相伺可申旨申来相答返書取計可申旨相伺候処宜取計候様御用番  
御指図ニ付相答返事指遣ス

一 今日御飛脚仕廻ニ付酒造人共願出候酒造穀数以来相増申度市郷と  
も申出候通今便郡代連名ニ而御留主居河内志津馬<sub>江</sub>及文通置

一 民部卿様御嫡子備<sub>ト</sub>千代様御病氣之所去ル廿日御薨去被成候ニ付從  
今日明後六日迄三日之内鳴物停止之旨尤普請<sub>者</sub>不苦候旨御触出来

町中触有之義大年寄<sub>江</sub>申達小頭<sub>江</sub>も例之通御触書申達  
一 戸川町中屋庄兵衛義備前<sub>ト</sub>奥郡上山田村金治郎悴金之介同郡奥浦村

清治郎茂吉同郡奥谷村惣吉右四人之もの大工職仕候ニ付引受来ル  
十一月迄五ヶ月之間逗留仕度願書指出承届

一 太田舍人ノ家来友助<sub>与</sub>申もの式斗式升五合之米切手財布ニ入台所  
脇ニ指置候所致紛失候ニ付中買共<sub>江</sub>申付置呉候様申来其段大年寄

江申達置ク  
七月五日 昼後風地震

一 大目付黒田忠三郎ノ太田舍人家来友助米切手式斗式升五合宛所大  
御目付中銀札少々錢少々きやら油少<sub>ト</sub>鳥之財布ニ入茶之間ニ而致紛

失候ニ付右切手は落切手之趣ニ而触流取計右紛失之義八日明<sub>江</sub>も  
与得申付置候様申来大年寄小頭<sub>江</sub>申達ス

一 右落候切手之御触廻状来例之通取計  
一 病犬有之候趣中村源助ノ為知来当番指遣為承合候所弥病犬及見候

ニ付大年寄<sub>江</sub>申付非人式組為指出候尤<sub>ト</sub>御中旅中ニ付大目付<sub>江</sub>今度  
及噲置候処其内右病犬ハ御堀落死候ニ付非人共罷出候得共直ニ指  
返

七月六日 昼後夕立  
一 今昼廻り庄藏嘉七罷出候ニ而舟頭町土手相廻候所舟中ニ而博奕体之

義致居候ニ付舟中<sub>江</sub>罷越荒増致吟味候所他領之船頭五六人罷在候  
ニ付蔵元宅<sub>江</sub>不殘召連<sub>与</sub>得遂吟味候所博奕ニ而無之全クさい取扱

候は米相場尋候迄之事之由甚紛敷候得其他所之もの之義一札取指  
免候旨届出承置ク八日御用日ニ御両所<sub>江</sub>及御沙汰

七月七日 昼後少雨  
一 七夕ニ付五時過登城

一 登城前大年寄諸吟味調相濟候間札元不殘久山勘八初<sub>而</sub>謁尤熨斗鮑  
出之

一 節句ニ付例之通七間廊下ニ而御奏者番以下一統御小姓頭<sub>江</sub>謁御祝  
義申上ル畢<sub>而</sub>御前様<sub>江</sub>同様御祝義謁申上候

一 類役相揃御用所<sub>江</sub>罷出当日御祝義申述退出懸大目付<sub>江</sub>も鳥渡当日  
挨拶申述ル

一 宮脇町浜屋襄助義土井大炊頭殿領分久米南条郡新城村忠五郎妹し  
つ当子三拾歳ニ相成候此度妻ニ引請申度人別人願書指出伺之上聞

届申達七月十一日住宅証文指出  
一 河原町志茂や藤左衛門悴徳太郎当子廿四歳此度往来中間ニ指出申

度町内人別離之願書指出中間頭引合候間聞届申達  
一元魚町福永屋宇三郎義大坂富田町山本李太方<sub>江</sub>身上持三ヶ年之間

奉公罷越申度尤家役義者 悴金三郎<sup>江</sup>為相勤候旨願書指出承届

一來十三日十四日十五日之夕盆中<sup>ニ</sup>付町々関貫九ツ時迄開置立番付置候旨大年寄届書承置尤御所<sup>江</sup>及御沙汰

七月八日 昼後少雨

一御用日登城

一安岡町大坂屋増藏借屋<sup>ニ</sup>居申候大工幾右衛門義職分不自由<sup>ニ</sup>付備

前山田村吉右衛門方<sup>江</sup>当月十一日出立來丑十月迄逗留仕度願書指出承届

一是迄油壺升<sup>ニ</sup>付四匁四分之處四匁六分売<sup>ニ</sup>仕度油年行司大黒屋利兵衛油方常盤屋丈右衛門届書指出承置

一今日例月御仏詣<sup>ニ</sup>付御先私文藏和四郎相勤無滞相濟候旨届出

一今日左之通之伺書三浦<sup>江</sup>相願指出候処即日御聽届相濟

私悴幾弥義私初名勝助<sup>与</sup>改名為仕度奉存候此段奉伺候宜御指  
図可被下候以上

月日 名

七月九日 昼前雨

一村上源兵衛屋敷近辺<sup>ニ</sup>而病犬有之壺兩人<sup>江</sup>も喰付候旨追々申出候

<sup>ニ</sup>付即刻大年寄<sup>江</sup>申付非人四人罷出候<sup>ニ</sup>付番栄治幸治指添へ遣候所急度病犬<sup>与</sup>申<sup>ニ</sup>茂無之候得共兎角人<sup>ニ</sup>懸り候旨<sup>ニ</sup>付向方此方

追廻り候得共取急候<sup>ニ</sup>付昼後非人八人罷出候得共取れ不申旨出番  
分相届ル

七月十日

一病犬未得取不申<sup>ニ</sup>付今般非人八人昨日之通罷出候処急度病犬と申

<sup>ニ</sup>も無之<sup>ニ</sup>付昼後先ツ見合候様申付為引取候様取計

一京町関屋喜兵衛義家屋敷表三間裏行拾七間御役半役也然ル処今般質物<sup>ニ</sup>書入平野屋治兵衛取次<sup>ニ</sup>而銀札四百匁当十二月切壺ヶ月壺歩半之利足<sup>ニ</sup>而借請申度願書指出承届

一安藤孫右衛門役介久米治郎義大坂大川町綿屋儀兵衛方<sup>江</sup>用事御座

候付差遣度左候ハ、來ル十五日出立往來四十日逗留<sup>ニ</sup>而差遣申度願書指出承届

一八百屋平吉<sup>ハ</sup>惣豆腐共願出候由<sup>ニ</sup>而是迄豆腐壺丁<sup>ニ</sup>付拾八文売候

処追々大豆高直と相成候<sup>ニ</sup>付以後拾九文売<sup>ニ</sup>仕度願書指出伺之上  
聞届申達又

一江戸御留守居志津馬<sup>ハ</sup>御用状到來先達<sup>而</sup>先役右門<sup>ハ</sup>及懸合候島屋

文七讓請居候酒造株冥加銀元株<sup>江</sup>指出候<sup>ニ</sup>付荷可相成義候其向寄  
へ問合有之候間委細申越候様懸合置候所今便委細申來御用所<sup>江</sup>も  
入御披見候

七月十一日

一御用日登城

一昨日之日付之廻状今早朝到來

公儀寿姬君様御逝去<sup>ニ</sup>付十日<sup>ハ</sup>十二日迄三日之内鳴物停止候間尤  
普請<sup>者</sup>不苦御触書到來<sup>ニ</sup>而組中<sup>并</sup>町触等夫々<sup>江</sup>申達又

一來ル十四日例年之通廻町<sup>并</sup>役後初<sup>而</sup>見分之義相兼候<sup>而</sup>出役仕候之  
旨御用所<sup>江</sup>申述大目付<sup>江</sup>茂御貸人之義申達又

一松山樹軒長屋之もの嘉七悴伊三郎去六日庚申堂前<sup>ニ</sup>而島財布拾候  
処切手銀札錢きやら油少々、有之候旨届出候右<sup>者</sup>去ル三日太田

舍人方<sup>ニ</sup>而紛失之品<sup>ニ</sup>付遂吟味候様大目付黒田忠三郎<sup>江</sup>申聴尤樹軒<sup>江</sup>者支配頭分請人指添町奉行<sup>江</sup>指出候様被相達候筈之間被申聴一御用所御退出無之候得共右御用<sup>ニ</sup>付致退出候様大目付<sup>ニ</sup>申聴退出候上左之面々呼出

右吟味<sup>ニ</sup>付下役新左衛門小頭利右衛門部屋目付栄治出番<sup>江</sup>番<sup>江</sup>四郎

一手都合宜候間唯今被指出候様樹軒<sup>江</sup>申遣候所無程請人指添指出候

<sup>ニ</sup>付右次第段々及吟味候所太田舍人台所<sup>ニ</sup>而盜被取候者及白状候

<sup>ニ</sup>付牢番預申付右之段御両所<sup>江</sup>相届樹軒<sup>江</sup>申達又

一元魚町大笹屋瀬助悴喜兵衛義兼<sup>而</sup>乱心之処其後相治候処又々近来

再発之様子<sup>ニ</sup>而兎角脇指放し不申無心元候<sup>者</sup>両親組合共内々組之

者之内<sup>江</sup>申込何卒当分手鎖被仰付脇指御引取被下候様此度願出候

仍<sup>而</sup>廻り栄治和四郎<sup>手</sup>鎖為持遣私共<sup>江</sup>不孝之義相聴候付手鎖申付候

旨取計

一來ル十五日盆中<sup>ニ</sup>付御用日無之旨大目付中<sup>分</sup>申聴類役<sup>江</sup>も及通用

七月十二日

一明十三日深信院様五時御供揃<sup>ニ</sup>而藺田町通り泰安寺夫<sup>分</sup>妙法寺<sup>江</sup>

御參詣被成候旨種村登門<sup>分</sup>通用申來大年寄小頭<sup>江</sup>申達又

一大目付忠三郎被申聴候<sup>者</sup>今泉三右衛門宛六月六日出之式俵切手東

新町わらや与七<sup>分</sup>正米請取候由右<sup>者</sup>先頃触達有之候落切手之由<sup>ニ</sup>

候間右わらや相糺候様被申聴其段大年寄<sup>江</sup>相糺候様申達又

一真壁村忠右衛門居宅土藏<sup>江</sup>盜賊這入拾九品盜取候旨届出候<sup>ニ</sup>付例

之通触流取計候様大目付中被申聴其段相触候様申達又同月廿五日

無之段申出

七月十三日

一深信院様御仏詣御先弘藤四郎幸治罷出候処無滞相濟候段届出ル

一新東町わらや与七正米請取之義相糺候処当月三日<sup>江</sup>穢多久右

衛門<sup>与</sup>申ものより買取候旨<sup>江</sup>御触流之御名前致相違候<sup>ニ</sup>付心付不

申旨甚恐入候段口書一札を以届出

一新魚町なたや治右衛門先頃落候切手之義届出候所名前致相違候<sup>ニ</sup>

付相糺候処今泉と計心得落し候<sup>ニ</sup>付名前之所承合候処兵弥<sup>与</sup>承候

<sup>ニ</sup>付其俣御届申上甚恐入候旨是亦口書取指出

一右両通大目付忠三郎<sup>江</sup>致持參指出候所<sup>江</sup>久右衛門処郡

代<sup>分</sup>相糺候趣可談旨被申聴則右之段郡代十郎左衛門<sup>江</sup>申達

相記候上及相談候旨申談置

一細工町年寄長左衛門義悴平治立願御座候<sup>ニ</sup>付大峯山參詣仕度当月

十五日出立往來廿五日計之逗留仕度願書指出承届

一明十四日五時御供揃<sup>ニ</sup>而地藏院本源寺泰安寺妙法寺御參詣被仰

出候旨中奥目付藤堂融四郎<sup>分</sup>通用有之其段小頭大年寄申達又

七月十四日

一今朝御仏參<sup>ニ</sup>付御先弘栄治文藏罷出候所無御滞相濟候旨届出ル

一戸川町打穴屋長七義大峯山參詣仕度往來三十日逗留仕候旨願書指

出大年寄聴届候旨当人願書指出

一<sup>江</sup>番非人音八悴栄藏牢番預ケ<sup>ニ</sup>相成村賄之所何角指支難義仕

候<sup>ニ</sup>付頼賄<sup>ニ</sup>仕度願書指出候<sup>ニ</sup>付右之通相違異候様郡代より申來

其段小頭<sup>江</sup>申達置ケ

一例年之通今夕町廻り<sup>ニ</sup>付七ツ時揃之旨夫々<sup>江</sup>申達七時過出宅<sup>ニ</sup>

五ツ時帰宅廻り順等万記ニ有之先規之通

一 御貸人 割場分出ル 五人

一 牢番仲間 一人

但當役後初ニ付町見分も相兼候間廻町ニ付左之者共罷出ル

一 小頭利右衛門 一部屋目付藤四郎 一 大年寄 細工町分宮脇町  
孫左衛門  
孫右衛門

一 諸吟味喜左衛門

一 若堂代組之者栄治源藏

一 右廻町ニ付町年寄共罷出候振合等先例之通相濟候間御用番極人殿

江無別条之段直ニ相届大目付黒田忠三郎江組之者丈ニ而同様相届

ル

一 大笹屋瀬介倅喜兵衛義先頃内願ニ而手鎖申付置候所余程気分相直

候ニ付手鎖御免被成下候様尚亦内々願出候ニ付今夜廻り嘉七幸治

指向色々理解申聴手鎖指免候趣取計候間届出

一 後來書附を以相伺候義ハ御用日前日御用番中江差出候様極人殿被

申聴候由左様無之候而者御披見之弁利不宜候旨ニ付以来右之通取

計候様十郎左衛門江通達有之

七月十五日

一 東新町わらや与七正米請取之切手先頃触流有之落し切手ニ付相糺

候処□□□穢多久右衛門分買取候旨申尤候ニ付郡代所分吟味有之

候処□□□穢多忠助倅久右衛門売候ニ相違無之右口書并わらやな

たや弁書共都合三通御用番極人殿江指出追而御裁許之義申談候間

相伺可申旨申述置ク

一 今夕六時過林田辺出火之旨追々町々分注進申出候ニ付諸方江相知

程なく組之者并御貸人馳付人足等相移候ニ付場所江致出役候処林

田弓之町出火ニ而火元類焼共四軒焼失無程下火ニ相成候ニ付引取

可然旨大年寄共申聴仍而郡代江茂申談候処最早鎮火ニ候間引取可

然旨ニ付夫々江申達尤町々人足召連引取候節目通江罷出候義先例

ニ付山本屋横町北向ニ相詰候処町々人足着到順ニ引取候ニ付大年

寄操出何町年寄与披露之時大義之旨挨拶不残引取候間大年寄分申

聴候ニ付宮川通三枚橋筋江罷帰御用番極人殿江鎮火ニ付引取候段

直ニ相届大目付江者組之者丈ニ而右之段相届帰宅四時頃

七月十六日 烈風雨

一 牢番清右衛門罷出牢舎人代治病氣ニ而是迄藤木良全薬服用候所最

早二廻り相濟候得共未快氣不仕候ニ付医師替被仰付被下候様申出

候ニ付大年寄へ右之段申達候所申村益庵江療治申付候由届出同月

廿一日休薬

一 支配下之寺証文左之通指出書役江相渡相改候而取置

一 組之者小頭共 拾通

一 牢屋番 式通

一 三軒屋番 式通

一 高石垣番 壹通

組年取小頭手前江取置候而も宜

一 明十七日御社参御延引被仰出候旨中奥目付後藤郷助分通用有之

一 今夕及深更大目付廻状到来大和守様御嫡子大隅守様御病氣之所御

養生不為叶去ル四日戌刻御卒去被成候旨申来候依之今日分明後十

八日迄三日之内鳴物停止之事ニ候尤普請者不苦候旨申来町中触達

之義大年寄<sup>江</sup>申達組中牢屋三軒屋番<sup>并</sup>高石垣番<sup>江</sup>も相達候様小頭

<sup>江</sup>申達ス

七月十七日

一先頃新魚町灘屋治右衛門落切手之義<sup>ニ</sup>付左之者共御裁許之義郡代

<sup>江</sup>申談候<sup>而</sup>夫々咎之義連名<sup>ニ</sup><sup>而</sup>伺書指出

追込五日当り候処穢多頭取計

□□□穢多久右衛門

叱置

東新町わらや与七

急度叱置

新魚町なたや治右衛門

一銀札式百八拾九匁分四厘御堀掃除取立候由大年寄<sup>今</sup>相納則御

作奉行金井長平<sup>江</sup>相渡請取書有之

一牢屋扶持四俵之内貸証文小頭より指出例之通奥印取計

一西新町金田屋治右衛門義借屋<sup>ニ</sup>居申候藤屋瀧治当子四十匁才此度

生野御代官所布施孫三郎殿支配所当国之内東北条郡河井村善次郎

方<sup>江</sup>為引越申度仍<sup>而</sup>当支配相離町内人別指除候様願書指出候伺之

上聞届申達

一東新町初屋清七義妻去二月出奔仕候<sup>而</sup>其後百日尋被仰付候処自今

行衛<sup>不</sup>相知百日余<sup>ニ</sup>も相成候<sup>ニ</sup>付何卒町内人別御指除被下候様願

書指出伺之上聞届申達

一町方病犬有之候<sup>ニ</sup>付非人二組罷出候様申付候間大年寄<sup>今</sup>当番宛<sup>ニ</sup>

手紙<sup>ニ</sup><sup>而</sup>相届ル

一寺証文<sup>并</sup>自分証文共近日宗旨奉行小島定人<sup>江</sup>指出

一目明孫兵衛不快<sup>ニ</sup>付引込弥七義忌中<sup>ニ</sup>付助桶屋町吉田屋平助<sup>江</sup>申

付候間小頭より届出承置ク

七月十八日

一坪井町市場屋利介義宿願<sup>ニ</sup>付大峯山<sup>江</sup>參詣仕度左候ハ、明後廿日

出立往来廿日計逗留<sup>ニ</sup><sup>而</sup>罷帰申度願書指出大年寄聞届候旨当人願

書指出八月七日帰ル

一愛染寺来月上旬開帳相願候<sup>ニ</sup>付両大番所<sup>江</sup>建札仕候間右之段両町

<sup>江</sup>申達呉候様寺社取次<sup>今</sup>申聽其段大年寄<sup>江</sup>申遣ス

七月十九日 夜雨

一松山樹軒<sup>江</sup>長屋もの嘉七義尋筋有之候<sup>ニ</sup>付明廿日八ツ時請人指添

拙宅<sup>江</sup>被仰出候様申遣置ク

一明日昼後吟味もの致候旨夫々<sup>江</sup>申達置ク

一日上村市右衛門被盜物六品触流之義大目付<sup>今</sup>申来書役<sup>江</sup>取計候様

相渡ス八月朔日無之段申出ル

七月廿日 終日雨

一今八ツ時頃<sup>今</sup>松山樹軒長屋者嘉七<sup>并</sup>悴伊三郎吟味<sup>ニ</sup>付左之面々罷

出遂吟味新左衛門利右衛門栄治出番藤四郎庄藏

右嘉七伊三郎吟味詰口書取御裁許書指添御用番極人殿<sup>江</sup>手紙<sup>ニ</sup><sup>而</sup>

指出置

一明廿一日四ツ時登城仕候様十郎左衛門<sup>今</sup>剪紙到来<sup>ニ</sup>付及返書

七月廿一日

一御用日登城

一今日御呼出<sup>ニ</sup>付罷出候段大目付<sup>江</sup>相届四半時頃植込之間<sup>ニ</sup>おゐて

十大夫殿被仰渡候

御帰城御道中出情相勤大義<sup>ニ</sup>思召候段被仰渡御請御札申述ル

七月廿二日

一 無別条

七月廿三日

一 深信院様明廿四日五時御供揃ニ而今町通り妙法寺江御参詣被成候旨種村登門江申来大年寄小頭江申達又

一 京町関屋喜兵衛義家屋敷表三間裏行十七間之処此度相談之上質物

ニ書入平野屋治兵衛取次ニ而銀札四百目当十二月限壹ヶ月壹歩半宛之利足ニ而借請申度願書指出承届

七月廿四日 風折々

一 深信院様御仏参先弘栄治和四郎罷出候処無滞相済候旨届出

一 東新町茶屋武左衛門義所持之家屋敷此度相談之上代銀札貳貫五百匁ニ相極町内高原屋清吉江壳渡申度願書指出承届廿五日壳券状指出

一 京町塗師屋熊吉借屋住作人勇助義去ル三月不計罷出行衛相知不申候ニ付御届申上候処六月朔日百日尋被仰付家主組合方々相尋候処

此頃罷帰申候ニ付罷出候様相札候得著伯州江商内ニ参りその外相煩候故路銀ニ指丈無抛逗留仕候段届書を以相届候ニ付無届他行之

段此候間帰住申付候様申達又同日叱之義申達候間大年寄江相届一元魚町ニ而今夕百万遍仕候間届出候旨大年寄江相届

七月廿五日 風小雨

一 御用日登城

一 松山樹軒長屋者嘉七悴伊三郎御裁許之義以書付相伺候処何之通ニ仰付尤五十敲追払之旨相伺候処追払計ニ而も可然哉存寄申上候様

被仰付仍之存寄無御座追払ニ而可然奉存候申上候所其通被仰付

一 山本弥七郎長屋者被盜物触流取計候様大目付中江申来尤衣類二品外ニ金壹両三步銀四匁八分被盜取候旨触流取計小頭江目明共江与得申付候様申付置八月七日無之段申出

一 沢田村庄右衛門下人被盜物四品触流例之通取計候様大目付中江申来例之通触流取計八月無之段申出ル

七月廿六日 大風雨

一 今日御仏参御延引被仰出候旨中奥目付出九太夫江通用有之其段夫々江申達又

一 樹軒長屋もの伊三郎盜取候切手并財布ハ樹軒江役筋江相廻候様支配頭江達有之候間請取右伊三郎取計済之上切手財布ハ被盜主江相

戻銀札ハ嘉七江戻候事故主人樹軒江指返候様可取計旨黒田忠三郎江申来

一 明朝追払取計候間例之通五町出役候様小頭江申達置

一 西今町ぬしや喜助義隣家直屋善吉方ニ而御用之御油江メ申候処暑キ強候間家職相成不申候由ニ而先達而今歎書之趣ニ付何卒難義相

成不申候様暖候様大年寄江申達置候処彼是余人を以暖候得共内済相調不申候由ニ而歎書并口上書指出仍而右善吉江茂右之段為申聴口上書指出候様申達候所両方共指出先ツ請取置勘定奉行江右書面

相廻及内談置

一 大川満水ニ付注進申出既ニ出役可致用意致置候所追々水落候様子

ニ而先ツ手当等ニも及不申段大年寄罷出申聴其後も丹頭町江水落候段注進有之候ニ付出役不仕候旨大目付中江申遣郡代江も及噲

一 東西川満水ニ付川留之旨郡代所々申来大年寄<sup>江</sup>申遣ス

七月廿七日 昼後折々小雨

一 松山樹軒長屋住嘉七倅伊三郎義今朝御領分追払申付候以<sup>而</sup>出役之面々

小頭利右衛門部屋目付藤四郎出番<sup>榮治</sup>

一 右申渡書小頭<sup>江</sup>相渡取計相候候段届出候ニ付其段御用番極人殿大目付忠三郎<sup>江</sup>相届樹軒<sup>江</sup>茂申達ス

一 伊三郎追払候皿御境目<sup>ニ</sup>而<sup>而</sup>払同所庄屋一札取罷帰候旨出番兩人より相届候

一 院庄川水落川明候旨郡代所々通用有之大年寄<sup>江</sup>申達ス

一 大目付連名之奉書到来明廿八日役義御礼被為請候間五半時登城仕候様申来返書指遣ス

一 今日二町目野本屋方<sup>ニ</sup>而<sup>而</sup>腰指盗取候もの有之早速目明<sup>江</sup>申遣目明共召取候<sup>而</sup>非人小屋<sup>ニ</sup>預置候旨届出候付左之通相揃呼出致吟味候

一 処粗及白状候得共兎角申口区々<sup>ニ</sup>而<sup>而</sup>治定不致候ニ付尚又非人共<sup>江</sup>預置<sup>与</sup>得致詮義候様可申付旨小頭<sup>江</sup>申付候

一 三町目太刀屋久治郎義商壳体<sup>ニ</sup>而<sup>而</sup>雲州松江八軒屋町南屋勇八方<sup>江</sup>罷越申度左候へ<sup>者</sup>来月二日出立往来四十日計逗留<sup>ニ</sup>而<sup>而</sup>罷越申度願書指出承届ル九月十一日帰届

七月廿八日 昼後大雨雷

一 御用日登城

一 四半時頃芥子之間<sup>ニ</sup>而<sup>而</sup>役義御礼申上御奏者番名披露無滞申上畢<sup>而</sup>御用所<sup>江</sup>罷出御礼申述ル退出かけ大目付<sup>江</sup>茂御礼申述候

一 右御礼申上候ニ付檜之間中<sup>江</sup>廻勤

一 西今町永田屋喜兵衛義用事有之大坂淀屋橋筋大河町綿屋喜兵衛方

へ往来廿日計之逗留<sup>ニ</sup>而<sup>而</sup>罷越申度願書指出承届八月十三日帰ル

一 坪井町福恵屋伊兵衛義商用<sup>ニ</sup>而<sup>而</sup>大坂心斎橋大河町玉子屋九兵衛方

へ罷越申度往来三十日計之逗留仕度願書指出承届八月十八日帰ル

一 わらや与七なた屋治右衛門落し切手之一件御裁許之義伺書指出置候処今日伺之通被仰付

一 蔵合孫左衛門義兼<sup>而</sup>自国受酒株被仰付候様内願<sup>ニ</sup>付内意申上置候処勝手次第願書指出候様御用番被仰聴則申達ス

一 今朝兼田川明之義郡代所々申来候ニ付猶亦川留之由晚刻申来

七月廿九日 快晴

一 西新町山家屋利右衛門義越中富山薬種屋平右衛門<sup>与</sup>申者忝人昨日参り候ニ付逗留仕度宿切手指出ス正月十五日帰ル

一 今朝東西川明之旨郡代所々申来大年寄<sup>江</sup>申達ス

一 福渡町岡屋万五郎借家<sup>ニ</sup>居申候柳屋甚吉母用事<sup>ニ</sup>付大坂新町河内屋源蔵方へ六十日計逗留<sup>ニ</sup>而<sup>而</sup>罷越申度願書指出承届

八月<sup>癸</sup>西大

御家老 山田主膳殿

御年寄 大橋十太夫殿

大目附 佐々木主馬

大年寄 蔵合孫左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

八月丁巳旦 昼後快晴

一 五時過登城

一 七間廊下ニ而例之通御奏者番以下一統謁御祝義御小性頭江申上畢

而御前様江茂同様御祝義申上ル

一 御用所江類役相揃罷出八朔御祝義申述大目付江者当日及挨拶

一出仕前小頭初組之者不殘罷出候ニ付謁及挨拶

一 御用日ニ付類役相揃御用所江罷出候処当役御用無之旨申述ル

八月二日

一去廿七日二町目野本屋ニ而召捕候店替是迄非人共江預置候所今日

呼出候致吟味出役左之通

下役新左衛門 小頭利左衛門 部屋目付藤四郎 出番幸四郎

一 右盜賊長州赤ヶ間閔出生当時無宿徳兵衛当子三十才去月十二日御

当地江入込□□非人番早助方ニ止宿いたし町方所々ニ而盜相働

候旨及白状候ニ付吟味詰口書取計候上吟味中入牢申付ル

但入牢手形出番之者江相渡牢番団助為請罷出

一 右盜賊吟味中入牢申付候段御両所江相届尤口書は不指出郷中懸合

之もの有之候ニ付郡代十郎左衛門江相廻置

一 町方宗門改宗門帳并寺印等都而壹箱大年寄分指出

一 町方人別左之通

一天台宗 九百九拾人

一 真言宗 貳千貳百貳拾壹人

一 禪宗 四百貳拾壹人

一 浄土宗 六百拾六人

一 浄土真宗 三百九拾人

一 日蓮宗 貳千六拾七人

惣人数合六千七百七人

内男三千五百九拾四三人  
女三百九拾三人

八月三日 昼後大雨夜中迄

一 東新町わらや与七新魚町なたや治右衛門落し切手一件ニ付伺相濟

候通今朝叱り之義申渡銀札正米請取渡取計相濟候旨大年寄分届出

右之段御両所江相届ル

一 藏合孫左衛門義勝手向不如意ニ付家作等行届兼銀札場跡借屋ニ仕

度候得共借人無之候処酒店ニ宜候旨ニ付受酒買売仕度候得共右株

無之候ニ付何卒自国受酒株御免被成下候ハ、相統之一助ニ茂相成

候旨同役源五兵衛を以願書指出五日御聴届候旨申達ス

一 新魚町三沢屋与八義尾州和田郡寺元村陰陽師高橋伊豆上下式人ニ

而例年之通罷越候ニ付逗留為仕度宿切手指出八月廿三日帰ル

八月四日 朝雨昼後晴

一 新魚町研屋万兵衛義職分之義ニ付播州平福西屋利八方へ罷越申度

往来四十日計逗留仕度願書指出大年寄聞届候旨願書両人指出

一 三町目南屋利兵衛義伊丹屋利左衛門所持之自国受酒株去八月分当

七月迄御願申借請買売仕候所限月来り候得共尚亦当八月分来七月

まで借請商売仕度願書指出承届



一橋本町山形屋喜八義用事有之候ニ付大坂大河町和泉屋六郎兵衛方  
江往來廿五日計之逗留ニ而罷越申度尤留守中林田町年寄江御用向  
頼候旨願書指出承届八月廿三日帰ル

一桶屋町大坂屋平右衛門持分檉原前東場ニ土藏有之候処北之方へ崩  
申候右ニ付御敷之内江瓦少々落込候様子ニ相見候ニ付取上させ申  
出御敷坂茂少々相痛候ニ付其段断書を以申出ル五日大目付中江達  
一牢番上野団助居宅所々損候ニ付繕書小頭分指出五日大目付中達候

八月五日

一御用日ニ付登城

一御用所ニ而御用番御達左之通

伊丹屋利左衛門義亡父七郎兵衛敷年札元役出情相動候ニ付門  
松被成御免候此段可相達旨被仰渡

一懸ヶ合間屋相止候節并振等御用所御尋ニ付粗申述追ニ而相調可申  
上旨申述置ク

一來ル拾三日秋香院様就十七回御忌ニ付泰安寺ニ而同日朝計御茶湯  
被仰付候旨大目付廻状来例之通達候様小頭江申達廻町触者御法事  
被仰付候付自身番指出火元入念候様大年寄江申達ス

一牢舎人兼助義病氣ニ付服薬相願候旨牢番清右衛門罷出申聴候付大  
年寄江申達候処岩佐孝順療治申付候旨届出ル

一大年寄孫左衛門江奉書を以伊丹屋和左衛門義御用之義有之候ニ付  
明日四ツ時致同道役所江罷出候様申遣ス

一夜廻り栄治和四郎罷帰脇川ニ流死人有之候間尤郡代構之場所之由  
申出

一組之者昼扶持并目明扶持非人扶持等今日請取候ニ付例之通奥印取  
計小頭江相渡ス

八月六日

一左之面々立合ニ而伊丹屋利左衛門江申渡ス

下組新左衛門小頭利右衛門部屋目付藤四郎大年寄孫左衛門  
其方義亡父七郎兵衛敷年札元役出情相動候ニ付門松御免被成  
候

一右之段申渡相濟候旨御用番十太夫殿大目付主馬江相届ル

一中ノ町福茂屋武兵衛義播州分買人客三人逗留仕居候所去ル四日之  
夜盗人入込右三人之銀札盗取候旨届書を以届出候ニ付夫々手当申  
付目明共江小頭分与得申付候様申達ス

一ニ階町山本屋周右衛門義自国受酒株当正月分京町大村屋源右衛門  
江質置候所勝手ニ付今度取戻申度願書指出承届

一伏見町和氣屋万吉義ニ階町山本屋周右衛門所持之自国受酒株当月  
今来丑七月迄借受商売仕度願書指出承届

八月七日

一米相場左之通之旨書付指出

一御蔵米 四拾六匁五分  
一町米 四拾貳匁五分

一元魚町豊屋喜兵衛義心願有之候ニ付雲州大社江参詣仕度尤往來十  
五日計逗留仕度願書指出承届八月廿一日帰ル

八月八日

一今日御用日ニ付登城可仕候処昨夜分熱氣強候ニ付出仕難仕依之当

病不參之義十郎左衛門<sub>江</sub>相願遣ス

一 中ノ町福茂屋武兵衛方買人客被盜もの届書今日十郎左衛門相願指出候処右吟味手当等之義御尋候由ニ付尚亦手紙ニ而大目付主馬<sub>江</sub>申遣ス

一 江戸御留主居<sub>江</sub>島屋文七酒造株莫加銀之義先役分承合置候所先使申參候ニ付右之返書下案指出相伺候処思召無之旨被仰出候ニ付今便右返書御留主居志津馬<sub>江</sub>申遣

八月九日

一 市場村宇兵衛被盜もの触流例之通取計候様大目付中被申聽尤右<sub>者</sub>

去月廿三日夜五ツ時過分四半時迄之内物数拾壹品被盜取代物凡七拾七匁位之品触流之義大年寄<sub>江</sub>申達ス八月廿日無之旨届出ル

一 久世世代曾根源治郎飯沼才治郎分書状指越ぬし屋虎吉義金沢や善右衛門<sub>江</sub>懸り候脇指代之義ニ付先達<sub>而</sub>以来添簡等相願出記録候処筋立不申尚亦役筋分及書廻置候所虎吉罷出候ハ、早々濟方申付候間同人早々罷出候様取計可申旨申来

八月十日

一 昨夜久世表分之書状<sub>并</sub>右返書下案廻虎吉罷出候義可申達哉之旨御用番中<sub>江</sub>相伺候処伺之通取計可申旨被仰出右返書<sub>并</sub>虎吉義早々罷出候様大年寄<sub>江</sub>申達ス

一 美濃職人町作人登之助義備前国御野郡浜田村甚四郎兄平兵衛義当子四拾四才同母まつ七拾才同妻みき式拾六才同娘さと三才右之者共役介引請申度住居之義願出尤日蓮宗林田本蓮寺旦那<sub>承</sub>可仕向方旦那寺<sub>并</sub>役人別紙差越候旨願書指出○八月十四日住宅証文指出ス

一 二丁目唐津屋文藏義三浦志摩守殿御領分真島郡垂水村万右衛門妹みき当子廿二歳ニ罷成候右之者此度妻ニ引請申度住居之義願出西寺町大円寺旦那<sub>并</sub>可仕向方旦那寺<sub>并</sub>村役人別紙差越候間願書指出伺之上聽届申達八月廿二日住宅証文指出

一 上紺屋町海田屋佐治兵衛義御代官塩谷代四郎殿御支配所吉野郡川上村与右衛門俸林藏当子式拾五才同妻うた式拾二才同弟宿吉十七才右之者共此度役介ニ引請申度住居之義願出尤真言宗<sub>并</sub>林田高福寺旦那<sub>并</sub>可仕向方旦那寺<sub>并</sub>村役人別紙指越申候ニ付願書指出伺之上聽届申達ス八月十七日住宅証文指出

一 小性町家根屋源七借屋住高瀬屋忠吉義江戸吹屋町伊勢屋久右衛門<sub>与</sub>申者親類<sub>并</sub>此度千ヶ寺ニ罷出昨晚忠吉方<sub>江</sub>罷越候所足痛仕候ニ付三十日計逗留為仕度願書指出承届

一 西新町丸屋吉兵衛義林田村留藏娘弁当子十七才此度倅音右衛門妻ニ引請申度町内人別入願書指出承届

一 上紺屋町高砂屋金四郎義家屋敷表四間裏行拾七間但本役也右之家屋敷東ノ方式間裏行十七間代銀札百匁ニ相極同町作人十吉<sub>江</sub>売渡申度西方式間裏行十七間代銀札百匁ニ相極淺屋幸右衛門<sub>江</sub>売渡申度願書両通指出承届八月十七日売券状二通指出

一 上紺屋町竹本屋多兵衛後家義寛政十二申四月町内灰屋与右衛門分相願代銀札六百匁ニ相極夫多兵衛買取候処其節御駕籠相勤居申候ニ付同町瀧屋多吉名前ニ仕置候然ル所夫多兵衛死後万端引請罷在候ニ付此度家名前付替申度願書指出承届ル

一 明日御用日ニ付出仕可仕候所以今不快ニ付出仕難仕当病断之義十

郎左衛門<sup>江</sup>相頼人別入願書三通頼遣又

八月十一日

一御用日ニ付登城可仕候処不快ニ付当病不參

一二階町塗師屋虎吉明十二日久世表<sup>江</sup>罷出候様届出候ニ付添状案文

十郎左衛門<sup>江</sup>御用番<sup>江</sup>相伺候処十太夫殿<sup>江</sup>手紙ニ而伺之通被仰出

尤大目付<sup>江</sup>茂十郎左衛門<sup>江</sup>及噲置候

一久世表<sup>江</sup>塗師屋虎吉明日出立罷越候ニ付添状為相認大年寄<sup>江</sup>相渡

又

一十郎左衛門罷越寺社方御用ニ付同心組五人急ニ罷出候様相違呉候

様申義ニ付則申付左之者共指遣又

栄治 藤四郎 和四郎 庄藏 嘉七

一橋本町中屋忠七借家ニ居申候真島屋庄吉当子式拾八才同人母さよ

四十八才然ル所去る四月不計罷出行方不相知候ニ付其段御届申上

候所百日尋被仰付所々相尋候所一向居所相知不申候ニ付最早百日

余ニも相成候ニ付町内人別指除候様願書指出何之上聴届申達又

一<sup>末巻</sup>下紺屋町大工久治母家屋敷表口式間半裏行拾間但御役三步三厘右

之家屋敷此段相談之上質物ニ書入銀札式百五拾匁来ル丑七月切鍛

治五郎右衛門取次ニ而借請申度願書指出承届八月廿日質入証文指

出ス卯七月廿五日受戻ス

一栄治藤四郎兩人相殘余三人ハ先ツ御用無之候ニ付引取候様十郎左

衛門指図ニ付引取候旨相届

一栄治藤四郎夜五ツ時分最早御用無之候ニ付引取候様十郎左衛門指

図ニ付引取候旨届出ル

一夜中及深更和四郎庄藏嘉七三人共十郎左衛門呼出候ニ而唯今今一ノ

宮<sup>江</sup>罷越候ニ而神主雅楽<sup>并</sup>下社家岩城兩人共召捕候様指図ニ付罷越

候ニ而召捕候旨翌朝届出

一西新町吉武修格娘兼ニ而乱心候所近来到ニ而指発近辺<sup>江</sup>罷出難言等致

候ニ付何卒手鎖ニ而被仰付被下候ハ、相直候義も可有御座候旨内

々小頭迄相願候旨ニ付今昼廻り文藏幸治指向候旨<sup>与</sup>得申聞候間當

分手鎖懸ケ置候様申付ル

一牢番清右衛門罷出牢舍人兼助病氣ニ而服藥仕居申候所段々快候ニ

付休葉為仕候旨届出大年寄<sup>茂</sup>岩佐孝順右之段届出候段相届ル

一右同人罷出和田村周助義不快ニ御座候間服藥之義願出候間何卒医

師被仰付候様申出候ニ付大年寄<sup>江</sup>申付ル

八月十二日

一寺社取次野条金平<sup>手紙指越一ノ</sup>宮神主広瀬雅楽下社家種田岩城

兩人共揚屋入ニ取計候旨申来尤入牢手形相廻候ニ付自分入牢切手

ニ認替牢番<sup>江</sup>相廻又

一右入牢ニ付下番中間四人罷出候様牢番<sup>江</sup>申出候ニ付大目付主馬<sup>江</sup>

右之段申遣

一牢番団助義祖母致死候旨届出依之牢番助老入罷出候様大目付<sup>江</sup>

申遣又

一深信院様明十三日四ツ時御供揃ニ而蘭田町通り泰安寺<sup>江</sup>御參詣被

仰出候旨種村登門<sup>江</sup>申来夫々<sup>江</sup>申達又

一牢番助老入申立候所代合相勤候ニ付左之者共兩人罷出候旨兩人共

今届ニ罷出候ニ付大切之場所之義入念候様申付ル

渡部源四郎

山本治三郎

民右衛門

一 牢舎人周助義不快ニ付服薬之義願出候ニ付其段大年寄江申達候所  
藤木良全診察為致候間療治申付候旨相届ル

八月十三日

一 秋香院様法事ニ付先例之通近町江相詰御法事済引取候旨藤四郎和  
四郎相届ル

一 深信院様御先弘栄治幸治罷出候所無滞相濟候旨届出

一 今日御法事ニ付為伺御機嫌四ツ時登城仕候所七間廊下ニ例之通

御奏者以下一流御小性頭江謁申上ル

一 錢通用百五文ニ相成候旨銀札場今申来惣町江触出し取計候旨大

年寄今届出

一 一ノ宮下社家昨朝致出奔候右之者御用ニ而召捕候様被仰出候間組

之者忝人申付追付迄之内追手ニ出立為致候様太田舎人被申聽候付

退出後栄治呼出右之段申付諸事十郎左衛門取計候ニ付彼方江罷越

万端指図可請候様申付尤十郎左衛門内抱足軽同心代りとして忝人

指遣目明兩人指添候旨十郎左衛門今も委細通用有之

一 明日九ツ時左之者共町役組合指添罷出候様大年寄江差紙遣ス

下紺屋町作人喜代八夫婦

中之町福茂屋武兵衛

播州買人福茂屋客

長兵衛

茂七

一 同心組忝人他所御用ニ指出候ニ付右之助忝人罷出候様大目付江申  
遣候所尾崎広助罷出ル

一 一夜ニ入十郎左衛門今申越候者今晚指出候捕手之者共呼帰し最早御  
用相濟候ニ付同心組栄治指戻候旨通用

但右一ノ宮社人出奔之趣ニ候処左様ニ而者無之近在他行ニ而

今日帰宅致居候由ニ付

一 御用相濟罷帰候段栄治今届出

八月十四日 昼後少雨

一 源蔵義以後都而本役之通廻り出役等も相勤候様申付候処右之段小

頭今申渡候旨届出

一 尾崎広助義同心助ニ罷出候所最早御用相濟候ニ付揚人ニ取計候段

大目付江申遣

一 今日左之者共致吟味候ニ付立合之面々左之通

下役新左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番(嘉七)

一 福茂屋武兵衛義当月四日之夕旅人宿仕候所右三人之銀札被

盜候之段届出候ニ付彼是監察申付候所少々疑敷義も有之候

ニ付遂吟味候所指而手懸りも無之先ツ手鎖かけ組合預申付

置ク

一 福茂屋旅人客三人共呼出被盜候次第相糺候得共手懸りも無

之帰宅申付尤宿替為致候所甲屋幸助江宿申付候旨届出

一 下紺屋町作人喜代八夫婦共兼々不孝之取沙汰有之候ニ付呼

出段々申糺候所甚心得違不孝仕候得共以後相改急度相慎候

旨申出候得共先ツ手鎖かけ組合預ケ申付置ク

一 東新町玉屋伊右衛門義所持之自国受酒株去六月分寅ノ六月迄西新

町三原屋寅七<sup>江</sup>貸置候所勝手ニ付取戻申度願書指出承届ル

一 京町大村屋源右衛門義東新町玉屋伊右衛門所持之自国受酒株当八

月分来ル十月迄借請商売仕度尤伊右衛門手前ニ買売不仕候旨願

書指出承届ル

一 安岡町古川屋太兵衛義大久保安芸守殿領分久米北条郡油木下村熊

吉妹よし当子十二才此もの娘貰引請申度尤大円寺旦那ニ可仕向方

旦那寺村役人手形指越候旨願書指出伺之上聴届申達ス八月廿日住

宅証文指出ス

一 二町目三谷屋与三左衛門義悻助六去ル戌年今年寄名代役相勤居申

候処近来病氣ニ名代役難相勤候旨願書指出承届ル

八月十五日 朝雲

一 御用日登城

一 七間廊下ニおゐて例之通御奏者番以下三奉行迄当日御祝義御小性

頭<sup>江</sup>謁申上ル

一 御用所<sup>江</sup>罷出候節当日御祝義申述ル

一 西今町馬持吉右衛門義持馬栗毛ニ御座候所井口屋六右衛門持馬

同道ニ一昨十三日弓削村<sup>江</sup>荷負セ罷越候所右之馬喰合候ニ六右

衛門持馬喰候ニ付早速引分ケ見申候処即時ニ落申候色々養生仕

候得共相叶不申候ニ付他領之事ゆへ夫々相頼取捨罷帰候ニ付此段

届書を以相届ル承置ク

一 人馬問屋分旅人之病人宿送り有之候ニ付例之通取計可申哉伺出候

ニ付先例之通取計候様申付ル尤送り状指出ス左之通

伯州日野郡大宮村林吉弟

市次郎

一 右之者諸国大社仏閣參詣罷出候所気分悲敷ニ付当宿ニ致止

宿候ニ養生加へ逗留致候所頃日は少シ快方ニ御座候得共難

致歩行依之本国<sup>江</sup>送り呉候趣相願候ニ付其趣夫々御役人方

<sup>江</sup>相願宿継を以送り遣候間乍御難趣被加御憐愍最寄之方よ

り御送り届可被下候奉願候

以上 加州江沼郡動橋駅問屋

子七月廿九日

国々宿々御問屋衆中

九右衛門印

尚々所持之おりつる御座候間是亦一緒ニ御送り可被下候

奉願候以上

一 桶屋町竹田屋種吉組合共今右種吉義去ル三月御願申上往来百五十

日計之逗留ニ四国遍路ニ罷出候所道中ニ相煩候哉最早日限過

候得共罷帰不申候左候得者五十日計之日延奉願候旨願書指出承届

ル

一 新職人町ぬし屋長右衛門義所持之家屋敷表口三間裏行九間半御役

本役也石家屋敷相談之上代銀札百八拾匁ニ相極ぬし屋孫三郎<sup>江</sup>売

渡申度願書指出承届八月廿日売券指出

一 二階町茂渡庄右衛門家守若木屋伊助義京五条朝日神明宮之内神道

講釈師好見若狭<sup>与</sup>申者か、屋忠兵衛方<sup>江</sup>罷越申候間当地用事御座

候ニ付当月中逗留為仕度願書指出承届九月朔日帰ル

一 堺町鳥屋与市義愛染寺開帳中世話役被相頼候ニ付右日数之間罷越世話仕度願書指出承届ル

八月十六日 晴

一新職人町松野屋十右衛門義備前岡山鼠屋甚八悴清兵衛并手代文十郎二人例年之通元結卸売ニ昨日罷越候ニ付宿仕候旨宿切手指出ス十二月廿九日帰

一 右同人方江備中早島金田屋伝藏手代栄八右兩人例年之通雲斎紋羽足袋卸売ニ昨日罷越候ニ付宿仕候旨宿切手指出ス十二月廿九日帰  
一中ノ町福茂屋武兵衛方ニ罷越居申候買人三人当時甲屋幸介方ニ罷在候所左之通之歎書指出

一 私共三人兼而御当地江度々商内ニ罷越申候而前々当御町内福茂屋武兵衛方ニ止宿仕来り既ニ今般三人共追々商内ニ罷越同人方ニ逗留仕罷在候処去ル十四日之夕盜賊入込則武兵衛分書付を以御届奉申上候通三人共持合之銀札被盜取候得共盜賊之手懸りも無御座迷惑仕罷在候処昨十四日宿武兵衛并私共御召出被為遊私共江被為仰付候者仍而心懸り之義も有之候ハ、申上候様被為入御念御尋ニ御座候得共素より三人共心附之義も無御座其段奉申上候処宿武兵衛身分御疑之御ケ条を以御嚴重之御吟味被為遊候依之不及申上私共迄奉恐入候然ル所兼々定宿与仕久敷馴染ニ御座候得共右武兵衛母子ニおゐて是迄不埒之取向も無御座随分深切ニ仕呉勿論今般盜難ニ逢候而茂彼等母子ニ私共毛頭疑心無御座外より入込候盜賊与奉存候依之武兵衛江对シ此義ニ付後々年々

ニ至迄も聊申分無御座候義故何卒同人手錠御預御免被為成下候様乍恐奉歎書右之段御許容被為成下候ハ、於私共も難有仕合可奉存候此段宜被仰上可被下候以上

年号月日

播州赤穂郡高田宿村 長兵衛印  
同国同郡高田中野村 茂七印  
同国同郡落地村 民右衛門印  
宿津山中ノ町加判 甲屋幸助印  
宛所

一 井口村治助被盜物無銘脇指巻腰并野村順兵衛被盜物七品代三拾八匁位之品々例之通触流取計大目付中分申来大年寄江申達八月廿九日無之間届出  
一 唯今乱心もの相見江大社之札之由箱持候而御城内江入込候ニ付御台所ニ指留置候旨中奥目付分届出候間急ニ捕手之者指向候様大目付主馬分申来其段出番之者江申付候処栄治源藏罷出候ニ付右之段申付早々御城江指出  
一 右之者召捕候間繩懸連来候ニ付一心相糺候処乱心者ニ相違無之尤彼義先年御駕籠相勤候而江戸表ニ而欠落仕候五歳与申者ニ而当町新イ田大崎村に罷在両親兄弟も有之者候由申立候得共狂気者之義一向論先相分り不申先ツ牢番預ケ申付候間御用番中并大目付江も右之段相届ル  
一 下役新左衛門不快ニ付今日不參之旨断申来

八月十八日 雨

一 御用日登城

一 甲屋幸助方ニ止宿之旅人福茂屋武兵衛母子共疑敷義無之間何卒手鎖預ケ御免被成候様歎書指出候ニ付右歎書ニよつて指免候而も可然哉之旨伺置候処伺之通被仰出候ニ付晚方武兵衛手錠組合預ケ指免旅人共勝手次第致出立候様大年寄宅ニおゐて申渡ス立合左之面々

小頭利右衛門 部屋目付栄治 出番幸治

右之段申達相濟候旨届出候ニ付御両所江相届

一 牢番団助罷出乱心五藏義塩詰牢江入置候所今朝今大あはれ致候ニ

付何卒志番揚屋江入替度旨申出依之今日夜廻り之処昼廻り申付牢

替為致候ニ付昼廻り藤四郎和四郎外ニ出役之義も有之候ニ付栄治

幸治も罷越候而無滞牢替取計候旨届出

一 御年貢納中為替米勿論致間敷旨例年之通御触書到来尤以後は其時

々御触無之旨申来組中江者申達候得共町方江者不申達其時節相触

可申候

一 下役新左衛門未不快ニ付今日不參断之旨申来り

八月十九日

一 西今町永延屋彦右衛門今八時郡代所江指出候様申来其段大年寄江

申達ス

一 戸川町板屋伊右衛門義高田神代村喜多兵衛与申者大工職修行為仕

度来丑年迄二ケ年之間逗留仕度願書指出承届丑八月十二日帰り届

一 坪井町浜野屋嘉一郎寿石所持之旨指出入御覽候様御小納戸古谷嘉

左衛門分申来其段大年寄江相達候所無程指出則御小納戸江指出尤

挟箱志ツ籠裏風呂敷ニ包志ツ指出置ク

一 西今町永延屋彦右衛門今日郡代ニ而吟味有之二ノ宮村長吉致御箱訴候一件ニ付吟味中他参留申付候旨郡代十郎左衛門分申来且左之者共明廿日五ツ半時指出候様申来大年寄江申達ス

西今町 三倉屋 善四郎

永田屋 喜兵衛

永田屋 半治

永延屋 彦右衛門

安岡町 初屋 伊兵衛

一 中ノ町甲屋幸助方江逗留之買人長兵衛茂七民右衛門不殘今朝出立致候旨届出

八月廿日

一 宗旨奉行小島定人分町方宗門帳之内不分明之処附札有之候間取調後刻迄ニ指出候様申来大年寄江相達候所晚刻出来指出

一 西今町公文屋熊吉今市屋勇助右兩人引合之義有之今昼後兩人共召

連罷出候様町役江直々ニ申達候旨十郎左衛門分申来

一 下紺屋町作人喜代八先達而手鎖組合預ケ申付置候処喜代八心底も

相成却而孝心之取向ニも可相成并同人母義も何卒御免之義御歎申

呉候様申候ニ付組合連印歎書指出

八月廿一日

一 御用日登城

一 下紺屋町作人喜代八不孝之取沙汰有之候ニ付去十四日手鎖組合預

申付置候所同人母并組合共分心底相直り候ニ付何卒御免被下候様

歎書指出依之大年寄宅<sub>ニ</sub>而手鎖組合預ケ指免立合之者共左之通

小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番庄藏

一 明廿二日九ツ時左之者共郡代所<sub>江</sub>指出候様申来大年寄<sub>江</sub>申達ス

安岡町粉屋伊兵衛 西今町三倉屋善四郎 永延屋彦右衛門

一 昨晚左之者共大年寄宅<sub>江</sub>呼出兼<sub>而</sub>不孝之取沙汰有之候<sub>ニ</sub>付<sub>与</sub>得理解申聽候処何<sub>茂</sub>恐人以後急度相改候様申出候旨大年寄届出

細工町弥吉夫婦之者

同長右衛門借屋者伝右衛門妻

堺町中野屋伊助

一 布原村民治被盜物布子衿<sub>ハ</sub>二品例之通町方触流取計候様大目付中

今申来触流之儀取計候様大年寄<sub>江</sub>申達八月廿九日無之旨届出ル

八月廿二日

一 牢舎雅楽岩城兩人共昨日於御用屋敷寺社取次吟味有之候<sub>ニ</sub>付九ツ

時同心組四人指出候様太田舍人今申来其段小頭<sub>江</sub>申達置ク

一 三軒屋番中尾清八罷出今日今御城之草苅相始候旨届出承置ク

八月廿三日

一 三浦十郎左衛門義地方間違之義有之候<sub>ニ</sub>付指扣伺呉候様申達大目

付黒田忠三郎<sub>江</sub>罷越相伺候処早刻伺<sub>ニ</sub>不及之旨指図有之其段及通

用

一 雅楽岩城吟味<sub>ニ</sub>付藤四郎栄治文蔵幸治罷出候<sub>ニ</sub>付先ッ十郎左衛門

宅<sub>江</sub>指向夫今御用屋敷<sub>江</sub>召連吟味有之七ツ半時過相濟候旨届出ル

八月廿四日

一 船頭町山家屋九兵衛弟槌蔵義享和二戌年五月相願大坂天満坂田屋

嘉兵衛方拾ヶ年切奉公<sub>ニ</sub>差遣置候処去ル五月中旬欠落致所々相尋

候得共今以行衛相知不申候之旨嘉兵衛方今申越候右<sub>ニ</sub>付心懸り之

処相尋候得共今以行衛相知不申候段届書を以届出候<sub>ニ</sub>付百日尋申

付置ク

一 福渡町産医野上玄養義流産之剂売出候哉之旨風聽有之候<sub>ニ</sub>付監察為致候処風聽之通相違も無之趣<sub>ニ</sub>付急度相糺可申処近年当所入帳

もの<sub>ニ</sub>て兼<sub>而</sub>嚴敷被仰出存不申候哉<sub>ニ</sub>付先ッ此度<sub>者</sub>大年寄宅<sub>江</sub>呼

出急度申付以後右様之取沙汰等も有之候ハ、其節急度吟味可致申

渡一札為致組合連印<sub>ニ</sub>而指出尤右之取計<sub>者</sub>兼<sub>而</sub>相伺候処何之通被

仰出今朝大年寄宅<sub>ニ</sub>而右之通申渡

一 堺町作人平吉借屋住弥太郎悴十吉義一昨廿二日夜四ツ時頃京町中

程<sub>ニ</sub>而脇指忝腰拾申候右脇指長サ九寸五歩但シ備州長船祐定永録

十年二月日<sub>与</sub>薄彫之銘有之鞘黒塗鐔すかし柄かわまき縁赤銅頭角

馬目貫下緒真田打鉏赤銅切羽金きせ小柄素銅模様見之着申候小刀

先キ折居申候届書を以届出候<sub>ニ</sub>付伺之上両大橋<sub>江</sub>張札取計候様大年寄<sub>江</sub>申達ス

一 下役新左衛門全快<sub>ニ</sub>付今日今出勤届有之

一 牢屋扶持五俵之内貸証文小頭今指出例之通奥書取計

八月廿五日

一 御用日登城

一 牢番団助罷出牢舎人周助義今日迄藤木良全療治二廻り相濟候得共

未全快不仕難捨置今暫療用被仰付候様申出大年寄今も右之段申出

今一順良全<sub>江</sub>療治申付候旨届出



一 明廿六日御仏參御不例ニ付御延引被仰出候旨中奥目付出九太夫令  
通用有之夫々<sup>江達</sup>

一 深信院様明日四ツ時御供揃<sup>ニ</sup>而 泰安寺の妙法寺<sup>江</sup> 御參詣之旨種村  
登門令申来則夫々<sup>江</sup> 申達又

一 通用錢三十五箇川下致候ニ付裏印取計候様銀札場奉行松島郡平令  
申来例之通裏書印取計相廻又

一 江戸御留主居令御用状到来先達<sup>而</sup> 林田町島屋文七所持之酒造株福  
渡村若松屋庄助<sup>江</sup> 讓渡度願書指出候ニ付龍野<sup>江</sup> 懸合江戸表<sup>江</sup> 申遣

候所龍野令申參候ニ付申合之上去ル十日御勘定所御届取計相濟  
候段大目付中令御達も有之候得共為念及通用候旨河内志津馬令申

来御両所<sup>江</sup> 及御沙汰未大目付中<sup>江</sup> 者 不申參旨ニ付龍野表<sup>江</sup> 者 不申  
遣

一 御藏元兩人令内願申出候<sup>者</sup> 田原屋定太郎舟肝煎被仰付例年御登米  
役所<sup>江</sup> 罷出日々相調候義御座候処和談難相成候ニ付御指支之程難

計奉恐入候依<sup>而</sup> 何卒以前之通御登米之節御藏元場合<sup>ニ</sup>而 人撰相勤  
させ申度旨大年寄迄申出候ニ付<sup>与</sup> 得承糺候処無余儀趣<sup>ニ</sup>而 宜取計

候様大年寄<sup>江</sup> 相達又  
一 桶屋町さかや卯之介借屋住歌屋久治郎義五歳ニ相成候役介之男子

未町人別之ものニ無之入帳之願出候処右男子出生砌令不届出候訳  
<sup>者</sup> 磯山久三郎子ニて右之久治郎祖父平六娘ニ出生候由候処久三郎

方引取候ニ付町人別ニ無之段相願候<sup>而</sup> 以後離散致右産母ハ其以後  
勘当ものニ相成旁是迄御届不申上甚恐入候段久治郎令口書指出尤

さかや卯之介令人別入願書指出

一 歌屋久治郎祖父平六右男子出生之御桶屋善六借屋ニ居申候ニ付  
其節届出候筈之処右之訳合<sup>ニ</sup>而 不届出候ニ付当人歌屋久治郎<sup>并</sup> 元

家主桶屋善六其節之組合共右出生不届不束之義ニ付急度叱置以  
来入念候様大年寄宅<sup>ニ</sup>而 申渡又

一 東新町吉武修格娘義先達<sup>而</sup> 乱心<sup>ニ</sup>而 此節尚亦指発候ニ付手鎖申付  
置候処余程氣分相直候ニ付手鎖指免呉候様申出今夜廻り榮治源藏  
指向手鎖指免又

八月廿六日 終日雨夜分大雨  
一 深信院様御仏參ニ付御先弘栄治源藏罷出無滞相濟候旨届出

一 兼田川満水ニ付川留之旨郡代所令申来大年寄へ申達又同日昼後川  
明届有之

八月廿七日 雨

一 玉置万吉義所持之酒造株去十二月令当八月迄京町吉田屋喜八郎<sup>江</sup>  
貸渡置候処限月来候ニ付取戻申度左候得<sup>者</sup> 喜八郎手前<sup>ニ</sup>而 商売不

仕候旨願書指出承届  
一 京町鍵屋虎吉義城代組内田政治長屋ニ居申候文六<sup>与</sup> 申者当子六拾  
才妻五十才娘廿才右三人此度引請申度町内人別人願書指出承

届  
一 西新町升屋勘介後家義娘しな当廿式才此度御領分林田上之町兼井

吉治母役介ニ差遣申度町内人別指除候様願書指出承届  
一元魚町福永屋卯三郎家守和助義借屋ニ居申候南屋孫三郎養子ニ備

前津高郡中山村幸治弟岸右衛門当子三拾五歳此もの此度養子ニ引  
請申度尤向方旦那寺<sup>并</sup> 村役人令別紙指越候ニ付人別人願書指出伺

之上聽届八月廿九日住宅証文出

一安岡町大坂屋増藏借屋住大工幾右衛門義一昨廿五日之夜裏口分盗人入込着類物数七ツ脇指老腰銀札十七匁式分被盜取候旨以書付届出候ニ付伺之上触流取計九月八日無之段申出

八月廿八日 終日雨

一御用日登城

一二階町塗師虎吉義去ル十二日呼出ニ付久世表江罷越候処兼ニ及出訴候金沢屋藤左衛門江懸り脇指老腰代銀滯出入一件今般内濟ニ而百六拾匁手取ニ而内濟相調罷帰候旨届出尤手代分之書状内濟一札之写相廻候ニ付御用所江茂指出右返書案文相伺候処伺之通被仰付依ニ而大目付中江も右之趣及沙汰飛脚之者御達被下候様申達ス  
一下高倉村西分幾三郎被盜物着類拾五品代凡拾七匁五分位右之触流取計候様大目付中被申聽大年寄江申達ス九月八日無之段申出

八月廿九日 終日雨夜大風

一院庄川兼田川出水ニ付川留之旨郡代所分申来大年寄江申達ス

一愛染寺開帳日延相願候ニ付両大橋江張札致度申出候間其段宜取計候様寺社取次分申聽則大年寄江達置ク

一今夜中烈風雨ニ付定ニ而出水可有之注進次第出役之致覚悟候処存之外出水不致候ニ付役無之

一材木町伏見町江御堀之水上り候ニ難義仕候ニ付水門之簀御開被下候様両町分願出候旨大年寄分申出夜中深更なから大目付主馬江申遣候処承知之旨申来

八月晦日 昼後快晴

一京町はりや利吉裏堀覆御堀江落込候処強風ニ而西之方吹流候ニ而難

捨置何卒急ニ取揚申度願書指出右之段大目付主馬江申達ス

一神田栄治義拝領屋敷居宅昨夜之大風ニ而四五尺も西之方江倒候ニ

付大工江茂為見申候処此候ニ而修覆難仕申之候ニ甚難儀之旨届出

候依ニ而右之趣大目付類助江相届何卒潰家同様御手当も被下置候様

仕度及噂置

一牢屋下番久三郎義昨夜之大風ニ居宅吹潰候旨届出候尤委細者支配

頭江相届候旨ニ付当役構無之候得共一応及噂置

一二階町鳥屋藤吉義例年之通ねちわく細工手伝之者二人加古川分罷

越候ニ付当十二月迄逗留為仕度願書指出承届ル十二月廿日帰ル

一昨夜大風町方届出候程之風破無之候段大年寄分申出候ニ付御用所

江も追ニ而及沙汰候事

九月甲戌小

御家老 安藤丹後殿

御年寄 海老原極人殿

大目附 赤見類助

大年寄 斎藤孫右衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

九月丁亥旦 晴

一 御用日登城

一 当日御祝義七間廊下<sub>ニ</sub> 而 御奏者番以下例之通御小性頭<sub>江</sub> 謁申上ル

一 一昨夜之大風町方無之旨御用所<sub>ニ</sub> 而 申述其外申上候御用向無之

一 福渡町増見屋藤吉義大久保安芸守殿領分当国之内神代村百性太兵衛

衛弟吉当子四拾八才同人妻<sub>ミ</sub> ね三十三才弟石右衛門四十五才右

之者三人共役介引請渡世為仕度町内人別人願書指出五日伺之上聽

届申達ス七日住宅証文指出

一 德守宮地子居宮脇町松野屋伝助義悴利吉去ル五月六日出奔仕其節

御届申上候処百日尋被仰付所々相尋候得共以今行衛相知不申依之

町内人別離願書指出五日伺之上聽届申達ス

一 西今町備前屋嘉藏義脇坂淡路守殿御預所南方中村しげ娘ふさ当子

拾九才此度私妻<sub>ニ</sub> 引請申度人別人願書指出五日伺之上聽届申達ス

十月廿八日住宅証文出

一 鍛冶町富岡屋宇兵衛後家養子五兵衛当子三拾七才然ル処<sub>江</sub> 当月九日

家出致罷帰不申所々相尋候得共行衛不相知候間届出百日尋申付ル

一 材木町元屋長八義所持之家屋敷表口式間裏行拾七間御役四步右之

家屋敷町内米子屋藤左衛門後家<sub>江</sub> 売渡申度願書指出承届九月七日

売券状出

一 元魚町伊丹屋利左衛門義所持之家屋敷表口四間七步五厘裏行拾七

間此裏行<sub>ニ</sub> 而 東西拾壹間南北式間相添弟武川屋久右衛門<sub>江</sub> 讓渡申

度尤亡父七郎兵衛存生中右之段申置候<sub>ニ</sub> 付願書指出承届十月十六

日家讓状指出

一 鍛冶町富岡屋卯兵衛後家家屋敷表口三間裏行六間右之家屋敷下紺

屋町紙屋音四郎取次<sub>ニ</sub> 而 質物<sub>ニ</sub> 書入銀札百六拾匁来丑十月切借請

申度願書指出承届<sub>江</sub> 九月十四日<sub>文化八未四<sub>ニ</sub> 月十八日通候改書又<sub>江</sub> 証文出又<sub>江</sub></sub>

一 神田榮治義大風<sub>ニ</sub> 而 居宅過半吹倒候間取繕も難仕旨歎出候<sub>ニ</sub> 付大

目付<sub>江</sub> 委細申述置候所右為手当米壹俵被下之候旨亦見類介<sub>江</sub> 申来

小頭<sub>江</sub> 申達

一 院庄川兼田川水落川明候旨郡代所<sub>江</sub> 申来其段大年寄<sub>江</sub> 申達ス

九月二日 快晴

一 夜中大年寄孫右衛門罷出桶屋町田村屋茂兵衛種屋坂之丞<sub>江</sub> 届出候

林田町鍵屋茂助持宮川東場<sub>ニ</sub> 指置候召仕安五郎<sub>与</sub> 申者今昼後<sub>江</sub> 相

勝不申候<sub>ニ</sub> 付色々養生指加へ候処唯今致落命候旨医師相詰罷在候

右<sub>ニ</sub> 付請人之義死骸引取候様茂助<sub>江</sub> 申聽候然ル処病死<sub>ニ</sub> 相違無之

引取可申候得共一応御届申上候<sub>而</sub> 引取可申且亦安五郎義<sub>者</sub> 雲州飯

石郡案田村水之屋町のものよし<sub>ニ</sub> 而 四ヶ年以前河内村西屋藤吉<sub>江</sub> 被相頼候<sub>而</sub> 兩人請人<sub>ニ</sub> 相立当初秋<sub>江</sub> 鍵屋<sub>ニ</sub> 相勤居申候処急病<sub>ニ</sub> 而

相果申候依之仮葬仕度願書候<sub>ニ</sub> 付先ツ河内村西屋藤吉<sub>江</sub> 右死去之

旨為相知彼方<sub>江</sub> 引取候哉当方<sub>ニ</sub> 而 取計呉候様相頼候哉<sub>与</sub> 得懸合候

而 申出候様申達置ク

九月三日

一 久世手代<sub>江</sub> 之先日之返書去ル廿九日指出候所其宮川支<sub>ニ</sub> 而 昨朝立

<sub>ニ</sub> 而 罷越候処今朝罷帰飛脚宿請取手形指出飛脚村上吉右衛門

一 御代官竹内要左衛門罷越申聽候<sub>者</sub> 能勢屋源助義肥代残上納可仕当

春以来度々申付手紙等も指遣候所一向答も無之甚不埒之義<sub>ニ</sub> 付勘

定奉行<sub>江</sub> 及沙汰取計方も有之候得共先ツ右之段急<sub>ニ</sub> 片付候様申付

呉候様申聴候ニ付大年寄江達置早速相納相濟候段届出ル

但大豆忝升ニ付六分五厘

一林田町鍵屋茂助召仕之安五郎致病死候ニ付請人田村屋茂兵衛河内村西屋藤吉分被相頼候ものニ付早々河内村江罷越安五郎死去ニ付

一鍵屋茂助下人安五郎死骸俵埋取計妙願寺江相頼送り引導貫候而川向惣墓江俵埋随分入念候旨届出御所江相届

如何取計候哉及相談候旨懸合候所藤吉申聴候者成程最初及挨拶候得共忝ケ年余も已前之義右安五郎分も一向音信も無之此節は定

一西新町奈良屋源兵衛義中ノ町秋田屋宗兵衛所持之自国受酒株去ル八月分当八月迄借受商売仕候右限月来候得共猶亦当九月分来九月迄借受買売仕度願書指出承届ル丑閏八月二日返ス

津山表ニ馴染も出来可有之義存居申候事故此節ニ至りいか様共難及指図何分其方ニ而宜取計候様不及頓着候由申出候右ニ付雲州表へも懸合可申候得共遠方之義死人家ニ指置かたく候間俵埋取計申度其上ニ而早々雲州表江罷越懸合候間何卒俵葬仕度左様ニ候得

九月五日 快晴

安五郎兼々浄土真宗之旨申居候間妙願寺江相頼川向惣墓江俵埋仕度願書指出御用番極人殿江相伺候処伺之通取計候様被仰出其段

一御用日ニ付登城

大年寄江申達ス

一林田町鍵屋茂助義召仕之安五郎与申者昨日分風相勝不申候ニ付医師等相頼種々養生仕候得共不相叶死去ニ付請人桶屋町茂兵衛坂之丞江死骸引取候様申候処承知之旨申之罷帰候而一向参り不申候ニ

一材木町山城屋重右衛門義居宅裏塀覆御堀江吹落候ニ付引取繕仕度仍御堀江足代下シ申度願書指出大目付江相達置

付何卒急ニ死骸引取之義ニ被仰付候様願書指出候処右請人ハ河内村江罷越候旁ニ而年寄共相對ニ而河内村より罷帰候迄者鍵屋方ニ指置候旨及相談候旨大年寄分申出

一大目付分被申聴候者左之者共追払者ニ候処近来徘徊仕候様相聞候付致吟味候様ニ而申聴致吟味候様大年寄江申達置

下役新左衛門妻出産女子出生之旨仍而血忌引込候段届有之

上ノ町与有之候ハ中之町にて可 上ノ町ふな屋太兵衛

九月四日 昼後雨

有之戌十二月廿六日徘徊御免

一惣豆婦屋并八百屋平吉分唯今迄豆婦忝丁ニ付拾九文売候所大豆高値ニ相成候付忝丁ニ付式拾文ツ、商売仕度願書指出伺之上聞届申

亥十一月廿四日右同断 船頭町大黒屋藤七

達ス

御手廻にて致出奔候ものにて御 河原町 甚介

座候哉

寛政六年九月廿二日右同断

京町 あわ屋亀吉

下紺屋町なす屋源助

細工町大工 藤吉

一ニノ宮長吉西今町永延屋彦右衛門喧嘩一件今般取扱ニ相成候間願下ケ申出候旨郡代より通用有之依之明日左之もの共九ツ時郡代所江町役指添指出候様申来り申達置

九月四日 昼後雨

下ケ申出候旨郡代より通用有之依之明日左之もの共九ツ時郡代所

江町役指添指出候様申来り申達置

江町役指添指出候様申来り申達置

江町役指添指出候様申来り申達置

西今町三倉屋善四郎 同永田屋喜七悴半治

同永延屋彦右衛門 同永田屋喜兵衛

安岡町粉屋伊兵衛

一 上田邑北銀藏同村南新助同村浅八右三人之もの共牢番預ケ申付候

間立合之者指出候様郡代より申来則申付候所源藏罷出入牢取計候

旨届出牢番清右衛門も同様届出

一 揚屋賄是迄九拾六文之処外並も有之ニ付以来は七分ツ、ニ相成候

間左様相心得候様大目付類助申聴則小頭并牢番江も申達ス

九月六日 快晴

一 林田町深屋勘十郎義悻乙藏妻義去ル廿八日出産女子出生之所右懐

妊之義四ヶ月目届出候筈之所致老衰候而物覚薄ク組頭役致毎月懐

妊之義町内中相調年寄江書出し候得共右四ヶ月目不快ニ而旁不届

出出産之上右之段心付候義甚恐入候旨何卒出生町内人別ニ指加へ

候様願書指出依之急度叱り申付人別入之義承届ル

一 桶屋町田邑屋茂兵衛義雲州もの安五郎死去一件ニ付唯今雲州表江

出立仕候旨届出

一 郡代十郎左衛門今今日二ノ宮長吉喧嘩一件懸り合之町方之もの共

呼出双方願出之通内濟聴届一同他參留差免候旨案内有之

一 和田村弥吉藤屋村源治牢番預ケ申付候間立合之もの指出候様郡代

より申来則申付出番幸治罷出入牢取計候間届出牢番今も右為届固

助罷出

九月七日 快晴

一 明八日御仏詣御延引被仰出候旨中奥目付出九太夫今申来夫々江申

達

一 油方共今菜種石数書付左之通指出郡代江相廻ス

一 菜種式百式俵

右升高七拾石七斗

右之通播州兵庫菜種引請問屋江積登申候以上

文化元甲子年

九月

油方 名前四人

一 大目付江右菜種積登届書認方左之通

一 何百何拾何石何斗

内

何百何拾何斗 油屋共手作手紋

残 何拾何石何斗何升

外ニ散種何十何石何斗何升

合何百何拾何石何斗何升

右者兵庫問屋江積登申候

右之通ニ御座候以上

一 銀札場奉行松島郡平今錢式拾式箇川下裏判之義申来則相認相廻ス

一元魚町浅野屋いせ義是迄浄土宗泰安寺旦那ニ御座候所由緒有之候

ニ付天台宗ニ改宗仕娘共兩人大円寺旦那ニ罷成申度尤両寺納得之

上一札取之候ニ付写指出尤願書共指出宗旨奉行引合之上九月十一

日聞届申達ス

一 船頭町和泉屋清助後家義所持之家屋敷表口三間式尺三寸五歩裏行

五間卷尺四寸御役七歩五厘右之家屋敷代銀札六拾匁ニ相極町内山  
家屋九兵衛江壳渡申度願書指出承届九月十六日壳券状指出ス

一吹屋町作人平藏義船頭町北側ニ而和泉屋清助後家持分当人所持之

明地東西三間式尺三寸五歩南北式間三尺六寸御役式歩五厘此明地

代銀札式拾匁ニ相極同町山家屋敷九兵衛江壳渡申度願書指出承届

九月十六日壳券状指出

九月八日 夜強雨大雨

一御用日登城

一先達ニ而浜野屋嘉一郎今指出置候寿石今日御用相濟候由ニ而御小納

戸古谷嘉左衛門より相廻候ニ付則嘉一郎江指戻ス

一明日大隅宮祭礼ニ付例年之通組之者四人出役致候ニ付町廻り之義

ハ如何可仕哉之旨小頭今申出候ニ付町廻り之処ハ祭礼出役ニ而指

心得候ニ而別段町廻リニハ及申間敷申達置

九月九日 快晴

一重陽ニ付五半時登城

一七間廊下ニ而例之通御奏者番以下御祝義御小性頭江謁申上畢ニ而御

用所江も類役相揃罷出御祝義申上退出懸大目付江御祝義及挨拶

一豊後国日田郡竹田村平吉妹ぬい諸国順拜ニ罷出候処当国勝南郡北

山村ニ而歩行不相叶同所今送り出川部村江送り来候ニ付聞届置候

旨十郎左衛門今通用有之候ニ付大年寄江申達置十日東新町江送来

新田村江送ル

一坪井町千切屋勘兵衛義播州赤穂花嶽寺宝物愛染寺ニ而開帳之節會

得師後藤一山今申者罷越居申候右之者手島学并軍書鍛練ニ付当月

中私方ニ逗留為任御城下ニおゐて晴天十五日夜分右両様講釈為仕  
度願書指出伺之上聽届達

一大隅宮祭礼ニ付出役として栄治文蔵庄蔵源蔵罷出候所祭礼無滞相

濟候段届出尤聞置切ニ而何方江も御届不及

一牢番伝右衛門罷出和田村周助義病氣ニ付是迄藤木良全療治之処二

廻り相濟候ニ付外医師江申付呉候様申出候ニ付則大年寄江申付候

処吉武修格へ療治申付候旨届出ル

九月十日 夜雨

一下役新左衛門血忌昨日迄ニ而今日今出勤之旨届有之

一書役介之義兼ニ申立置候所從今日真北又作罷出候ニ付委細新左衛

門江承合候ニ而相勤候様尤新左衛門出勤之日罷出可然旨申付ル

一福渡町岡屋万五郎義土井大炊頭殿領分高尾村百性金藏当子三拾六

才妻三拾六才金藏弟太郎三拾三才右之者此度引請相応之渡世為

仕度住宅之義願書向方村役人今も別紙指越候ニ付願書指出伺之上

聞届申達九月十六日住宅証文指出

一玉置源五兵衛義娘操義当子拾六才此度備前和氣郡西片上村中村善

左衛門妻ニ差遣シ申度人別除之願書指出伺之上聞届申達ス

一半舍周助義吉武修格診察之所病氣ハ無之勞疲強候ニ付何時死之処

無覺束候段届出候ニ付容体書為致郡代所江相廻ス

九月十一日 雨天

一御用日登城

一大坂長沢清左衛門今郡代連名ニ而書状指越湊橋木屋与兵衛歎書之

趣二ノ宮村義兵衛西今町佐助江相懸り旅籠代指滞候ニ付歎書指出

候旨申来

去亥三月十三日今四月十一日迄旅籠代銀取替

一勘定ノ高式百三拾五匁六分 此分右兩人証文入

一外ニ銀三匁六分四月十二日分賄代

合式百三拾九匁式分

内九拾壹匁 亥極月廿九日受取

残 銀百四拾八匁式分 不足分

右之通書付相廻候ニ付郡代申談急ニ筋立候様申渡ス

一人馬問屋野田屋佐右衛門義十七ヶ年以前今右役義相初候処近来病

身ニ罷成申候ニ付役免願指出尤悴幾太郎数年往来継立之義見習居

申候ニ申付呉候様願書指出承届

九月十二日 晴

一牢舎人和田村弥吉藤屋村源次田邑村銀藏浅八新介右之もの共致吟

味候ニ付立合之者指出候様郡代所今申来嘉七罷出出入立合取計候

間届出

一香々美村忠藏幸助与兵衛円宗寺村源藏田部村亀之介一宮村里方松

次右六人之もの牢番預ケ申付候間立合指出候様郡代今申来嘉七罷

出取計相済候旨届出

一勝南郡青野村幸七娘その与申者伯州大仙江参詣いたし候処同州久

米郡上田中村雲祥寺門前ニ而相煩同寺ノ七左衛門と申者を指添送

り出院庄村江送り来候旨申出候ニ付承届置候ニ付町方へ相達候趣

郡代より申来候ニ付大年寄へ申達置

一新屋敷荒神宮今夕宵祭ニ付安岡町例年之通挑灯指出候旨同町届出

候大年寄今相届ル

一西今町松田屋佐助義去ル八月中旬頃近在江罷越候所其後罷帰不申

候ニ付方々相尋候得共行衛相知不申候ニ付右之趣相届候旨家守戎

屋銀藏今届書指出尤松田屋義者大坂木屋与兵衛旅籠代指滞懸り合

之者ニ付別而入念百日尋申付ル

一東新町山崎屋藤兵衛義借家ニ居申候町川屋庄七悴庄兵衛義当子十

二才此度林田上ノ町源介養子ニ指遣申度町内人別指除候様願書指

出承届

一坪井町歛柄屋吉右衛門義此度林田上ノ町藤兵衛与申者当子四拾才

同人福平屋善介役介ニ引請相応之渡世為仕度町内人別人願書歛柄

屋家守ニ付指出承届

九月十三日 晴

一勝南郡青野村その昨夜半頃安岡町江送り来今晚八ツ時過林田村江

送り遣候旨届出候段大年寄今相届

一極人殿被申聴候当暮今市郷共酒運上相納候様取計可申尤三奉行江

申談之上相調申出候様申聴類役江及通用

九月十四日 晴

一河原町小桜明神宵祭ニ付挑灯灯候旨并来廿四日天神宵祭ニ付同町

挑灯灯候旨届出承置ク

一大般若ニ付例之通御札小勘者今相廻内十壹枚別封是は組之者共へ

遣候ニ付当番へ相渡

一坪井町千切屋勘兵衛義今般後藤一山手島学講釈願之通相済候ニ付

妙願寺借受晴天十五日之間仕七度願書指出社取次引合伺之上聴

届申達ス

一 林田町紺屋治三郎義因州鳥取川端大工町奥谷屋義兵衛娘ひさ当子  
式拾五才右ひさ懷妊ニ 而 八月計ニ罷成申候此度妻ニ引請申度尤上  
ノ町本蓮寺旦那ニ可仕向方旦那寺并町役人別紙指越申候由願書指  
出伺之上聴届九月十九日住宅証文出

一 戸川町惣七家守新兵衛借家住伊助後家立願有之去亥八月百五十日  
逗留相願候 而 四国遍路ニ罷出候処右日限帰不申候ニ付去二月又々  
五十日日延相願候得共罷帰不申老人之義病死之処難計依之町内人  
別差除候様願書指出伺之上聞届申達ス

一 坪井町鮎屋利右衛門義所持之家屋敷小田中村種七取次ニ 而 銀札志  
貫目借受質物ニ書入候処此度元利相揃返済請返申候段届書指出承  
届

一 坪井町鮎屋利右衛門義所持之家屋敷表口七間裏行六間半但御役八  
歩右之家屋敷鍛冶町山形屋与兵衛取次ニ 而 質物ニ書入銀札五百匁  
当子九月分来十一月切借受申度願書指出承届ル

九月十五日 晴

一 御用日登城

一 当日御祝義七間廊下ニ 而 例之通御奏者以下御小性頭江謁申上ル

一 今日左之面々被為召候 而 転役格式等被仰付

大番頭格大目付役御免 佐々木主馬

大目付当役 平井半平

御使番格勘定奉行 金井長平

御使番御免 藤本伴右衛門

一 鍛冶町宗道宮宵祭ニ付鍛冶町美濃職人町挑灯灯之旨届出承置ク

一 明十六日五ツ時御供揃ニ 而 深信院様杉山江御出被仰出候御道筋京  
町御門より今津屋前通り御出被成候旨種村登門分通用有之大年寄  
并小頭江も申達ス

九月十六日 快晴夜雨

一 和田村周助野介代村佐兵衛沖村磯五郎下高倉村代治上田邑村兼助  
右之もの共出牢申付候旨郡代より申来立合幸治罷出尤右之者之内  
磯五郎義ハ入牢ものニ付出牢手形郡代より相廻役所手形ニ調替出  
牢取計

一 上横野村亀吉牢番預ケ申付候間立合之もの申付候様郡代より申来  
其段申達幸治罷出取計相濟候旨届出

一 河原町大工屋伝藏義所持之家屋敷表口三間五尺裏行拾七間但裏ハ  
表より九間しさり大溝有東西五間裏行八間御役本役也右之家屋敷  
代銀札三百匁ニ相究林田町矢田屋茂兵衛江壳渡申度願書指出承届

一 河原町北側ニ 而 作人平助後家所持之家屋敷表口三間裏行九間半大  
溝切ニて御役半役也右之家屋敷代銀札三拾匁ニ相究柴田屋茂兵衛  
ハ壳渡申度願書指出承届

一 明十七日御社参被仰出置候処御延引之旨後藤郷助分申来大年寄江  
申達ス

一 深信院様御先払藤四郎正藏罷出無滞相濟候旨六時頃罷出相届

九月十七日 雨天

一 明十八日徳守宮宵祭ニ付夜九ツ時迄関貫開置立番付之旨届出候ニ  
付其段御用所大目付江及御沙汰



二階町 元魚町 上紺屋町 鍛冶町 細工町 宮脇町

戸川町 材木町 八町

一 右宵祭ニ付西町々挑灯灯候旨是又届出承置

一 船頭町片田屋市右衛門後家所持之明地地表三間尺裏行式間四尺御役老軒役右之明地此度代銀札三拾匁ニ相極町内米屋佐吉江壳渡申度願書指出承届十月廿四日壳券出

一 新魚町野田屋孫三郎義借屋者今村屋久右衛門親類備中国広瀬町源藏申者当六月迄逗留為仕候処未用事相濟不申候ニ付尚亦十月迄逗留為仕度願書指出承届十月廿四日帰ル

一 新魚町檜野屋茂一郎義塗椀商売仕候ニ付真島郡郷原村定吉と申者当年より来寅年迄三ヶ年之間召抱職分為仕度尤右定吉妻子何<sup>茂</sup>手馴候ニ付同様指置申度願書指出承届

一 坪井町鮎屋理右衛門義所持之家屋敷表口七間裏行六間半御役八歩役右之家屋敷鍛冶町山形屋三兵衛取次ニ銀札五百匁借用致度来丑十一月切巻ヶ月巻歩半之利足ニ返済可申願書指出承届

一 御年限中ニ付徳守出役之組之者共へ弁当指遣不申候ニ付坪井町今町福渡町々酒煮染宵祭ニ相送り候処祭当日弁当ニ為仕度小頭今申出候ニ付是迄之入用ニ替り不申候様取計之義勝手次第之旨申達候所是迄之入用ニ替り不申酒を止メ給食ニ仕替候迄之義ニ付いか様共申談候様申達ス

九月十八日

一 御用日登城

一 徳守宮宵祭ニ付例年之通出役左之通

小頭利右衛門 出番文藏 正藏 源藏 和四郎

一 元魚町山口屋源治義伴与七当子廿一才此度往来方中間ニ被召抱候ニ付当町人別指除候様願書指出中間頭引合相濟聞届申達ス

一 桶屋町田村屋茂兵衛義雲州今日罷帰候旨届出尤雲州飯石郡案田村江罷越相糺候処此所之出生ニは候得共安五郎四才之時水屋町江養子ニ参り急ニて此所之入帳ものニ無之旨ニ付水屋町江罷越相糺候処此所ニ入帳ものニ無之申聴併大谷村申所ニ親類有之旨承り候ニ付右大谷村江参り相尋候処安五郎伯母之由有之得相尋候処安五郎義何方之入帳ニも無之指構無之ものニ付右之通り之一札為致取帰り候旨一札指出届出

一 惣舟持共御藏元文五郎今日上村長瀬堰留候ニ付舟道故障ニ相成候旨願書差出郡代懸合置

一 坪井町千切屋勘兵衛義徳守宮祭礼ニ付後藤一山講釈今夕明夕延引為仕候段届出御所及御沙汰

一 坪井瀧口儀右衛門佐藤五兵衛今書状指越五兵衛義来秋迄相詰儀右衛門義用向相濟次第出立致候旨案内申来相答返書指遣ス

一 三浦志摩守殿来七日江戸表御発駕之旨大目付中被申聴尤下方未右之様子不申来候得共御止宿之手形合取調置候様大年寄申達ス

九月十九日 折々雨

一 徳守宮祭礼ニ付組之者出役左之通

小頭利右衛門 出番文藏 幸治 藤四郎 源藏

一 右祭礼無滞相濟候旨夜ニ入出役之もの共今届出其段御所相届

ル

九月廿日 快晴

一 無別条之

九月廿一日 快晴

一 御用日登城

一 三浦志摩守殿去七日江戸御発駕之由ニ付下調申達置候処調書大年寄分指出候付大目付中江指出尤寛政十年之例取調書出候

一 二ノ宮村義兵衛西今町松田屋佐助大坂御呼出之節旅籠代差滞候由

ニ而大坂湊橋木屋与兵衛願書長沢清左衛門分郡代連名ニ而書状相

濟相廻候ニ付右兩人ものへ可申付郡代申談候所松田屋佐助義去月

家出致候ニ付嚴敷尋申付候旨并二ノ宮義兵衛へ者与得申付候所一

札差出候ニ付今便右之趣具ニ清右衛門江申遣ス

一 島屋文七酒造株讓渡之御届去十日御勘定所江御留守居罷出御届取

計候由申来尤大目付中分達も有之候様申来候得共大目付所江以今

不申来候由ニ付右御留守居書面之趣を以龍野表へ懸合可申哉下案

を以相伺候処何之通取計候様被仰出候ニ付明日立候ニ而龍野江飛

脚差遣候旨大目付江相達ス

一 三浦志摩守殿当所御止宿ニ相成候得者玉置源五兵衛御本陣ニ相成

候間少々取繕被仰付被下置候様源五兵衛分書付指出大目付江相達

候処夫々相達可申旨被申聴

一 牢舎人仕着例年十月ニ差遣候由ニ付四人之仕着大目付江及噂小頭

江も達用意致候様申付

一 林田町鍵屋茂助下人安五郎先頃急病ニ而致死去候処雲州人別之有

無不相分候ニ付請人桶屋町田村屋茂兵衛雲州江罷越懸合候処雲州人別之者ニ無之差構無之もの候由安五郎縁類之もの有之一札取罷帰右一件相濟候付請人田村屋茂兵衛種屋坂之丞咎之義今日伺書差出

一 伏見町大工文治妻義懷妊六ヶ月振ニ相成候処当月中旬より痢疾相煩今晩死去致候ニ付医師渡辺玄端容体書指添一札指出相違茂無之趣ニ付葬之義勝手次第申付ル

一 昨夜愛染寺江盜賊入込候ニ而召捕目明江相渡候ニ付□□□非人共江

頼置候段小頭分届出

九月廿二日 晴

一 新米相場左之通之旨中買共連印ニ而書付指出ス

一 御藏米 五拾貳匁五分

一 町米 四拾八匁五分

一 郡代十郎左衛門分申越候者昨日□□□ニ而番非人大吉与□□□松

之介致口論松之介米藏兩人ニ而致打擲候旨届出候依之右兩人共右

之場所江指出立合見分為致可申候間組之者も指出候様申来候ニ付

部屋目付藤四郎目明壱人非人頭壱人指添松之介米藏可指出候処米

藏今日福渡村江罷越候ニ付今日之間ニ合不申候間松之介計指出尤

右等之義大年寄分申付候

一 日上村丸渕尻長ケ瀬与申処当度堰留候処舟持共分通舟故障ニ相成

候旨歎書先達ニ而指出候処右堰留之義者兼而御藏元文五郎江日上村

庄屋分懸合故障無之候旨文五郎分及相談候由日上村庄屋申之候由

ニ付右懸合之始末文五郎分も一札指出候ニ付郡代所江相廻置候処

ニ付右懸合之始末文五郎分も一札指出候ニ付郡代所江相廻置候処

右之返答書為致相廻候由尤普請方御役人々も弁書指添十郎左衛門  
分相廻ル

一 牢舎人栄藏義腰痛致候ニ付服藥願出候旨牢番団助罷出相届候ニ付  
則同人江申付直ニ大年寄江相達候処藤木良仙診察之上葉指遣候旨  
牢番并大年寄今も届出九月廿四日休業

一 十郎左衛門悴清見義木山寺江今朝致出立候付届呉候様申来大目付  
江相届ル

九月廿三日 快晴

一 揚屋入雅楽岩城御用屋敷ニ而寺社取次味吟有之候間同心組四人指  
出候様舎人より申聽候所此節組之者人数少ニ付兩人可指出旨申談  
嘉七和四郎罷出候処六時過吟味相濟元之通揚屋人取計候段届出ル  
一 三浦志摩守殿近々御通行定ニ而当所御止宿ニ可相成左候ハ、御本陣  
玉置源五兵衛左之御道具拝借致度書付指出

一 御刀懸 壺 一 御火鉢 五 一 御家具皿とも 廿人揃

一 御手燭 十五 一 御水越布共 一 縁取 三十枚

一 御燭台 十五 一 馬たらい 壺 一 馬桶 三ツ

ベ九品

一 林田町福吉屋安右衛門義備前ハ茂円城村円城寺納所沼本義兵衛  
申者当所ニ用事有之候ニ而罷越申候十日計逗留為仕度願書指出承届

十月五日帰ル

一 式町目安原屋甚六義伏見町吉田屋半三郎持来り之旅籠屋株此度讓  
請商売仕度旨願書指出承届ル

一 伏見町田原屋佐介義重田又兵衛殿御支配所大庭郡久世村杉山順庵

悴伊三郎当二月養子ニ引請居申候処家風ニ入不申離縁仕度人別離  
れ之願書指出伺之上聞届申達ス

一 □□□米藏義福渡村分罷帰候段申出候ニ付十郎左衛門江申談候間  
□□□彼場所江非人頭指添候ニ而可指出旨大年寄江申達ス

一 十郎左衛門悴清見義木山寺分罷帰候ニ付相届呉候様申来則大目付  
江相届ル

九月廿四日 快晴

一 米相場左之通之旨中買共分書付指出

一 御藏米 五拾六匁

一 町米 五拾式匁

一 深信院様明廿五日五半時御供揃ニ而蘭田町通り泰安寺妙法寺江御  
參詣之旨種村登門分申来夫々江申達ス

一 油方大黒屋利兵衛山手屋理兵衛分油壺升ニ付四匁六分売候所大坂  
表下直ニ相成候ニ付以来四匁四分売ニ仕度旨申出候ニ付承届ル

一 □□□喧嘩一件ニ付立合為見分一昨廿三日部屋目付藤四郎非人共  
召連罷越候所今夕罷帰疵所見分取計一札并醫師容体書指出尤右一  
件噯人有之大方内濟之姿ニ相成候由申出ル且□□□松之介手鎖預

米藏預申付一統引取候旨藤四郎分届出ル

九月廿五日 晴夜中雨

一 下紺屋町平岡屋茂兵衛義養子彦兵衛五月ニ貫請候処家風ニ入不申  
候ニ付此度備前津高郡大谷村吉兵衛ハ差戻申度依之町内人別離願  
書指出伺之上聞届達

一 京町城喜屋源七後家しも義竹田村佐兵衛悴茂三郎当子廿七才同人

妻すか廿八才右兩人養子仕引請申度町内入願書指出承届

一 島屋文七酒造株福渡村<sup>江</sup>讓渡之義江戸表<sup>ニ</sup>而御届相濟候<sup>ニ</sup>付龍野

御役人<sup>江</sup>御届相濟候段申遣候所承知之旨返書來御用番中<sup>江</sup>指出置

島屋文七<sup>江</sup>も御届相濟候旨相達ス

一 三浦志摩守殿先触到來写指出候<sup>ニ</sup>付御止宿先例書指添御用番<sup>江</sup>相

伺候処伺之通取計候様被仰出未御宿割<sup>者</sup>到着無之候得共必定明後

日御止宿候由届出

一 □□□喧嘩一件立合見分部屋目付指遣候所夜中引取松之介手鎖預

ケ米藏預ケ取計置候所内濟願下ケ之旨申出候<sup>ニ</sup>付其段御所<sup>江</sup>

相届ル

一 左之通大目付<sup>ニ</sup>而被申達

諸組之内是年若輩之ものも相見候○人少之節候得<sup>者</sup>向後頭々

心を付可被申事<sup>ニ</sup>候<sup>并</sup>組番代之節町方之もの召抱候義先ツ<sup>者</sup>

不宜筋<sup>ニ</sup>候近來迄輕き町人体之もの抔自然<sup>ニ</sup>組之内へ入候得

<sup>者</sup>左様成所<sup>ニ</sup>おのつから足輕之風も悪敷可相成候以来<sup>者</sup>頭々

心得可有之事<sup>ニ</sup>候

右之通先年も被仰出候事ゆへ心得も可有之候得共尚亦心得違

無之様申達候様御用番被申聽候間申達候

一 志摩守殿御宿割馬場甚八唯今着<sup>ニ</sup>而弥明後廿七日当所御止宿候旨

相達候段届出候<sup>ニ</sup>付御所<sup>江</sup>相届ル

一 明日之御仏參御延引被仰出候旨中奥目付寛良助<sup>ニ</sup>通用有之夫々<sup>江</sup>

相達ス

九月廿六日 曇

一 兼田川土橋通行相始候<sup>ニ</sup>付三浦殿御通行御舟不被指出候旨赤見類

助より申來大年寄<sup>江</sup>申達ス

一 御藏米五拾七匁五分 町米五拾三匁五分

一 奈良今井町墨屋伊兵衛手代源助例年之通墨筆白粉売<sup>ニ</sup>昨日參り候

<sup>ニ</sup>付宿仕度延屋三治宿切手指出十月五日帰ル

一 去ル廿一日□□□<sup>ニ</sup>而番非人代吉□□□松之介米藏喧嘩一件内濟

仕度願書指出郡代申談之上内濟聞届可申哉之旨御用番<sup>江</sup>相伺尤書

類<sup>者</sup>十郎左衛門より差出候<sup>ニ</sup>付指出不申郡代同様相伺候旨申達ス

一 三浦志摩殿御止宿之節出火御退場本源寺大信寺兩寺<sup>江</sup>御達有之候

旨大目付類助より申來御本陣相達候様大年寄<sup>江</sup>申達置

一 近々三浦志摩守殿御止宿<sup>ニ</sup>付御本陣前猥<sup>ニ</sup>通行致間敷旨大目付廻

状到來組中触書小頭<sup>江</sup>申達ス

一 揚屋入雅樂寺社下代指遣牢越吟味為致候間立合之もの壺人指出候

様寺社取次<sup>ニ</sup>申來則申達嘉七罷出ル

九月廿七日 晴

一 下紺屋町紙屋音四郎義建部殿領分播州揖東郡林田村左七当子三拾

三才同人妻拾九才同人母五拾才同人弟庄助三拾才同人弟徳兵衛廿

五才此もの共此度引請役介仕度人別人願書指出尤向方村役且那寺

も別紙差越候間指出伺之上聞届申達十月廿三日住宅証文指出

一 材木町桶屋忠右衛門義脇坂殿御預所久米南条郡安ケ札村松之丞弟

卯助<sup>者</sup>申者当子式拾九才同人妻式拾六才此もの役介<sup>ニ</sup>引請申度当

地住宅之義願書指出向方役人旦那寺別紙指越候<sup>ニ</sup>付伺之上聞届申

達十月十三日住宅証文指出

一 福渡町原田屋治兵衛義元同町ニ居申候作人文治悴文蔵寛政九年御願申上町内人別相離割場仲間ニ相成候処五ヶ年以前番代相願夫ハ江戸表ニ而稼奉公仕此度罷帰候付役介ニ引請町内人別人願書指出仲間頭引合之上聞届申達ス

一 材木町近江屋藤吉母悴六月百日之逗留ニ而四国遍路相願罷出候処今以罷帰不申病氣之段難計仍而尚亦百日逗留追願指出承届

一 京町俵屋伊兵衛義商売用ニ付播州姫路京口壱丁町とまみ屋平兵衛方迄罷越申度往来三十五日之逗留ニ而罷帰り申度届書大年寄聴届候旨当人願書指出

一 寺元村兵助入牢申付候由郡代ノ手形相廻則認直し差遣立合和四郎罷出入牢取計相濟候段届出

一 愛染寺江這入候盜賊今日致吟味候処出生播州山崎之者ニ而當時無宿新吉年廿五才入牢申付候付手形相廻吟味立合左之面々

下役新左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎  
出番文蔵和四郎

右入牢申付候段御両所江相届ル

一 牢舎五蔵義夜前ノ相勝不申今朝不食仕候ニ而様体甚不宜候旨牢番清右衛門申出候ニ付早々医師罷越候様申達候所藤木良全罷越様体及見候所甚様子不宜迎も療治相叶申間敷申出候処無程致落命候段牢番届出候ニ付御用番極人殿へ罷越右之段申上大目付江茂右之段相届見分之義申談候処明朝五ツ時見分指出候様被申聴候ニ付右之段小頭部屋目付牢番江も相達右見分之手都合取計候様申付ル  
一 牢舎新助病氣ニ付服薬之義願出大年寄へ相達候処藤木良全江申達

診察候所難捨置候ニ付薬指遣候旨届出

一 三浦志摩守殿今夕御止宿ニ付妙願寺手島学講釈延引仕候旨大年寄今届出御両所江相届

一 志摩守殿御本陣江五ツ時過御着被成候旨届出候ニ付御両所江相届居申候ニ而御着之節町分御先相勤御本陣近辺出張下宿ニ相詰夜九

ツ時ノ為代り合文蔵和四郎罷出相詰御立之節御先相勤町分無滞御通行相濟候段届出其段御両所江相届ル

一 志摩守殿七ツ半時過無滞御立被成候旨大年寄并御本陣玉置源五兵衛今も相届ル  
九月廿八日 晴

一 御用日登城

一 京町北山修斎義大坂南本町北山寿斎方江往来五十日計之逗留ニ而罷越申度願書指出承届ル

一 牢舎五蔵病死ニ付為見分左之面々罷出候所別条無之旨申出御両所江相届  
御徒目付 山田喜七 下目付 小頭 利右衛門  
部屋目付 藤四郎

一 右五蔵死骸惣墓江取捨可申付旨相伺候処勝手次第取捨候様被仰出ル

附内々新イ田村ニ罷在候五蔵弟ノ目明弥吉方へ罷越五蔵死去之旨承候ハ、何卒死骸被下候義ニは相成間敷哉之旨弥吉ノ申出候由ニ而小頭今内々申出候付大目付江茂及内談候処不苦哉

之旨被申聽候ニ付御用所江内分申上候処いか様共役場ニ而宜

取計候様被仰出候ニ付当役場ニ茂存不申振合ニ而牢番目明等

取暖ニ而差遣可申旨申上置ク

一夜ニ入五藏死骸引渡相濟候旨牢番届出

一左之もの共敲取計候様御達有之候処御用所御失念ニ付御達有之御

振合ニ指心得可申大目付分被相達候

東一宮里方松治 藤屋村 源治 中村 忠兵衛

上横野村 亀治 東田邑 亀之助 中村 与兵衛

中村 幸助 円宗村上分源蔵 上田村北 銀蔵

上田村南 浅八 田村 新助

〆拾壹人

一右敲来月二日取計可申郡代申談候ニ而大目付江例之通出役之義申達

置

九月廿九日 晴

一出雲大社中官西村神太夫与申御師上下四人例年之通り罷越候ニ付

宿仕候旨坪井町川原屋治助宿切手指出丑正月廿七日帰ル

一中ノ町甲屋幸助義播州如流郡北在家村楨野一学弟子隠田其仲与申

医師上下式人当国誕生寺江参詣ニ付罷越用事ニ而之候間廿日計返

留為仕度願書指出承届十月二日帰ル

御年寄 大橋十太夫殿

大目付 川上藤九郎

大年寄 玉置源五兵衛

諸吟味 宮田喜左衛門

十月丙辰旦 快晴

一御用日登城

一当日御祝義七間廊下ニ而例之通御奏者番以下御小性頭江謁申上ル

一〇〇〇番非人大吉〇〇〇松之介米蔵喧嘩一件内濟仕度願書指出候

ニ付郡代申談同様相伺置候処伺之通被仰付内濟聞届松之介手鎖預

ケ并米蔵預指免候様大年寄孫右衛門江申達候所右之段申渡相濟候

旨届出尤郡代申合ニ而御両所御届之義ハ明朝取計候様申談置

一通用銭七拾壹箇川下裏印取計呉候様銀札場奉行松島郡平分申来則

相認差遣又

十月二日 快晴

一郷中牢舎之者共都合拾壹人今朝敲取計無滞相濟候段届出候ニ付其

段御両所江相届尤出役之面々左之通

御徒目付 河村市兵衛 小頭 利右衛門 出番 嘉七

下目付 江田清右衛門 部屋目付藤四郎

十月三日 快晴

一御蔵米五拾六匁五分 町米五拾貳匁五分

一御払米三百俵 落札甲屋幸助

十月乙亥大

御家老 山田主膳殿

直段正銀五拾六匁壹分八厘 町米直段准之

一安岡町鶴屋茂兵衛義玉置卯左衛門所持之他国受酒株去年十月願之上借請商売致来候右限月ニ付尚亦当子十月分同十二月迄借請商売仕度旨願書指出承届

一三浦志摩守殿分御本陣玉置源五兵衛 金三百疋被下之候旨届書指出右之段御両所 江御沙汰申上ル

十月四日 夜雨

一別条無之

十月五日 晴

一御用日登城

一舟頭町片田屋武助悴兵八行状書町役共分指出奇特ものニ付米三俵被下置候様仕度伺書指出ス

一坪井町千切屋勘兵衛義手島学後藤一山講釈今夕切之処三日追願指出候ニ付寺社取次引合之処妙願寺分 茂同様願書指出候ニ付伺之上聽届申達ス

一以来芝居之義一ノ宮市町ハ格別其余相願候共御聽届無之候間兼 右之段指心得居候様御用番十太夫殿被申聽其段大年寄 江も為心得申達置ク

一御藏米五拾五匁 町米五拾壹匁

一御払米三百俵 落札大黒屋利兵衛

直段正銀五拾五匁壹分九厘 町米准之

一御代官竹内要左衛門分町作ニ付不埒之義も有之候ハ、手鎖申付候間兼 右之段指心得置候様手紙ニ 申来及早答

一西川大谷代藏分例年之通米相場書相廻具候様書状差越及早答

十月六日 晴

一揚屋入広瀬雅樂 江社下代直ニ承度義有之候ニ付立合指出候様寺社取次分申来出番和四郎罷出相濟候段届出

一無宿盗人忠藏召捕入牢申付候間立合之もの指出候様郡代十郎左衛門分申来候ニ付手形認置為立合出番文藏罷出入牢取計候旨届出

一右入牢為請牢番罷出

一業種届書取調候間印形致候様十郎左衛門分申来文段左之通

覚

七拾六ヶ村業種作高

一百四拾五石七斗六升

内

八拾九石式斗 油屋共手作手絞

残 而

五拾六石五斗六升

外ニ

散種拾四石壹斗四升

合七拾石七斗

右 者 兵庫問屋 江積登申候

右之通ニ御座候以上

子十月

両役名前印形

十月七日 曇

一伏見町小田屋伊兵衛義林田町田辺屋茂三郎持參候古道具屋株此度

讓請商売仕度尤町内和気屋万吉請人ニ相立定法相守可申株札名面書替之義等願書指出承届ル

一 中ノ町山家屋安兵衛義二階町伊勢屋庄左衛門持来候古道具屋株此度讓請商売仕度尤西新町丸屋吉兵衛請人ニ相立定法相聞可申株札名面書替之義等願書指出承届ル

一元魚町二文字屋清治郎義同町海老屋長右衛門持来候古道具屋株此度讓請商売仕度尤京町豊屋和助請人ニ相立定法相守可申株札名面書替之義等願書指出承届

一元魚町大庭屋善兵衛義雲州松江都屋弥右衛門<sup>与</sup>申者天神宮菅相之灸点施候処病人平癒ニ付当所<sup>江茂</sup>罷越候様ぬし屋虎吉申談候由ニ付今日罷越申候仍<sup>而</sup>四五日程止宿為仕度旨届書指出承届

一 船頭町熊野屋文五郎義脇坂殿預所勝南郡瓜生原村佐吉娘当子拾八才此度悴鶴吉妻ニ引受申度住宅之義願出尤向方旦那寺村役人別紙指越候ニ付願書指出伺之上聞届申達又十月廿四日住宅証文指出

一 明日之御仏參御延引被仰出候旨中奥目付後藤郷助<sup>江中</sup>申来夫々<sup>江中</sup>達又  
十月八日 曇折々々

一 御用日ニ付登城  
一 西新町高松屋ふゆ義孫太助義当子三十才同人兼<sup>而</sup>不所存ものニ付親類組合実兄を加へ候得共左用不申其上上月旬家出致心懸候

処相尋候得共行方相知不申以後如何様之變儀仕出候も難計依之親類<sup>并</sup>組合相談之上義絶勘当仕度願書指出伺之上聞届申達又十月廿八日勘当一札差出

一 右連印之者共左之通

西新町高松屋ふゆ 同町高松屋忠右衛門  
林田町升屋甚兵衛 東新町山本平右衛門  
同町茂渡休吾 勝間田町豊野屋七左衛門

其外組合共

一 御藏米五拾六匁 町米五拾貳匁  
一 御糶米三百匁 落札大黒屋利兵衛  
直段正銀五拾六匁六分九厘 町米准之

十月九日 晴  
一 国分寺弟子淨心回國ニ罷出候所大庭郡湯本村ニ<sup>而</sup>歩行不相叶同所<sup>江</sup>院庄<sup>江</sup>送り来候ニ付承届候段郡代より通用有之候ニ付例之通取計候様大年寄<sup>江</sup>申達置ク

一 郡代十郎左衛門義調違之義有之恐入候ニ付指扣伺呉候様申来則大目付藤九郎<sup>江</sup>指扣相伺候処夜ニ入不及伺出候旨同人<sup>江</sup>申来十郎左衛門<sup>江</sup>及通用

一 大坂金田町金屋半兵衛手代六兵衛<sup>与</sup>申者壱人例年之通大工道具売<sup>ニ</sup>罷越候ニ付逗留為仕度新職人町松野屋重右衛門宿切手指出十一  
月二日帰ル

一 播州龍野下町本屋佐吉<sup>与</sup>申者壱人例年之通書物売ニ罷越候ニ付逗留為仕度新職人町松野屋重右衛門宿切手指出十月廿二日帰ル

一 明日九ツ時左之もの共町役組合指添指出候様大年寄<sup>江</sup>差紙遣又  
美濃職人町 沢田屋善兵衛  
勝間田町 福井屋市右衛門



十月十日 快晴

一左之もの呼出左之通申付

不孝之趣相聴候ニ付手鎖 美濃職人町

組合預ケ申付 沢田屋 善兵衛

右同断之趣相聴候ニ付急 勝間田町

度叱申渡手鎖申付候而可 福井屋 市右衛門

然候得共至而貧窮ものニ

付先ツ叱のミ申達ス

右立合左之面々

小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番文蔵幸治

大年寄源五兵衛

一下役新左衛門家内病人有之候ニ付今日出仕断之旨申来

一左之もの共家職不出精不孝之趣相聴候ニ付大年寄役場江呼出急度

叱申渡ス

上紺屋町作人喜太郎 二丁目福寿屋借屋住大坂屋幸兵衛

鍛冶町鍛冶太兵衛 鍛冶町かつら屋源治

右鍛冶町兩人義他行いたし候ニ付今日不申達追而可申付

一牢舎盗人直治郎呼出吟味立合左之通

小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 書役代真北又作

出番文蔵幸治

一二階町島屋藤吉坪井町鉄柄屋吉右衛門兩人分數年来ねち梓家業候

所近来他所ねち梓数多取扱候而難渋ニ付先年他所ねち相用不申市

郷御触有之候ニ付此度も先例之通御触有之候様願書指出先例触書

文段取揃伺置

十月十一日 快晴

一御蔵米五拾六匁 町米五拾式匁

一御払米三百俵 落札網屋善五郎

直段正銀五拾六匁九厘 町米准之

一新魚町魚隅屋太郎右衛門義所持之家屋敷表口三間裏行拾式間御役

六歩七厘五毛右之内表口壺間裏行拾式間并北詰地並東西式間南北

式間半之他所建物ニも亀屋徳四郎江売渡申度右三間之内東方表口

式間裏行九間半弓削屋万吉江売渡申度願書指出承届

一代銀札式百式拾匁御役三歩 十月廿四日売券状出 亀屋

徳四郎売分

一代銀札式百五拾匁御役三歩七厘五毛 十月廿四日売券状

出 弓削屋万吉売分

一江州多賀成就院使僧法隆房与申僧上下式人例年之通昨日参り仕候

ニ付逗留為仕度旨新職人町松野屋重右衛門宿切手指出又丑三月四

日帰ル

十月十二日 晴

一当国勝南郡安井村仲右衛門悻伊之助大社江参詣いたし伯州会见那

勝田村ニ而歩行不相叶同所分院庄江送り来候ニ付村継承届置候間

下方へ相達候様郡代分申来大年寄江達置ク夜中通行相濟候段届出

ル

十月十三日 曇夜雨

一中ノ町粟井屋松之介義借屋住佐太郎悻宇七義十七才此度御臈仲間

ニ奉公仕度依之町内人別離レ願書指出御厩方引合之上聽届申達ス  
一美濃職人町沢田屋善藏義不孝之趣相聽候ニ付此間手鎖組合預申付  
置候処同人母并組合共々歎書指出此節ニ至而者却而孝心之取向ニ  
も相成候ニ付何卒手鎖預指免候様歎書指出

一綿改大村屋源右衛門江右改之義ニ付西今町菱屋及過言候由ニ而源  
右衛門分大年寄場江申出右体之義有之候而者改方之詮も無之趣ニ  
付大年寄場江呼出与聴可申付哉之旨源五兵衛申出候ニ付其通宜取  
計候様申付ル

十月十四日 雨

一沢田屋善藏母組合々歎書指出候ニ付歎之趣承届手鎖預指免候段可  
申達旨大年寄江差紙遣ス大年寄宅ニ而立合左之通

小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番栄治

一元魚町大庭屋善兵衛義先日相願候雲州都々弥右衛門義今日計日  
延逗留為仕度願書指出承届

一福渡町森原屋岩助義所持之家屋敷表口式間半裏行拾式間御役三步  
右之家屋敷百五拾目ニ相極町内浜崎屋喜兵衛江壳渡申度願書指出  
承届十月十六日壳券状指出

一久世御代官所御金荷三駄勝間田泊之先触到来之処依之当所泊ニ相  
成先例之通同町夜廻り不寝番等申付候旨大年寄より申出

一右御金荷明夕者是非細月泊ニ付晚七ツ時ニは出立之旨右ニ付在分  
者明夜指出候事故御郡代所通用致呉候様申出郡代江及通用町分  
壹駄ニ壹人ツ、挑灯為持候而送り可仕旨申達置

一元魚町紙屋助右衛門義鞆負殿内西川善平貫置候養女当子十八才此

度悴元吉妻ニ引請申度町内人別人願書指出承届

十月十五日 曇

一御用日登城

一七間廊下ニ而例之通当日御祝義御奏者番以下一統例之通御小性頭

江謁申上ル

一船頭町瓜生原屋伝吉義悴利吉川向杉山ニ而結綱壹ツ拾申候尤長壹  
尺壹寸赤糸ニ而龜甲形作候様相見へ候段届出候ニ付御用番江御沙  
汰申上候尤聊之品ニ付張紙ニも及申間敷申上置ク

一三町目一文字屋伊三郎義昨十三日元魚町延屋三治方ニ真島郡中村

龜崎貞仙申醫師呉服物調申度由ニ而品々注文詔物余程致し明日

代物払可申尤金子ニ而御座候間兩替之上遣可申夫迄銀札貸呉候様  
申候ニ付手代之ものニ銀札為持遣候所延屋ニ而銀札請取與江這入  
裏口分出奔致候ニ付跡分追懸川崎村ニ而追付右銀札取返候ニ付貞  
仙義者其俣指免候段届書を以届出

一元魚町延屋三治義昨十二日之夕真島郡中村龜崎貞仙申醫師一宿  
為致候様申候ニ付出生慥成もの存止宿為致候所翌十三日朝町内  
用事有之由ニ而罷出一文字屋店江參詔物過分注文共いたし尚亦罷

帰候而一文字屋手代之銀札之懸合致候而與江這入裏口分右之銀札  
取逃いたし跡分追懸候所川崎ニ而一文字屋手代追付銀札取戻罷婦  
候由申聽候ニ付其俣宿罷婦相改候処罷抹之脇指壹腰残有之候ニ

付右之脇指者目明へ相渡置候旨届書を以届出

一河原町岡野屋伝右衛門後家借屋住徳島屋伊勢治郎義昨十三日夕父  
忠七名前相尋候而播州ものと申罷越候所忠七義留守ニ候段申候

処業種類調度候ニ付相頼申度候処留守ニ候得者何卒其元調被吳候様相頼候ニ付伏見町小田屋ニ業種注文通調遣可申彼是注文も有之内及深更今朝ニ相成候而又候脇指志腰調度申候ニ付是又取寄見七置候所右脇指取逃行衛相知不申候ニ付届書を以届出  
一明日四ツ時社方吟味有之候ニ付同心組兩人御用屋敷江指出候様太田舎人分申来

十月十六日 折々小雨

一明十七日地藏院御社参御延引被仰出候旨中奥目付寛良助分通用有之

一高野宮神主立石修理揚屋入申付候由野条金平分手形相廻候ニ付役所手形ニ認置牢番江相達ス

一御用屋敷ニ而社方吟味ニ付番采治嘉七罷出候所立石修理揚屋入ニ付七番ニ入置候旨届出

一牢番清右衛門罷出右揚屋入ニ付両所ニ番為致候是迄番台忝ツなし  
ては無之候間今忝ツ急ニ出来候様申出且下番仲間式人加人之義申出候ニ付右両様共大目付藤九郎江申遣候所承知之旨申来

一船頭町片田屋武助忝兵八奇特ものニ付先達而町内分行状書指出右御褒美として米三俵被下置候様伺書指出置候所御用番十太夫殿分伺之通被仰付候間宜取計可申旨申来大目付江被下もの之義申達置ク

十月十七日 晴

一ニ階町田原屋武兵衛後家所持之家屋敷表口五間裏行十七間右之家屋敷去亥十二月京町野田屋佐右衛門取次ニ而銀札四百匁借請候所

元利相済シ請戻候段届出承届

一ニ階町田原屋武兵衛後家所持之家屋敷表口五間裏行十七間御役忝軒役右之家屋敷ニ而南之方表口二間裏行十七間御役四步付ニ而代銀札式百五拾匁ニ相極崎本屋音治へ売渡申度願書指出承届十月廿三日売券状指出

一同町同人家屋敷表口三間裏行十七間御役六步右之家屋敷質物ニ書入野田屋佐右衛門取次ニ而銀札式百匁借請忝ケ月忝歩半ツ、利足ニ相定候旨歎書指出承届十月廿三日質入証文出

一堺町宮田喜左衛門家守作人長八義借屋ニ居申候三国屋義蔵并妻兩人共勝山中町玉屋安兵衛申者縁類ニ付来ル寅年迄出職為仕度願書指出承届無之留付此候相承届

一新魚町研屋万兵衛組合共分万兵衛義用事ニ付去ル八月十日計逗留願書指出罷越候処向方ニ而相勝不申休養仕度申越候ニ付今四十日計之逗留追願指出承届

十月十八日 夜雨

一御用日ニ付登城

一寺元村兵助出牢婦村申付候間立会之もの指出候様郡代より申来藤四郎罷出出牢取計相済候旨届出

一十郎左衛門風邪ニ付今日出仕難仕当病不参御断之旨申来其段大目付江相届右不参ニ付願書忝通其外届等之義取計呉候様申来登城之上取計相済其段及通用

一船頭町片田屋兵八江被下之米切手三俵小勘者分相廻り請取書差遣ス

一 右同人義明十九日四ツ時召連役所<sup>江</sup>罷出候様大年寄<sup>江</sup>奉書差出候

所同人義御米積候<sup>而</sup>川下<sup>江</sup>參候ニ付明日罷出候義不相成候段申出

候ニ付帰次第届出候様大年寄<sup>江</sup>申達置

一 久世御代官重田又兵衛殿御所替被仰付御跡<sup>江</sup>山田常右衛門殿御

出被成候旨手代三人今申来今日御用番中<sup>江</sup>指出返書下案を以相伺

候処伺之通被仰出右返書役代<sup>江</sup>相認させ候<sup>而</sup>紙屋助右衛門<sup>江</sup>差遣

ス

一 御藏米五拾七匁 町米五拾三匁

一 御払米三百俵 落札久里屋喜兵衛

直段正銀五拾六匁八分壹厘 町米准之

十月十九日 晴

一 無別条之

十月廿日 晴

一 坪井町尾上屋喜兵衛義御領分西北条郡円宗寺下分嘉右衛門娘なり

当子拾才此もの養女ニ引請申度願書指出承届

一 林田町かとや久左衛門義悻又七栗田辰右衛門大坂御用ニ付坂之

供為仕度往来七十日計逗留願書指出承届

一 御藏米五拾六匁 町米五拾貳匁

一 御払米三百俵 落札静虎屋利兵衛

直段正銀五拾五匁壹分五厘 町米准之

十月廿一日 昼晴

一 御用日登城

一 先達<sup>而</sup>伺置候はた商停止町触之義伺之通取計候様御用番十太夫殿

与 申聴則町触指出

十月廿二日 晴

一 江州神崎郡新堂村布屋長兵衛手代藤八<sup>与</sup>申もの老人例年之通きせ

る小間物卸売ニ昨日参り候ニ付逗留為仕度新職人町松野屋十右衛

門宿切手差出十二月廿六日帰ル

一 当月六日夕金比羅參詣之旅人宿屋其外<sup>而</sup>も止宿之もの無之候段

旅籠屋頭より届出

一 組石名源藏母くみ病氣之処昨夜致死去候ニ付忌中引込候段右ニ付

同心組助老人大目付<sup>江</sup>申達候処使組野尻和助罷出候旨小頭よりも

申出当人も為案内罷出

一 御藏米五拾匁五分 町米五拾壹匁五分

一 御払米三百俵 落札小倉屋茂兵衛

直段正銀五拾四匁六分九厘 町米准之

十月廿三日 晴

一 船頭町片田屋武助悻兵八義今日川下より罷帰候旨大年寄今届出候

ニ付明廿四日四ツ時指出候様申達置ク

十月廿四日 晴

一 今四時船頭町町役組合指添片田屋武助悻兵八呼出玄関<sup>而</sup>左之通

申渡

其方儀幼年之頃今両親<sup>江</sup>陸敷家業致出情候段町内年寄共今行

状書を以届出其段達御聴候処奇特之至ニ付御褒美八木三俵被

下之候以後弥以出情可致候

右申渡之節兵八義<sup>者</sup>玄関之上 町年寄敷台 組合下座蒞

右立合之面々左之通

下役新左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎

大年寄源五兵衛

右被下之米切手台ニ据申渡相濟候<sub>而</sub>当番持出之兵八前ニ置

一播州姫路米田町灰屋善兵衛<sub>与</sub>申者書物類商として夜分罷越候ニ付

十日計逗留為仕度元魚町原屋佐市願書指出承届

一御藏米五錢五匁 町米五拾壹匁

一御払米三百俵 落札伏見屋茂兵衛

直段正銀五拾四匁分八厘 町米准之

一深信院様明廿五日五半時御供揃<sub>ニ</sub>而藺田町通り泰安寺妙法寺<sub>江</sub>御

參詣被仰出候旨種村登門より通用有之小頭<sub>并</sub>大年寄<sub>江</sub>も申達ス

十月廿五日 晴

一御用日登城

一今日当役申上ル御用無之旨御用所<sub>ニ</sub>而申述

一郡代十郎左衛門風邪ニ付出仕難仕当病不參ニ付郷中願書届書等三

通御用所へ指出候処何<sub>茂</sub>伺濟之段及通用

一山北村庄右衛門被盜物品数拾六代百九拾匁余之物例之通町触指出

候様大目付中被申聽則為相認大年寄<sub>江</sub>申達十一月五日無之旨申出

一船頭町田邑屋稻藏義借屋ニ居申候西村屋まつ去ル十日頃不計罷出

行衛<sub>不</sub>相知依之心懸り之処相尋候得共今以相知不申候ニ付届書指

出例之通百日尋申付置

一二ノ宮儀兵衛西今町佐助旅籠指滞候ニ付先達<sub>而</sub>大坂木屋与兵衛<sub>ハ</sub>

歎書指出候ニ付大坂御留守居長沢清左衛門<sub>ハ</sub>申来其段申達候処松

田屋佐助義<sub>者</sub>先頃以来家出致候ニ付其段大坂へ申遣候所左候ハ

不殘儀兵衛<sub>ハ</sub>相弁候筈之旨又候歎書指出候由<sub>ニ</sub>而大坂<sub>ハ</sub>相廻候

ニ付郡代より尚亦儀兵衛へ申達候処儀兵衛申出候<sub>者</sub>市郷旅壺人之

者名代にて兩人罷出候節之旅籠代ニ付町方左之もの<sub>ハ</sub>割合指出

筈之旨書付指出候由<sub>ニ</sub>而郡代より相廻候ニ付左之三人之ものへ申

達置

安岡町山田屋新七死去跡相続人 同町小倉屋卯吉

茅町浅田屋松之丞 三人

一綿改方之義操屋共難義之趣兼<sub>而</sub>相聽候ニ付右操屋共不殘五拾三人

難洪之義有之候哉各弁書指出候様申付置候所何<sub>茂</sub>弁書指出候所

好之ものも有之いヶ様<sub>ニ</sub>茂宜旨申ものも有之又候難洪或は改方不

宜なと区々申出候ニ付難洪申出候者右之訳委歎書付指出候様申付

置ク

一勝間田町佐伯屋八十治<sub>与</sub>申もの奈良村之ものをかたらい当町<sub>江</sub>之

出米奈良村にて買取直々舟積いたし候旨相聽候ニ付<sub>与</sub>得相札候様

大年寄<sub>江</sub>申達置尤右糺中他參留可申付候様申付置

一深信院様御仏參ニ付御先払栄治嘉七罷出候処無滞相濟候旨届出

一明廿六日御仏參御延引被仰出旨中奥目付<sub>ハ</sub>通用有之小頭<sub>并</sub>大年寄

へ申達ス

十月廿六日 晴

一御藏米五拾四匁 町米五拾匁

一御払米三百俵 落札甲屋幸助

直段正銀五拾式匁七分壹厘 町米准之

一 戸河町野本屋藤吉義妹しも兼而病身ニ付経行滞候ニ付医師産婆江為見候所懐妊ニ相違無之旨申之候右ニ付月取届延引之旨断書を以申出承置

一 二階町山手屋利兵衛家守備前屋仁兵衛義当国之内脇坂殿御預所山城村喜助当子五十八才同人妻四十九才娘十五才右三人之もの共借屋ニ居申候藤右衛門役介ニ引請申度尤村役人別紙指越候旨願書指出伺之上聞申達ス十一月二日住宅証文指出

一同町同人家守備前屋仁兵衛義当国之内脇坂殿御預所倉敷村源助伴亀吉当子八才弟為吉五才右兩人のもの役介ニ引請度尤向方村役人前書指越候旨願書指出伺之上聞届申達ス十一月二日住宅証文指出

一 舟頭町和泉屋清介後家所持之家屋敷表口六間式尺式寸裏行九間三尺御役老軒役右之家屋敷寛政七卯年四月相願新魚町村元屋太四郎取次ニ而銀札壹貫五百匁借請候処元利相済請戻候旨届書指出承置ク

右同町同人家屋敷代銀札式貫目ニ相極町内直原屋長兵衛へ売渡申度願書指出承届十一月八日売券状出

十月廿七日 昼迄快晴曇

一 無別条之

十月廿八日 風

一 御用日登城

一 三浦十郎左衛門当病不参候旨申来大目付江相届尤郷中願書共三通届書式通御用所江指出夫々御聴届相済候旨申達

一 山北村茂右衛門被盜物触流取計候様大目付中被申聴ハ拾式品之被指出

盜物触流書役申達相認大年寄江相達ス十一月五日無之旨申出

一 松平撰津守殿去ル十六日御卒去ニ付公方様大納言様御忌服被為請候仍而廿七日ハ廿九日迄三日之内鳴物停止被仰出候夫々江触書指出

一 御蔵米五拾三匁 町米四拾九匁

一 御払米三百俵 落札わらや与七郎

直段正銀五拾式匁三分七厘 町米准之

十月廿九日 快晴

一 ねち梓屋鉛屋并大工等其外ニ而も他所ハ入込差留置候職分之もの共透々書出候様御用番十太夫殿ハ申来

一 明日之御仏詣御延引被仰出候旨中奥目付藤堂融四郎ハ申来夫々江相達ス

一 御蔵米五拾式匁五分 町米四拾八匁五分

一 御払米三百俵 落札すみや五兵衛

直段正銀五拾式匁七分七厘 町米准之

一 越中富山向河原町松井屋作兵衛与申者老例年之通反魂丹売ニ罷越候ニ付宿仕度福吉屋安右衛門宿切手指出正月十七日帰候

一 播州網干天満屋儀兵衛与申者老例年之通反物おろし売ニ罷越候ニ付逗留為仕度福吉屋安右衛門宿切手指出正月十七日帰ル

十月三十日 快晴昼後曇

一 坪井町備中屋喜兵衛儀明後二日出立ニて大坂立売堀式丁目木津屋周蔵方へ三十日計逗留ニ而罷越申度願書大年寄聞届候旨自分願書指出

一例月之番賃銀札相渡ス

一二階町畳屋佐吉借屋住鉄屋十五郎役介しか当子四十四才今般林田

上ノ町兼井吉次母役介ニ差遣度願書指出承届

一京町塗師屋熊吉借屋住作人佐平次義林田上ノ町作人ふゆ方へ引越

彼方ニ而渡世仕度町内人別除願書承届

十一月 丙子 大

御家老 安藤丹後殿

御年寄 大熊鞆負殿

大目附 平井半平

大年寄 藏合孫左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

十一月 丙戌 旦 晴

一御吉事日ニ付麻上下着用五半時過登城

一御吉事日ニ付御奏者番以下御譜代之面々計七間廊下ニ而御祝義御

小性頭江謁申上尤御前様江同様に申上ル但式日之申上無之

一御用日ニ付類役一統御用所江罷出当日御祝義申述畢而役筋申上候

御用向無之併今日米相場書諸方江指遣候旨及御沙汰置

一勝山柳原九郎左衛門膝付介右衛門分奉札ニ而米相場書毎々指遣候

ニ付為御挨拶金式百疋被下置候旨申来則御請書指遣尤同人分も相

場付遣候同様申来是又為相認指遣

一久世手代吉田喜平次榎本宗八飯沼才治郎分米相場書取ニ指越則指

遣ス

一龍野御役人平野七郎兵衛三沢清太夫より米相場付取ニ指越相渡

一布施孫三郎殿手代中沢良助桑名善藏分米相場書取ニ来相渡

一塩屋大四郎手代勝田近藏広石卷右衛門分米相場書取ニ来相渡

米相場平均

一上米 五拾貳匁四分六厘八毛二

一中米 四拾九匁四分六厘八毛二

一下米 四十六匁四分六厘八毛二

一新職人町松野屋十右衛門義播州姫路本町表屋孫太夫申もの六年

以前古手買ニ当所江出入致候処其後病身ニ而参り不申依之備前岡

山浜田町綿屋喜兵衛申ものほうし反物足袋小間物紅卸売ニ右孫

兵衛替りニ罷越出入為仕度願書指出承届

一坪井町岡本屋七郎兵衛義綿屋佐介病死ニ付同人由緒有之候ニ付中

買跡役中間相談之上相初申度旨惣中買共分連印ニ而歎書指出承届

一林田町福吉屋音右衛門義病身ニ相成候ニ付中買役倅安右衛門江為

相勤申度歎書指出承届

一二階町河本屋清助義娘ふゆ義病身ものニ御座候ニ付心付不申候処

懐胎ニ相違無之尤六ヶ月ニ而相成候而届等致延引恐入候旨断書を

以申出承置

一船頭町直原屋長兵衛義所持之家屋敷表口四間式尺寸裏行九間三

尺裏ニ土蔵付御役壺軒役右之家屋質物ニ書入元魚町吉屋清蔵取次

二 而 壹ヶ月壹歩半利足銀札壹貫五百目来丑ノ二月借請候旨願書指出承届十一月八日質入証文出文化六巳六月受返し断書出ス

一中ノ町甲屋幸助義他所商人左之者共中絶之処今般尚亦出入為致度願書指出承届

播州網干新在家 伊部屋清六

備中妹尾 衣屋甚四郎

大坂浜屋橋筋梶木町 河内屋甚七

一 西川大谷代藏へ米相場書兼 而 頼来居申候ニ付仕懸ニ 而 相廻ス

十一月二日 快晴

一 坪井役人佐藤五兵衛分米相場書取ニ指越即刻相渡ス

一 弓削土井殿御役人尾関十太夫谷口市右衛門谷口奎太郎分米相場書取ニ指越即返書共相渡候

一 雲州杵築多久太夫 与 申御師上下三人ニ 而 例年之通参り候ニ付逗

留為仕度新職人町松野屋十右衛門宿切手指出

一 顕徳院様御忌日は迄八月廿六日之処御故障ニ付八月十九日ニ御改

被成候旨大目付廻状到来ニ付組中 并 町触等例年之通指出

十一月三日 昼後雨

一 来六日他領棍並ニ 而 富興行有之旨相聴候ニ付町触指出尤目明壹人

彼場所 江 罷出候様小頭 江 申達ス

一 桶屋町竹田屋権吉組合共義右権吉去ル三月相願往来百五十日之逗

留ニ 而 四国遍路ニ 罷出候処日限相過候ニ付八月ニ五十日日延相願

候処以今罷帰不申仍 而 今日百日計之日延願書指出承届

一 西川大谷代藏分去ル朔日平均相場書相廻候処右返書申来

一 通用錢式拾壹箇川下取計候間裏印相認候様銀札奉行松島郡平分申来則調印取計指遣ス

十一月四日 晴

一 御勘定役長尾貫一郎殿御普請役宮田右吉石州 并 備後国御代為検見

被相越御用相濟候間昨三日宮地村御泊今四日当町止宿之由久世表

分土居 江 通有之候段川辺大庄屋土居辰五郎分郡代所 江 届出候

由通有之候ニ付先取調左之通伺書指出候処伺之通被仰出

御勘定役止宿ニ候ハ、一道筋不見苦程ニ申付

一 保頭先払 一同心組先払夜中出張

一 大年寄町年寄伺ニ出 一 医師兩人在宿

一 出火退場大信寺本源寺 一 隣町夜廻り

御普請役止宿ニ候ハ、一道筋不見苦程ニ申付

一 保頭先払 一同心組 但後中出張 一 町年寄人伺ニ出

一 大坂木村周藏殿手附池田富右衛門杉山安之右衛門分平均米相場書

取ニ来即刻返書 并 相場書相渡ス

一 桶屋町清水友三家守菊屋利兵衛義姉当子廿九才此度大坂島之内油

町壹丁目和泉屋半兵衛方 江 養子ニ遣度人別除之願書指出伺之上聴

届申達ス

一 組之もの不時請取 并 目明扶持非人ふち夫々請取証文指出例之通調

印取計

十一月五日 快晴

一 安岡町久米屋弥市去月廿四五日之頃ニ裏ニ色々古着指置候処昨晦

日ニ見出候処別紙之通相見え不申被盜取候哉ニ存付候仍之別紙書



付を以届出尤古着枚拾四品町触取計候様被仰達候様御用番<sup>江</sup>申上  
置候所大目付<sup>江</sup>町触取計候様被相達<sup>十四日考候</sup>

一新田村周立被盜もの刀脇指小柄<sup>江</sup>三品代料都<sup>而</sup>百拾匁位之品町触  
取計候様被申聽則触流指出十一月十四日無之段申出

一新田村安右衛門畑林<sup>江</sup>品数六ツ左之通捨有之候旨郡代所<sup>江</sup>届有之  
触流取計候様被相達候処右六品今日届出候安岡町久米屋弥市被盜  
もの、内引合候様被存候仍<sup>而</sup>郡代へ申談弥市被盜もの<sup>江</sup>相違も無  
之候ハ、相渡候様被達置候様致度旨郡代<sup>江</sup>申談候処明後日右村庄  
屋宅<sup>江</sup>弥市罷越及見相違無之候ハ、請取可申候様大年寄<sup>江</sup>申達尤  
郡代<sup>江</sup>も達有之候

一男着袷腰切<sup>江</sup>一 一同単物<sup>江</sup>一 一女帯二筋

一釘貫二ツ 一かなつち<sup>江</sup>一

一元魚町灰屋与七郎義御領分田邑見内国助<sup>江</sup>利助当子三拾式才此  
もの役介に引請申度町内人別入願書指出承届ル

一鍛冶町かつら屋久兵衛義弟源治郎九月中旬近在<sup>江</sup>罷越候処居所相  
知不申夫々相尋候得共今以行方相知不申候<sup>江</sup>付届書を以届出百日  
尋申付置

一河原町作人長八所持之明地表口式間半裏行三間御役式歩五厘右之  
明地代銀札拾五匁<sup>江</sup>相極組合之内沼野屋ふさへ壳渡申度願書指出  
承届

一先達<sup>而</sup>ねちわく屋其他所ねちわく御差留被下候様先年之通御触流  
被下候様願書指出御用所<sup>江</sup>相伺置候処今日御聞届相濟候<sup>江</sup>付御領  
分中御触有之候<sup>江</sup>付町触指出

一他所札近来猥<sup>江</sup>取り遣り致候旨銀札場<sup>江</sup>申立候由<sup>江</sup>付町触取計可  
申案文指出候様先達<sup>而</sup>御用所より御達有之案文指出置候処伺之通  
取計候様被仰出候<sup>江</sup>付町触指出

一御蔵米五拾式匁五分 町米四拾八匁五分

一御払米三百俵 落札甲屋幸助

一直段正銀五拾壹匁五分 町米准之

一本覺寺来年中夜念仏修行として町中<sup>江</sup>罷出候旨願出御聞届相濟候  
段寺社取次<sup>江</sup>通用有之右年寄<sup>江</sup>達置<sup>江</sup>ク

十一月六日 晴

一銀札場奉行栗原衛守<sup>江</sup>新魚町野田屋伊兵衛義今朝同町なた屋弥太  
郎養子<sup>江</sup>仕度旨右伊兵衛義是迄札座手代実体<sup>江</sup>相勤候<sup>江</sup>付其俣指  
置申度存寄承度旨問合有之候<sup>江</sup>付何之存寄も無之候段申遣ス

一鍛冶町鍛冶太兵衛明七日九ツ半時指出候様大年寄<sup>江</sup>差紙出ス

十一月七日 快晴

一明日之御仏參御延引被仰出候旨中奥目付藤堂融四郎<sup>江</sup>通用有之夫  
々<sup>江</sup>申達ス

一今九ツ半時鍛冶太兵衛呼出立合左之面々  
下役新左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番  
大年寄孫左衛門 諸吟味喜左衛門

右<sup>者</sup>家業不出情不人柄<sup>江</sup>付手鎖組合預ケ申付ル右之段御所<sup>江</sup>相  
届ル

一西今町永田屋喜七義去ル四日之夕盜賊入込土藏<sup>江</sup>忍入九六錢三拾  
貫文但卒白右之通被盜取候旨届出御用所<sup>江</sup>申上ル

一 鍛冶町横野屋徳左衛門義本源寺長屋居申候利左衛門当子五拾才同人妻四拾九才同人娘廿才才同人孫常太郎二才右四人之もの此度役介ニ引請申度願書指出寺社取次引合之上十二月十五日聞届申達ス

十一月八日 快晴

一 御用日ニ付登城

一 安岡町久米屋弥市被盜もの之内新田村安右衛門畑林ニ捨有之候六品之内五品同人被盜ものニ付昨日町役指添罷越請取候段届出候ニ付御両所江相届

一 京都錦小路烏丸近江屋勘吉手代忠兵衛与申者忝人初而呉服太物売

ニ参り候ニ付逗留為仕度新職人町松野屋重右衛門宿切手指出十一月廿四日帰ル

御藏米五拾式匁五分 町米四拾八匁五分

一 御払米三百俵 落札福市屋安右衛門

直段正銀五拾壹匁式分老厘 町米准之

札元茂渡庄右衛門悴并川口藤左衛門悴札元見習之義勘定奉行江内

意申込候ニ付同様内意大年寄申出承置ク

十一月九日 快晴

一 公儀御勘定役長尾貫一郎殿御普請役宮田左右吉今夕当所止宿并人

馬指出候様先触到来ニ付夫々取計向申付先触写御用番江指出尤右

之段大目付江茂相届

一 散心坊講釈昨夜切ニ而相濟候段宮田喜左衛門今相届

一 御勘定役并御普請役先触左之通

御朱印御証文之写式通遣之候条可得其意候以上

御朱印

子 八月廿一日

長尾貫一郎

人足式人馬式疋疋從江戸備中備後石見国迄上下并於彼地御用

中幾度も可出之是ハ御領所代検見并当田方立毛見分為御用

長尾貫一郎被差遣候付而被下之者也

文化元年八月廿一日

右宿中

長尾貫一郎持參之御用書物長持忝棹江戸今備中備後石見国

迄上下并於彼地御用幾度急度可持參者也

子 八月 采女

御朱印

覚

右宿中

一人足式人

四人駕籠忝丁持人足

馬式疋

内忝疋人足式人ニ代ル

忝人具足櫃持

御証文

一 御用長持一棹持人足

忝人両懸挾箱持

一 賃人足 三人

忝人合羽籠持

〆七人

右之行書有之段

長尾貫一郎

子 十月八日

田部甚八

備中宮地村今大坂迄

右宿村問屋

年寄

庄屋

中

休泊

九日

上河内中村分 津山宿

十日

勝間田 土居宿

以下略之

一御普請役宮田左右吉御証文馬壹疋輕尻馬壹疋分持<sub>并</sub>休泊等之先触有之候所前段之通<sub>二</sub>付略之

長尾貫一郎殿御届

茂渡庄右衛門

宮田左右吉宿

大庭屋善兵衛

右取計方去四日相伺候節記有之<sub>二</sub>付此所略之大年寄<sub>江</sub>先例之通り取計候様達ス

御勘定方御先弘嘉七幸治 夜九時分代合栄治文藏

御普請方龍兵衛庄藏源藏 右日代合 藤四郎和四郎

一組之者出役彼是<sub>二</sub>付不足仍<sub>而</sub>助之義大目付<sub>江</sub>申立候処左之もの共罷出今泊明朝番相勤させ候段小頭申出 野尻太市 広島惣平

一吉野郡之内<sub>二</sub>而<sub>三</sub>明十日宮原村十二日<sub>前</sub>たい村<sub>前</sub>両日富興行有之候趣相

聴候<sub>二</sub>付郡代申合候<sub>而</sub>町触指出目明指遣ス

十一月十日 曇

一今朝公儀御役人出立無滞相濟候段大年寄分届出先弘組之者町分通行無滞相濟候段相届候<sub>二</sub>付御両所<sub>江</sub>相届ル

一西今町えひす屋銀藏義借屋<sub>二</sub>居申候松田屋佐助義去ル九月罷出一

向届不申候<sub>二</sub>付所々相尋候得共相知不申候旨届出候<sub>二</sub>付百日尋申

付置候所昨八日罷届委細相尋候処四国遍路<sub>二</sub>罷出甚心得違恐入候

何卒届住御免被下候様歎書指出右佐助義大坂表より滞銀之義申来

居候<sub>二</sub>付御用所<sub>江</sub>茂<sub>三</sub>御沙汰申上置候<sub>二</sub>付右之段伺之上聞届申達ス

一御米<sub>三</sub>五拾壹匁五分 町米四拾七匁五分

一御米三百匁 落札伏見屋茂七

直段正銀五拾匁八分壹厘 町米准之

一久世御代官所御金荷馬三疋之先触到来<sub>并</sub>今夕当町止宿之旨届出<sub>二</sub>

付夫々手当申付郡代所<sub>江</sub>茂<sub>三</sub>及通用尤明日御両所<sub>江</sub>御沙汰申上候事

一御金荷三駄差添手代森熊吉 一宿原屋佐市

一不寝番人足四人 一隣町夜廻り 元魚 戸川 二丁

二階 新職 新魚

一町役者人<sub>并</sub>人馬問屋挨拶

十一月十一日 快晴

一西今町松田屋佐助義無願他行いたし罷届候<sub>而</sub>届住歎書指出右佐助

義ハ大坂木屋与兵衛分滞銀之懸合<sub>二</sub>付家出候段御沙汰申上置候<sub>二</sub>

付伺之上聞届申達尤咎之義先例之通申達ス

一左之もの共今日大年寄宅<sub>江</sub>呼出賞詞之趣申達ス

茅町広原屋善吉 鍛冶町鍛冶多三郎

東新町高屋清吉 堺町芦田屋善兵衛

船頭町三之丞 新魚町あつま屋平吉

京町鞆屋伴藏

細工町

指物屋長左衛門  
持半治郎

細工町 家屋嘉兵衛作  
電吉

鍛冶町山形屋与次兵衛

美濃職人町財布屋庄助

戸川町平田屋平八悴亀之介

堺町 丸屋屋助次  
梓熊之助

橋本町山形屋喜八

其方儀家業致出情候趣相聞奇特之事ニ候此段及賞詞候已後弥可致出情候

宮脇町竹田屋六郎兵衛妻

其方儀養家大切ニいたし家業出情之趣相聞奇特之事ニ候此段及賞詞候以後出情可致候

坪井町塩屋直之介母同人叔母

其方共義老母を大切ニいたし家内睦敷趣相聞奇特之事ニ候此段及賞詞候已後弥和順いたし孝養相励可申候

一 御蔵米五拾壹匁 町米四拾七匁

一 御払米三百俵 落札大黒屋利兵衛

直段正銀五拾匁三分九厘 町米准之

一 弓削御役人尾関十太夫谷口市右衛門谷口空太郎飛札を以米相場付相廻候為挨拶鯛壹枚相送り即答及返書

一 牢舎盗人新吉清兵衛直治郎口書を以御裁許伺書指出置

十一月十二日 天気夜雨

一 無別条之

十一月十三日 快晴

一 御蔵米五拾壹匁 町米四拾七匁

一 御払米三百俵 落札甲屋幸助

直段正銀五拾匁三分 町米准之

一 二ノ宮儀兵衛今町佐助先達ニ登坂之節大坂湊橋木屋与兵衛分旅籠

代指滞候ニ而右兩人懸り歎書指出候ニ而先達ニ而長沢清左衛門分申来候ニ付济方之義可相達候処其節無願致他出候此節罷帰候ニ付急ニ

济方致候様可申付大年寄江申達ス

一 下紺屋町長江朝庵義用事ニ付大坂玉子屋九兵衛方へ百三十日計之逗留ニ而罷越申度願書指出承届丑三月廿八日帰ル

一 伏見町福吉屋利八義西新町亀屋源兵衛持来之旅籠屋株讓受商売仕度願書指出承届

一 無宿盗人万吉吟味中牢番預ケ申付候間立合可申付郡代より申来栄治罷出入牢取計候段申出

十一月十四日 快晴夜中雨

一 無別条之

十一月十五日 晴

一 今朝牢浚取計候処別条無之候旨藤四郎庄藏届出ル

一 御用日ニ付登城

一 当日御祝義御奏者番以下例之通七間廊下ニ而御小性頭江謁申上ル

一 御用所ニ而大目付立合左之通鞆負殿被仰渡

茂渡庄右衛門悴只助川口藤左衛門悴藤十郎札元見習被仰付候

問此段可申達候

一 広原分広瀬橋詰新七義町方分被相頼候由ニ而穀物買取候ニ付南在得意方分西今町江一向売米等出不申難洪之趣今町問屋一流連印ニ

歎書指出仍而郡代所江相廻候所右新七吟味有之候処相違も無之

町方分相頼候もの共名面書指出候所今町連印之内ニも三人相頼候

もの有之候ニ付尚為相札候処無相違口書差出仍而郡代江申談候処  
新七義者外ニ店壳致候ニ付追込申付候旨今町三人之ものは右歎書

指出候ハ、前以相頼候訳可申出候処無之義不束之趣を以急度叱ニ

而も可然ニ付右之段今日兩役分伺書指出候処右三人之もの共再考

致候様御申ニ付歎書指出候程之義ニ有之候ハ、相頼間敷候処不埒

ニ付追込三日可申付哉之旨伺書指出

一 茂渡庄右衛門川口藤左衛門悴召連明ケ六日四ツ時役所江罷出候様

奉書指出

一 材木町山城屋熊吉明日四ツ時役所江指出候様大年寄江差紙遣ス

一 御藏米五拾貳匁 町米四拾八匁

一 御払米三百俵 落札

直段正銀五拾貳匁三分九厘 町米准之

一 播州有馬辻堂茂兵衛与申者老入例年之通墨筆白粉卸壳ニ参り候ニ

付逗留為仕度旨中ノ町甲屋幸助宿切手指出

一 播州網干余陸屋利兵衛与申者老入例年之通荒物塩もの壳ニ罷越候

ニ付逗留為仕度旨中ノ町津田屋伝助宿切手指出丑二月十三日帰ル

一 播州網干余陸屋惣七与申者老入例年之通八百屋物卸壳ニ罷越候ニ

付逗留為仕度同町同人宿切手指出ス丑二月十三日帰ル

一 二階町島屋藤吉義御領分竹田村伊吉当子四十五才同人妻四十才

同人悴庄吉八才右三人之もの共借屋ニ居申候治助役介ニ引受申度

町内人別人願書指出承届

一 坪井町岡本屋七郎兵衛中買願候ニ付請人三丁目板屋源藏坪井町井

口屋利兵衛分請状一札指出

一 今日大円寺ニ振くし有之候処兼而相頼来候ニ付廻り之者立寄ら  
七候処無滞相濟候旨届出

十一月十六日 晴

一 今四ツ時茂渡庄右衛門悴只助川口藤左衛門悴藤十郎召連罷出候ニ

付各札元見習被仰付候段申渡立合侍座之面々左之通

下役新左衛門 大年寄孫左衛門 諸吟味喜左衛門

小頭利右衛門

一 材木町山城屋十右衛門悴熊吉呼出吟味いたし候処是迄甚心得違家

業不出情マヤ仕恐入候旨申出以後相慎可申段申之候得共先ツ手鎖組合

預申付置立合之面々左之通

下役新左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番文藏

大年寄孫左衛門 諸吟味喜左衛門

右兩段之趣取計候間御用番鞞負殿大目付半平江相届ル

一 明十七日御社参御延引被仰出候旨中奥目付出九太夫分通用有之大

年寄江申達ス

十一月十七日 晴

一 鍛冶町鍛冶太兵衛去七日家業不出情マヤものニ付手錠組合預申付置候

処右太兵衛義心底相改以後家業可仕旨組合共ハ相頼候ニ付何卒手

錠預指免呉候様組合共分歎書指出

一 材木町正木屋甚右衛門義娘いし当子式拾才ニ罷成候此度御家老組

豊福広介へ妻ニ指遣申度人別除願書指出承届

一 深信院様明十八日五半時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣夫分妙法寺江

茂例之御道筋にて御参詣被仰出候旨種村登門分通用有之夫々江相

達又

一 伏見町作人万四郎義先達而 壹里四方追払ニ相成候元靱負殿家来渡部八十助妻当子三十八才此度八十助離縁致候ニ付家内ニ引請申度人別人願書指出靱負殿江も引合候処指障無之候由ニ付伺之上聞届申達又

一 備前岡山上之町黒金屋嘉兵衛与申もの壹人例年之通紙類荒物紺屋形金通し張替ニ昨日參候ニ付逗留為仕度中之町甲屋幸助宿切手指出十二月十一日帰ル

一 御蔵米五拾貳匁 町米四拾八匁  
一 御払米三百俵 落札伏見屋茂七

直段正銀五拾壹匁五分八厘 町米准之

十一月十八日 晴

一 鍛冶町鍛冶太兵衛義手鎖組合預申付置候所同人家内并組合共々歎書指出候ニ付歎書之趣聞届手鎖組合預ケ指免候段大年寄江申達又尤大年寄宅ニ而申渡候而手鎖預ケ指免候ニ付立合指出左之通

小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番和四郎

一 御用日ニ付登城

一 久世御代官重田又兵衛殿明十九日同所出立同夕当所止宿之旨先触到来之由人馬問屋より指出候由ニ而大年寄指出左之通

一人足式十七人内六人乗物 四人分持 志人具足箱 六人持持式袴 式人合羽籠式袴

一本馬三疋 内式疋乗下 壹疋四ツ荷

右者大坂鈴木町御用宅江引越候ニ付明十九日朝六ツ半時久世陣屋出立之由文段先例之通略之

子十一月十七日 重田又兵衛手附 橋本新右衛門

一 御普請役格吉田喜平治明十九日久世表出立同夕当処止宿尤重田殿同宿之旨先触到来左之通

一人足式人 一 賃馬壹疋  
右之文段又兵衛殿同様ニ付略之

子十一月十七日 御普請役格 吉田喜平治

一 右之通先触到来ニ付先例取計書指添御用番江相伺候

御宿 福永屋藤助  
一道筋不及掃除不見苦程ニ申付 一 保頭先払

一同心組先払但夜中出張 一 医師兩人在宿申付

一出火退場本源寺大信寺 一 隣町夜廻り申付

一 大年寄壹人町年寄壹人伺ニ罷出

右之通先例ニ御座候間取計可申候哉此段奉伺候以上

十一月十八日 町奉行

一 左之通伺書指出候処以来者久世御代官御着発共両役出役ニ不及旨被仰出

去ル酉年早川八郎左衛門殿御泊之節寛政四子年相伺置候通兩役共出役可仕旨相伺候其節者出役ニ不及旨被仰出仍而此度

者如何可仕候哉奉伺候以上

十一月十八日 町奉行 那代

一 重田亦兵衛殿御止宿ニ付御使者被仰付候間立宿可申付旨大目付中被申聽其段申付候処三丁目一文字屋伊三郎申付候段申出候ニ付御使者宮原森治へ申遣ス尤大目付江申談候間当人江直ニ申遣ス

一 御蔵米五拾貳匁 町米四拾八匁

一 御払米三百俵 落札大黒屋喜兵衛

直段正銀五拾壹匁七分壹厘 町米准之

一 先頃牢舎盗人三人之もの共御裁許之義相伺候処此節追払等有之候

而 立帰氣遣ケ敷義ハ有之間敷哉之旨御用番御尋ニ付先ツ 氣遣敷

も有之間敷候得共万一立帰候趣難計御請合申上兼候旨申上候所何

分右之趣意書付指出候様被申聴候ニ付書付指出置ケ

一 昨夜及深更大年寄罷出申聴候者 神戸村勘介方ニ日雇ニ参り居申候

勘次 申もの他領皿村佐市悴之由昨七時過頃今町玉屋吉右衛門馬

方 及口論其場かけ右勘次義同所福見屋吉兵衛方 立寄土足ニ

座敷 江上り候故引おろし候処打擲なとし申立ねたり候由ニ付噯人

等内済申談候処向方庄屋庄左衛門同町年寄 江参り内分疵所も及見

度申之先ツ其内は内済相成不申段大庄屋指図之由ニ付右疵所見分

之處上役分指図無之候 而 難相成候段申述置候 伺出候ニ付如何

様共取計候様尚此上下済為致候様大年寄 申達置

一 国分寺被盜もの八品代メ百九拾六匁位右之段町触取計候様大目付

中被申聴則例之通町触指出十一月廿五日無之段申出

十一月十九日 昼後雨

一 今日重田又兵衛殿当所止宿ニ付御先払 夜中出張等左之面々

御着御先払夜九ツ時迄 夜九時分御立御先払

十一月廿日 昼後晴

一 今朝重田又兵衛殿当所御立被成町分無滞相済候段大年寄 出役組

之者分届出候ニ付其段御両所 相届

一 教信町会所ニ講釈諸人用銀札拾貳匁七分之証文宮田喜左衛門分  
指出証文認直候 勘定奉行 相廻置ケ

一 元魚町田辺屋弥兵衛義予州大州御城下本町式丁目油屋安右衛門当

子三拾貳才此度役介ニ引請申度住宅之義願出尤西寺町光嚴寺且那

ニ可仕向方且那寺町役よりも別紙指越候旨願書指出伺之上聞届申

達ス十一月三十日住宅証文出

一 桶屋町大坂屋京右衛門義所持之家屋敷表口六間半裏行十式間但シ

御役老軒役右之家屋敷之内南之方ニ表三間式歩五厘裏行拾貳間

尤御役五歩役代銀札三百五拾匁ニ相究桶屋清吉 壳渡申度願書指

出承届十一月廿八日壳券状出

一 右同町同人義所持之家屋敷表口裏行等前段之通ニ北ノ方代銀札三

百五拾匁ニ相究町内西屋善藏 壳渡申度願書指出承届十一月廿八

日壳券状出ス

十一月廿一日 風雪折々

一 紀州高野山万性院使僧本清 申僧上下式人例年之通且那廻りとし

て昨日参り候ニ付逗留為仕候旨宿切手坪井町川原屋治助指出丑正

月廿七日帰ル

一 御用日ニ付登城

一 御用所ニ左之通敷負殿被仰渡大目付侍座

五十敲之上御領分追払 無宿盗人新吉

同 同 徳兵衛

一 左之もの共同之通被仰付

御領分追払 無宿盗人直治郎

三日追込

きせる屋長兵衛

同

ひこ屋定吉

右者 来廿三日取計可申候間御徒目付下目付出役之義大目付<sup>江</sup>申  
達置

一下紺屋町河内屋佐吉義出九太夫長屋ニ居申候むつ娘ふゆ当子廿四  
才此度同人忩忠吉妻ニ引請申度人別人願書指出承届

一御蔵米五拾式匁五分 町米四拾八匁五分

一御払米三百俵 落札木和屋源兵衛福吉屋安右衛門

直段正銀五拾式匁三分 町米准之

十一月廿二日 快晴

一京町俵屋伊兵衛義売用ニ付因州鳥取川端三丁目かと屋喜左衛門方  
迄罷越三十五日計逗留仕度願書指出候ニ付大年寄聴届候旨兩人願  
書指出

一明日敲払取計有之候間右之手合致置候様小頭<sup>江</sup>申達置

一明日五ツ時きせる屋長兵衛ひこ屋定吉呼出候<sup>而</sup>前紙之通申渡候様

大年寄<sup>江</sup>差紙出

十一月廿三日 昼後曇

一今六半時揃<sup>ニ</sup>而左之者共敲払取計候ニ付出役之面々左之通

御徒目付吉村弥平次 下目付<sup>(下)</sup> 小頭利右衛門

部屋目付栄治 出番幸治源蔵

五十敲之上御領分追払 無宿盗人新吉

同 徳兵衛

御領分追払

同 直治郎

一右之段取計相濟候段出役之もの共今届出候ニ付御用番<sup>并</sup>大目付<sup>江</sup>

相届

一番幸治源蔵院庄御境目<sup>ニ</sup>而追払村庄屋立合一札取之無滞相濟候  
旨届出

一大年寄<sup>ニ</sup>而左之もの共呼出咎之義申渡候ニ付小頭利右衛門部屋目  
付栄治罷越ス

盗人忠蔵直治郎夜中留置不埒ニ付 二階町きせる屋長兵衛

追込三日

盗人新吉宿致連日指置不埒ニ付追 新魚町ひこ屋 定吉

込三日

右申渡取計相濟候段出役之ものより届出候ニ付御両所<sup>江</sup>相届  
一勝南郡豊くに<sup>ニ</sup>而明廿四日富興行有之吉野郡川上村<sup>ニ</sup>而明後廿五  
日同様有之候段相聴候ニ付例之通町触差出尤豊くにハ行程四里位

有之候ニ付目明指出川上村は余程偏り候ニ付郡代申談目明不指出

右ハ小頭<sup>江</sup>申達置ク

一町会所<sup>ニ</sup>而教信講釈入用銀札拾式匁七分証文勘定奉行<sup>江</sup>指出置候

処右銀札相廻り宮田喜左衛門<sup>江</sup>相渡請取書指出

一今昼廻り藤四郎庄蔵罷出候<sup>而</sup>七半時過上紺屋町伊勢屋十蔵方<sup>江</sup>立

寄見改候処七人程会合いたし居候処三人逃出現ルもの共左之通博

突参会<sup>ニ</sup>而も可有之哉之旨及吟味候得共決<sup>而</sup>左様之義<sup>ニ</sup>而ハ無之

段申出候併甚疑敷候ニ付如何取計可申候哉伺出候ニ付夫々町役組

合呼出預置候様申付

上紺屋町伊勢屋十蔵

材木町たはこ屋善次



二階町てつ屋十五郎 坪井町千切屋勘兵衛

右人数之内ニ而 逃出候もの左之通

坪井町ひの屋五藏 元新魚町ニ而 出奔もの三之丞

桶屋町 溯屋民藏兄久五郎当時人御巻之

一伊勢屋十藏たはこ屋善次鉄屋十五郎千切屋勘兵衛右四人之もの町役組合呼出組合預り申付置候段廻り兩人より届

一夜中大年寄罷出坪井町ひの屋五藏兄久五郎義當時町人別無之京都祇園町南丁之者之由右久五郎義町内年寄江曾及過言其上少々及打

擲候振合共甚不屈之由申出候ニ付則組之者左之もの共指向手鎖組合預ケ申付置

幸治 嘉七 源藏 和四郎

一御藏米五拾三匁五分 町米四拾九匁五分

一御払米三百俵 落札福吉屋安右衛門

直段正銀五拾四匁三分八厘 町米准之

十一月廿四日 曇

一西新町三原屋定吉義脇坂淡路守殿御預所勝南郡倉見村折右衛門当子式拾八才同人妻廿八才右家内式人役介ニ引請相応之渡世為仕度住宅之義願書尤向方旦那寺村役人別紙指遣候旨願書指出伺之上聞届申達ス十二月五日住宅証文出

一京町大村屋源右衛門義玉屋伊右衛門所持之自国受酒株当子八月分同十月迄借受候処右限月来候ニ付猶亦当十一月分来丑二月迄借受商売仕度願書指出承届

一材木町山城屋重右衛門組合共々歎書指出右者悴熊吉手鎖預ケ申付

置候処当人義甚恐人候以後大工職出情可仕候間何卒手鎖預ケ指免呉候様組合共江相願呉候様申候ニ付組合共々歎書指出同廿五日手鎖指免歎書承届

一伊勢山田河北助太夫名代辻田善次与申御師老人例年之通旦那廻り昨日参り候ニ付逗留為仕度候旨新職人町松野屋十右衛門宿切手指出丑四月六日帰ル

一新魚町研屋万兵衛所持之家屋敷表口三間裏行九間御役五歩五厘役右之家屋代銀札式百九拾匁ニ相極町内大工屋多助江売渡申度願書指出承届

一撰州大坂農人橋網屋清次郎与申者老人例年之通灯ツマ張替ニ昨日参り候ニ付逗留為仕度中ノ町津田屋伝助宿切手指出十二月十九日帰ル

一阿州板野郡成瀬村曾右衛門与申者老人例年之通藍玉売ニ罷越候ニ付逗留為仕度右同人宿切手指出丑五月廿三日帰ル

一阿州名西郡高原村直兵衛手代平左衛門与申者老人例年之通藍玉売ニ罷越候ニ付逗留為仕度右同人宿切手指出丑五月廿三日帰ル

一阿州板野郡高房村新兵衛与申者老人例年之通藍玉売ニ罷越候ニ付逗留為仕度右同人宿切手指出丑五月廿三日帰ル

一西今町喧嘩一件内済熟談いたし候旨取遣一札大年寄分指出候ニ付及披見内済承届候段申達ス右之段郡代よりも為引合申越候ニ付同様承届候旨及返書

一上河原新藏中島村安治沼村三之丞同村藤三郎右四人之もの共牢番預ケ申付候間立合指出候様郡代より申来庄藏罷出入牟取計候段届

出

一 今日左之もの共九ツ半時呼出遂吟味

上紺屋町伊勢屋十蔵 材木町たはこ屋善次

二 階町鉄屋十五郎 坪井町千切屋勘兵衛

右之もの共及吟味候処博奕参会之旨粗及白状尤鉄屋十五郎千切屋勘兵衛義ハ博奕携無之旨何<sub>茂</sub>申口右立合之面々左之通

下役新左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎

出番庄蔵源蔵 大年寄孫左衛門 諸吟味喜左衛門

一 桶屋町池淵屋才治悴民蔵義博奕差口ニ付夜廻り文蔵嘉七指向候<sub>而</sub>

手鎖組合預ケ申付置

一 先年寛政九巳九月石名平太兵衛抱屋敷ニ付博奕参会いたし出奔致候三之丞<sub>与</sub>申ものは亦右博奕之場ニ居合候ニ付新魚町<sub>江</sub>立帰居候

哉吟味為致処右町内ニは一向見及不申段申出ル

一 福渡町森原屋宇兵衛悴十吉義至<sub>而</sub>不孝之趣父宇兵衛大病之処家出致居候ニ付大年寄場<sub>江</sub>呼出急度申聴キ禁足申付ル

十一月廿五日 昼後晴

一 御用日ニ付登城

一 郡代十郎左衛門取計間違之義有之候<sub>而</sub>差扣伺具候様申来大目付<sub>江</sub>相伺置

一 郡代所願書鳥打願書迄通大坂清左衛門へ懸合文通下案伺具候様申来

一 十郎左衛門指扣伺之通被仰付右ニ付同人差扣中郡代請持候様大目付役所<sub>ニ</sub>而達有之

一 長沢清左衛門<sub>江</sub>郡代より懸合之書状十郎左衛門指扣中ニ付両役より

右之趣を以今日之御便に書状遣候様大目付半平<sub>ハ</sub>被申聴候ニ付十郎左衛門調置候通及文通

一 明廿六日九半時御供揃<sub>ニ</sub>而御対面所<sub>江</sub>御出被仰出候旨中奥目付<sub>ハ</sub>郡代<sub>江</sub>之通用有之候ニ付大庄屋宛<sub>ニ</sub>而右之段申達ス

一 御蔵米五拾三匁五分 町米四拾九匁五分

一 御払米三百俵 落札甲屋幸助

直段正銀五拾四匁六分 町米准之

一 東新町年寄茂右衛門義甚左衛門<sub>与</sub>改名仕度旨願書承届

一 西新町大黒屋亦七義脇坂淡路守殿御領分播州逸東郡<sub>（マヅ）</sub>今市村嘉兵衛

悴嘉助当子廿五才同人妻さよ廿二才此もの共役介ニ引請相応之渡世為仕度尤向方旦那寺村役人よりも別書指越候ニ付願書指出伺之上聞届申達十二月五日住宅証文出

一 坪井町年寄兩人より届出候<sub>者</sub>一昨夜同町日野屋五蔵兄日野屋久五

郎義年寄宅へ呼出候<sub>而</sub>対談候処段々及雜言其上源右衛門へ取懸り栄四郎を及打擲狼藉之段届書を以届出尤今<sub>茂</sub>大年寄へ右体狼藉

候間届出候ニ付組之者指向手鎖組合預ケ申付置ク

一 以後<sub>者</sub>取計向御用番<sub>江</sub>相届候節何日伺相濟候何々今日何々申付候など相届候様大目付半平被申聴右之段郡代<sub>江</sub>及通用

十一月廿六日 寒風吹雪

一 材木町山城屋重右衛門悴熊吉義追々身行相改候旨組合共<sub>ハ</sub>歎書指出ニ付今朝手鎖組合預ケ指免候

一 二階町きせる屋長兵衛新魚町<sub>ハ</sub>こ屋定吉追込昨日迄三日ニ相成候

ニ付今朝追込指免

右熊吉大年寄宅ニ申渡候ニ付立合左之面々指出

小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番庄藏

一右取計相濟候旨御用番鞆負殿大目付半平江相届ル

一郡代十郎左衛門指扣御免被成候旨案内有之

一盗人徳兵衛盗取候品々左之もの共へ今日大年寄相渡請書指出

一櫛六枚筭拾壹本 宮脇町松岡屋善兵衛

一紋木綿壹反 西今町永野屋安兵衛

十一月廿七日 快晴

一桶屋町谷屋佐七義重田又兵衛殿御代官所御当国内大庭郡鍋屋村

弥兵衛弟宗次郎当子四拾三才同人妻つる三十八才同人娘はる拾才

右三人之もの共此度引請役介ニ仕度住宅之義願出尤向方且那寺村

役人よりも別紙指越候ニ付願書指出伺之上聞届申達ス十二月朔日

住宅証文出

一中ノ町葉屋兵藏義借屋ニ居申候長兵衛倅浅吉当子四拾才此度御代

官布施孫三郎殿御支配所当国内勝北郡檜村長兵衛方へ養子ニ指

遣度町内人別指除候様願書指出伺之上聞届申達ス

一御蔵米五拾三匁五分 町米四拾九匁五分

一御払米三百俵 落札甲屋幸助

直段正銀五拾四匁三步三厘 町米准之

一伊勢内宮藤波神主名代岡田唯七申御師老人例年之通罷越候ニ付

逗留為仕度新職人町松野屋十右衛門宿切手指出

一新魚町作人万四郎借屋者丸亀屋亀吉召仕之下女病身ニ經行不順

去ル四月分猶又経行相滞病氣ニ心得候処医師并産婆等懐胎ニ相違

無之旨申候仍月取届延引候恐入候段届書を以届出產以後叱申

渡候様大年寄へ達置ク

一船頭町舟吉屋喜左衛門義倅庄吉此度大坂長堀宇和島橋南詰多田屋

吉兵衛方へ差遣し候当子年より来ル西ノ年迄拾ケ年之間奉公稼為

仕度願書指出承届卯五月廿六日死失届ケ

一安岡町三原屋八藏義所持之家屋敷表口式間裏行拾七間右之家屋敷

去ル亥十一月相願町内松島屋清吉取次ニ質物ニ書入銀札三百六

拾匁借請候処元利共相濟請返候ニ付届書指出承置ク

十一月廿八日 晴

一御用日ニ付登城

一大目付左之通被申達

一以後敲以上之取計者前以取計候日限御届申上候事

一町家之もの役場計ニ賞之義も大勢之節者申上候事尤何候

ニ者不及

一茅町若屋六郎左衛門義所持之家屋敷表口三間裏行六間半御役三步

此度代銀札八拾匁ニ相極上紺屋町角屋宇平へ売渡申度願書指出承

届同三十日売券状出

一兼伺置候西今町塩屋庄助荒屋治助浅島屋茂兵衛共義鉄鉋町橋詰

新七穀物買入相頼ながら町内一統歎書指出候ニ付追込三日被仰

付可然旨相伺置候処何之通取計候様被仰出

一明日九ツ半時左之もの共指出候様指紙遣ス

伊勢屋十藏 たはこや善次 池淵屋民藏 ちきりや勘兵衛

鉄屋十五郎

一 御登米今日切ニ積切ニ相成候段御蔵元文五郎届出

一 盗人新吉盜取候愛染寺散錢箱之内式百文ひこ屋定吉より取上ケ寺

社取次へ相廻受取書来

十一月廿九日 昼後雨

一 御蔵米五拾三匁五分 町米四拾九匁五分

一 御払米三百俵 落札大黒屋利兵衛

直段正銀五拾三匁分九厘 町米准之

一 桶屋町桶屋義助義所持之家屋敷表口式間裏行十式間御役半役右之

家屋敷弟清七倅亀之助江相讓申度願書指出承届十二月六日讓証文

出

一 元魚町武川屋久右衛門義所持之家屋敷質物ニ書入紙屋助右衛門取

次ニ銀札七百匁借請候而壹ヶ年壹歩半宛之利足を以来巳ノ十一

月切返済候旨願書指出承届同三十日質入証文出ス文化七年七月請

戻候改書出ス

一 今日九ツ半時ハ博奕一件之もの共五人呼出候処刻限ニ相成候而上

紺屋町伊勢屋十藏手鎖外シ逃出候ニ付組合共嚴敷尋罷在候ニ付右

呼出刻限及延引候段大年寄申出

一 桶屋町池淵屋民藏義博奕参会之ものニ付今日呼出及吟味候処参会

相違無之申候

右立合下役新左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎

出番栄治庄藏 大年寄孫左衛門 諸吟味喜左衛門

一 千切屋勘兵衛義今日呼出候処病氣ニ付難罷出大年寄申出尤十藏義

取返候而一向相知不申段申出候ニ付呼出之もの共今日吟味及延引

一 牢舎盗人忠蔵同万吉并上河原新蔵呼出吟味ニ付立合申付候様十郎

左衛門ハ申来則源蔵罷出出入取計候段届出

一 昨日之御仏詣御延引被仰出候旨中奥目付後藤郷助ハ通達有之夫々

江申達ス

十一月三十日 快晴

一 番賃銀兩所之分相渡ス

一 神善四郎秤相用候様之御触書来町触指出ス

一 無宿盗人忠蔵口書郡代より相廻中ノ町高尾源蔵引合之義ニ付相糺

候様申来候ニ付則右年寄江相達ス

一 筑前遠賀郡柏原浦小平次手代治八并恵吉右兩人之もの共例年之通

焼物売ニ罷越候ニ付逗留為仕度京町田戸屋治三郎宿切手指出

一 伊勢山田結城弥惣太夫名代高田兵吉与申御師上下式人例年之通且

那廻りニ罷越候ニ付逗留為仕度新職人町松野屋十右衛門宿切手指

出丑ノ三月廿四日歸ル

一 円宗寺村下分庄屋重右衛門村方吉助倅勘介并甚助方ニ旅僧相頼

祈禱為致候右旅僧上紺屋町壘屋利七并吹屋町備中屋又八方より連

帰候由ニ付右引合之ものニ付兩人共大年寄帰候ニ付為相糺候処兩

人共祈禱相頼候ニ相違無之候段口書指出ス

十二月丁大

御家老 山田主膳殿

御年寄 海老原極人殿

大目附 太田舎人

大年寄 玉置源五兵衛

諸吟味 宮田喜左衛門

十二月<sup>丙辰</sup>旦 曇風夜雷

一御用日ニ付登城

一当日御祝儀七間廊下ニ御奏者番以下一統御小性頭<sup>江</sup>謁申上ル

一町方<sup>江</sup>申渡候条目往昔之文段当時ニ不引合候有之候ニ付粗改正下

案御用番<sup>江</sup>相伺置ク

一去月九日長尾貫一郎殿茂渡只助方へ止宿入用書左之通候由算用書

指出及披見

一諸色入用指引残<sup>而</sup>銀札八拾七匁三分三厘

一去月十九日重田又兵衛殿福永屋藤助方へ止宿ニ付入用算用書左之

通指出

一諸色入用指引残<sup>而</sup>銀札六拾六匁八分壹厘

一御蔵米五拾貳匁五分 町米四拾八匁五分

一無宿盗人忠藏郡代方<sup>ニ</sup>而 召挿入牢申付置吟味有之候処高倉村<sup>ニ</sup>而

盗取候品々中ノ町高尾屋源藏<sup>江</sup>弘候旨申口ニ付忠藏口書相廻候<sup>ニ</sup>

付高尾屋源藏為相糺候処右品々調少無相違口書取指出尤右忠藏御

裁許相伺候節右源藏義も咎等相伺候<sup>ニ</sup>付郡代<sup>江</sup>申談置ク

一堺町丸亀屋勘次方へ夜前盗人入込銀札貳拾匁位着物類四品被盜取

候段届書を以届出尤触流之義追<sup>而</sup>取計可申事十二月十日無之段届出

一丈ケ五尺七寸以上之御駕籠之者被召抱候ニ付望之もの来七日迄<sup>ニ</sup>

中間小頭迄申出候様町触指出ス

一上紺屋町伊勢屋十藏博奕一件ニ付手鎖懸組合預申付置候処去廿九

日昼後裏へ罷出候ニ付組合之もの共跡より罷越見改候処手鎖はつ

し縁の下ニ置逃去候由ニ付致手分方々相尋候得共今以相知不申届

出候仍猶嚴敷尋申付置候段御用番<sup>并</sup>大目付<sup>江</sup>及御沙汰

十二月二日 雪

一来丑年御参勤御時節御伺被成候処四月中<sup>与</sup>被仰出候旨大目付廻状

到来組中<sup>江</sup>相触ル

一勝間田町佐伯屋八十治義他領之もの<sup>与</sup>懸組穀物買込直ニ他領より

船積致候旨風聴有之ニ付為相糺候処決<sup>而</sup>左様携無之段申出候得共

先一応他参留申付置候然ル処実ニ左様之義無之由ニ付今日大年寄

宅<sup>ニ</sup>而 他参留指免

十二月三日 晴

一左之もの共大年寄宅<sup>ニ</sup>而 追込申付立合小頭利右衛門部屋目付藤四

郎

西今町 塩屋庄助

同町 菱屋治助

同町 浅島屋茂兵衛

右<sup>者</sup>広原分鉄炮町橋詰新七方<sup>ニ</sup>而 南在兮出候穀物買留候ニ付町内

一統難波之趣歎書指出候処右三人之もの兼<sup>而</sup>新七<sup>江</sup>買入相頼なか

ら右歎書致連印願出ル不埒ニ付追込申付右之段御用番大目付<sup>江</sup>相届ル

一去ル廿三日之夕坪井町年寄宅ニ<sup>而</sup>同町日野屋五助兄久五郎年寄共

へ対過言理不尽之義有之早速届出候ニ付組之者指向手鎖組合預ケ

申付置候所此度右一件内済及熟談候間手鎖預指免呉候様年寄共

歎書指出候ニ付内済聞届廻り之者文蔵庄蔵指向候間手鎖預ケ指免

一牢舎盜人万吉義吟味ニ付立合指出候様郡代分申来嘉七罷出出入取計候段届出

一〇〇〇穢多新平庄七牢番預ケ申付候間立合之義郡代分申来嘉七罷

出入牢取計候間届出

一安岡町三原屋八藏義所持之家屋敷表口式間裏行拾七間御役式歩五

厘右之家屋敷同町松島屋清吉取次ニ<sup>而</sup>来ル丑十月切式割之利足ニ

而銀札四百匁借請申度候旨願書指出承届十二月十一日質入証文出

ス丑十一月廿七日元利返済

一伊丹屋利左衛門家守戸川町今木屋安兵衛義借屋ニ居申候今北屋セ

き忤兵吉義当子三拾才五ヶ年以前勘当相願置候処心底相直候ニ付

勘当指免帰住居為致度旨願書指出候付伺之上聽届申達ス

一西今町松田屋佐助義旅籠代滞之義ニ付大坂木屋与兵衛分歎書指出

候ニ付済方申付候所右<sup>者</sup>郷中連中より指出候訳合ニ付兼<sup>而</sup>懸合候

所郷中より指出候筋ニは無之旨申候得共其節郷中印形間違ニ<sup>而</sup>罷

登り候事ゆへ郷中連中分指出候様願書<sup>并</sup>書類共指出

一久世御代官手代<sup>(イ)</sup>小桁御番所<sup>江</sup>之印鑑相廻候所郡代懸り之

場所ニ付右書状十郎左衛門<sup>江</sup>相廻向方分致返書候ニ付返書不指遣

十二月四日 晴

<sup>朱</sup>一戸川町中屋庄兵衛義備前大工四人去七月分十一月迄逗留為仕候処

限月ニ相成候得共猶又来丑ノ十二月迄十四ヶ月之間逗留為仕度追

願指出承届丑十二月廿一日帰届

十二月五日 晴

一御用日ニ付登城

一島屋文七酒造株福渡村若松屋庄助<sup>江</sup>讓渡候義江戸表ニ<sup>而</sup>御届等も

相済候ニ付申渡候処今以若松屋<sup>江</sup>者龍野役所より達無之候<sup>而</sup>難義

之旨申出候ニ付一応龍野<sup>江</sup>懸合可遣書状下案指出相伺候処何之通

宜取計候様被仰出飛脚之義大目付<sup>江</sup>申達置ク

一於御用所左之通御用番極大殿被仰渡大目付太田舍人侍座

中島村安治 沼村三之丞 同村藤三郎 上河原村新藏

右之もの共博奕会合ニ付五十敲之上帰村被仰付候間右之通取計可

申段被仰出

一西今町松田屋佐助義大坂木屋与兵衛分旅籠代滞之義郷中分指出候

様可申付候様願書指出候得共証拠無之義申立候ニ付願書指戻当年

中急度済方致候様大年寄<sup>江</sup>申付ル

一上紺屋町伊勢屋十藏組合共十藏始末吟味為致候処番所不致手鎖外

シ逃去候段甚恐入候旨口書指出候ニ付禁足申付置ク

一左之もの共明日九ツ半時組合不残指添役所<sup>江</sup>指出候様差紙出ス

材木町たはこ屋善次 桶屋町池淵屋民藏

二階町てつ屋十五郎 坪井町千切屋勤兵衛

一今日徳守宮ニ<sup>而</sup>大信寺振鬮興行有之兼<sup>而</sup>相願候ニ付廻り之もの指

向候処無滞相濟候旨暮後届出

十二月六日 晴

一左之もの共昨日迄追込三日ニ相成候ニ付今朝追込指免候段御用番大目付江相届

塩屋庄助 菱屋治助 浅島屋茂兵衛

一今九ツ半時左之もの共呼出左之通申付立合之面々下役新左衛門

小頭利右衛門 部屋目付栄治 出番幸治嘉七 大年寄源五兵衛

諸吟味喜左衛門

口書取極印形之上入牢

申付ル

口書取極印形取

右之もの共年寄組合共奥書印形取之

一左之もの共年寄預申付候間立合指出候様十郎左衛門之申来幸治罷

出入牢取計候段届出

口口口文吉平七同村穢多甚右衛門伝六吉太郎五兵衛甚藏

岩吉口口口えた市松

一橋本町中屋忠七義借屋もの秋鹿屋道右衛門当子三十四才同人妻武

十五才同人伴安四郎式才此もの共森下野守殿御領分播州佐用郡秋

里村市郎兵衛方へ引越申度当所支配相離れ町内人別差除候様願書

指出伺之上聴届申達ス

一備中小坂郡水谷弥之介殿役人中島幸右衛門近藤武左衛門之釜敷紙

式束先日相場書相廻候為挨拶以飛札相送及即答

一通用錢七拾壹箇川下し手形裏印取計候様松島郡平之申来則相認指遣ス

一二町目安原屋甚六義真島郡月田村源助同村清兵衛与申者当所江用事有之候而罷越申候仍而日数十日計逗留為仕度願書指出承届

一播州広嶺魚住藏人罷越候ニ付逗留為仕度京町花屋権兵衛届出十二月十八日帰ル

十二月七日 晴

一寒中為伺御機嫌五ツ半時登城七間廊下ニ而例之通御奏者番以下一統御小性頭江謁申上ル尤御前様江同様御機嫌伺謁申上ル

一御用日ニ付例之通三役一統御用所江罷出博奕一件之もの共御裁許伺書指出ス

一宮田喜左衛門油買入之書類当役存寄書共御用所江指出置ケ

一明日之御仏參御延引被仰出候段中奥目付後藤郷助之申聴夫々相達ス

一来八日十五日両日豊楽寺ニ而富興行有之候ニ付伺之上町触指出尤目明も指出可申旨郡代申談候上小頭江申達ス

一勢州朝熊堂明王院使僧儀中坊宝藏坊休加坊快中坊上下八人例年之通り且那廻り罷越候ニ付逗留為仕度新魚町美濃屋与八宿切手指指出

一京都愛宕山長床坊使僧休意与申僧上下式人例年之通り且那廻り罷越候ニ付逗留為仕度新魚町美濃屋与八宿切手指指出ス

十二月八日 晴

一阿州名西郡桑島村平次兵衛手代庄助与申者例年之通り藍玉壳ニ罷

越候ニ付逗留為仕度京町今出屋半兵衛宿切手指出

一阿州板野郡中留村兵助手代平兵衛申者例年之通藍玉売ニ罷越候  
ニ付逗留為仕度京町今出屋半兵衛宿切手指出

一西川永岡順左衛門大谷代藏分寒中為見廻酒壺樽經節二連書状を以  
相送り則返書指遣ス此段追ニ大目付江及噂候

一阿州板野郡鶴島浦藍屋喜右衛門手代利兵衛甚藏申者兩人例年之  
通罷越候ニ付逗留為仕度吹屋町沢屋惣左衛門宿切手指出ス

一暮割諸帳面諸手形大年寄より指出一応披見之上当大年寄江指戻ス  
一夜分組中不残呼出諸ベリ申達ス

一牢番清右衛門不快引込ニ付助之義小頭分申出候ニ付大目付江申遣  
承知之旨申来

十二月九日 快晴

一去ル五日被仰渡候郷中四人之もの共今朝敲取計相濟候段届出候ニ  
付御両所江相届出役之面々左之通

御徒目付吉村弥平次 下目付彦人 小頭利右衛門  
部屋目付藤四郎 出番和四郎

右敲取計相濟候段牢番団助分も届出  
一牢舎和田村弥吉不快ニ付医師之義願書大年寄江申達吉武修格診察  
之処難捨置候由ニ付療治申付候段大年寄より相届

一牢舎万吉忠藏呼出致吟味候ニ付立合申付候様郡代分申来和四郎罷  
出取計届出

一備前岡山浜田丁綿屋喜兵衛申もの彦人ほうし紅単物足袋小間物  
卸売ニ罷越候ニ付逗留為仕度新職人町松野屋十右衛門宿切手指出

十二月廿九日 帰ル

一伊勢山田御師太夫名代西藤兵衛申もの上下兩人例年之通罷越候  
ニ付逗留為仕度新職人町松野屋十右衛門宿切手指出丑二月十二日  
帰

十二月十日 快晴

一牢舎穢多庄七新平市松甚右衛門伝六吉太郎五兵衛甚藏岩吉百性文  
吉平七右之もの共呼出候ニ付立合申付候様郡代分申来榮治罷出出  
入取計候段届出

一宮脇町広瀬屋安治儀左之名前之もの共へ懸り滞銀札之義弓削役所  
江出訴仕度仍添簡之義願書指出右添簡下案共御用番極人殿江指  
出

一滞銀札元利三貫六百五拾八匁外ニ七んとく式拾式俵半代  
元利四百拾三匁八分四厘

都合銀札四貫七拾壹匁八分四厘  
皿村佐助松次郎儀右衛門武右衛門源八源吉万吉六治郎

喜八佐七小三郎清吉清藏  
暮田村宿野利吉 世話人高尾村源八 皿村伝五郎

〆拾六人

一船頭町山家屋九兵衛義弟槌藏当子廿五才去ル四月中旬罷出候ニ付  
方々相尋候得共行衛相知不申仍八月廿四日相届候ニ付百日尋申  
付置候処一向居所相知不申百日余も相成候ニ付人別除願書指出  
伺之上聞届申達ス

一鍛冶町三国屋吉右衛門義大久保安芸守殿領分久米北条郡三明寺村



長十郎倅儀吉義五ヶ年以前申ノ八月相願役介ニ致置候処長十郎病身ニ相成候ニ付差返申度人別除之願書指出伺之上聞届申達ス

一材木町三家屋猪太郎義昨夜九半時分七半時迄之間盜賊入込左之通被盜取候

一 銀札凡百七拾匁計

右之内銀札当札三分米三拾匁其外小札少々

右之段届出候ニ付御用所江申上ル

一材木町神目屋權助義借屋ニ居申候伊勢屋弥三郎後家娘かづ当子拾七才此度脇坂殿御預り所久米南条郡塚角村豊吉妻ニ差遣申度町内人別指除候様願書指出伺之上聞届申達ス

一元魚町相生屋清助義所持之家屋敷表口四間半裏行拾三間半御役八歩役右家敷代銀札壹貫匁ニ相極笹屋友治江売渡申度且右家屋敷裏行之内ニて東之端東西三間半南北四間半之空地御役式歩役ニ相交代銀札四百匁ニ相極町内豊屋喜兵衛江売渡申度願書指出承届十二月十二日売券状出ス

一二階町塗師屋虎吉義塗師勘平ニ改号仕度旨願書指出承届

一 小性町阿波屋定右衛門義林田上ノ町定助妻借屋ニ居申候文吉当子廿三才同人母六拾式才右兩人役介ニ引請申度人別人願書指出承届一 郷中ニ而召捕候盗人忠藏口書引合之ものニ付中ノ町高尾屋源藏盜物買取候由ニ付為相糺候処無相違旨口書指出ニ茂渡庄右衛門方ニ

而式朱銀并小玉銀兩替致候ニ付是又為相糺候処無相違無之由ニ付口書指出右口書共郡代江指戻ス

一 左之もの共牢番預ケ申付候間立合指出候様郡代分申来栄治罷出取

計相済

押入村百性文七 □□八助 穢多駒之助 同与三郎

同宇右衛門

十二月十一日 晴

一 御用日ニ付登城

一 播州網干余子浜菊屋弥七郎倅源治郎与申者例年之通小間物卸売ニ

昨日参り申候ニ付逗留為仕甲屋幸助宿切手指出

一 吹屋町備中屋丈八上紺屋町豊屋利七風来之僧留置候ニ付咎可申付

伺書差添候而口書指出置

一 中ノ町高尾屋源藏義盗人忠藏分米綿買取候ニ付御裁許伺書指出

一 備中妹尾表屋甚四郎与申者畳表并合葉壳ニ初而罷越候ニ付逗留為

仕度旨甲屋幸助宿切手指出

一 播州網干新在家伊部屋清六与申者先年之通塩物并鯉節卸売ニ昨日

参り候ニ付逗留為仕度右同人宿切手指出

一 大坂浜屋橋筋梶木町河内屋甚七与申者先年之通弓弦皮足袋目かね

挑灯張替植木類金物壳ニ昨日参り候ニ付逗留為仕度右同人宿切手

指出

一 上河原村四郎右衛門被盜もの着物四品腰指壹腰銀札九拾匁例之通触流取計候様大目付被申聴町触指出十二月十七日無之旨申出

一 林田町和田屋清吉義昨九日夜居宅裏戸口外シ候旨盗人入込別紙書

付銀札七匁着物三品被盜取候旨届書指出御用所指出候処大目付分

例之通触流指出候申聴十二月十一日無之旨申出

一 大熊鞆負殿下屋敷ニふとん壹ツ捨有之候ニ付御同人分被相渡候間

請取可申旨大目付舍人より被相達夜分西川善平罷越右ふとん輓負  
殿口上<sup>ニ</sup>而<sup>ニ</sup>被相廻請取置尤請取書追<sup>ニ</sup>而<sup>ニ</sup>相廻可申段申述置ク

十二月十二日 晴

一 牢番清右衛門今日出勤ニ付右之助明日出揚人ニ取計候段大目付

江相届

一 宮脇町広瀬屋安治義弓削役所<sup>江</sup>出訴致度添簡之願書指出候ニ付右  
添簡下案相添願書指出候処何之通被仰付聞届申達ス

十二月十三日 晴

一 京町綿屋源七義脇坂殿御預所久米南条郡山上村伊八郎役介要助当  
子五拾壱才内人娘あき十八才右兩人役介ニ引請相応之渡世為致度  
住宅之義願書尤向方村役人別紙指越候旨願書指出何之上聴届申達  
ス十二月廿七日住宅証文指出ス

一 林田町八出屋六兵衛義森河内守殿領分播州乃井野村九兵衛娘かね  
当子廿四才此度悴留吉妻ニ引請申度住宅之義願書尤向方村役人別  
紙指越候旨願書指出何之上聞届達<sup>十二月廿六日  
俵宅文指届</sup>

一 細工町指物屋平治借屋もの作人庄吉悴玉吉当子十五才此度御領分  
西北条郡山北村百性甚助後家養子ニ指遣申度人別除之願書指出承  
届

一 東新町備前屋文吉義太田村玉林弥平次娘くめ当子十七才此度悴清  
介妻ニ引請申度人別入願書指出承届

一 川浚入用として長岡舟壱艇ニ付米壱升ツ、引取且亦舟車持今壱艇  
ニ付拾匁ツ、為出候旨相聴候ニ付夫々為相糺候御蔵元兩人其外  
舟懸り之もの共口書取候<sup>而</sup>大年寄指出

十二月十四日 快晴夜雪

一 牢舎盗人万吉呼出候ニ付立合申付候様郡代より申来嘉七罷出入  
取計候段相届

十二月十五日 雪ちらく

一 御用日ニ付登城

一 当日御祝義例席ニ御奏者番以下一統御小性頭<sup>江</sup>謁申上ル

一 御用所<sup>ニ</sup>而<sup>ニ</sup>例之通当日御祝義申上ル

一 左之もの共大年寄宅<sup>ニ</sup>而<sup>ニ</sup>賞詞申渡ス

家業出情之趣

二階町 山木屋周右衛門悴 直吉

相聴候ニ付

細工町 大工六右衛門 悴 鶴吉

養父文助存生中

二階町 山木屋借屋住栄吉

孝順之趣ニ付

一 桶屋町西屋善藏義所持之家屋敷表口式間半裏行拾式間御役七步右  
之家屋敷代銀札百八拾匁ニ相極吹屋町吹屋才吉<sup>江</sup>壳渡申度願書指  
出承届十二月十七日壳券状出

一 小性町瓜生原屋平吉義大久保殿領分久米南条郡押測村兼右衛門悴  
玉之丞<sup>与</sup>申者三ヶ年以前養子ニ仕置候処家風ニ入不申候ニ付親元  
<sup>江</sup>差掃度当所人別除願書指出何之上聞届申達ス

一 下紺屋町鳥屋利兵衛義備前国津高郡塩谷村治郎右衛門娘やへ当子  
四拾三才右之者此度借屋居申候杵築屋吉十郎妻ニ引請申度住宅之  
義願出尤向方旦那寺<sup>并</sup>村役人別紙差越候旨願書指出何之上聞届申  
達ス十二月廿四日住宅証文出

一 高持共廿五人今壱人ニ付大豆式俵半宛拜借願出尤納所之義<sup>者</sup>来二

月分七月迄扶持大豆<sup>ニ</sup>而引取候様願書指出伺之上聞届申達ス

一 目明助桶屋町吉田屋平助申付候段小頭分申出ル

一 明夕より惣町中金棒引夜廻り為致候様大年寄<sup>江</sup>申付尤御用所<sup>并</sup>大目付中<sup>江</sup>も及御沙汰置

一 關所物売上納可仕旨大目付舍人<sup>江</sup>及噂候処勝手次第取計候様被申聴

一 鎮毒<sup>ニ</sup>而即死致候もの有之由ニ相聴候ニ付新魚町問屋<sup>江</sup>右魚物取扱致間敷候様大年寄場より為申達候尤急度停止申付候義<sup>ニ</sup>者無之

十二月十六日 晴

一 明日御社參御延引被仰出候旨中奥目付寛良助分申来大年寄<sup>江</sup>申達ス

一 牢舎弥吉病氣ニ付吉武修格<sup>江</sup>療治申付置候処弥全快候ニ付休薬為致候由牢番<sup>并</sup>大年寄相届

一 錢三拾五箇川下ニ付送手形例之通裏印取計候様銀札場奉行分申来則調印相廻ス

一 上田邑村銀藏入牢申付候間立合指出候様十郎左衛門分申来庄藏罷出取計候段届出

但鉄炮奉行取計之入牢ものニ付古市準人小島定人分入牢手形相廻候ニ付手形認直候<sup>而</sup>指遣ス

十二月十七日 晴

一 宮田喜左衛門申立候大坂油買入之義同人弁書<sup>并</sup>当役老何書共<sup>ニ</sup>指出候処先ツ何之答も無之候得共大坂御留守居<sup>江</sup>懸合之下案指出候様極人殿分申来

一 吹屋町備中屋丈八上紺屋町疊屋利七風来之僧無願留置祈禱為致候

ニ付咎之義郡代申談相伺置候処伺之通被仰出候段郡代<sup>江</sup>被仰出候ニ付十郎左衛門分伺濟之段申来

一 材木町今井屋久吉義養母つる当子廿五才今般勝手ニ付当国之内大庭郡久世村百姓作治方<sup>江</sup>為引越申度当所人別差除候様願書指出伺之上聞届申達ス

一 右同町谷屋鉄五郎義叔父源六当六月百五十日逗留相願四国遍路ニ罷出候処日数相延候得共罷帰不申一向様子相知不申候ニ付今百日計日延逗留願書指出承届

一 關所物払候ニ付古道具屋罷出候様大年寄<sup>江</sup>申付候処罷出候<sup>而</sup>夫々直段付札取計尤右<sup>者</sup>兼<sup>而</sup>大目付<sup>江</sup>及噂置

十二月十八日 晴

一 御用日ニ付登城

一 今五半時深信院様泰安寺妙法寺<sup>江</sup>御參詣被成候ニ付御先弘文藏和四郎罷出候処無滞相濟候旨届出

一 愛染寺<sup>ニ</sup>而振鬪有之兼<sup>而</sup>聖法寺願主之由罷越候<sup>而</sup>組之者指出呉候様相頼候ニ付廻り栄治嘉七罷出候

一 明日御仏參御延引被仰出候旨中奥目付出九太夫分通用有之夫々<sup>江</sup>申達ス

一 盗人万吉郡代所<sup>ニ</sup>而召捕候<sup>而</sup>吟味之処盗物町方所々へ売払候ニ付右引合之もの共夫々口書取郡代申談候上御裁許今日相伺置

一 久世村原方和助義西今町永田屋喜七<sup>江</sup>懸り添簡を以出訴願書指出候ニ付則御用番中<sup>江</sup>指出置ク

十二月十九日 晴

一 鍛冶町富岡屋宇兵衛後家倅五兵衛義当子三拾七才然ル処去ル八月不計罷出行方相知レ不申候ニ付届出百日尋申付方々相尋候得共一向行衛相知不申仍而町内人別差除候様願書指出伺之上聞届申達ス

一 東新町弓削屋すミ義久世村原方和助義父ニ而今般永田屋喜七郎江懸合有之候而罷越候ニ付右懸合相濟候迄逗留為仕度願書指出承届

一 西今町直屋孫四郎義脇坂殿御預所福渡村助治郎妹はつ当子四拾五才此度役介ニ引請申度住宅之義願書尤向方且那寺并村役人別紙指越候旨願書指出伺之上聞届申達ス同廿九日住宅証文指出ス

一 久世村原方和助義西今町永田屋喜七郎江懸り候間添簡を以訴状指出候ニ付双方呼出一応及吟味立合之面々左之通

下役新左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎  
出番文藏 和四郎 大年寄源五兵衛 諸吟味喜左衛門

十二月廿日 晴

一 宮田喜左衛門油買入之義大坂御留主居合同所油屋共へ移も有之度旨長沢清左衛門へ懸合書状之下案御用番江指出置ク

一 本郷村善助倅嘉惣治并無宿盗人嘉平入牢申付候ニ付手形郡代より相廻候ニ付認直候而立合源藏罷出取計相濟候旨届出

一 左之もの共今日大年寄宅ニ而左之趣申渡立合小頭利右衛門部屋目付藤四郎

風来之旅僧祈禱相願候由ニ付 吹屋町備中屋丈八  
連日留置候段不埒ニ付追込申付 上紺屋町

但シ追込三日

豊屋利七

右ニ付急度叱

右同人組合共

右之段取計候ニ付御用番并大目付江相届  
十二月廿一日 晴

一 御用日ニ付登城

一 久世村原方和助義西今町永田屋喜七江懸り添簡を以出訴致候ニ付一応遂吟味候処双方共取揚難致吟味候義ニ付噯人申付日切内濟申付候而可然候ニ付此段相伺置ク

一 下津川村武兵衛被盜物品数拾四色代として百八匁五分位右之町触取計候様大目付中被申聽例之通触流指出十二月廿五日無之段申出

一 西今町直屋孫四郎所持之家屋敷表口三間裏行十五間但御役三步三厘右家屋敷代銀札五百匁ニ相極町内西屋平七江売渡申度願書指出

承届十二月廿七日売券状指出  
一 物頭組上田治兵衛役介之婦人乱心ニ付借牢願出候間御聞届相濟候

ニ付其段取計可申候旨大目付太田舍人被申達  
一 右同人罷出何卒今日借牢仕度旨申出候ニ付番藤四郎庄藏召出取計相濟候間届出

一 近頃ニ而富芝居等興行有之候節毎々触流指出候所以後度々触不指出候間弥堅相慎右等之場所江罷越申間敷候間触書指出尤右之段郡代申談候而相伺候伺之通被仰出右之通取計且向寄次第目明指出

可申左候ハ、其節御用番大目付江相届可申候様相極ル  
一 綿役より当年実綿繰綿出入改辻等書付指出

一 綿々四千九百七拾三本

一中綿<sup>ハ</sup>式百貳拾五本

右之外諸割方諸入用書指出承届候段申達ス

十二月廿二日 晴

一御用番極人殿御宅<sup>ニ</sup>而左之通被仰渡大目付舍人出席

一煙草屋善次池淵屋民藏博奕參会<sup>ニ</sup>付五十敲之上帰町

一本郷村文吉平七押入村文七野村八助博奕參会<sup>ニ</sup>付五十敲之

上帰村

一無宿盗人忠藏義盜相働候<sup>ニ</sup>付百敲之上御領分追扨

一元上河原村出生当時無宿万吉義盜相働候<sup>ニ</sup>付百敲之上御領

分追扨

一右之もの共引合之者伺之通御裁許被仰出候之旨御用番極人殿被仰

渡

一牢舎穢多甚右衛門吉太郎吟味<sup>ニ</sup>付立合指出候様郡代<sup>ハ</sup>申来右同人

罷出

一〇〇〇穢多清兵衛入牢申付候間立合指出候様郡代<sup>ハ</sup>申来右同人罷

出

一今日御裁許被仰出候敲之もの共郡代申談候<sup>而</sup>明日取計候旨御用番

并大目付<sup>江</sup>相届ル

一綿改割渡取計候<sup>ニ</sup>付銘々罷出且大村屋源右衛門渡物銀札四百拾匁

壹分六厘引取置候旨宮田喜左衛門<sup>ハ</sup>届出

一明日敲之もの共申渡書且又上紺屋町博奕懸合之もの<sup>并</sup>盗人忠藏万

吉引合之もの申渡書書役<sup>江</sup>申達候処相認差出万吉忠藏申渡書<sup>者</sup>郡

代より相廻候

一明日敲有之候間右之手合取計置候様小頭<sup>江</sup>申達置ク

一材木町煙草屋善次<sup>并</sup>桶屋町池淵屋民藏右町年寄組合共明日六ツ時

牢屋門前罷出候様大年寄<sup>江</sup>申達ス

十二月廿三日 快晴

一今六半時揃<sup>ニ</sup>而左之もの共敲申付候<sup>ニ</sup>付立合出役之面々左之通

御徒目付金田十左衛門 下目付壱人 小頭利右衛門

部屋目付藤四郎 出番嘉七和四郎

五十敲帰町 材木町 煙草屋 善次

右同 桶屋町 池淵屋 民藏

右同帰村 本郷村 文吉

同 同 押入村 平七

同 同 野村 文七

同 同 野村 八助

百敲之上御領分追扨 無宿盗人 忠藏

元上河原村当時無宿万吉

一油年行司来年<sup>ハ</sup>東新町宿屋文藏相働候様申付候段大年寄<sup>ハ</sup>相届

一吹屋町備中屋丈八上紺屋町疊屋利七追込申付置候処昨日迄三日<sup>ニ</sup>

相成候<sup>ニ</sup>付今朝指免候様大年寄<sup>江</sup>申達置候処申渡取計相濟候段届

出候<sup>ニ</sup>付御用番<sup>并</sup>大目付<sup>江</sup>相届

一今朝五ツ時左之もの共不埒呼出候<sup>而</sup>自分直<sup>ニ</sup>申渡ス尤申渡書書役

読之

上紺屋町伊勢屋十藏組合

鳥羽屋源十郎

久世屋鶴吉

中津屋五郎右衛門

手鎖懸ヶ追込

作人 清助

但シ伺濟十日

同 清吉

中屋平八後家

家守

津島屋民吉

組頭津島屋源右衛門

一左之もの共役所<sup>ニ</sup>而大年寄申渡立合小頭部屋目付

二階町鉄屋十五郎

追込

坪井町千切屋勘兵衛

上紺屋町年寄兩人

一伊勢屋十藏隣家之者追込申付候義ニ候得共両隣共組合之内ニ付前

段不申付

一無宿盗人忠藏万吉引合之もの共大年寄ニ付夫々申達候様申付

茂渡庄右衛門高尾屋源藏平岡忠右衛門三家屋猪太郎塚角屋

伝吉綿屋忠兵衛島屋十兵衛大黒屋五十郎大坂屋庄藏

一今日呼出申渡候節立合左之通

下役新左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎

出番栄治 幸治 大年寄源五兵衛 諸吟味喜左衛門

一左之もの共出牢帰村申付候段郡代より申来

〇〇〇穢多新平庄七岩吉五兵衛伝六吉太郎甚藏与三郎

宇右衛門駒之介市松甚右衛門メ拾貳人

一久世村和助義西今町永田屋喜七江相懸り出訴致候処双方共不証難

取上義共ニ付内濟申付可然旨相伺置候処伺之通取計候様御用番中

被申聴

一盗人忠藏万吉皿村江追払候間庄屋一札取罷帰候段出番嘉七和四郎

相届

十二月廿四日 曇

一西新町瓜生原屋伊兵衛養子吉三郎義町役共行状書指出候ニ付当

子十四才未幼年之ものニ而格別奇特之行状ニ而無之候得共米壹俵

御賞被下置候様此度伺書指出置ク

一惣豆腐屋共今是迄とうふ壹丁ニ付式拾文ツ、商売仕度候処大豆高直

ニ相成候ニ付壹丁ニ付廿壹文ツ、商売仕度旨願書指出伺之上聞届

申達ス

一京町拾物屋源四郎義備前岡山磨屋町拾物屋茂右衛門倅与四郎当子

廿五才此もの養子ニ仕度願書尤向方旦那寺町役人別紙指越候旨願

書指出伺之上聞届<sup>十二月廿七日付書文</sup>

一左之もの共今八ツ時呼出訴状表願出候ニ付先頃兩人共相糺候処訴

状通致相違之義<sup>茂</sup>有之相手方不正之義も有之旁以日切内濟申付尤

今日今三十日限実意を以致熟談可申旨申渡尤噯人申付候段申付

訴訟人 久世村原方和助

相手方 西今町永田屋喜七

右立合之面々下役新左衛門 小頭利右衛門 部屋目付栄治

出番幸治 嘉七 大年寄源五兵衛 諸吟味喜左衛門

一御小納戸今切紙を以真鴨壹羽拜領被仰付尤御礼出仕不及被仰出旨

申來則即答返書御礼申上ル

一久世村和助永田屋喜七出入一件内済申付候ニ付右取噺人として京

町上村屋源右衛門西新町種屋伊助兩人江申付候間相達候様大年寄

江申達ス

一左之もの共相對申談ニ而川浚入用として長岡船志艇江米壹升ツ、

為指出候旨相聽候ニ付舟方夫々為相糺候処無相違壹升ツ、取立候

旨尤右者御藏元姫路屋甚右衛門内々及指図候ニ付左之通申付

急此尤右地方へ歸り候義者同出先頭之上可取計  
義無之義不束ニ付且取上ケ候義者夫へ指図候様申付

御藏元姫路屋甚右衛門

一御藏元文五郎船元屋喜左衛門瓜生原屋弥吉江右取揚候米早々指戻

候様申付

十二月廿五日 小雨

一御用日ニ付登城

一塗師勘平義門松并御合印被指免候間其段可申達旨御用番極人殿御

申渡大目付侍座太田舍人

一船頭町高瀬屋幸助義土井大炊頭殿御領分当国之内金谷村瀬助悴利

八当子三十五才同人妻まつ式拾五才右兩人此度役介ニ引請申度住

宅之義願出尤向方且那寺并村役人別紙指越候間願書指出伺之上聞

届申達ス同三十日住宅証文指出

一中ノ町小山屋与三右衛門義御領分林田村音藏与申もの当子三十六

才此度内縁有之候ニ付引請申度町内人別人願書指出承届

一勝間田町大屋文吉義御領分一ノ宮村里方和兵衛妹のお当子三十式

才此度妻ニ引請申度町内人別人願書指出承届

一東新町肥後屋長左衛門義悴榮太郎当子十壹才此度林田上ノ町伊助

引請同村ニ而所持之家屋敷江為引越住宅為仕度仍而町内人別相除  
候様願指出承届

一中ノ町菊屋兵藏義借屋ニ居申候長兵衛当子八拾才此度林田上ノ町

平七役介ニ為引請町内人別指除候様願書指出承届

一明廿六日四ツ時塗師勘平召連罷出候様大年寄江奉書指遣ス

一宮脇町広瀬屋安治義弓削役所江添簡を以出訴致候処右添翰返書持

返右一件内済申付候段申來候ニ付返書御用番中江指出置ク

十二月廿六日 快晴

一今四ツ時塗師勘平義呼出玄関ニ而左之通申渡ス

其方儀御用向出情相勤候ニ付門松合印被差免候旨自分申渡

右立合

下役新左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎

大年寄源五兵衛 諸吟味喜左衛門

一上紺屋町博突一件ニ付非番年寄かと屋八郎右衛門追込申付置候所

昨日迄三日相成候ニ付指免候様今朝大年寄江申達ス

右兩条共御用番極人殿并大目付中江相届ル

十二月廿七日 曇

一新魚町豆腐屋又吉義所持之家屋敷表口式間裏行九間御役四歩右家

屋敷町内備中屋甚七取次ニ而質物ニ書入当子三月切銀札百七拾五

匁借請候処元利返済致候旨届書を以届出承置

一右同町同人義右之家屋敷同組合備中屋甚七江売渡申度願書指出承

届尤代銀札三百匁同廿八日売券状指出

一右同町備中屋甚七義右之家屋敷戸川町吉田屋甚右衛門取次ニ而質

物ニ書人来丑ノ三月切ニ相極銀札百七拾匁借請申度願書指出承届  
同三十日質入証文指出

一新魚町弓削屋太助義所持之家屋敷表口三間半裏行三間半御役壹歩  
右家屋敷代銀札百匁ニ相極福渡町森原屋岩助江 壳渡申度願書指出  
承届同廿八日壳券状指出ス

一上田邑村東銀藏義入牢ニ有之候処今日出牢申付候段鉄砲奉行小島  
定人ノ手形相廻則認替候間立合和四郎罷出取計相濟候旨届出

一牢舍嘉惣治呼出吟味有之候ニ付立合申付候様郡代より申来則和四  
郎罷出候 而 出入取計候旨届出ル

一船頭町今津屋孫十郎後家借家ニ居申候作人作五郎当子三拾才此度  
御駕籠之ものニ 而 召抱候ニ付町内人別指除願書指出中間頭江 引合  
之上聞届申達ス

一福渡町治兵衛組合ノ歎書指出候 著 右治兵衛義当子五拾才同人妻五  
拾七才孫さく八才同りき六才右治兵衛義眼病ニ付目落候妻義ハ三  
ヶ年以前ノ中症ニ 而 手足不相叶右ニ付何卒右治兵衛 并 妻共快氣仕  
候迄御救扶持被為下候様組合共ノ歎書指出伺之上聞届申達ス

十二月廿八日 曇

一御用日ニ付登城

一今日麻上下着用ニ 而 七間廊下ニ 而 御奏者番以下三奉行迄一統歳末  
之御祝義謁申上御小性頭江 謁畢 而 御前様江 茂 同様御祝義謁申上候  
一類役相揃御用所江 罷出歳暮之御祝義申述ル

一千切屋勘兵衛鉄屋十五郎追込申付置候所昨日迄五日ニ相成候ニ付  
今朝追込指免候様大年寄江 申達候処申渡相濟候段届出候ニ付其段

御用番中 并 大目付中江 相届ル

一細工町木屋伊兵衛義所持之家屋敷表口三間七歩五厘裏行拾壹間御  
役壹軒役右家屋敷質物ニ書入候間品屋恵十郎取次候て銀札百五拾  
匁借請通し式割之利足ニ相定来丑十二月元利無滞返弁仕候段願書  
指出承届同廿九日質入証文指出ス

十二月廿九日 晴

一玉置卯左衛門義所持之自国受酒株去ル十月相願安岡町鶴屋茂兵衛  
方へ貸置申候処限月来候 而 差戻茂兵衛手前ニ 而 右株ニ 而 商売不仕  
候段届書指出承届

一西今町京屋平兵衛義御領分林田村多助当子四拾六才忰万吉拾三才  
右之者此度役介ニ引受申度町内人別人願書指出承届

一明三十日御仏參御定日之処先例之通御參詣不被遊為念中奥目付よ  
り申来候ニ付大年寄小頭江 茂 申達ス

十二月三十日 晴

一上紺屋町博奕一件ニ付同町月番年寄中津屋伊右衛門追込申付置候  
処昨日迄七日ニ相成候ニ付今朝指免候段大年寄江 申渡候処申渡取  
計候段届出候ニ付其段御用番中 并 大目付中江 相届

一盗人忠藏万吉盜物質ニ取或は取次等致候品々取上ケ候 而 郡代所江  
相廻尤郡代分も忠藏所持之金銀銀札 并 林田村金十郎弁銀五匁相廻  
請取書相廻ス



津山郷土博物館紀要第二十八号

津山松平藩町奉行日記二十二

平成二十六年十月三日発行

編集 津山郷土博物館◎

発行 岡山県津山市山下九二番地

印刷 二葉

岡山県津山市中島四一二一五